



取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

GR Yaris



イラスト目次

イラストから検索

安全・安心のために

お客様に**必ずお読みいただきたいこと**
(主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置)

1

走行に関する情報表示

走行に関する情報を表示する計器類の見方
(主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ)

2

運転する前に

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整
(主な項目：キー、ドア、シート)

3

運転

運転に必要な操作やアドバイス
(主な項目：エンジン始動のしかた、給油のしかた)

4

室内装備・機能

室内装備の使い方など
(主な項目：エアコン・収納装備の使い方)

5

お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法
(主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換)

6

万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処
(主な項目：バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処)

7

車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報
(主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧)

8

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	9
検索のしかた	10
イラスト目次	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に	22
安全なドライブのために	23
シートベルト	25
SRS エアバッグ	28
排気ガスに対する注意	34
1-2. お子さまの安全	
お子さまを乗せるときは	35
チャイルドシート	36
1-3. 盗難防止装置	
エンジンイモビライザーシステム	49
オートアラーム	50

2 走行に関する情報表示

2-1. 計器の見方	
警告灯／表示灯	54
計器類	57
マルチインフォメーションディスプレイ	61
ヘッドアップディスプレイ	67
燃費画面	71

3 運転する前に

3-1. キー	
キー	74
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア	78
バックドア	81
スマートエントリー&スタートシステム	84

3-3. シートの調整	
フロントシート	89
リヤシート	91
ヘッドレスト	92
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	95
インナーミラー	96
ドアミラー	97
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	99

4 運転

4-1. 運転にあたって	
運転にあたって	104
荷物を積むときの注意	112
4-2. 運転のしかた	
エンジン（イグニッション）スイッチ （スマートエントリー&スタートシ ステム非装着車）	114
エンジン（イグニッション）スイッチ （スマートエントリー&スタートシ ステム装着車）	115
オートマチックトランスミッション	120
マニュアルトランスミッション	124
方向指示レバー	127
パーキングブレーキ	128
電動パーキングブレーキ	129
ブレーキホールド	132
4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使 い方	
ランプスイッチ	134
オートマチックハイビーム	138
フォグランプスイッチ	141
ワイパー&ウォッシャー	141
4-4. 給油のしかた	
給油口の開け方	144

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense.....	147
PCS（プリクラッシュセーフティ）	152
LTA（レーントレーシングアシスト）	162
RSA（ロードサインアシスト）..	171
レーダークルーズコントロール..	174
先行車発進告知機能.....	183
Stop & Start システム.....	185
BSM（ブラインドスポットモニター）	190
クリアランスソナー.....	195
RCTA（リヤクロストラフィックア ラート）.....	201
PKSB（パーキングサポートブレー キ）.....	206
パーキングサポートブレーキ（静止 物）.....	211
パーキングサポートブレーキ（後方接 近車両）.....	214
ドライブモードセレクトスイッチ	216
AWD モードセレクトスイッチ..	217
インタークーラースプレー.....	218
運転を補助する装置.....	219

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転.....	226
-------------	-----

5 室内装備・機能

5-1. エアコンとデフォグガーの使い 方

オートエアコン.....	230
ステアリングヒーター／シートヒー ター.....	235

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧.....	237
------------	-----

5-3. 収納装備

収納装備一覧.....	239
ラゲージルーム内装備.....	241

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備.....	244
---------------	-----

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....	248
内装の手入れ.....	252

6-2. マットクリア塗装のお手入れの しかた

マットクリア塗装とは（カーボンルー フ [マーブル柄] 装着車）.....	255
洗車のしかた（カーボンルーフ [マー ブル柄] 装着車）.....	259
よくあるご質問（カーボンルーフ [マー ブル柄] 装着車）.....	262

6-3. 簡単な点検・部品交換

ボンネット.....	266
ガレージジャッキ.....	268
ウォッシャー液の補充.....	269
インタークーラースプレータンクの補 充.....	269
タイヤについて.....	270
タイヤの交換.....	280
タイヤ空気圧について.....	284
エアコンフィルターの交換.....	285
キーの電池交換.....	287
ヒューズの点検・交換.....	290
電球（バルブ）の交換.....	292

7 万ーの場合には

7-1. まず初めに

故障したときは	296
非常点滅灯（ハザードランプ）...	297
発炎筒	297
車両を緊急停止するには.....	298
水没したときは	299

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	300
フューエルポンプシャットオフシステム	305
警告灯がついたときは	306
警告メッセージが表示されたときは	314
パンクしたときは	316
エンジンがかからないときは.....	327
キーをなくしたときは	329
電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）.....	329
バッテリーがあがったときは.....	331
オーバーヒートしたときは.....	338
スタックしたときは	341

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....	344
-----------------------------	-----

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧.....	351
---------------------	-----

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目	359
------------------	-----

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）.....	362
車から音が鳴ったときは（音さくいん）.....	365
アルファベット順さくいん	367
五十音順さくいん.....	368



知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあります。また、このような改造は Toyota Safety Sense のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあります。
- ハンドルの改造は絶対にしない

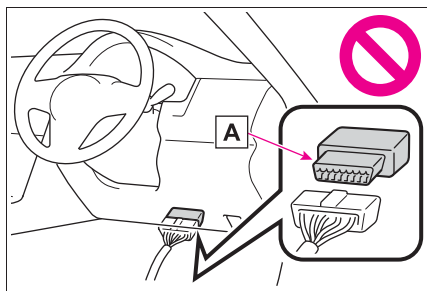
でください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
 異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし
 電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあります。RF 送信機の取り付けについては、P.8 も参照してください。

- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクタなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクタ **A** などに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けしないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数／電気モーター回転数
- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速
- ・ 運転支援システムの作動状況
- ・ カメラの画像情報

車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかは、トヨタ販売店にお問い合わせください。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報はトヨタ販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせる使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。

- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI コンピュータ
 - Toyota Safety Sense
 - ABS（アンチロックブレーキシステム）
 - SRS エアバッグ
 - シートベルトプリテンショナー
- 悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について




保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

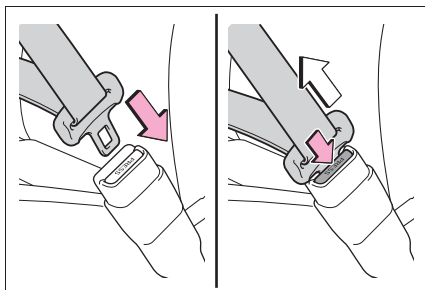
本書の見方



本書で使用している、記号について説明します。

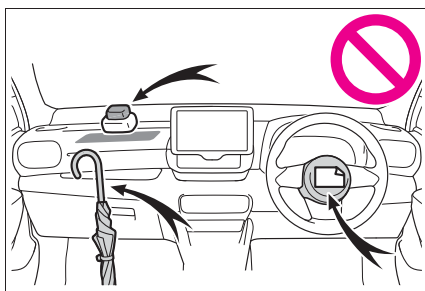
本文の記号について



記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3...	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。

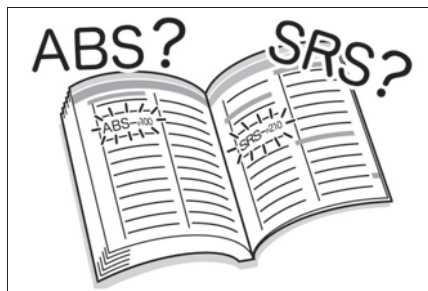


記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

検索のしかた

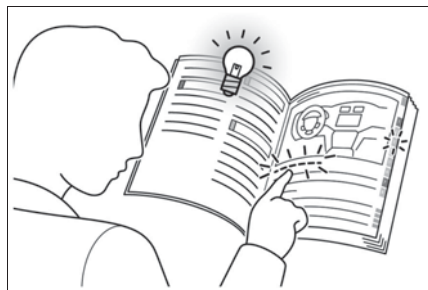
■ 名称から探す

- 五十音順さくいん：P.368
- アルファベット順さくいん：P.368



■ 取り付け位置から探す

- イラスト目次：P.12



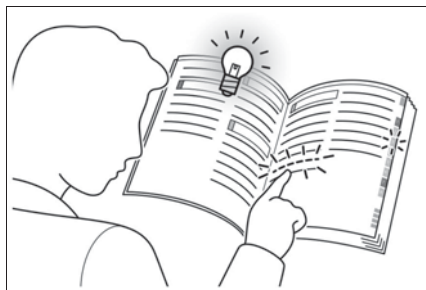
■ 症状や音から探す

- こんなときは（症状別さくいん）：
P.362
- 車から音が鳴ったときは（音さくいん）：
P.365



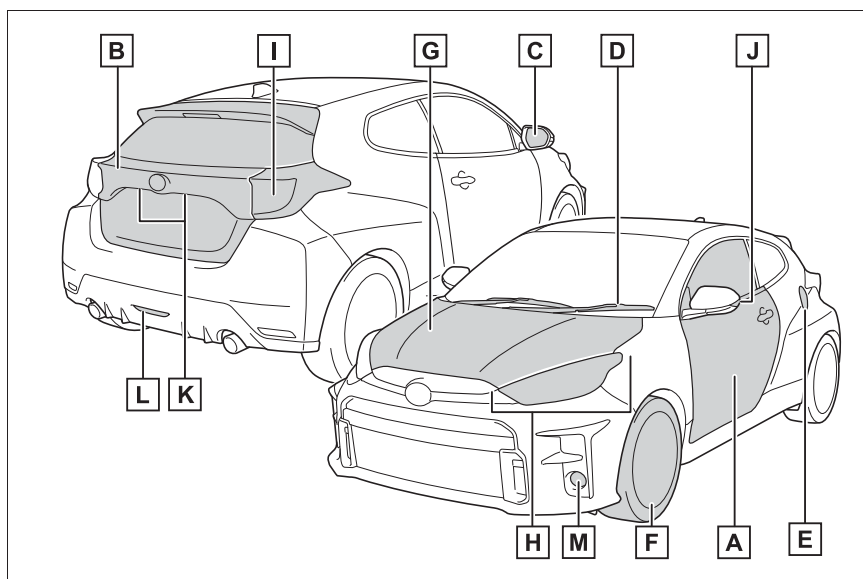
■ タイトルから探す

- 目次：P.2



イラスト目次

■ 外観



A	ドア	P.78
	施錠／解錠	P.78
	ドアガラスの開閉	P.99
	メカニカルキーでの施錠／解錠 [※]	P.330
	警告メッセージ	P.81
B	バックドア	P.81
	施錠／解錠	P.83
	警告メッセージ	P.81
C	ドアミラー	P.97
	鏡面の角度調整	P.97
	ミラーの格納	P.98
	曇りを取る（ミラーヒーター） [★]	P.232
D	ワイパー	P.141
	冬季の注意	P.226

	凍結防止（フロントワイパーデアイサー）★	P.234
	洗車時の注意（雨滴感知式ワイパー）★	P.250
E	給油口	P.144
	給油方法	P.145
	燃料の種類・燃料タンク容量	P.344
F	タイヤ	P.270
	サイズ・空気圧	P.350
	冬用タイヤ・タイヤチェーン	P.226
	点検・ローテーション・タイヤ空気圧警報システム★	P.270
	パンク時の対処	P.316
G	ボンネット	P.266
	開け方	P.266
	エンジンオイル	P.344
	オーバーヒート時の対処	P.338

走行に関わる外装のランプバルブ

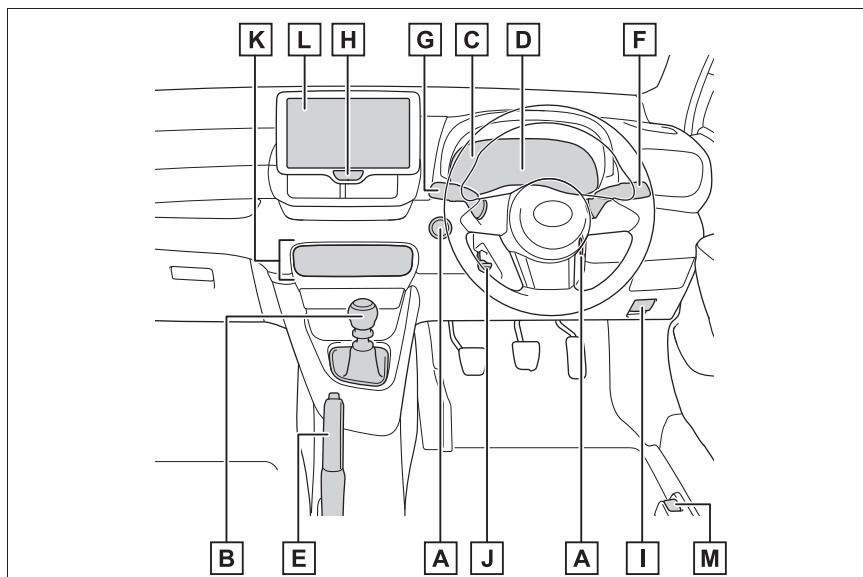
(交換要領：P.292, ワット数：P.350)

H	ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト・方向指示灯	P.127, 134
I	尾灯・方向指示灯	P.127, 134
	制動灯	
J	方向指示灯	P.127
K	番号灯	P.134
L	後退灯	
	シフトポジションを R にする	P.121, 124
M	フロントフォグランプ	P.141

※ スマートエントリー&スタートシステム装着車

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インstrumentパネル



- A** エンジンスイッチ P.114, 115
 エンジンの始動・モード切りかえ P.114, 115
 エンジンの緊急停止 P.298
 エンジンが始動できないときの対処 P.327
 警告メッセージ P.314
- B** シフトレバー P.120, 124
 シフトポジションの切りかえ P.120, 124
 けん引時の注意 P.300
 シフトレバーが動かないときの対処^{※1} P.122
- C** メーター P.57
 見方・明るさの調整 P.57
 警告灯／表示灯 P.54
 警告灯点灯時の対処 P.306

D	マルチインフォメーションディスプレイ.....	P.61
	表示内容.....	P.61
	警告メッセージ表示時の対処.....	P.314
E	パーキングブレーキ★	P.128
	かける・解除する	P.128
	冬季の注意.....	P.226
	警告ブザー・警告メッセージ.....	P.128, 314
F	方向指示レバー	P.127
	ランプスイッチ	P.134
	ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト・尾灯	P.134
	フロントフォグランプ	P.141
G	ワイパー&ウォッシャースイッチ	P.141
	使い方	P.141
	ウォッシャー液の補充	P.269
H	非常点滅灯スイッチ	P.297
I	ボンネット解除レバー	P.266
J	ハンドル位置調整レバー.....	P.95
K	エアコン.....	P.230
	操作方法.....	P.230
	リヤウィンドウの曇り取り（リヤウィンドウデフォグガー）.....	P.232
L	オーディオ※2★	
	音楽を聴く	
	電話をかける・受ける（ハンズフリー）	
M	給油口オープナー	P.145

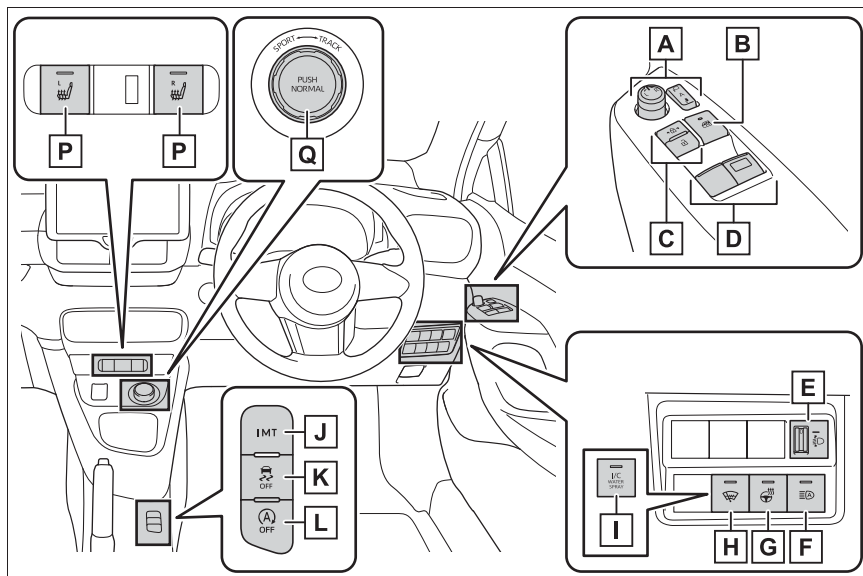
※¹オートマチック車

※²別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

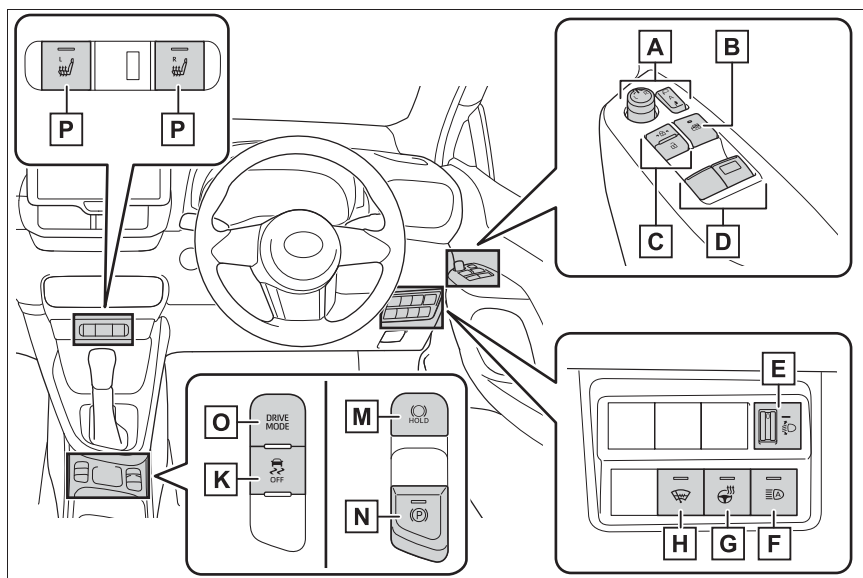
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スイッチ類

▶ マニュアル車

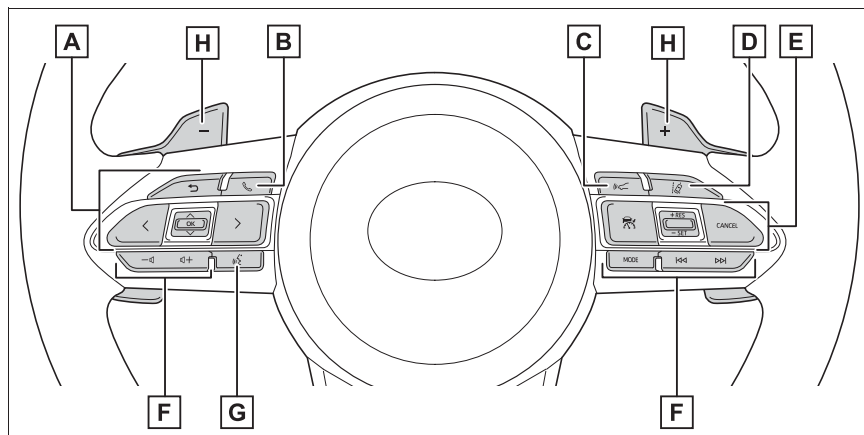


▶ オートマチック車



A	ドアミラースイッチ	P.97
B	ウインドロックスイッチ	P.101
C	ドアロックスイッチ	P.80
D	パワーウインドウスイッチ	P.99
E	手動光軸調整ダイヤル	P.137
F	オートマチックハイビームスイッチ★	P.138
G	ステアリングヒータースイッチ★	P.236
H	フロントワイパーデアイサースイッチ★	P.234
I	インタークーラースプレースイッチ★	P.218
J	iMT スイッチ★	P.125
K	VSC OFF スイッチ	P.220
L	Stop & Start キャンセルスイッチ★	P.185
M	ブレーキホールドスイッチ★	P.132
N	電動パーキングブレーキスイッチ★	P.129
O	ドライブモードセレクトスイッチ★	P.216
P	シートヒータースイッチ★	P.236
Q	AWD モードセレクトスイッチ★	P.217

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



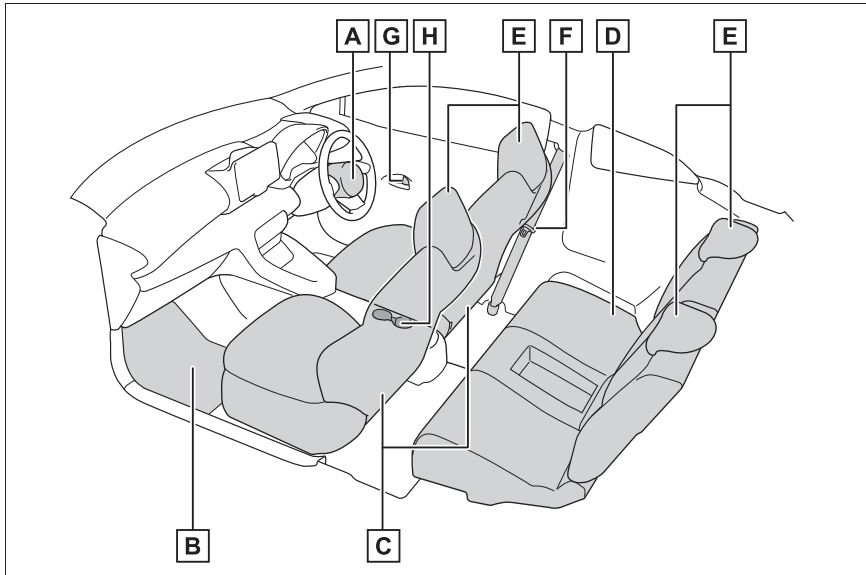
A	メーター操作スイッチ	P.62
B	電話スイッチ ※ ¹	P.245
C	車間距離切りかえスイッチ★	P.179
D	LTA (レーントレーシングアシスト) スイッチ★	P.162
E	クルーズコントロールスイッチ★ レーダークルーズコントロール★	P.174
F	オーディオスイッチ ※ ¹	P.245
G	トークスイッチ ※ ²	P.245
H	パドルシフトスイッチ★	P.122, 123

※¹別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

※²別冊「ナビゲーション取扱書」を参照してください。

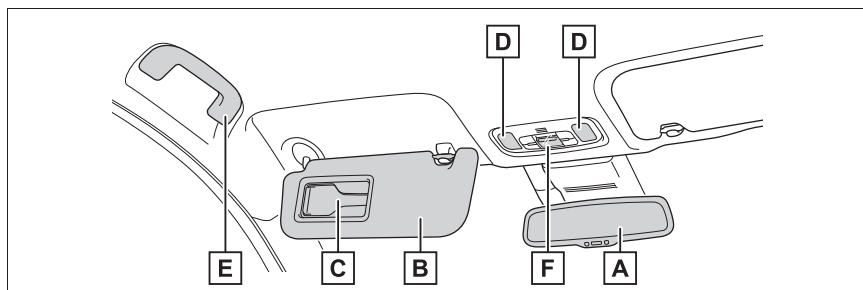
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 室内



A	SRS エアバッグ	P.28
B	フロアマット	P.22
C	フロントシート	P.89
D	リヤシート	P.91
E	ヘッドレスト	P.92
F	シートベルト	P.25
G	ロックレバー	P.81
H	カップホルダー	P.240

■ 天井



- A** インナーミラー P.96
- B** サンバイザー ※¹ P.244
- C** バニティミラー P.245
 カードホルダー P.241
- D** インテリアランプ／パーソナルランプ P.237
- E** アシストグリップ P.245
- F** ヘルプネットボタン ※² ★

※¹ やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→P.38)



※² 別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に	22
安全なドライブのために	23
シートベルト	25
SRS エアバッグ	28
排気ガスに対する注意	34

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは	35
チャイルドシート	36

1-3. 盗難防止装置

エンジンイモビライザーシステム	49
オートアラーム	50

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

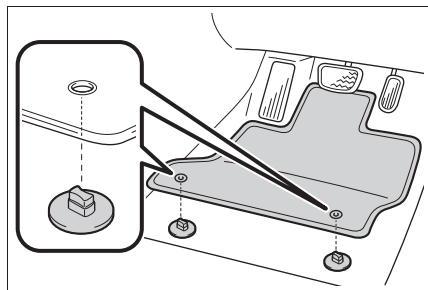
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

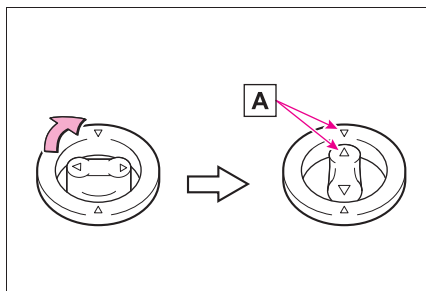
フロアマット

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△ マーク **A** を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

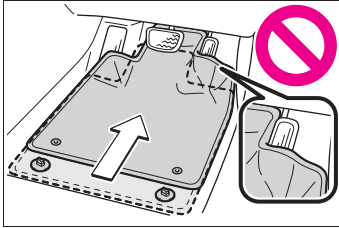
■ 運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

警告

■ 運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

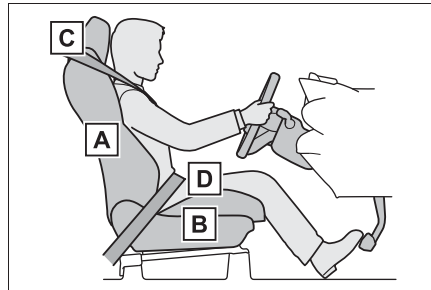


- エンジン停止およびシフトレバーがP（オートマチック車）またはN（マニュアル車）の状態、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



- A** まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.89）
- B** ペダルがしっかりと踏み込み、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.89）
- C** ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.92）
- D** シートベルトを正しく着用する（→P.25）

 **警告****■ 安全な運転のために**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。

運転を誤るおそれがあります。

- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。

正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。

- フロントシートの下にものを置かないでください。

ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。

- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。

また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。(→P.25)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→P.36)

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。(→P.96, 97)

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

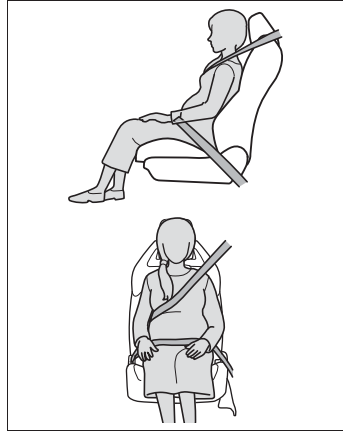
⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
 - シートベルトを正しく着用する
 - シートベルトは一組につき一人で使用する
- お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
 - 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
 - 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
 - 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■ 妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.26) 通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.26)

■ お子さまを乗せるとき

→P.45

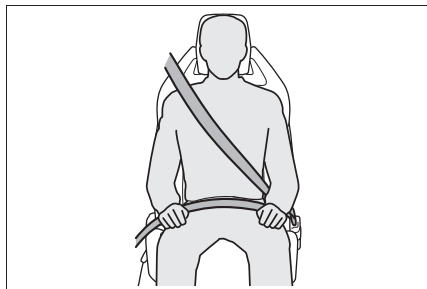
■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

警告

- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動なくなるおそれがあります。

正しく着用する



- 肩部ベルトを肩に十分かける首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

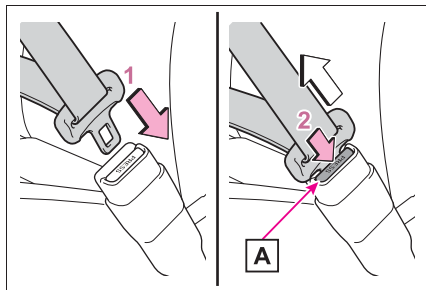
知識

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。(→P.36)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。

着け方・はずし方



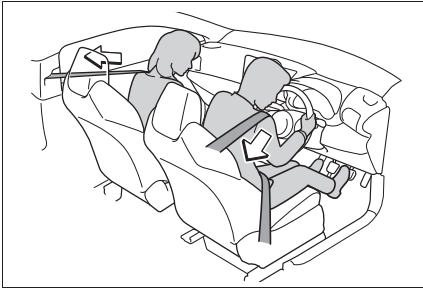
- 1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- 2 ベルトを解除するには、解除ボタン **A** を押す

知識

■ シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

シートベルトプリテンショナー (フロント席)



前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確認します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

知識

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■ 予防連携機能について (Toyota Safety Sense 装着車)

プリクラッシュセーフティによって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

警告

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

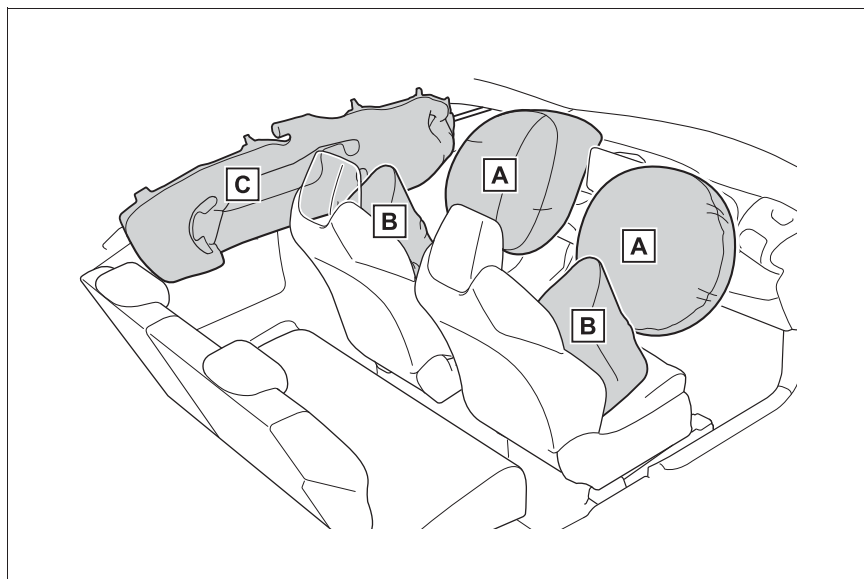
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ/プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグの配置



▶ フロント SRS エアバッグ

A 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ

運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和します

▶ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ

B SRS フロントサイドエアバッグ

フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和します

C SRS カーテンシールドエアバッグ

フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和します

知識

■ SRS エアバッグが作動すると

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部などだけでなく、エアバッグ構成部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- 自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.220）
- 室内灯が自動で点灯します。（→P.238）
- 非常点滅灯が自動で点滅します。（→P.297）
- 燃料供給を停止します。（→P.305）
- T-Connect の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。
- ・ SRS エアバッグが作動した
- ・ シートベルトプリテンショナーが作動した
- ・ 後方から強い衝撃を受けた

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20～30km/h で

正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

- ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
- ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■ SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

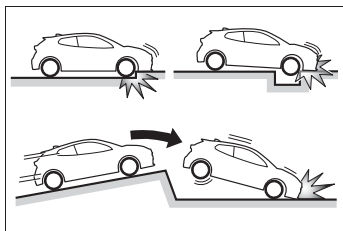
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20～30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

■ 衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき

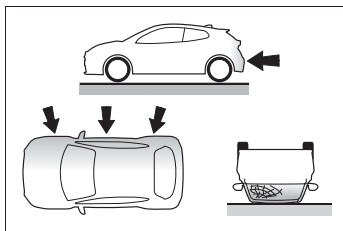
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■ SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

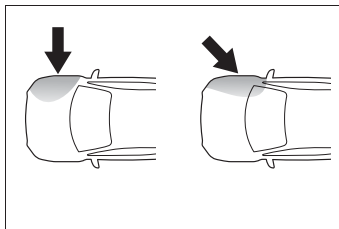


■ SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

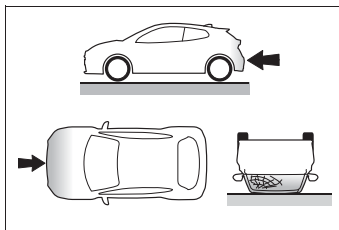
- 客室部分以外の側面への衝撃

- 斜めからの衝撃



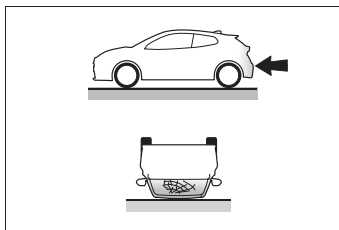
SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

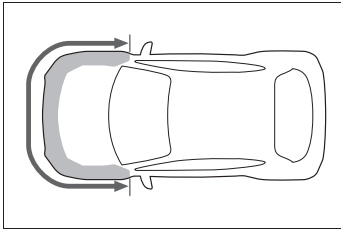
- 後方からの衝突
- 横転



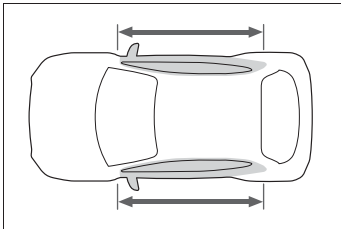
■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

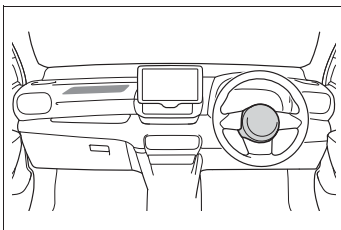
- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



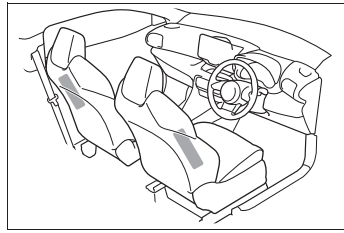
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき



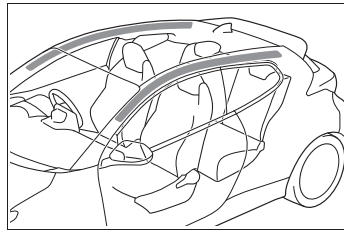
- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



⚠ 警告

■ SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。

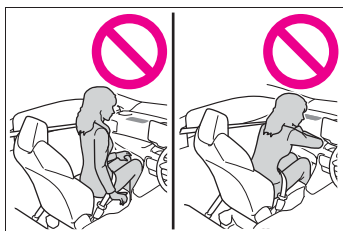
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

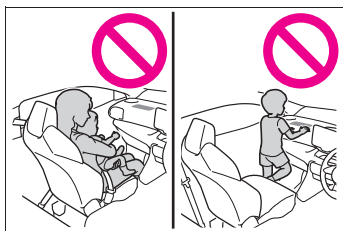
警告

- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRSエアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。
(→P.36)

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

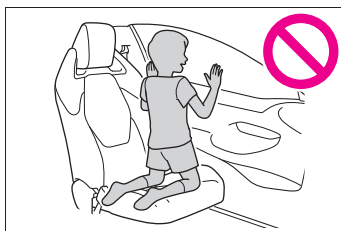


- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

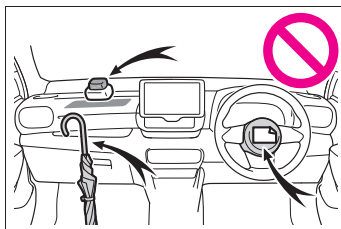
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



- 助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

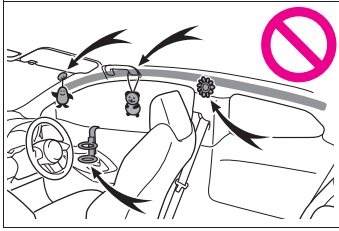


- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



警告

- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く→P.320）



- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびドアの周辺は、強くたたきなど過度の力を加えないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。

SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・ドアパネル・ドアトリム・ドアスピーカーなどの周辺の修理・取りはずし・改造
- ドアパネルの穴あけなどの改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→P.36)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、ウィンドウロックスイッチ(→P.101)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

■ お子さまを乗せるときは

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。(→P.36)

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。

トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと：
P.36

チャイルドシートを使用するとき：
P.37

シート位置別チャイルドシートの
適合性について：P.39

チャイルドシートの取り付け方
法：P.44

- ・ シートベルトで固定する：P.44
- ・ ISOFIX ロアアンカレッジで固

定する：P.46

- ・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.47

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。
(→P.39)

警告

■ お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

警告

- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
 - お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウィンドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。
- チャイルドシートについて**
- 次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いので、再使用しないでください。
 - チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください(→P.39)。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
 - チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

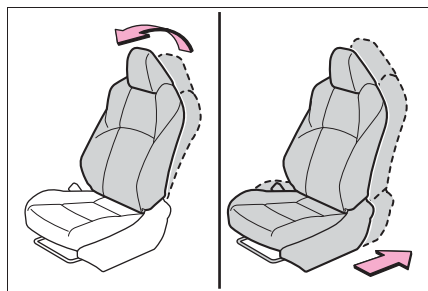
チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- シートをいちばんうしろに下げる
- 背もたれを可能な限り起こす
背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように調整してください。
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。



⚠ 警告

■ チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

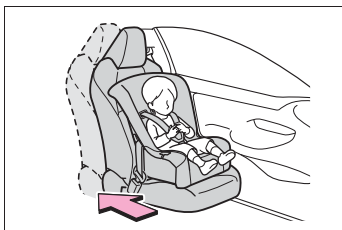
⚠ 警告



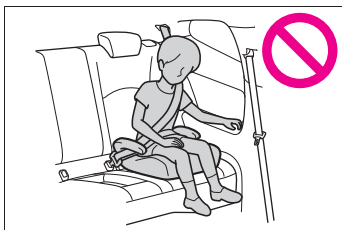
警告

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.40）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→P.43）次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN(ECE) R44※¹ に適合したチャイルドシートを使用してください。

適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。

チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

UN(ECE) R44 認可マーク※²

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

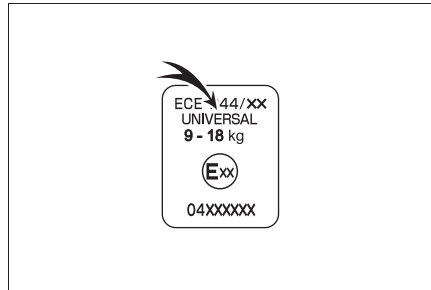
2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

- ・ ユニバーサル「universal (汎用)」
- ・ セミユニバーサル「semi-universal (準汎用)」

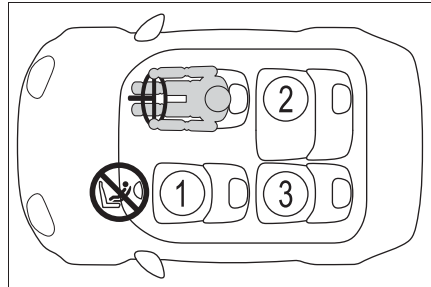
- ・ リストリクティッド「restricted (限定)」
- ・ ビークルスペシフィック「vehicle specific (特定車両)」



※¹ UN(ECE) R44 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※² 表示されているマークは、商品により異なります。


■ シート位置別チャイルドシートの適合性




② ※3	
③ ※3	

- U** 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。
- L** 推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.43）に記載されたチャイルドシートに適しています。

 ISOFIX チャイルドシートに適しています。

 トップテザーアンカレッジが装備されています。

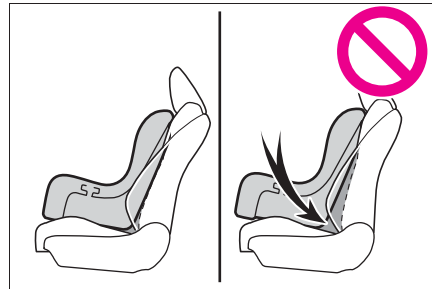
 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

※1シートをいちばんうしろに下げた状態

で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2背もたれを可能な限り起こしてください。

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間につき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	有 前向きのみ	有	有
アイサイズ着座位置（有／無）	無	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具 (R1/R2X/R2/R3)	×	R2X	R2X
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具 (F2X/F2/F3)	×	F2X, F2	F2X, F2
搭載可能なジュニアシートの治具 (B2/B3)	×	B2, B3	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

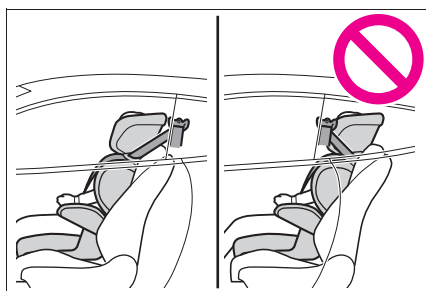
■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置		
		①	②	③
0、0+ (13kg まで)	トヨタ純正 NEO G-Child baby	×	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○
I (9 ~ 18kg)	トヨタ純正 NEO G-Child baby	○ 前向き のみ	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○
II、III (15 ~ 36kg)	トヨタ純正 ジュニアシート	○*1	○	○
		×		

*1: スポーツシート (→P.89)

*2: プレミアムスポーツシート (→P.89)

- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

	固定方法	ページ
シートベルトで固定する		P.44
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.46
テザーベルトを固定する		P.47

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

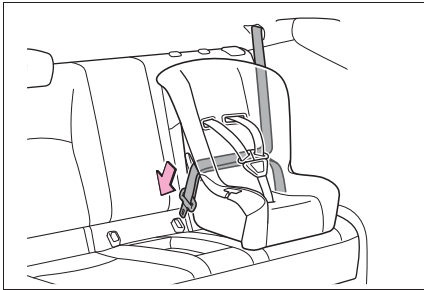
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確

認してください。(→P.40)

- 1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。(→P.37)
- 2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→P.93)
- 3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

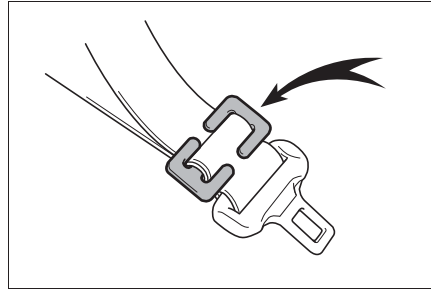
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



- 4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ(別売)を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。(ロッキ

ングクリップ品番：73119-22010)



- 5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。(→P.46)

■ **チャイルドシートの取りはずし**
バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。

チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

▲ 警告

■ **チャイルドシートを取り付けるとき**
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

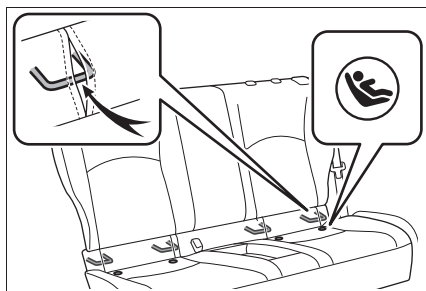
警告

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。(ロアアンカレッジが装備されていることを示すボタンがシートに付いています)



■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない(または必要な情報が表の中にない)場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。(→P.40)

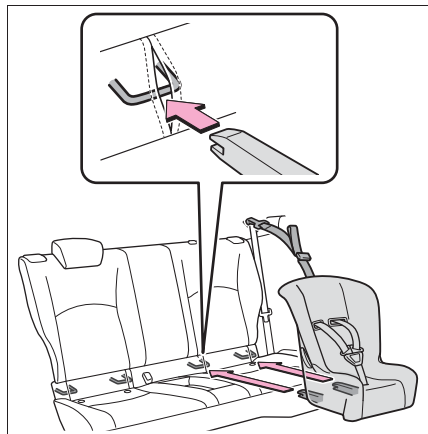
1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→P.93)

2 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ(取り付け金具)をロアアンカレッジに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってくだ

さい。



- 3 取り付けしたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する (→P.46)

警告

■ **チャイルドシートを取り付けるとき**
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

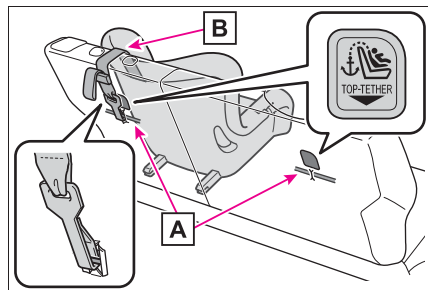
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

- **トップテザーアンカレッジについて**

この車はリヤ席にトップテザーア

ンカレッジが装備されています。
テザーベルトを固定するときに使います。



A トップテザーアンカレッジ

B テザーベルト

■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

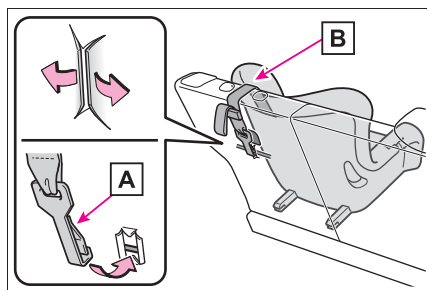
1 ヘッドレストを上げる

ヘッドレストとチャイルドシートまたはテザーベルトが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。(→P.93)

2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→P.46)

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



A フック

B テザーベルト

警告

■ **チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

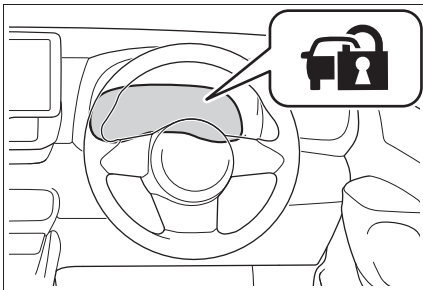
エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには



▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

キーをエンジンスイッチから抜くと、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーをエンジンスイッチに挿し込むとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるた

めにインジケーターが点滅します。登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■ メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■ エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはバックドアが、スマートエントリー&スタートシステム★・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき

- ボンネットが開けられたとき

T-Connect サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。

詳しくは、別冊「マルチメディア取扱書／T-Connect／マイカーサーチ」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

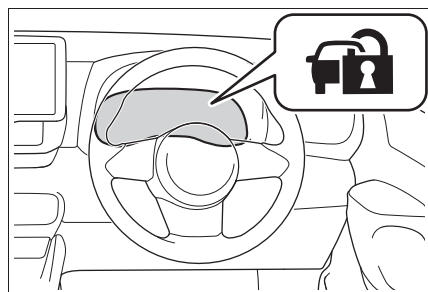
オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームを設定するには

ドア・バックドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステム★・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケータは点灯から点滅にかわります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー&スタートシステム★・ワイヤレスリモコンを使ってドアを解錠する
- エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

□ 知識

■ オートアラームの設定について

ボンネットを開けていても、すべてのドアが閉じていれば、オートアラームはセットできます。

■ メンテナンスについて

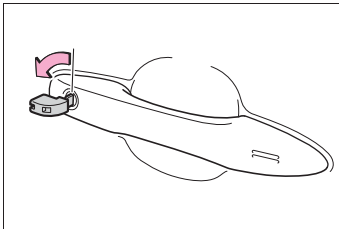
オートアラームシステムのメンテナンス

は不要です。

■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

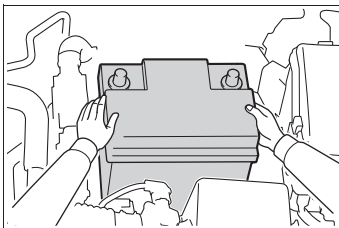
- キー（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）またはメカニカルキー（スマートエントリー&スタートシステム装着車）を使ってドアを解錠したとき



- 車内に残った人が、ドア・バックドア・ボンネットを開けたり、ロックレバーで解錠したとき

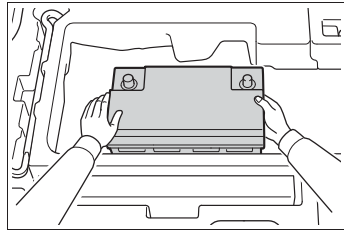


- オートマチック車：施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や交換をしたとき（→P.331）



- マニュアル車：施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や交換を

したとき（→P.331）



■オートアラーム作動によるドアロック機能

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

- 車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき
- オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき
- バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.351）

⚠ 注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

2-1. 計器の見方

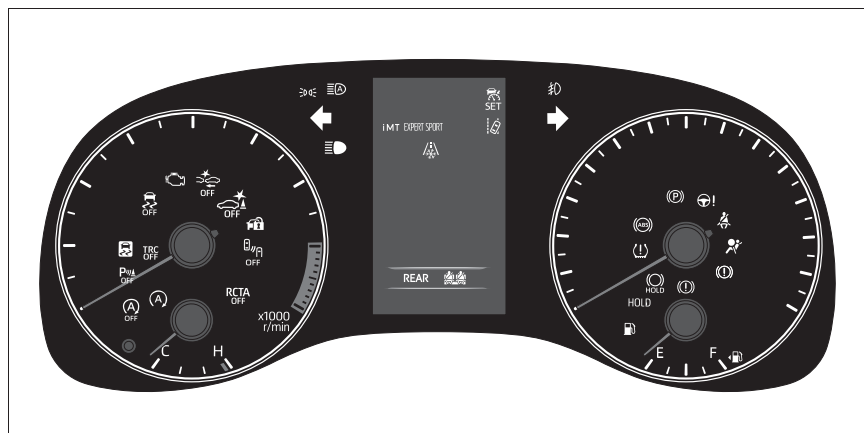
警告灯／表示灯	54
計器類	57
マルチインフォメーションディスプレイ	61
ヘッドアップディスプレイ	67
燃費画面	71

警告灯／表示灯

メーター・ドアミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

メーターの警告灯／表示灯

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



警告灯一覧

システム異常などを警告します。



ブレーキ警告灯 ※1
(→P.306)

(赤色)



ブレーキ警告灯 ※1, 2
(→P.306)

(黄色)



高水温警告灯 ※3 (→P.306)



充電警告灯 ※3 (→P.306)



油圧警告灯 ※3 (→P.307)



エンジン警告灯 ※1
(→P.307)



SRS エアバッグ／プリテン
ショナー警告灯 ※1
(→P.307)



ABS & ブレーキアシスト警告
灯 ※1 (→P.307)

ブレーキオーバーライドシ
ステム／ドライブスタートコン
トロール★警告灯 ※3
(→P.308)



パワーステアリング警告灯 ※1
(→P.308)



パワーステアリング警告灯 ※1
(→P.308)



燃料残量警告灯 (→P.308)



運転席・助手席シートベルト
非着用警告灯 (→P.308)



リヤ席シートベルト非着用
警告灯 ※3 (→P.309)



LTA 表示灯★ ※3 (→P.309)
(橙色)



Stop & Start キャンセル表示
灯★ ※1 (→P.309)
(点滅)



タイヤ空気圧警告灯★ ※1
(→P.310)



クリアランスソナー OFF 表示
灯★ (→P.310)
(点滅)



RCTA OFF 表示灯★ ※1
(→P.310)
(点滅)



PKSB OFF 表示灯★ ※1
(→P.311)



PCS 警告灯★ ※1 (→P.311)
(点滅または点灯)



スリップ表示灯 ※1
(→P.311)



パーキングブレーキ表示灯 ※2
(→P.312)
(点滅)



ブレーキホールド作動表示灯★
※1 (→P.312)
(点滅)

★: グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

※1 作動確認のためにエンジンスイッチを
ON にすると点灯し、数秒後またはエ
ンジンをかけると消灯します。点灯し
ない場合や点灯したままのときはシス
テム異常のおそれがあります。トヨタ
販売店で点検を受けてください。

※2 電動パーキングブレーキ装着車

※3 マルチインフォメーションディスプレ

イに表示されます。

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置
の警告灯がエンジンスイッチを ON に
しても点灯しない場合や点灯したまま
の場合は、事故にあったときに正しく
作動せず、重大な傷害を受けたり、最
悪の場合死亡につながるおそれあり
ます。ただちにトヨタ販売店で点検を
受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯 (→P.127)



尾灯表示灯 (→P.134)



ハイビーム表示灯 (→P.136)



オートマチックハイビーム表
示灯★ (→P.138)



フロントフォグランプ表示灯
(→P.141)



PCS 警告灯★ ※1, 2
(→P.155)



クルーズコントロール表示灯★
※3 (→P.174)



レーダークルーズコントロ
ール表示灯★ ※3 (→P.174)



クルーズコントロールセッ
ト表示灯★ ※3 (→P.174)




LTA 表示灯★ ※3 (→P.167)


※4




BSM ドアミラーインジケ
ーター★ ※1, 5 (→P.190,
201)

	BSM OFF 表示灯★※2 (→P.190)
	クリアランスソナー OFF 表示灯★※1,2 (→P.195)
	RCTA OFF 表示灯★※1,2 (→P.201)
	PKSB OFF 表示灯★※1,2 (→P.207)
	Stop & Start 表示灯★※1 (→P.185)
	Stop & Start キャンセル表示灯★※1,2 (→P.185)
	スリップ表示灯 ※1 (→P.220) (点滅)
	TRC OFF 表示灯 ※2 (→P.220)
	VSC OFF 表示灯 ※1,2 (→P.220)
	スマートエントリー&スタートシステム表示灯★※3 (→P.115)
	パーキングブレーキ表示灯 (→P.128, 129)
	ブレーキホールドスタンバイ表示灯★※1 (→P.132)
	ブレーキホールド作動表示灯★※1 (→P.132)
	エコドライブインジケーターランプ★※1,3 (→P.63)
	低温表示灯 ※3,6 (→P.57)
	セキュリティ表示灯 (→P.49, 50)
	エコドライブモード表示灯★※3 (→P.216)
	パワーモード表示灯★※3 (→P.216)
	iMT 表示灯★※3 (→P.125)

 スポーツモード 表示灯★※3 (→P.217)

トラックモード 表示灯★※3 (→P.217)

 エキスパートモード 表示灯★※3 (→P.220)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 作動確認のためにエンジンスイッチをONにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけてると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 システムがOFFのときに点灯します。

※3 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※4 システムの作動状態により、表示色と点灯・点滅の状態が変化します。

※5 ドアミラーに表示されます。

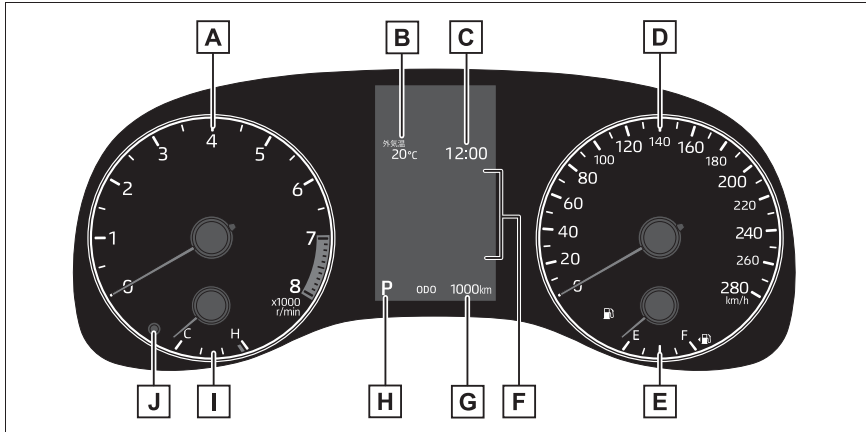
※6 外気温が約3℃以下のとき、約10秒間点滅後に点灯します。

計器類

走行に関する各種の情報がメーターに表示されます。

メーターの表示について

■ 計器類の位置



A タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

B 外気温

外気温度を -40°C ～ 60°C のあいだで表示します。

C 時計 (→P.59, 60)

D スピードメーター

車両の走行速度を示します。

E 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量給油 (約 5L 以下) を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

F マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.61)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.314)

G オドメーター／トリップメーターディスプレイ (→P.59)

H シフトポジション表示灯★ (→P.120)

I 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

J 表示切りかえボタン (→P.59)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ 燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

- 1 車両を平坦な場所に停車させる
- 2 表示切りかえボタンを押してオドメーター／トリップメーターディスプレイをオドメーター表示に切りかえる
- 3 エンジンスイッチを OFF にする
- 4 表示切りかえボタンを押したまま、エンジンスイッチを ON にする
- 5 そのまま約 5 秒間表示切りかえボタンを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。


■ 外気温表示について

- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
 - ・ 停車しているときや、低速走行（約 25km/h 以下）のとき
 - ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “-” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 液晶ディスプレイについて

→P.61

■ カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの  で、計器類の表示を変更できます。（→P.351）

警告

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばギヤ段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

⚠ 注意

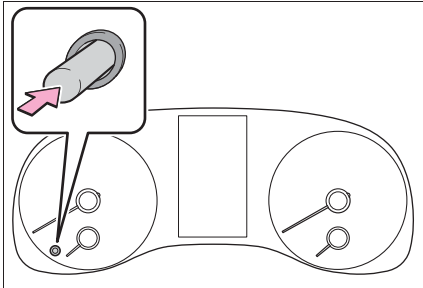
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。(→P.338)

オドメーター／トリップメーターディスプレイ

■ 表示の切りかえ

表示を切りかえるには、表示切りかえボタンを押します。

ボタンを押すごとに表示される項目が切りかわります。



■ 表示項目

● オドメーター


走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A / トリップメーター B


リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けすることができます。

リセットするには、リセットしたい方のトリップメーターを表示中に表示切りかえボタンを長押しします。

時計の調整をするには (マルチメディアシステム非装着車)

マルチインフォメーションディスプレイの  から、時計の設定を変更できます。


■ 分を 00 にする

- 1 メーター操作スイッチの **◀** または **▶** を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して “時計 : 00” を選択する

メーター操作スイッチの OK スイッチを押すごとに分を 00 に合わせることができます。

- 0～29 分は切り下げられます。(例えば、1:00～1:29 は 1:00 になります。)
- 30～59 分は切り上げられます。(例えば、1:30～1:59 は 2:00 になります。)

■ 詳細設定

- 1 メーター操作スイッチの **◀** または **▶** を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して “時計 : 00” を選択する
- 3 メーター操作スイッチの OK スイッチを長押しする

4 メーター操作スイッチの ◀ または ▶ を押して変更したい項目を選択する

5 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して表示内容を変更する

次の内容を変更することができます。

- 12 時間表示 / 24 時間表示
- 時
- 分


時計の調整をするには (マルチメディアシステム装着車)

マルチメディア画面より時計の設定を変更できます。


設定方法は、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

知識

■ 時計の設定画面 (マルチメディアシステム装着車)


マルチインフォメーションディスプレイの  に “時計 : 00” が表示される場合は、システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。


メーターの明るさを調整するには

マルチインフォメーションディスプレイの  から、メーターの明る

さを変更できます。

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。

1 メーター操作スイッチの ◀ または ▶ を押して  を選択する

2 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して  を選択し、OK スイッチを長押しする

3 メーター操作スイッチの ◀ または ▶ を押して明るさを変更する

知識

■ インストルメントパネルの照度調整について

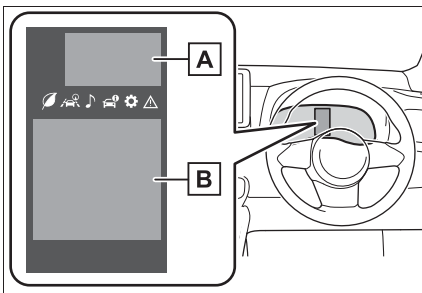
車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。ただし、周囲が明るいとき (昼間など) に車幅灯を点灯しても、メーターの明るさは切りかわりません。

マルチインフォメーションディスプレイ


マルチインフォメーションディスプレイは、燃費に関する情報や、走行に関する各種の情報などを表示します。また、メーター操作スイッチの操作で、各システムの設定などを変更することもできます。

ディスプレイの表示／メニューアイコン一覧

■ ディスプレイの表示



A 走行支援システム表示エリア

以外のメニューアイコンを選択している時に次のシステムが作動していると、システムの作動状況を表示します。

- ・ LTA (レーントレーシングアシスト) ★ (→P.162)
- ・ レーダークルーズコントロール★ (→P.174)
- ・ RSA (ロードサインアシスト) ★ (→P.171)

B コンテンツ表示エリア

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ メニューアイコン

メーター操作スイッチの < または > を押すとメニューアイコンが表示されます。



走行情報表示 (→P.62)



運転支援機能情報表示★ (→P.64)



オーディオシステム連携表示★ (→P.64)



車両情報表示 (→P.64)



設定 (→P.65)



警告メッセージ (→P.314)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ 走行モードを切りかえたとき (マニュアル車)

選択した走行モードに従って、マルチインフォメーションディスプレイの背景色が変わります。(→P.217)

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

警告

■ 運転中の使用について

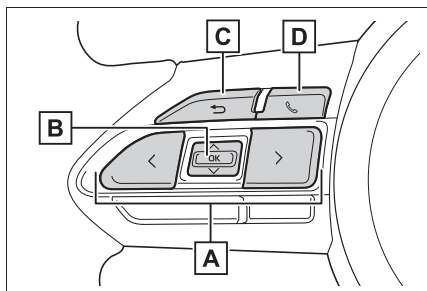
- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■ 低温時の画面表示について

→P.58

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



- A** </> : メニューの切りかえ
 ^/∨ : 表示項目の切りかえ・ページ送り・カーソル移動
- B** 短押し : 決定
 長押し : リセット/詳細項目表示
- C** ひとつ前の画面にもどる
- D** 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。

ハンズフリーシステムについては詳しくは別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

走行情報表示について

■ 表示項目

- 車速表示/航続可能距離
- 燃費グラフ
- エコドライブインジケータ/航続可能距離★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 車速表示/航続可能距離

- 車速表示
- 航続可能距離

燃料残量による走行可能な距離を表示します。表示される数値は参考として利用してください。

運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費が変わるため、実際に走行できる距離とは異なります。

燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示とともに更新することができます。（→P.58）

■ 燃費グラフ

表示される数値は参考として利用してください。



A 航続可能距離

燃料残量による走行可能な距離を表示します。

運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費が変わるため、実際に走行できる距離とは異なります。


燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示とともに更新することができます。（→P.58）

B 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

C リセット間平均燃費

平均燃費をリセットするには、メーター操作スイッチの OK を長押しします。

平均燃費の表示は、メニューアイコンの  から変更することができます。

表示できる項目は次のとおりです。

● 始動後平均燃費

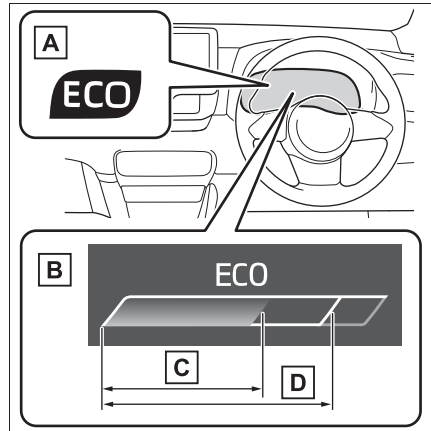
エンジン始動後の平均燃費を表示します。

● 給油後平均燃費

給油後の平均燃費を表示します。

■ エコドライブインジケーター／航続可能距離★

● エコドライブインジケーター



A エコドライブインジケーターランプ

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

B エコドライブインジケーターゾーン表示

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

C 現状のアクセル開度

現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点灯します。このとき、エコドライブインジケーターランプは消灯します。

D エコ運転の範囲

● 航続可能距離

燃料残量による走行可能な距離を表示します。表示される数値は参考として利用してください。

運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費が変わるため、実際に走行できる距離とは異なります。

燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示とともに更新することができます。（→P.58）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ エコドライブインジケーターについて★

次の場合、エコドライブインジケーターは作動しません。

- シフトポジションが D 以外にあるとき
- パドルシフトスイッチを操作しているとき
- 走行モードがノーマルモードまたはエコドライブモード以外するとき

- 車速が約 100km/h 以上するとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

運転支援機能情報表示について

■ 運転支援機能情報

次のシステムの作動状況を表示します。

- LTA（レーントレーシングアシスト）★（→P.162）
- レーダークルーズコントロール★（→P.174）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ナビゲーションシステム連携表示★

ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。

- ルート案内表示


- コンパス（ヘッドアップ表示）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オーディオシステム連携表示★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オーディオソースの選択、選曲などを操作することができます。

メニューアイコンは、で表示／

非表示を設定できます。

車両情報表示について

■ ドライブインフォメーション

“ドライブインフォ項目選択”の設定で選択した項目（平均車速・走行距離・走行時間）を上下に2つ、表示させることができます。

各情報の内容は、“ドライブインフォタイプ”の設定（始動後・リセット間）との組み合わせによって変化します。（→P.65）

表示される情報は、参考としてご利用ください。

表示できる組み合わせは次のとおりです。

● 始動後※

- ・ 平均車速：エンジン始動後の平均車速を表示

- ・ 走行距離：エンジン始動後の走行距離を表示
- ・ 走行時間：エンジン始動後の経過時間を表示
- ※ エンジンを停止するたびに、表示がリセットされます。

● リセット間※

- ・ 平均車速：リセット後の平均車速を表示
- ・ 走行距離：リセット後の走行距離を表示
- ・ 走行時間：リセット後の経過時間を表示
- ※ リセットするには、リセットしたい項目を表示中にメーター操作スイッチのOKを長押しします。

■ タイヤ空気圧★

タイヤが装着されている位置ごとに、現在のタイヤ空気圧を表示します。

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ トルク配分★

各輪にかかる駆動力を目盛りの数で表示します。

目盛りの数が多いほど、駆動力が大きいことを示しています。

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ブーストメーター／油温計／油圧計★

● ブーストメーター

過給圧を表示します。一定圧以上になると表示の色が変わります。

● 油温計

エンジンオイルの温度を表示します。エ

ンジン油温が140℃以上になると、表示が点滅します。

● 油圧計

エンジン内部の油圧を表示します。油圧が低下すると、ブザーが鳴り、警告メッセージを表示します。(→P.316)

表示画面については路面状況、気温、車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は、参考として利用してください。

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定について

■ 変更できる項目（メーター表示）

● 時刻表示（マルチメディアシステム非装着車）

→P.59

● 言語

表示される言語を選択することができます。

● 単位

燃費単位を選択することができます。

● エコドライブインジケータースランプ★

エコドライブインジケータースランプの作動・非作動を切りかえることができます。



● 燃費グラフ

平均燃費の表示を始動後／リセット間／給油後から選択することができます。(→P.62)



オーディオ連動表示の表示・非表示を選択することができます。



● 表示コンテンツ

トルク配分画面の表示・非表示を選択することができます。★

● ドライブインフォタイプ

始動後／リセット後から選択することができます。

● ドライブインフォ項目

1 行目と 2 行目の項目を別々に、平均車速／走行距離／走行時間から選択することができます。

● 割り込み表示

割り込み表示される項目の表示・非表示を、項目ごとに変更することができます。

● マルチインフォメーションディスプレイの消灯

マルチインフォメーションディスプレイの表示をオフにすることができます。

再度表示させるには / / /

/ OK / のいずれかのスイッチを

押してください。

● 初期化

メーターの表示設定をもとにもどすことができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 変更できる項目（機能の切りかえ・車両設定）

→P.351



知識

■ 設定画面の操作について

● 一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停

車して操作してください。

● 警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。

警告

■ ディスプレイの設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ ディスプレイの設定を変更するとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

Stop & Start システム情報★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● エンジン始動後のアイドリングストップ時間／状態通知

現在のアイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を表示します。また、アイドリングストップの状態を状況に応じて割り込み表示でお知らせします。（→P.187）

● Stop & Start 設定

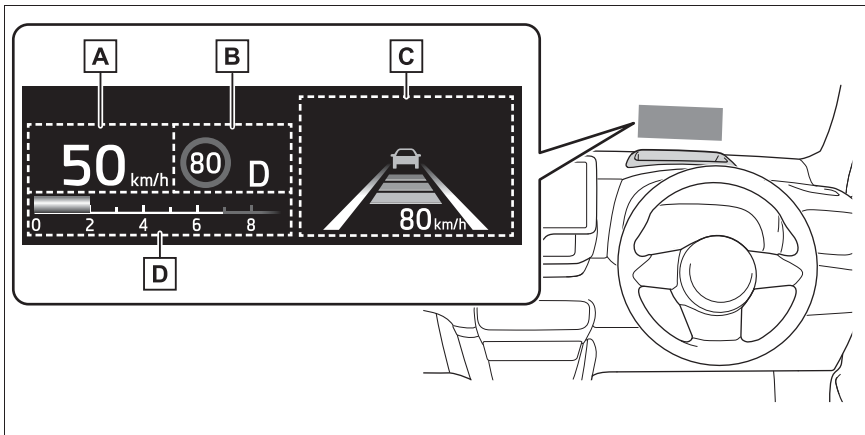
メニューアイコンの から、エアコンの“A/C”を ON にしているときのアイドリングストップ時間を 2 段階から選択することができます。（→P.187）

ヘッドアップディスプレイ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウガラスに運転支援システムの作動状況や走行に関するさまざまな情報を表示することができます。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

- A** 車速表示
- B** シフトポジション★／RSA（ロードサインアシスト）★表示エリア
（→P.120, 171）
- C** 運転支援システム表示エリア★／ナビゲーションシステム連携表示エ
リア★（→P.69）
- D** タコメーター／エコドライブインジケーター★／外気温表示エリア
（→P.70）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ヘッドアップディスプレイの作動条件
エンジンスイッチがON のとき

■ヘッドアップディスプレイを使用する
ときは

●ヘッドアップディスプレイの表示が見
づらい場合は、次の方法で調整して
ください。

- ・ ヘッドアップディスプレイの上下調整 (→P.68)
- ・ シートの上下調整 (→P.89)
- サングラス (特に偏光サングラス) を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

警告

■ ヘッドアップディスプレイを使用するときは

- 映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。

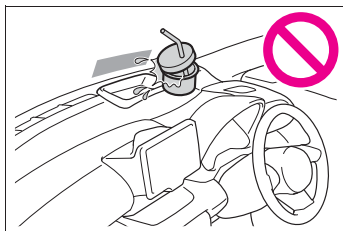
調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ヘッドアップディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

注意

■ ヘッドアップディスプレイ映写部について

- 映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。




- 映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。

ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。

- 映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。

装置が故障する原因となります。

ヘッドアップディスプレイの使い方

マルチインフォメーションディスプレイの  から “HUD メイン” を選択します。(→P.351)

■ ヘッドアップディスプレイの表示/非表示

メーター操作スイッチの OK を押すごとにヘッドアップディスプレイの表示 / 非表示を切りかえることができます。

■ ヘッドアップディスプレイの設定変更

メーター操作スイッチの OK を長押しすると次の設定を変更できます。

● 表示の明るさ/上下位置

表示の明るさや、上下の位置を調整することができます。

● 表示内容

次のいずれかから表示する項目を選択することができます。

- ・ 表示なし

- ・エコドライブインジケーター表示★
- ・タコメーター表示
- 次の内容の表示／非表示を設定することができます。
- ・ルート案内★
- ・運転支援★
- ・オーディオ表示★
- 表示の傾き

表示の傾きを調整することができます。


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ヘッドアップディスプレイの表示／非表示について

ヘッドアップディスプレイを非表示にしたときは、エンジンスイッチをOFFにしたあとで再度ONにしても、非表示のままです。

■表示の明るさについて

マルチインフォメーションディスプレイのによる明るさの調整に加えて、周囲の明るさに応じて表示の明るさが自動で調整されます。

警告

■ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

エンジンがかかった状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

運転支援システム表示エリア

■運転支援システム状況表示

次のシステムの作動状況を表示します。

- LTA（レーントレーシングアシスト）★（→P.162）
- レーダークルーズコントロール★（→P.174）
- 先行車発進告知機能★（→P.183）

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ナビゲーションシステム連携表示エリア★

ナビゲーションシステムと連携してルート案内を表示します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■交差点名表示について★

地図データに情報がいない場合など、状況によっては交差点名称が表示されない場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

割り込み表示について

状況に応じて、次の項目が割り込み表示されます。

■ 運転支援システム

次のシステムの警告／注意喚起／通知／作動状況を表示します。

- PCS (プリクラッシュセーフティ) ★ (→P.152)
- LTA (レーントレーシングアシスト) ★ (→P.162)
- 先行車発進告知機能★ (→P.183)
- パーキングサポートブレーキ (静止物) ★ (→P.211)
- ブレーキオーバーライドシステム (→P.106)
- ドライブスタートコントロール ★ (→P.105)

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ アイコン

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているときに表示されます。(→P.314)

■ 警告メッセージ

一部の警告メッセージが表示されます。(マルチインフォメーションディスプレイの表示と同内容)

■ オーディオ表示★

オーディオ操作スイッチを使用し

たときに表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ハンズフリー作動表示★

ハンズフリーの使用中に表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ 割り込み表示について

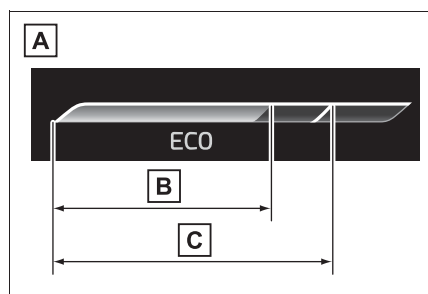
割り込み表示される項目によっては、一部の表示エリアが非表示になります。割り込み表示終了後、もとの表示にもどります。

タコメーター／エコドライブインジケーター★／外気温表示

■ タコメーター

毎分のエンジン回転数を表示します。

■ エコドライブインジケーター★



A エコドライブインジケーターゾーン表示

B 現状のアクセル開度

C エコ運転の範囲

表示される内容はマルチインフォメー

ションディスプレイのエコドライブインジケーターと同様です。詳しくは、P.63 を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 外気温表示

エンジンスイッチを ON にしたとき、または低温表示が点滅しているときに表示されます。

知識

■ 外気温表示について

- 外気温が約 3℃ 以下のとき、低温表示灯が約 10 秒間点滅し、外気温が非表示になります。

外気温が約 5℃ 以上になると再度外気温が表示されます。

- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
 - ・ 停車しているときや、低速走行（約 25km/h 以下）のとき
 - ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

燃費画面★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

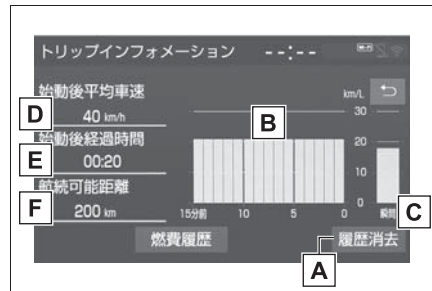
燃費に関する情報をマルチメディア画面に表示します。

燃費画面の表示のしかた

■ トリップインフォメーション

“MENU” スイッチを押し、“情報” を選択する

トリップインフォメーション画面以外が表示されたときは、“トリップインフォメーション” を選択する



A 履歴消去

B 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費
(平均燃費)

C 瞬間燃費

D エンジン始動後平均車速

E エンジン始動後経過時間

F 航続可能距離

平均燃費はエンジンスイッチを ON にしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考とし

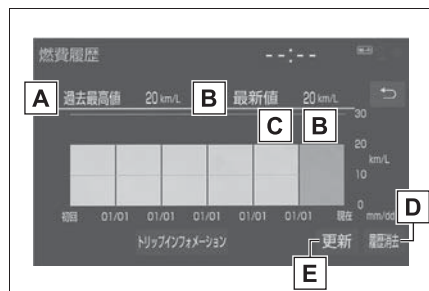
て利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 燃費履歴

“MENU” スイッチを押し、“情報” を選択する

燃費履歴画面以外が表示されたときは、“燃費履歴” を選択する



A 過去最高値表示

B 最新値表示

C 過去平均燃費表示

D 履歴消去

E 最新値更新

平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

□ 知識

■ 過去の区間平均燃費の記録を更新するには

燃費履歴画面で“更新” を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新た

に平均燃費の記録を開始します。

■ 燃費データをリセットするには

“履歴消去” を選択すると、燃費データがリセットされます。

■ 航続可能距離について

● 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費が変わるため、実際に走行できる距離とは異なります。

● 燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→P.58）

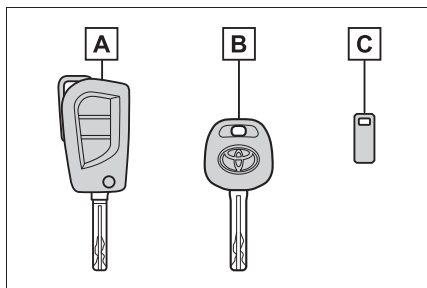
3-1. キー	
キー	74
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア	78
バックドア	81
スマートエントリー&スタートシステム	84
3-3. シートの調整	
フロントシート	89
リヤシート	91
ヘッドレスト	92
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	95
インナーミラー	96
ドアミラー	97
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	99

キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡します。

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車



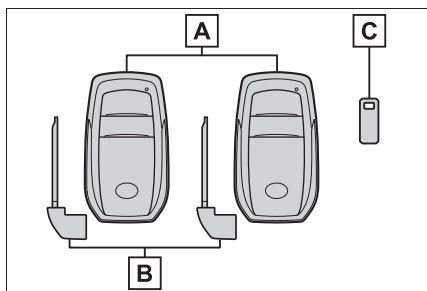
A キー（ワイヤレス機能装着）

ワイヤレス機能の作動（→P.76）

B キー（ワイヤレス機能非装着）

C キーナンバープレート

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車



A 電子キー

- ・ スマートエントリー&スタートシステムの作動（→P.84）
- ・ ワイヤレス機能の作動（→P.76）

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

知識

■ 航空機に乗るとき

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

- 電池の標準的な寿命は1～2年です。
- ワイヤレスリモコンを使用しなくても電池は消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。（→P.287）
 - ・ ワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・ 作動範囲が狭くなった

■ 電池の消耗について（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

- 電池の標準的な寿命は1～2年です。
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 電子キーを長時間使用しないときは、節電モードに設定することで、電池の消耗を抑えることができます。（→P.85）
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。（→P.287）
 - ・ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない

- ・ 作動範囲が狭くなった
- ・ 電子キーのLEDが点灯しない
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを置かないでください。
- ・ TV
- ・ パソコン
- ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
- ・ 電気スタンド

- ・ 電磁調理器

- スマートエントリー&スタートシステムによる操作をしなくても、車両周辺に長時間いると、電池の消耗は早くなります。操作をしない場合は、車両周辺に長時間いないことをおすすめします。

■ 電池が切れたとき

→P.287

■ 電子キーの取り扱いについて

電波キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

・ 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

・ 必ず日本国内でご使用ください。

・ 技適マークと認可番号は電池蓋を取り外した際、確認が可能です。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください”と表示されたときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが10日ほど続きます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをトヨタ販売店で確認してください。

⚠ 注意

■ キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない

- むらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- スマートエントリー&スタートシステム装着車：テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

⚠ 注意

■ キーを携帯するとき（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電源を入れた状態の電化製品とは10cm以上離して携帯してください。10cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

→P.329

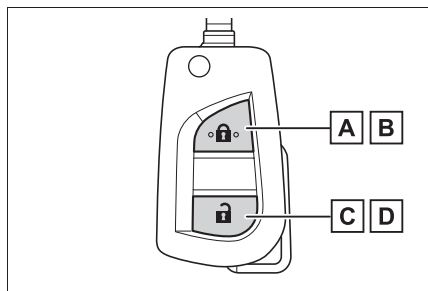
■ 電子キーを紛失したとき（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

→P.329

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車



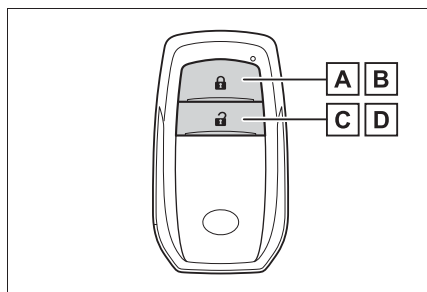
A ドアを施錠する（→P.78）

B ドアガラスを閉める ※
（→P.78）

C ドアを解錠する（→P.78）

D ドアガラスを開く ※（→P.78）

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車



A ドアを施錠する（→P.78）

B ドアガラスを閉める ※
（→P.78）

C ドアを解錠する（→P.78）

D ドアガラスを開く ※（→P.78）

※ トヨタ販売店ででの設定変更が必要です。

📖 知識

■ ワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

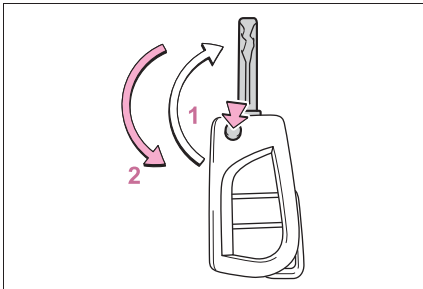
次のような場合、ワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれがあります。

- ワイヤレスキーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話・コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- ワイヤレスキーが金属製のものに接したり、覆われているとき

- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
- スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

→P.86

キーを使うには（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）



1 展開する

ボタンを押すと、キーが展開します。

2 格納する

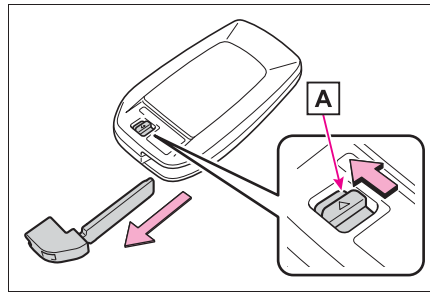
ボタンを押してロックを解除し、ケースに格納します。

メカニカルキーを使うには（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

メカニカルキーを取り出すには、解除レバー **A** をスライドさせてキーを取り出してください

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P.329）



知識

■ メカニカルキーを紛失したとき

→P.329

■ 不正キーの使用について

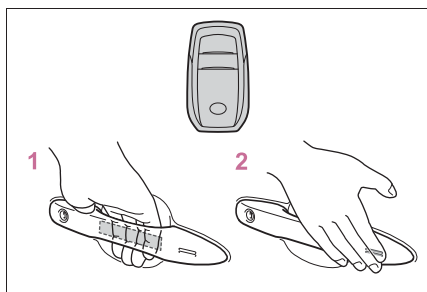
指定のキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

ドア

車外から解錠／施錠するには

- スマートエントリー&スタートシステムを使用する（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して操作します。



1 ドアハンドルを握って解錠する
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

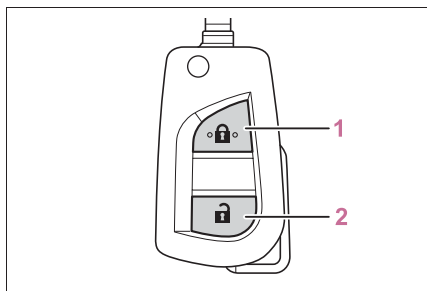
施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車



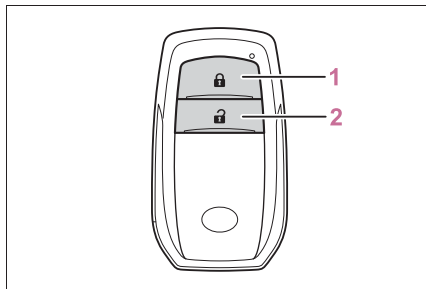
1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。
押し続けるとドアガラスが閉まります。
※

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスが開きます。※

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。
押し続けるとドアガラスが閉まります。
※

2 全ドアを解錠する

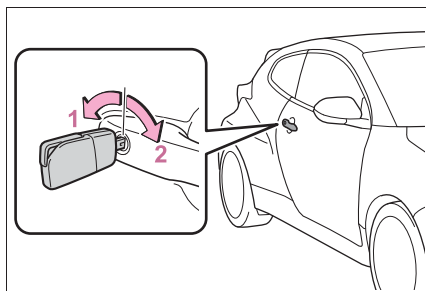
押し続けるとドアガラスが開きます。※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■ キー

キーを操作すると、ドアが下記のように作動します。

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車



1 全ドアを解錠する

まわし続けるとドアガラスが開きます。^{*}

2 全ドアを施錠する

まわし続けるとドアガラスが閉まります。^{*}

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

メカニカルキーを使ってドアを施錠・解錠できます。(→P.329)

^{*} トヨタ販売店ででの設定変更が必要です。

知識

■ ドア連動ドアガラス開閉機能

ドアの開閉に連動して、ドアガラスが少し開閉します。

■ 作動の合図

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

ワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠を、非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は1回、解錠は2回)

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は1回、解錠は2回)

■ 解錠操作のセキュリティ機能

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

ワイヤレスリモコンによる解錠操作後、約30秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

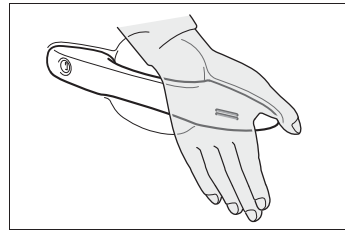
スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンによる解錠操作後、

約30秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。

■ ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき(スマートエントリー&スタートシステム装着車)

ドアハンドル表面のロックセンサー部に指でふれても施錠できないときは、てのひらでロックセンサー部にふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■ 半ドア警告ブザー(スマートエントリー&スタートシステム装着車)

ドアが完全に閉まっていない状態で、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアを施錠しようとする、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■ オートアラーム★の設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。(→P.50)

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

→P.76

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

→P.86

■ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

キーまたはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.78, 330)

キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.287)

■ バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。

キーまたはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。(→P.78, 330)

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.351)

⚠ 警告

■ 事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する

- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない

特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ ドアを開閉するときの留意事項

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ ドア連動ドアガラス開閉機能

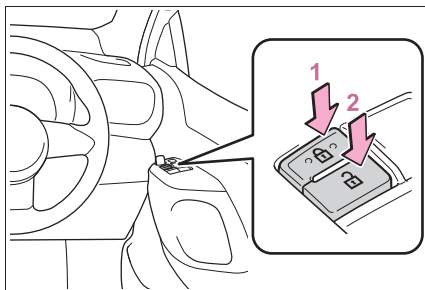
ドアガラスの上端を持ってドアを閉めないでください。ドアガラスで指などを挟むおそれがあります。

■ ワイヤレスリモコンまたはキーを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンまたはキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

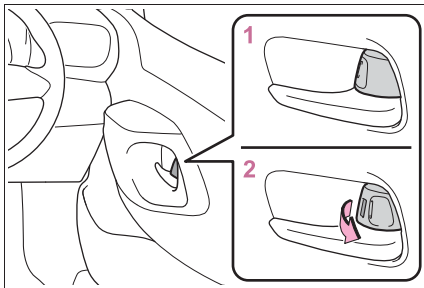
車内から解錠／施錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する



- 1 全ドアを施錠する
- 2 全ドアを解錠する

■ ロックレバーを使用する



1 ドアを施錠する

2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっても、車内のドアレバーを引くと開きます。

📖 知識

■ キーを使わずに外側から施錠するとき

- 1 ロックレバーを施錠側にする
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

キーがエンジンスイッチに挿し込まれているときは施錠されません。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチがACCまたはONのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

■ 半ドア走行時警告ブザー

各ドアまたはバックドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約5km/hをこえると警告ブザーが鳴り、開いているドアがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠解錠および開けることができます。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行する前に

- 走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームの中でお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。

急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

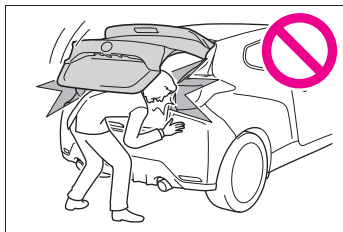
■ バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。

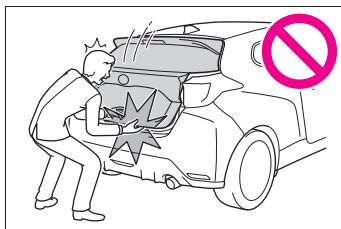
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

警告

- バックドアを開ける前に、バックドア上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確認してください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりする恐れがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



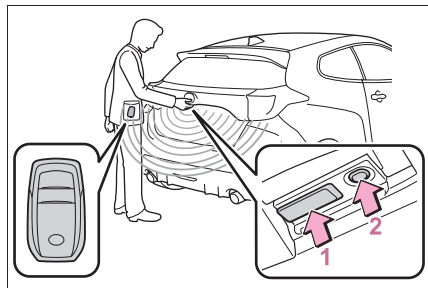
- バックドアを閉めるときは、バックドアで指などを挟まないよう十分注意してください。



- バックドアは必ず外からバックドア上面を軽く押しつけて閉めてください。バックドアハンドルで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

車外から解錠／施錠するには

- スマートエントリー&スタートシステムを使用する（スマートエントリー&スタートシステム装着車）



- 1 全ドアを解錠する
施錠操作後 3 秒間は解錠できません。
- 2 全ドアを施錠する
必ず施錠されたことを確認してください。

- ワイヤレスリモコンを使用する

→P.78

- キー

→P.78



知識

- 作動の合図

→P.79

車内から解錠／施錠するには

- ドアロックスイッチを使用する

→P.80

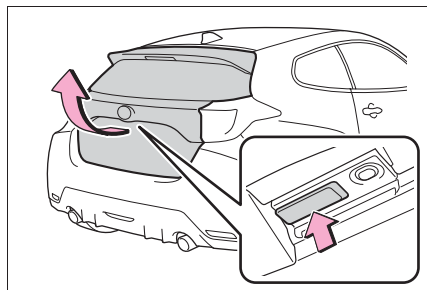
バックドアを開閉するには

- 開ける

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げ

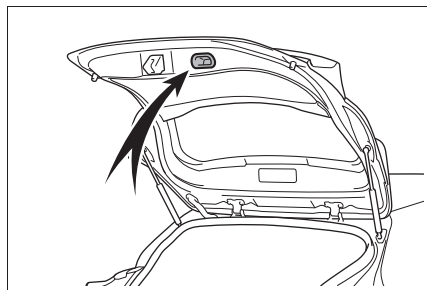
る

バックドアオープンスイッチを押した直後はバックドアを閉めることができません。



- 閉める

バックドアハンドルを持って、横方向に力をかけないように引き下げ、必ず外から押して閉めてください。



知識

- 半ドア走行時警告ブザー

→P.81



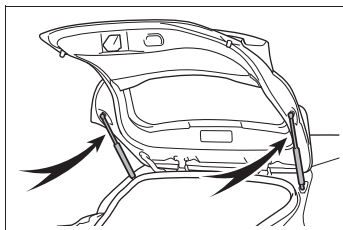
注意

- ダンパーステアについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステアが取り付けられています。ダンパーステアの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

⚠ 注意

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステアのロッド部（棒部）に付着させない



- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品をつけない
- ステアに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

スマートエントリー&スタートシステム★

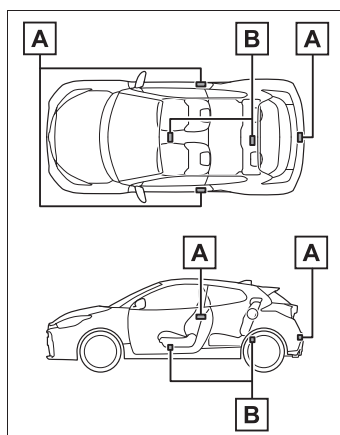
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する（→P.78）
- バックドアを施錠・解錠する（→P.83）
- エンジンを始動する（→P.115）

📖 知識

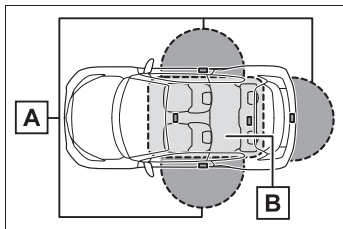
■ アンテナの位置



A 車外アンテナ

B 車室内アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）



A ドアの施錠・解錠時

ドアハンドル/バックドアオープン・ロックスイッチから周囲約70cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアのみ作動します）

B エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■ 警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤動作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されることがあります。メッセージが表示された場合は、状況に応じて適切に対処してください。（→P.314）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

- 車外から警告音が“ピー”と5秒鳴るとき

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する

- 車内から警告音が“ポーン、ポーン”と鳴り続けるとき

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをACCにした（エンジンスイッチがACCのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをOFFにした	運転席ドアを閉める



■ 節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

- 次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
 - ・ 車の外約3.5m以内に電子キーを2分以上放置した
 - ・ 5日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- 14日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

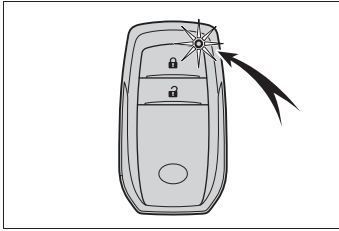
■ 電子キーの節電モードについて

- 節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの  を押しながら、 を2回押し、電子キーのインジケーターが4回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー&スタートシステムを使用できません。節

電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



- 長期間使用しない電子キーは節電モードに設定しておくことをおすすめします

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ 他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末（PDA など）
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ ポータブルゲーム機器

- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

- 充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき

- コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき

スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠・解錠できない場合は、次の方法を試してください。

- ドアハンドルに電子キーを近づけて操作する

- ワイヤレス機能を使用する

上記の方法でも施錠・解錠できない場合は、メカニカルキーを使用してください。（→P.330）

また、スマートエントリー&スタートシステムでエンジンが始動できない場合は、P.330 を参照してください。

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
 - ・ エンジン始動時またはエンジンスイッチの切りかえ時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれていた場合
- インストルメントパネル上面・ドアポ

ケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があります、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

- 電子キーが作動範囲内であれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では、解錠できません。
- 車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジンの始動が可能になる場合があります。
- 電子キーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。(解錠された場合でも、ドアの開閉操作がなければ約30秒後に自動的に施錠されます)
- 車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。(ワイヤレスリモコンで解錠すると復帰します)
- 手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。
- ロック操作は、連続で2回まで有効で、3回目以降はロック動作しません。
- キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。
 - ・ 電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する(電子キーの盗難に注意してください)
 - ・ 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する(→P.85)

- 車内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報は表示されなくなります。
- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。
- すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■ 長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から2m以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。(→P.351)
- 電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。(→P.85)

■ システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込

み防止機能が働かないこともあります。)

■ 電子キーの取り扱いについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。

必ず以下のことをお守り下さい。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用下さい。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.351)

■ カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

- ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.78, 330)
- エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→P.330
- エンジンの停止：→P.117

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

- ドアの施錠・解錠：→P.330
- エンジンの始動：→P.330

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペースメーカーまたは植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。



警告

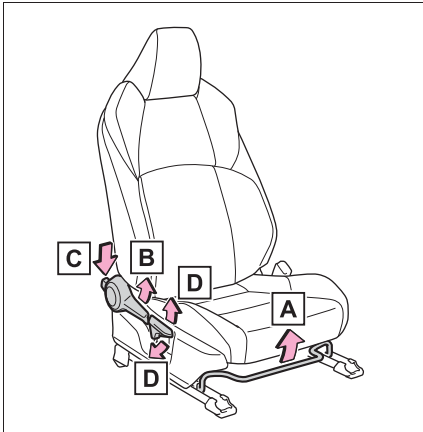
■ 電波がおよぼす影響について (スマートエントリー&スタートシステムアンテナ)

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペースメーカーまたは植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ(→P.84) から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペースメーカー、植込み型除細動器の動作に影響を与えるおそれがあります。

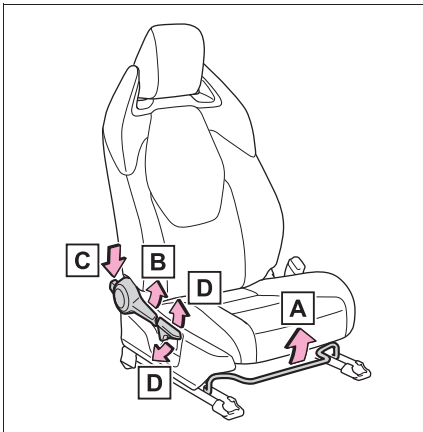
フロントシート

調整するには

▶ スポーツシート



▶ プレミアムスポーツシート



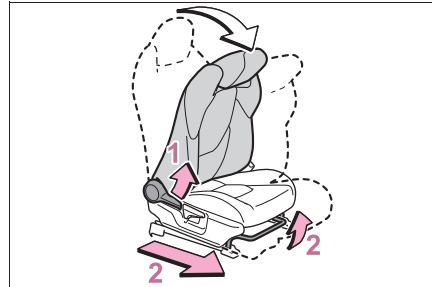
- A** 前後位置調整
- B** リクライニングロック解除／調整
- C** リクライニングロック解除（助手席のみ）

- D** シート全体の上下調整（運転席のみ）

リヤシートへの乗り降り

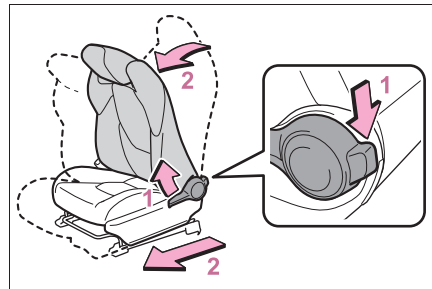
■ 乗り降りするには

▶ 運転席



- 1** リクライニングロック解除／調整レバーを引く。
- 2** 前後位置調整レバーを引き、シートをいっぱいまで前に移動させる。

▶ 助手席



- 1** リクライニングロック解除／調整レバーまたはリクライニングロック解除レバーを操作する。
- 2** 背もたれの上部分を前方に押し、シートをいっぱいまで前に移動させる。

■ 乗り降りしたあとは

背もたれを起こし、シートを固定させてください。

助手席のみ：背もたれを起こした位置でシートの前後位置が固定されます

警告

■ シート調整について

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
 - シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
- 指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。
 - 背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。
 - 背もたれは必要以上に倒さないでください。

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

■ リヤシートへの乗り降りについて

- 乗り降りするときは、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。
- 乗り降りするときは、シートレールにつまづいて転倒しないよう注意してください。

- 乗り降りしたあとは、必ずフロントシートを固定させてください。

■ リヤシートからのフロントシート操作について

フロントシートに乗員がいるときは操作をしないでください。

注意

■ シートを調整するときは

ヘッドレストが天井にあたらないように注意してください。ヘッドレストや天井が損傷するおそれがあります。

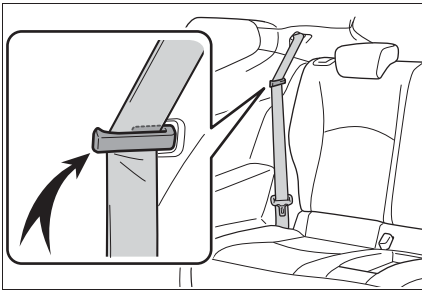
リヤシート

リヤシートは折りたたむことができます。

背もたれを倒す・もどす

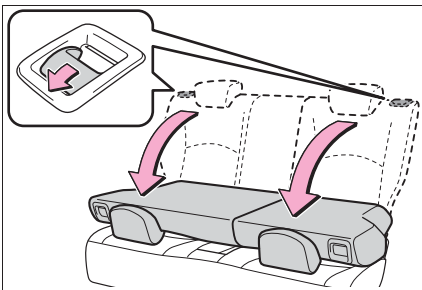
■ 背もたれを倒す

- 1 フロントシートを前方に移動する (→P.89)
- 2 リヤ席のシートベルトをベルトハンガーにかける



- 3 ヘッドレストをいちばん下まで下げる (→P.93)
- 4 ロック解除レバーを引きながら、背もたれを前方に倒す

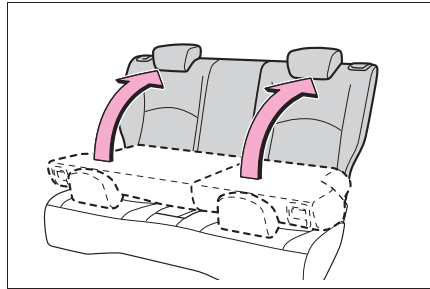
ロックが確実に解除されるまで、レバーを引いてください。



■ 背もたれをもとにもどす

- 1 背もたれを起こして固定する

シートベルトを挟み込まないように背もたれをもとにもどしてください。



- 2 リヤ席のシートベルトをベルトハンガーからはずす

▲ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ リヤシートを操作するときは

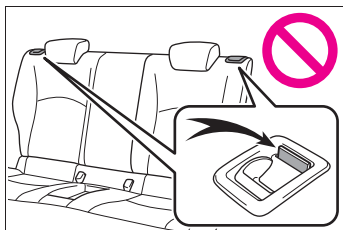
- 走行中にリヤシートを操作しない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをオートマチック車ではP、マニュアル車ではNにする
- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

⚠ 警告

■ 背もたれをもとにもどしたあとは

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する

シートが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



ヘッドレスト

⚠ 警告

■ ヘッドレストについて

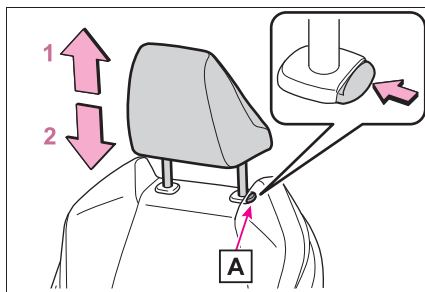
次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

上下調整するには

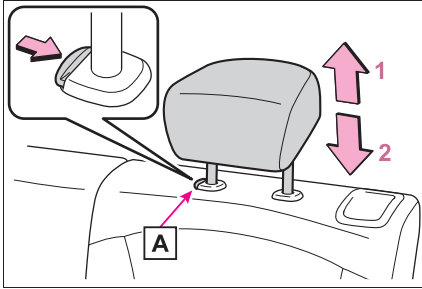
■ フロント席



- 1 上げる
- 2 下げる

下げるときは、解除ボタン[A]を押しながら操作します。

■ リヤ席



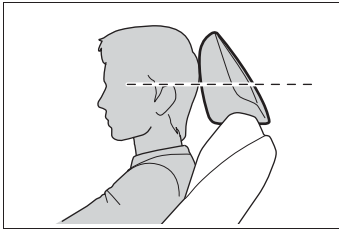
- 1 上げる
- 2 下げる

下げるときは、解除ボタン**A**を押しながら操作します。

□ 知識

■ フロント席のヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■ リヤ席のヘッドレストについて

使用するときには、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

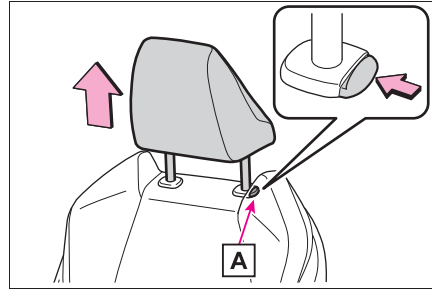
ヘッドレストを取りはずすには

■ フロント席

解除ボタン**A**を押しながらヘッドレストを引き上げます。

ヘッドレストが天井にあたって取りはず

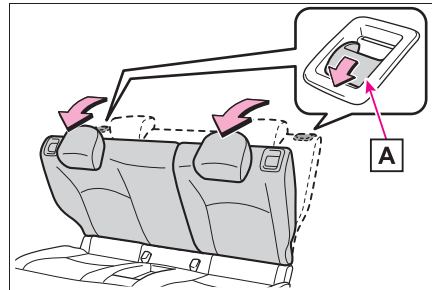
しにくいときは、シートの高さや角度を調整してください。(→P.89)



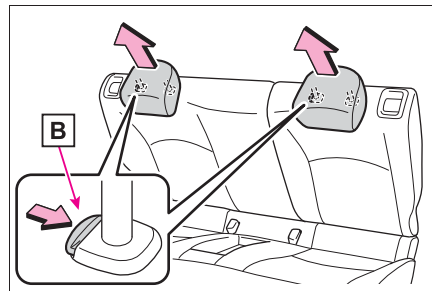
■ リヤ席

- 1 ヘッドレストをいちばん下まで下げる (→P.93)
- 2 ロック解除レバー**A**を引きながら、背もたれを前方に倒す

ヘッドレストをはずすことができる位置まで前に倒してください。



- 3 解除ボタン**B**を押しながら、ヘッドレストを引き上げます。

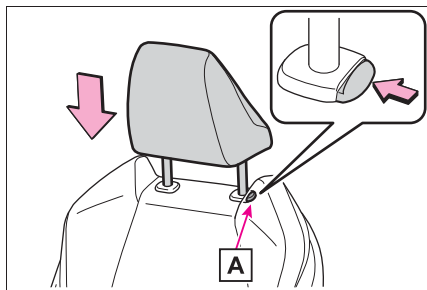


ヘッドレストを取り付けるには

■ フロント席

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

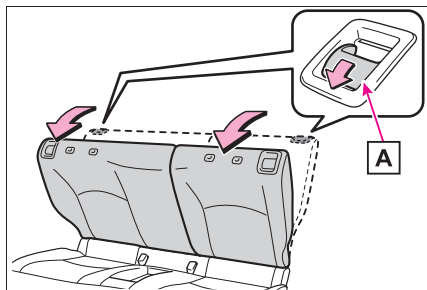
さらに下げるときは、解除ボタン **A** を押しながらか操作してください。



■ リヤ席

1 ロック解除レバー **A** を引きながら、背もたれを前に倒す

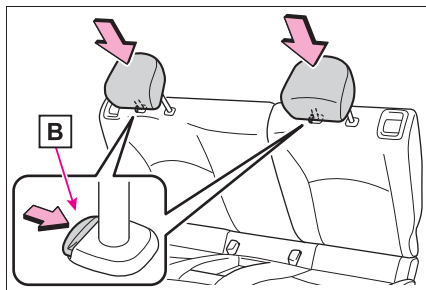
ヘッドレストを取り付けることができる位置まで前に倒してください。



2 ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、いちばん下まで押し下げてください。

ヘッドレストを挿入するときは、解除ボ

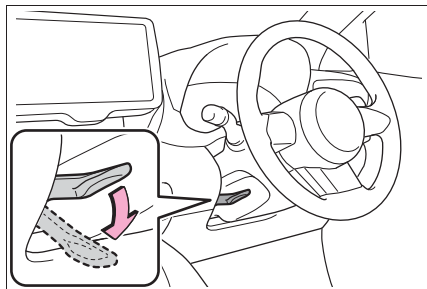
タン **B** を押しながらか挿入してください。



ハンドル

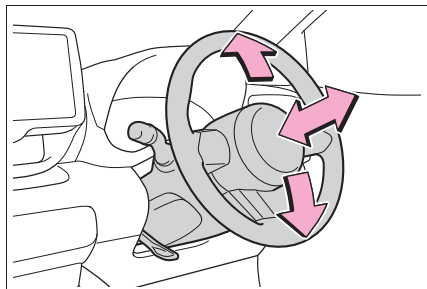
調整のしかた

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



- 2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



警告

■ 走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

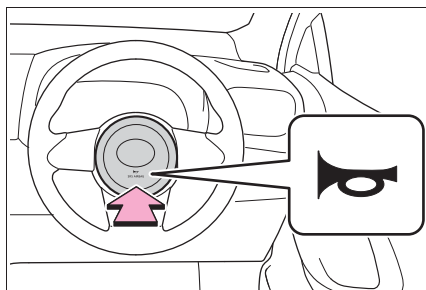
■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



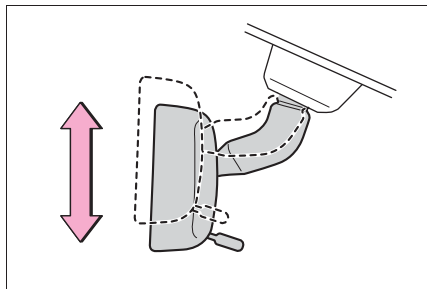
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



警告

■ 走行中の留意事項

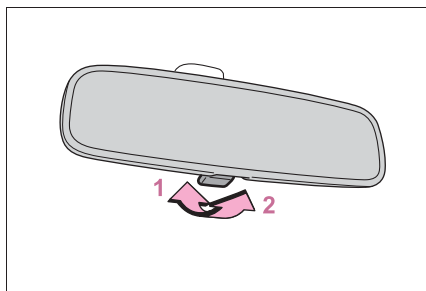
走行中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

防眩機能

▶ 手動防眩タイプ装着車

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。



1 通常使用時

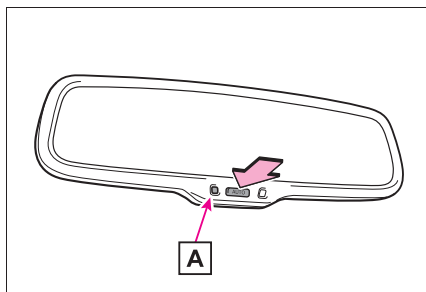
2 防眩時

▶ 自動防眩タイプ装着車

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の切りかえ ON/OFF

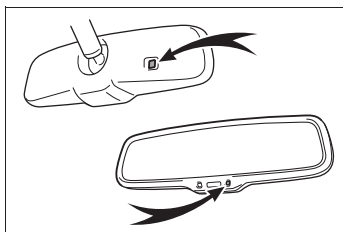
ON のときはインジケーター **A** が点灯します。エンジンスイッチを ON にしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。ボタンを押すと OFF になりインジケーター **A** が消灯します。



知識

■ センサーの誤作動防止（自動防眩タイプ装着車）

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようにミラーの角度を調整してください。

⚠ 警告

■ 走行中の留意事項

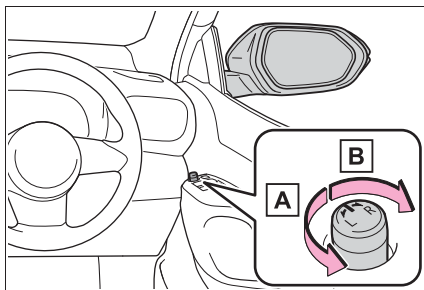
走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

調整するには

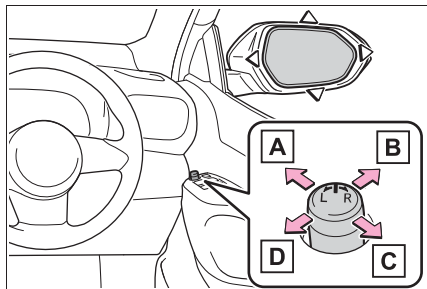
- 1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす



A 左

B 右

2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する



- A** 上
- B** 右
- C** 下
- D** 左

📖 知識

■ 鏡面調整の作動条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

■ ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

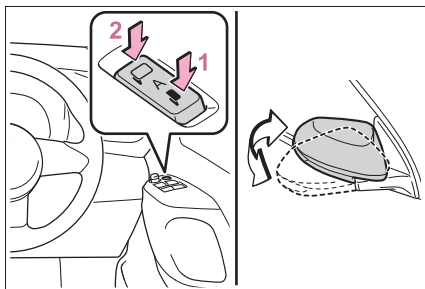
リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→P.232）

⚠️ 警告

■ ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

ドアミラーを格納・復帰するには



- 1** ミラーを格納する
 - 2** ミラーをもとの位置にもどす
- スイッチを中立の位置 “A” にするとオート作動に切りかわり、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠と連動して作動します。

📖 知識

■ 寒冷時にオート作動で使用するとき

寒冷時にオート作動で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、格納スイッチを押すか、手で動かしてください。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.351）

⚠️ 警告

■ ミラーが動いているとき

手をふれないでください。

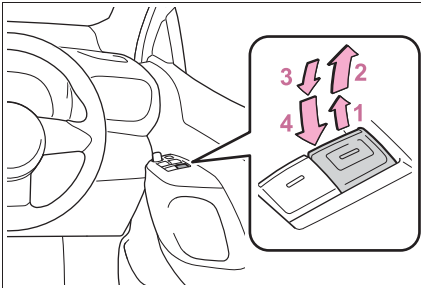
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

パワーウィンドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。



- 1 閉める
- 2 自動全閉※
- 3 開ける
- 4 自動全開※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ エンジン停止後の作動

エンジンスイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ 巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ ドアガラスを開閉することができないときは

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、全てのドアを閉め、エンジンスイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを自動全閉の位置で引き続ける。または、自動全開の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- 1 全てのドアを閉め、エンジンスイッチを ON にする
- 2 パワーウィンドウスイッチを自動全閉の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
- 3 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを自動全閉の位置で約 6 秒以上引き続ける
- 4 パワーウィンドウスイッチを自動全開の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける
- 5 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを自動全開の位置で約 4 秒以上押し続ける
- 6 再度、パワーウィンドウスイッチを自動全閉の位置で引き続け、ドアガラス

を閉めたあと、さらにスイッチを約1秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ドアロック連動ドアガラス開閉機能

- キーまたはメカニカルキーでドアガラスを開閉できます。* (→P.78, 330)
- ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。* (→P.76)
- オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。(→P.50)

* トヨタ販売店ででの設定変更が必要です。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.351)

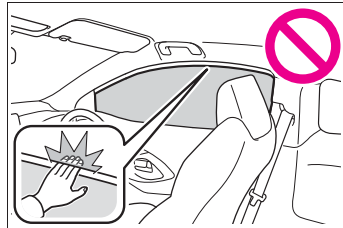
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。また、お子さまが同乗するときはウィンドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→P.101)

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- ワイヤレスリモコン、キーまたはメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコン、キーまたはメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車から離れるときはエンジンスイッチをOFFにし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能
- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

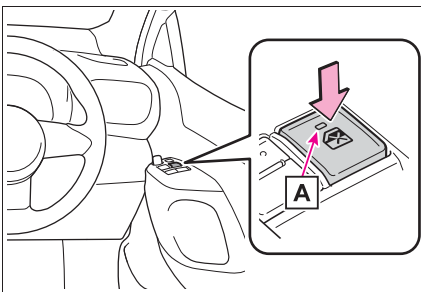
警告**■巻き込み防止機能**

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まないように注意してください。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケータ **A** が点灯し、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

**知識****■作動条件**

エンジンスイッチが ON のとき

■バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	104
荷物を積むときの注意	112

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）	114
エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）	115
オートマチックトランスミッション	120
マニュアルトランスミッション	124
方向指示レバー	127
パーキングブレーキ	128
電動パーキングブレーキ	129
ブレーキホールド	132

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ	134
オートマチックハイビーム	138
フォグランプスイッチ	141
ワイパー&ウォッシャー	141

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	144
---------------	-----

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense	147
PCS（プリクラッシュセーフティ）	152
LTA（レーントレーシングアシスト）	162
RSA（ロードサインアシスト）	171
レーダークルーズコントロール	174
先行車発進告知機能	183
Stop & Start システム	185
BSM（ブラインドスポットモニター）	190
クリアランスソナー	195
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	201
PKSB（パーキングサポートブレーキ）	206
パーキングサポートブレーキ（静止物）	211
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）	214
ドライブモードセレクトスイッチ	216
AWD モードセレクトスイッチ	217
インタークーラースプレー	218
運転を補助する装置	219

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	226
--------------	-----

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

安全に走行するには

■ エンジンをかける

→P.114, 115

■ 発進する

▶ オートマチック車

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする
(→P.120)
- 2 パーキングブレーキを解除する
(→P.129)

パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーを P 以外にしたときに、自動でパーキングブレーキが解除されます。(→P.129)

- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

▶ マニュアル車

- 1 クラッチペダルを踏んだまま、シフトレバーを 1 速にする
(→P.124)
- 2 パーキングブレーキを解除する
(→P.128)
- 3 クラッチペダルから徐々に足を離し、同時にアクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

▶ オートマチック車

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P にします。(→P.120)

▶ マニュアル車

- 1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを N にします。(→P.124)

■ 駐車する

▶ オートマチック車

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかけて
(→P.129)、シフトレバーを P にする (→P.120)

パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

- 3 エンジンスイッチを OFF にしてエンジンを停止する
- 4 ブレーキペダルからゆっくり足を離す
- 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め^{*}を使用してください。

▶ マニュアル車

- 1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかける
(→P.128)

パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

- 3 シフトレバーを N にする
(→P.124)

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じてシフトレバーを 1 速または R にし、輪止め^{*}を使用してください。

- 4 エンジンスイッチを OFF にしてエンジンを停止する
- 5 ブレーキペダルからゆっくり足を離す
- 6 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

^{*} 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

▶ オートマチック車

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする
- 2 パーキングブレーキスイッチを引いて、手動でパーキングブレーキをかける (→P.129)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏む
- 4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキスイッチを押し、パーキングブレーキを手動で解除し発進する (→P.129)

パーキングブレーキがオートモードのときは、アクセルペダルを踏むことにより自動でパーキングブレーキが解除されません。(→P.129)

▶ マニュアル車

- 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを 1 速にする
- 2 アクセルペダルを軽く踏み、同時にクラッチペダルから徐々に足を離す。

- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

急発進および後退速度の抑制 (ドライブスタートコントロール [オートマチック車])

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、エンジン出力を抑制することがあります。

- ・ R に切りかえたとき^{*}
- ・ P または R から、D などの前進シフトポジションに切りかえたとき^{*}

この場合、マルチインフォメーションディスプレイとヘッドアップディスプレイ[★]にメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

^{*} 状況によっては操作できない場合があります。

[★] : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようにエンジンの出力を抑制^{*}します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに“速度抑制中”が表示されます。

^{*} 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

□ 知識

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 走行中のエンジン回転数について（オートマチック車）

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなる場合があります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うため、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離れたとき
- パワーモード選択時に、ブレーキペダルを踏んだとき

■ エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイとヘッドアップディスプレイ★にメッセージが表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドライブスタートコントロールについて（オートマチック車）

- TRCの作動を停止（→P.220）すると、急発進の抑制制御も停止※します。急発進の抑制制御が作動してぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRCの作動を停止してください。
- タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。
- 後退速度の抑制制御のON（作動）／OFF（非作動）を切りかえることができます。（→P.351）
 - ・ エンジンスイッチをONにしたときは、後退速度の抑制制御は常にON（作動）になっています。
 - ・ 後退速度の抑制制御をOFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

※ 後退速度の抑制制御は作動します。

■ 高摩擦ブレーキパッド装着車について

- 車速、制動力や車両を取り巻く環境（気温、湿度など）によってはブレーキノイズが発生することがあります。
- ブレーキダストが出やすく、ブレーキパッドの寿命が短い場合があります。
- ブレーキパッドの貼り付きがすることがあります。
- 低温、雪、水などの影響でブレーキの効きが低下することがあります。

■ パーキングブレーキについて（マニュアル車）

ドラムインタイプのパーキングブレーキシステムは、定期的またはブレーキシューやブレーキドラムを交換したとき、ブレーキシューのすり合わせが必要です。トヨタ販売店でブレーキシューのすり合わせをしてください。

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

■ オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

- 暑い日に長い上り坂を走行する
- 高速走行直後に急減速や急停止をする

■ エンジン停止前のアイドル運転について（マニュアル車）

ターボ装置などの損傷を防ぐため、高負荷走行直後は、アイドル運転を行ってからエンジンを停止してください。

走行状況	アイドル運転時間
市街地、郊外などの一般走行および高速走行（高速道路の法定または制限速度）	不要
山岳ドライブウェイなどの急な登坂路走行およびサーキットなどの連続走行	約1分

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき（オートマチック車）

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリーブ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■ 運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

- ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるように注意してください。
- ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。

排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路わきに停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.298を参照してください。

- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードをおとしてください。フットブレーキを連続して使わずにすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能なくなります。
(→P.120, 124)

▲ 警告

- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- AWD 車：オフロード走行をしないでください。
本格的なオフロード走行を目的とした AWD 車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトレバーを操作するとき

- オートマチック車では、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- オートマチック車では、車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーを N にすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- オートマチック車では、アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要ときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するとき

- 空ぶかしをしないでください。
シフトレバーがP（オートマチック車）またはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - オートマチック車では、車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
 - 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
 - 停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。
- ### ■ 駐車するとき
- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火したりする
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートしたりする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしたりすると、荷物を押し込んだりシートを動かしたりしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
 - ウィンドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
 - シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウィンドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
 - 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをP（オートマチック車）に入れ、エンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーをPにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。やけどをすおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付かないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

- ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があります。制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 万一脱輪したとき (AWD 車)

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ 運転しているとき (オートマチック車)

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 運転しているとき (マニュアル車)

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- クラッチペダルを確実に踏み込んでいない状態で、シフトレバーを操作しないでください。クラッチやトランスミッションが損傷するおそれがあります。

注意

- クラッチの摩耗・損傷を防ぐため、次のことをお守りください。
クラッチが摩耗・損傷すると、アクセルを踏んでも車両が加速しにくくなったり、最悪の場合車両が発進できなくなったりします。その場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。
- ・ シフト操作時以外は、クラッチペダルから足を離して運転する
- ・ 1 速以外での発進は避ける
- ・ クラッチペダルで車速を調整しない
- ・ シフトレバーを N 以外に入れたまま停止するときは、クラッチペダルを踏み込んでブレーキを使用する
- 車両が完全に停止してから R に入れてください。
クラッチ・トランスミッション・ギアに損傷を受けるおそれがあります。

■ 駐車するとき（オートマチック車）

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進したりするおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにもわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ ターボ装置の故障を防ぐために（マニュアル車）

- 高負荷走行直後は、エンジンを停止しないでください。必ずアイドル運転を行い、ターボ装置などを冷却してからエンジンを停止してください。（→P.107）
- 排気管・エアクリーナ・スパークプラグなどには純正部品または同等品をお使いください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P.316 を参照してください。

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んだエンジンの破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときや、泥や砂に埋もれてしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスミッション・クラッチ（マニュアル車）・トランスファー（AWD 車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化

 注意

- プロペラシャフト (AWD 車) ・各ベアリング ・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

 警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、クラッチペダル (マニュアル車) ・ブレーキペダル ・アクセルペダルを正しく操作できなかつたり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席 (荷物を積み重ねる場合)
 - ・ パッケージトレイ
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

 **警告**

● 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

● ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

● 荷物を積み過ぎないでください。

● 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤや駆動系部品に負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ カーボン調ルーフフィルムについて**
★

フィルム貼付け部にルーフキャリアを取り付けしないでください。フィルムが破損するおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エンジン（イグニッション）スイッチ （スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

エンジンをかけるには

- 1 正しい運転姿勢（→P.23）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する
- 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 3 シフトレバーが N の位置にあることを確認する
- 4 クラッチペダルとブレーキペダルをしっかり踏む
- 5 エンジンスイッチを START にまわす

知識

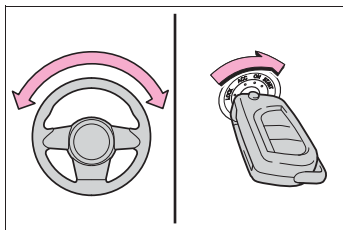
■ エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.49）

トヨタ販売店へご連絡ください。

■ ステアリングロックを解除するには

ハンドルを左右に動かしながら、エンジンスイッチをまわしてください。



警告

■ エンジンを開始するとき

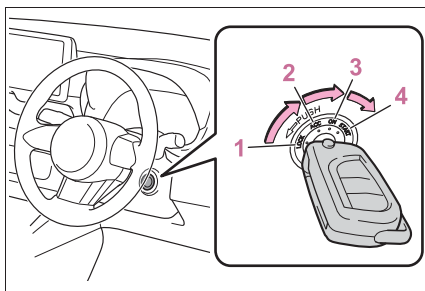
必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ エンジンを開始するとき

- 一度に30秒以上スターターをまわさないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。

エンジンスイッチの位置の切りかえ



1 OFF（“LOCK”の位置）

ステアリングロックがかかります。

2 ACC（“ACC”の位置）

アクセサリソケットなどの電装品が使用できます。

3 ON（“ON”の位置）

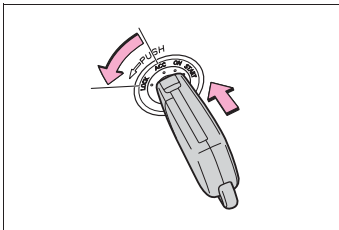
すべての電装品が使用できます。

4 START (“START” の位置)
エンジンが始動できます。

知識

■キーを ACC から OFF にまわすには

- 1 シフトレバーが N の位置にあることを確認する
- 2 キーを押し込みながら OFF までまわす



■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジンスイッチが ACC または OFF のとき、運転席ドアを開けると警告ブザーが鳴ります。

警告

■走行中の警告

走行中はエンジンスイッチを OFF にしないでください。

緊急時、走行中にエンジンを停止したい場合には ACC にしてください。ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンが停止すると思われぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）


電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンをかけるには

- 1 正しい運転姿勢（→P.23）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する
- 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

電動パーキングブレーキ装着車：メーター内の電動パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

- 3 シフトレバーが P（オートマチック車）もしくは N（マニュアル車）の位置にあることを確認する
- 4 ブレーキペダル（オートマチック車）もしくはクラッチペダルとブレーキペダル（マニュアル車）をしっかりと踏む

マルチインフォメーションディスプレイにとメッセージが表示されます。

表示されないと、エンジンは始動しません。

- 5 エンジンスイッチを短く確実に押す

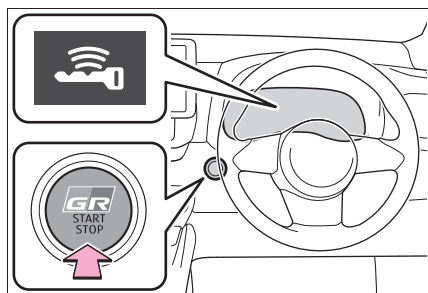
短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

オートマチック車：完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

マニュアル車：完全にエンジンが始動するまでクラッチペダルとブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。



知識

■ エンジンスイッチ照明

次のとき、エンジンスイッチ照明が点灯します。

- 運転席ドアまたは助手席ドアが開いているとき
- エンジンスイッチが ACC または ON のとき
- エンジンスイッチを ACC または ON から OFF にしたとき

また、次のときはエンジンスイッチ照明が点滅します。

- 電子キーを携帯したままブレーキペダル（オートマチック車）もしくはクラッチペダル（マニュアル車）を踏んだとき

■ エンジンが始動しないとき

- エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.49）トヨタ販売店へご連絡ください。
- 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

■ バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステムでエンジンを始動することができません。エンジンを始動するには、P.331 を参照してください。

■ 電子キーの電池の消耗について

→P.74

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

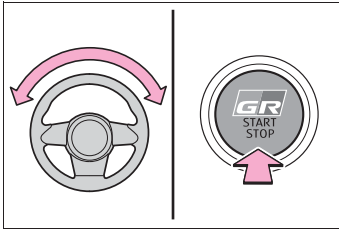
→P.86

■ ご留意いただきたいこと

→P.86

■ ステアリングロック機能

- エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。
- ステアリングロックが解除できないときは、マルチインフォメーションディスプレイに“ハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチを押し続けてください”が表示されます。シフトレバーが P（オートマチック車）もしくは N（マニュアル車）にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながらエンジンスイッチを短く確実に押し続けてください。



- 短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10秒程度でもとの状態にもどります。

■ 電子キーの電池交換

→P.287

■ エンジンスイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切り替えやエンジンの始動ができない場合があります。
- エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■ カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー & スタートシステムを非作動にしたときは、P.329 を参照してください。

▲ 警告

■ エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

▲ 注意

■ エンジンを始動するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

■ エンジンを停止するには

▶ オートマチック車

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかけて (→P.129)、シフトレバーを P の位置にする

メーター内の電動パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

3 エンジンスイッチを押す

エンジンが停止し、メーター表示が消えます。

- 4 ブレーキペダルから足を離してマルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリ”

や“イグニッション ON”の表示が消灯していることを確認する

▶ マニュアル車

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかける
(→P.128)

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

- 3 シフトレバーを N にする
(→P.124)

4 エンジンスイッチを押す

エンジンが停止し、メーター表示が消えます。

- 5 ブレーキペダルから足を離してマルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリー”や“イグニッション ON”の表示が消灯していることを確認する

▲ 警告

■ 緊急時のエンジン停止方法

- 走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押ししてください。(→P.298)ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になるおそれがあります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

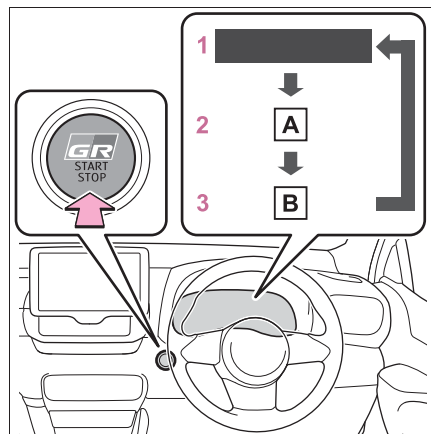
- 走行中にエンジンスイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。

- オートマチック車：走行中にエンジンを緊急停止したあと、走行中にエンジンを再始動させる場合は、シフトレバーを N にし、エンジンスイッチを押してください。

- マニュアル車：走行中にエンジンを緊急停止したあと、走行中にエンジンを再始動させる場合は、クラッチペダルを踏み、エンジンスイッチを押してください。

エンジンスイッチを切りかえるには

ブレーキペダル（オートマチック車）もしくはクラッチペダル（マニュアル車）を踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）



A アクセサリー

B イグニッション ON**1** OFF※

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC

オーディオなどの電装品が使用できます。
マルチインフォメーションディスプレイに“アクセサリ”が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。
マルチインフォメーションディスプレイに“イグニッション ON”が表示されます。

※ オートマチック車：シフトレバーがP以外のときはONのままになり、OFFになりません。

 知識**■ 自動電源 OFF 機能**

オートマチック車：シフトレバーがPにあるとき、20分以上ACCかON（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動でOFFになります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをACC、またはONにしたまま長時間放置しないでください。

マニュアル車：20分以上ACCかON（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動でOFFになります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをACC、またはONにしたまま長時間放置しないでください。

 注意**■ バッテリーあがりを防止するために**

- エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをACCまたはONにしたまま長時間放置しないでください。
- エンジンがかかっていないときに、マルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリ”または“イグニッション ON”の表示が消灯していない場合、エンジンスイッチがOFFになっていません。エンジンスイッチをOFFにしてから車両を離れてください。

シフトレバーがP以外でエンジンを停止したとき（オートマチック車）

シフトレバーがP以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードはOFFにはなりません。次の手順でOFFにしてください。

- 1** パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2** シフトレバーをPの位置にする
- 3** マルチインフォメーションディスプレイに“イグニッション ON”が表示されていることを確認し、エンジンスイッチを短く確実に押す
- 4** マルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリ”または“イグニッション ON”の表示が消灯していることを確認する

 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチが ON のままとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

オートマチックトランス ミッション★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
M	10 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行 (→P.123)

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

 知識

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ レーダークルーズコントロール★を使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に走行モードをパワーモードにしても、レーダークルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。(→P.216)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- マルチインフォメーションディスプレイに「トランスミッションオイル 高温 安全な場所に停止してください」と表示されたときは

シフトレバーをDに入れ、アクセルペダルから足を離し、減速してください。車を安全な場所に停めてから、シフトレバーをPに入れ、警告メッセージが消えるまでエンジンをかけたままにしてください。警告メッセージが消えれば、再度走行できます。警告メッセージが消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。

- 急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→P.106

- G AI-SHIFT について

G AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的にスポーツ走行に適切な変速比を選択します。

G AI-SHIFT は、シフトレバーをDポジションでパワーモードにしているとき自動的に作動します（シフトレバーをDポジション以外またはパワーモード以外のときは機能が解除されます）。

- バッテリーを脱着したとき

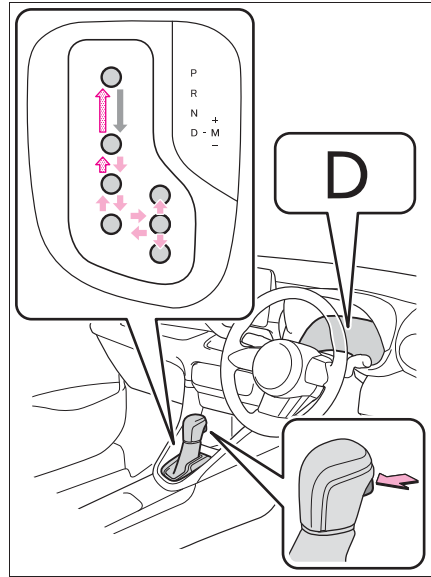
→P.334

⚠ 警告

- すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

シフトレバーの動かし方



←：エンジンスイッチがONの状態、ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押しながら操作します。*

←：シフトレバーのボタンを押しながら操作します。

←：シフトレバーのボタンを押さずそのまま操作します。

PとDのあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

* シフトレバーのボタンを押す前にブレーキペダルを踏んでください。シフトレバーのボタンを初めに押してもシフトロックは解除されません。

知識

■ シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

エンジンスイッチが ON でブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■ シフトレバーを P からシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

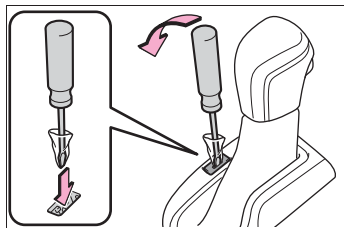
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

- 1 パーキングブレーキをかける
- 2 エンジンスイッチを OFF にする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

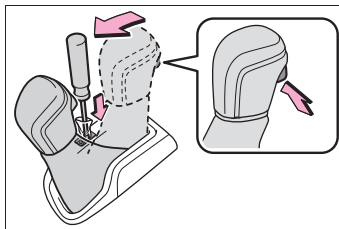
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 5 シフトロック解除ボタンを押しながらシフトレバーのボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーを

シフトできます。



警告

■ シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

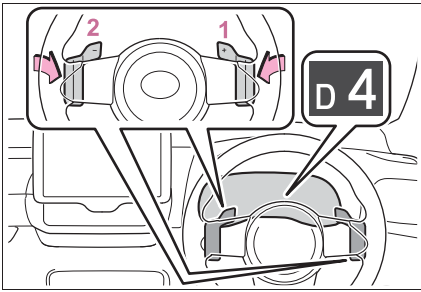
走行モードの選択

→P.216

D ポジションでレンジ選択するには

シフトレバーを D ポジションで走行中、パドルシフトスイッチを操作することにより任意の変速段を選択することができます。

変速段を選択することで、使用する変速段の上限を制限し、不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切りかえたりすることができます。



- 1 シフトアップ
- 2 シフトダウン

D1 から D10 レンジのあいだで選択されている変速段がメーターに表示されます。

通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの“+”側を一定時間以上保持します。

知識

■シフトレンジ機能

- エンジンブレーキ力は、10段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

■Dポジションでのレンジ選択の自動解除

次のとき、自動的にDポジションでのレンジ選択が解除されます。

- 停車したとき
- アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
- シフトレバーをD以外にしたとき
- パドルシフトスイッチの“+”側を長押ししたとき

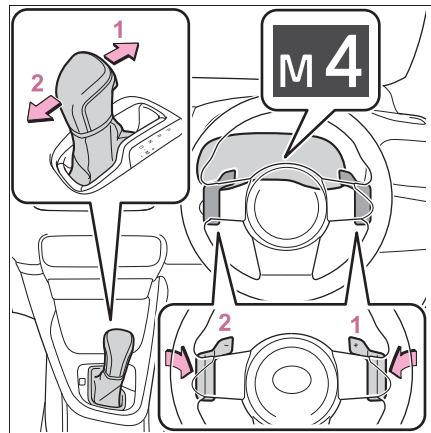
■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザー

が2回鳴ります)

10速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードでの変速段切りかえ

シフトレバーをMポジションにすると、10速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードに切りかわります。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの操作で思い通りの変速段を選択し、運転することができます。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの“-”側または“+”側の操作で変速段を選択することができます。



- 1 シフトアップ
- 2 シフトダウン

シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作することに1速ずつ変速します。

M1 から M10 の中で選択した変速段がメーターに表示されます。

Mポジションで走行しているときでも、エンジン回転数が上がりすぎそうなとき、または下がりすぎ

そうなときは、自動的に変速段が切りかわる場合があります。

知識

■ 変速段機能

- エンジンブレーキ力は、10段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

■ Mポジションで走行中に停車したときは

- 停車すると自動的にM1にシフトダウンされます。
- 停止後走行するときはM1からの発進となります。
- 停車後はM1に固定されます。

■ シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが2回鳴ります)

■ シフトレバーをMにしても、M表示灯が点灯しないときまたは点滅したときは

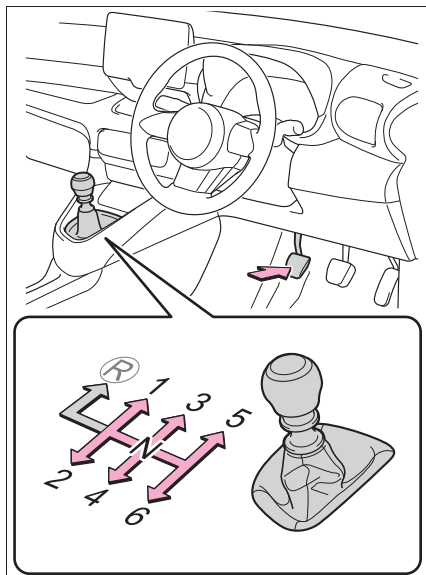
システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーをDにしているときと同じ制御になります。

マニュアルトランスミッション★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

操作のしかた

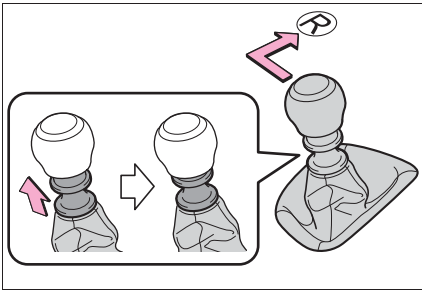
■ シフト操作のしかた



- 1 クラッチペダルをしっかりと踏む
 - 2 シフトレバーを希望のシフト位置に入れる
- シフト操作は一段ずつ行ってください。
- 3 クラッチペダルから徐々に足を離す

■ Rへのシフト操作

プルカラーを引き上げながら、Rに入れます。



知識

■各シフトの速度限界

エンジンを過回転させないために各シフト位置での速度が次に記載してある数値をこえないようにしてください。

シフト位置	最高速度 (km/h)
1	58
2	92
3	135
4	178

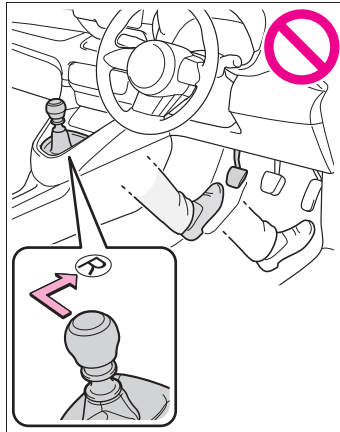
注意

■損傷を防ぐために

シフト操作時は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、エンジン、トランスミッションやクラッチを損傷させるおそれがあります。

- クラッチペダルを踏まずにシフトレバーをRに入れないでください。

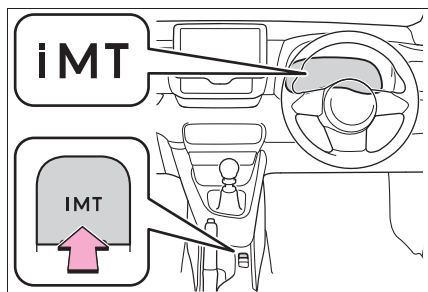


- Rへシフトするとき以外は、ブルクラウを上へ引かないでください。
- Rへシフトするときは、車が停止した状態でおこなってください。
- シフト操作時以外は、シフトレバーから手を離してください。
- エンジンを過回転させないように、シフト操作は一段ずつ行ってください。
- クラッチペダルを一気に離す操作はしないでください。

iMT (インテリジェントマニュアルトランスミッション)

iMTは、クラッチペダルとシフトレバーの操作を検知し、シフト操作時のエンジン回転数を適切に制御することで、スムーズな変速を支援します。変速ショックを軽減することで、曲がりくねった道や登降坂路などでも軽快な変速が行えます。

iMTスイッチを押す



iMT 表示灯（緑）が点灯します。解除するには再度 iMT スイッチを押します。

知識

■ iMT が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状態では、iMT が正常に作動しないおそれがありますが、故障ではありません。

- クラッチペダルをしっかりと踏み込んでいない
- クラッチペダルから足を完全に離していない
- シフトレバーがNの状態で行進中にシフト操作をした
- クラッチペダルを踏みこんでから、シフトレバーを操作するまでの間隔が長い

シフト操作後、クラッチペダルから足を完全に離さずに次のシフト操作をすると、iMT は作動しません。iMT を作動させるには、クラッチペダルから足を完全に離した後、シフト操作をしてください。

■ iMT 表示灯（黄）が点灯したとき

システムが一時的に作動しない、またはシステムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

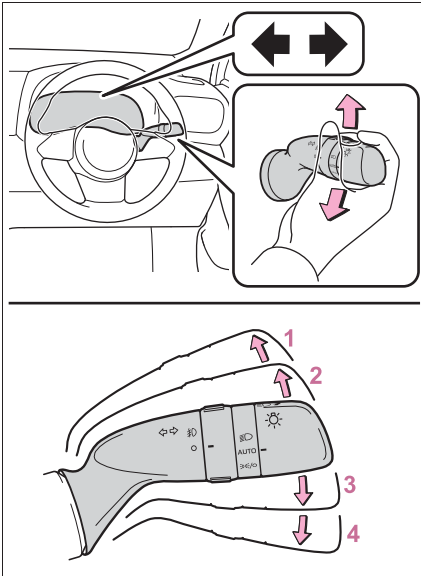
■ 安全にお使いいただくために

iMT は、シフト操作のミスやエンジンの過回転を防止するシステムではありません。状況によっては、システムが作動せず、スムーズに変速できないことがあります。システムに過度に依存すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



- 1 左折
- 2 左側へ車線変更（レバーを途中まで動かして離す）

左側方向指示灯が5回点滅します。

- 3 右側へ車線変更（レバーを途中まで動かして離す）

右側方向指示灯が5回点滅します。

- 4 右折

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがONのとき

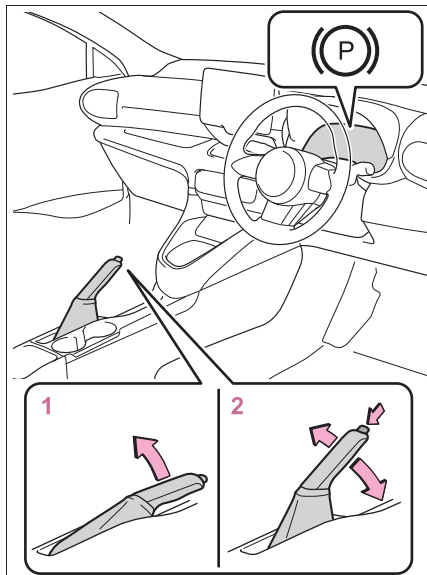
■ 表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

操作のしかた



- 1 パーキングブレーキをかけるにはブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引く
- 2 パーキングブレーキを解除するには、レバーを少し引上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどす

知識

■ 駐車するとき

→P.104

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.227

■ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに“パーキングブレーキを解除してください”と表示されます（車速が5km/hをこえたとき）

⚠ 注意

■ 駐車するとき

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをNにし、車が動かないことを確認してください。（→P.104）

■ 走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩擦したりするおそれがあります。

電動パーキングブレーキ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

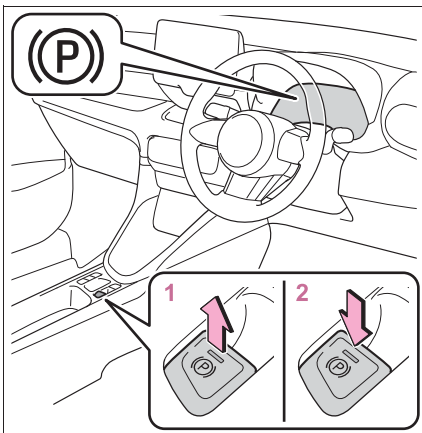
自動または手でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

オートモードのときは、パーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモードのときでも手でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

手でパーキングブレーキをかける・解除することができます。



1 スイッチを引き、パーキングブレーキをかける

作動後、電動パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引

き続けてください。

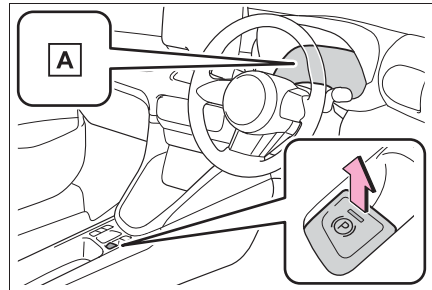
2 スイッチを押し、パーキングブレーキを解除する

- ・ブレーキペダルを踏みながら操作してください。
- ・パーキングブレーキ自動解除機能（→P.130）

解除後、電動パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが消灯します。

■ オートモードを ON にする

停車中に、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを引き続ける



A “EPB シフト連動機能 ON”

オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

- シフトレバーをPからP以外にすると、パーキングブレーキが解除され、電動パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが消灯します。
- シフトレバーをP以外からPにすると、パーキングブレーキがかかり、電動パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。

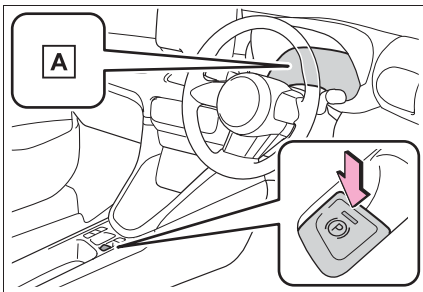
シフトレバーは、停車した状態で

ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

急なシフトレバー操作を行うと、オートモードが作動しない場合があります。その場合、手動でパーキングブレーキを操作してください。(→P.129)

■ オートモードを OFF にする

停車中にブレーキペダルを踏みながら、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージ **A** が出るまでスイッチを押し続ける



A “EPB シフト連動機能 OFF”

□ 知識

■ パーキングブレーキの作動

- エンジンスイッチが ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- エンジンスイッチが ON 以外では、オートモードによる作動 (かける・解除する) はできません。

■ パーキングブレーキ自動解除について

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき

- シフトレバーが前進もしくは後退の位置にある

- エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合は、手動で解除してください。

■ パーキングブレーキ自動作動機能について

次の条件をすべて満たしたとき、パーキングブレーキが作動します。

- ブレーキを踏んでいない
- 運転席ドアが開いている
- 運転席のシートベルトを装着していない
- シフトレバーが P もしくは N 以外の位置にある
- エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

■ マルチインフォメーションディスプレイに “EPB が連続で操作されましたしばらくお待ちください” と表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システム過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “EPB 動作が途中で停止しました” または “EPB 現在使用できません” と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作しても表示が消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音 (“ウィーン” という音)

が聞こえることがあります。異常ではありません。

■ 電動パーキングブレーキ表示灯について

- パーキングブレーキをかけたとき、エンジンスイッチのモードによって、次のように電動パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

ON：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。

ON 以外：約 15 秒間点灯します。

- パーキングブレーキをかけた状態でエンジンスイッチを OFF にしたとき、電動パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■ パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードが ON になります。

■ 駐車するとき

→P.104

■ パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに“EPB がロックされています”と表示されます(車速が 5km/h をこえたとき)

■ エンジンスイッチが OFF のとき、パーキングブレーキがかかっているか確認するとき

スイッチを引き、電動パーキングブレーキ表示灯が点灯した場合は、パーキングブレーキがかかっています。

■ ブレーキ警告灯が点灯したとき

→P.306

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.227

警告

■ 駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

注意

■ 駐車するとき

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にし、車が動かないことを確認してください。

■ システムに異常が発生したら

安全な場所に車を止め、警告メッセージを確認してください。

■ 故障などでパーキングブレーキが解除できないとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。この場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ブレーキホールド★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

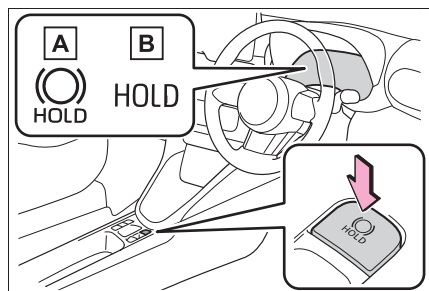
シフトレバーが D・M または N でブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーが D または M のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムを ON にする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）

A が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）**B** が点灯します。



知識

■ システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムを ON にできません。

- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない

ブレーキホールドシステムが ON のときに上記いずれかを検出したときは、システムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ ブレーキ保持について

- ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約 3 分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 急坂路ではブレーキ保持できないことがあります。その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
- ブレーキ保持中にシステムを OFF にするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかけたとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

- 運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む
- ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとと電動パーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。（→P.129）

■ トヨタ販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに” BrakeHold 故障 ” が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→P.312

注意

■ 駐車するとき

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にエンジンスイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。エンジンスイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。

警告

■ 急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

■ すべりやすい路面では

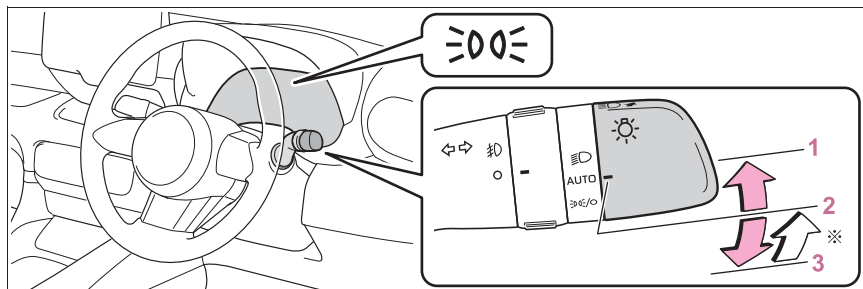
タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。


ランプスイッチ



自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた


次のように  スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを **3**  の位置へ操作し手を離すと、自動的に **2** AUTO の位置へ戻ります。



ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1 	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2 AUTO※ ¹	LED デイライト (→P.135) が点灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
3  / O※ ¹	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※ ²

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

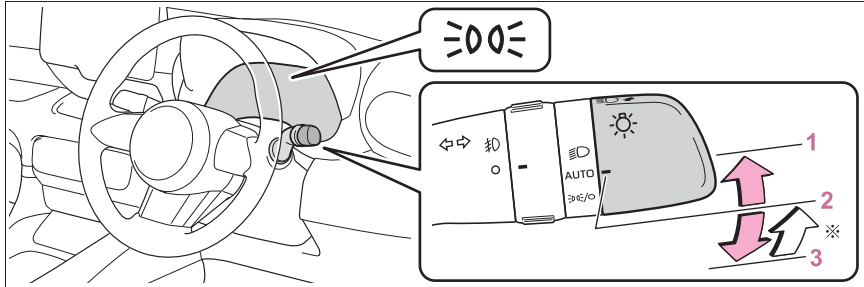
※¹ 操作するたびに、**2** AUTO による点灯状態と **3**  / O による点灯状態が切りかわります。


※² 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると **2** AUTO による点灯状態に切りかわります。



消灯のしかた

 スイッチを **3**  の位置で1秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に **1**  か **3**  の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを **3**  の位置へ操作し手を離すと、自動的に **2** AUTO の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3  / 	ヘッドランプ・スモールランプ・LED デイライト (→P.135) が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

知識

■ AUTO モードの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ LED デイライト

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、エンジン始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、LED デイライトが自動で点灯します。(車幅灯より明るく点灯します。)

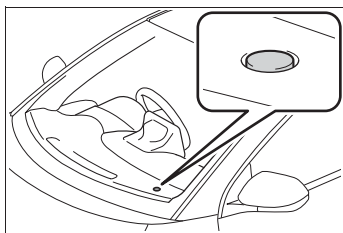
LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■ 自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。


■ ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウィンドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチを ACC または OFF にすると自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチを ON にするか、一度ランプスイッチを AUTO にしてから  または

 の位置にします。

■ ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■ ドアを解錠するとき（おむかえ照明機能）

ランプスイッチが AUTO の位置で車両周辺が暗いとき、スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠すると、車幅灯が自動で点灯します。

ランプスイッチの消灯操作をした場合は、おむかえ照明機能が作動しないことがあります。

■ ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能

日中での走行時、ランプスイッチが AUTO でワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。*

* トヨタ販売店ででの設定変更が必要です。

■ 節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチが OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後にすべてのランプが自動消灯します。エンジンスイッチを ON にすると節電機能は解除されます。次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き、約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

- ランプスイッチを操作したとき
- ドアまたはバックドアを開閉したとき

■ カスタマイズ機能

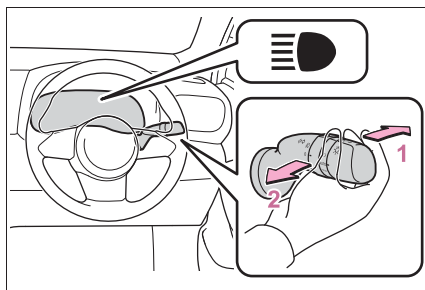
機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.351）

⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

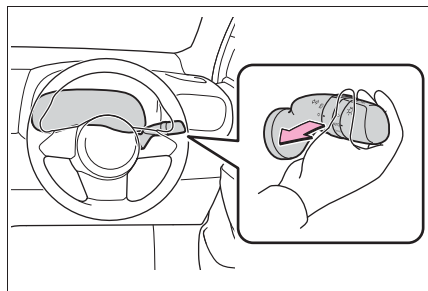
ランプが消灯していても、ハイビームが

点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

ヘッドランプ点灯延長

エンジンスイッチが OFF の状態で、ヘッドランプを 30 秒間点灯させることができます。

エンジンスイッチを OFF にしたあと、ランプスイッチが **AUTO** の位置で、レバーを手前に引いて離します。

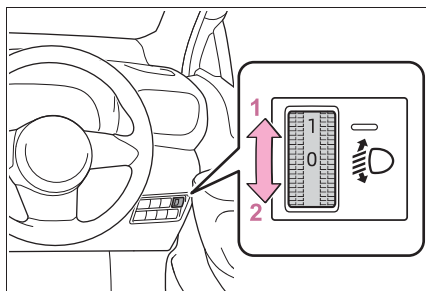


以下の操作でヘッドランプが消灯します。

- エンジンスイッチを ON にしたとき
- ランプスイッチを操作したとき
- ランプスイッチを再度手前に引いて離したとき

手動光軸調整ダイヤル

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。



- 1 上向きに調整
- 2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0.5
全乗員	なし	1.0
全乗員	ラゲージルーム満載時	1.5
運転者	ラゲージルーム満載時	2.5

オートマチックハイビーム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■安全にお使いいただくために

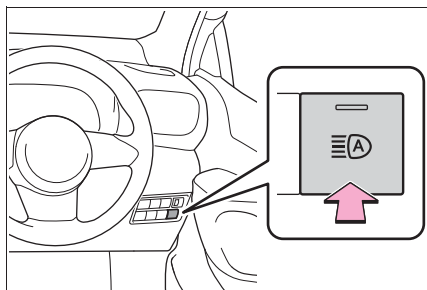
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

オートマチックハイビームを使うには

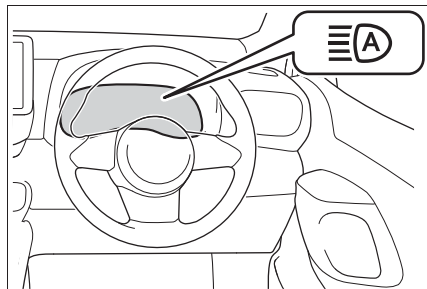
1 オートマチックハイビームスイッチを押す



2 ランプスイッチをまたはは

AUTOの位置にする

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
 - ・ 車速が約 30km/h 以上
 - ・ 車両前方が暗い
 - ・ 前方にランプを点灯した車両がない
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない
- 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
 - ・ 車速が約 25km/h 以下
 - ・ 車両前方が明るい
 - ・ 前方車両がランプを点灯している
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■前方カメラの検知について

- 次のような状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき

- ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- ・ 前方車両が無灯火のとき
- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります
 - ・ 前方車両のランプの明るさ
 - ・ 前方車両の動きや向き
 - ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 前方車両が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
 - ・ 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
 - ・ フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
 - ・ フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
 - ・ 前方カメラが変形しているときや、汚れているとき
 - ・ 前方カメラが極端に高温になっているとき
 - ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た

光があるとき

- ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- ・ 先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- ・ 急激な明るさの変化が連続するとき
- ・ 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- ・ カーブが多い道路を走行しているとき
- ・ 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- ・ コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
- ・ 自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
- ・ パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ・ ハイビームとロービームをひんばんに切りかえているとき
- ・ ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

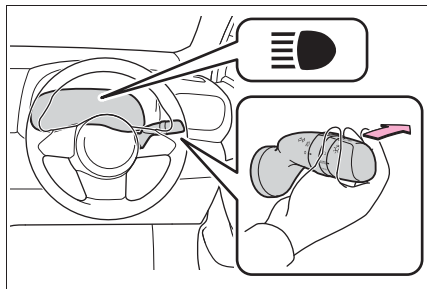
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

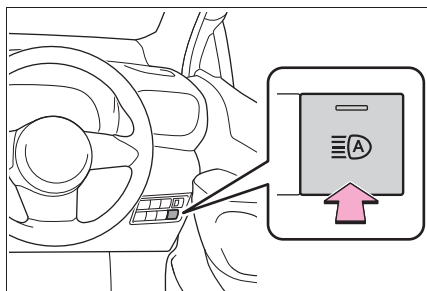


■ ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

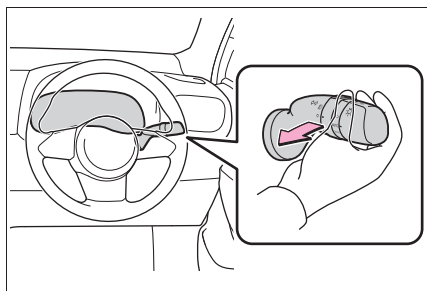
オートマチックハイビームにもどすには、再度オートマチックハイビームスイッチを押します。



■ 一時的なロービームへの切りかえ

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



知識

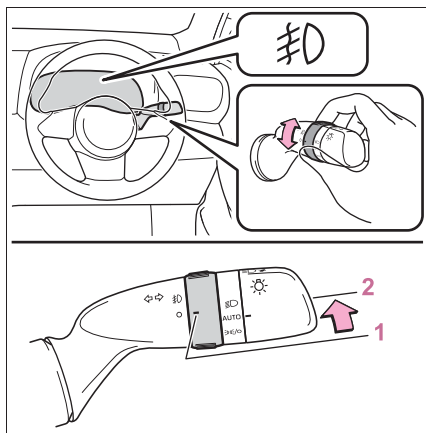
■ 一時的なロービームへの切りかえについて

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

フォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

操作のしかた



1 ○ 消灯する

2 霧 点灯する

知識

■点灯条件

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

ワイパー&ウォッシャー

レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。


⚠ 注意

■フロントウインドウガラスが乾いているとき

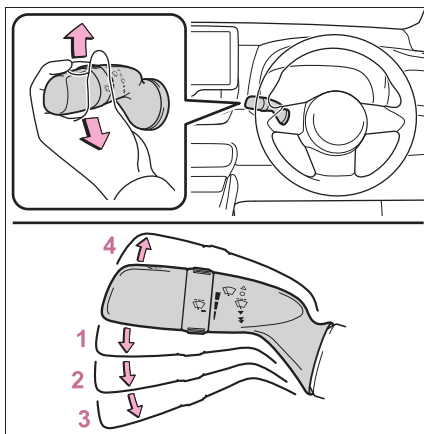
ワイパーを使わないでください。

ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

▶ 間欠時間調整式ワイパー



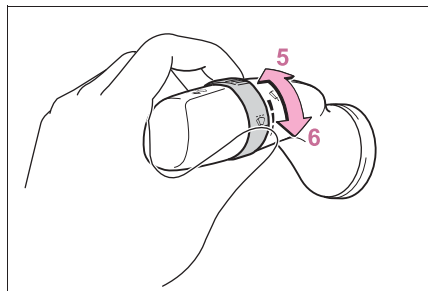
1  間欠作動 (INT)

2 ▼ 低速作動 (LO)

3 ▼▼ 高速作動 (HI)

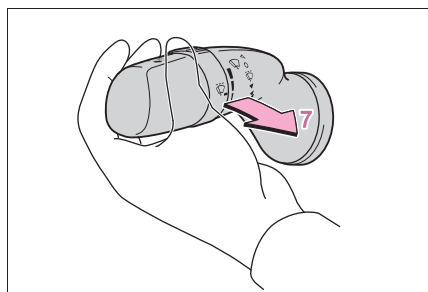
4 ▲ 一時作動 (MIST)


間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。



5 間欠ワイパーの作動頻度 (増)

6 間欠ワイパーの作動頻度 (減)

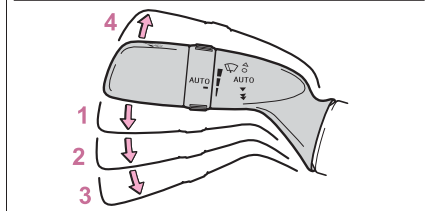
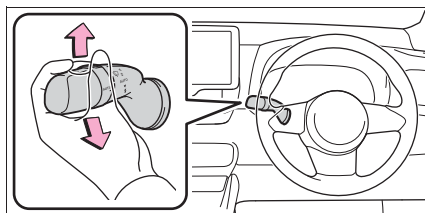


7  ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

▶ 雨滴感知式ワイパー

AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。



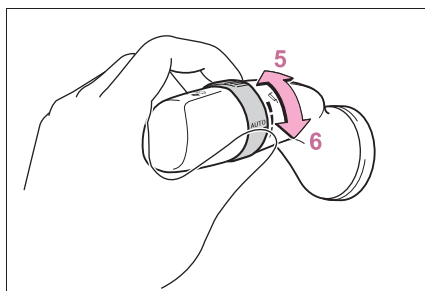
1 AUTO モード (AUTO)

2 ▼ 低速作動 (LO)

3 ▼▼ 高速作動 (HI)

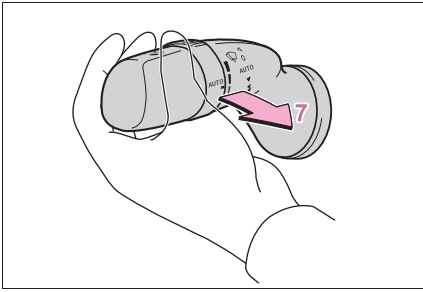
4 ▲ 一時作動 (MIST)

AUTO が選択されているときは、次のようにつまみをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。



5 雨滴センサーの感度調整 (高)

6 雨滴センサーの感度調整 (低)



7 ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

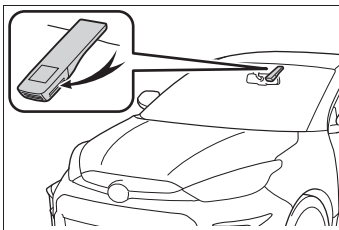
■ 車速による作動への影響

車速によってワイパー作動の間欠時間への影響があります。

■ 雨滴感知センサー（雨滴感知式ワイパー装着車）

- 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



- エンジンスイッチが ON のときにワイパースイッチを AUTO にすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。
- 雨滴感知センサーの温度が 85℃以上

または -15℃以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■ AUTO モード時のワイパー作動について（雨滴感知式ワイパー装着車）

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。

ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。

ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチをOFFにしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■ 燃料の種類について

- ▶ M15A-FKS エンジン
 - ・ 無鉛レギュラーガソリン
 - ・ バイオ混合ガソリン（レギュラー）
- ▶ G16E-GTS エンジン
 - ・ 無鉛プレミアムガソリン
 - ・ バイオ混合ガソリン（プレミアム）

■ バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

警告

■ 給油するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップはつまみ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめるときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠ 注意

■ 給油するとき (M15A-FKS エンジン搭載車)

指定のガソリンを使用してください。指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

※ エタノール混合率 10%をこえるもの、または ETBE 混合率 22%をこえるもの

■ 給油するとき (G16E-GTS エンジン搭載車)

指定のガソリンを使用してください。指定以外のガソリン（無鉛レギュラーガソリン）や他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する

- 塗装が損傷する

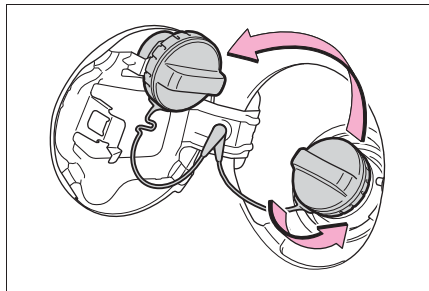
※ エタノール混合率 10%をこえるもの、または ETBE 混合率 22%をこえるもの

給油口を開けるには

- 1 オープナーを上げて、給油扉を開ける



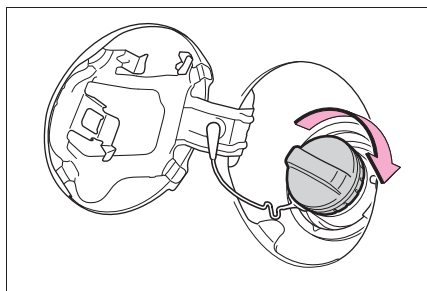
- 2 キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける



給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

**⚠ 警告****■ キャップが正常に閉まらないとき**

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま
使用したり、純正品以外のキャップを
使用すると、火災などを引き起こし、
重大な傷害におよぶか、最悪の場合死
亡につながるおそれがあります。

★ Toyota Safety Sense

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

- PCS (プリクラッシュセーフティ)
→P.152
- LTA (レーントレーシングアシスト)
→P.162
- オートマチックハイビーム
→P.138
- RSA (ロードサインアシスト)
→P.171
- レーダークルーズコントロール
→P.174
- 先行車発進告知機能
→P.183

⚠ 警告

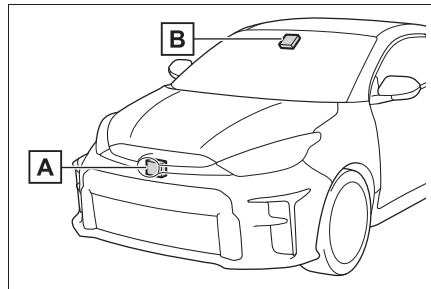
■ Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。



A レーダー

B 前方カメラ

⚠ 警告

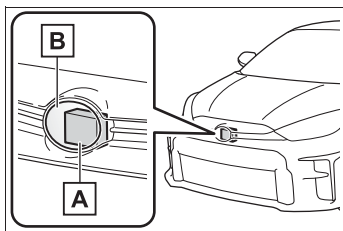
- レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

- レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく



A レーダー

B レーダー専用カバー

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

- レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

● レーダー周辺への強い衝撃を避ける
レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

- レーダーを分解しない
- レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない
- 次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

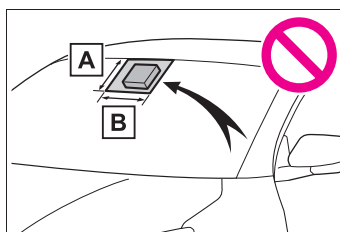
- ・ レーダー・フロントグリルを脱着や交換したとき
- ・ フロントバンパーを交換したとき

■ 前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく
 - ・ フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
 - ・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用しても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
 - ・ フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A フロントウインドウガラス上端から
前方カメラ下端より下約 1cm まで

B 約 20cm（前方カメラ中心から左
右約 10cm）

警告

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.232）
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する

フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない
- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない

フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。

レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない

- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリを取り付けない

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない



知識

■レーダーの取り扱い

本製品は、電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明などを受けております。本製品の改造は禁止されています。(適合証明番号などが無効となります)



R 202-LSG051

■マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

●次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方カメラ周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	ワイパーやエアコンの機能などを使って、汚れや付着物を取り除く (フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.232)
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外の時	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする
“プリクラッシュセーフティレーダー向き調整中取扱書確認ください”が表示されたとき	レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除く

- 次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。

周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

- ・ 炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外するとき
- ・ 暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき
- ・ 車両周辺の状況によってはレーダーが正しく周囲の環境を認識できないとき
その場合には “プリクラッシュセーフティ現在使用できません取扱書確認ください” が表示されます。

PCS（プリクラッシュセーフティ）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

進路上の作動対象（→P.152）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティのON/OFFや、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.155）

システムの作動対象

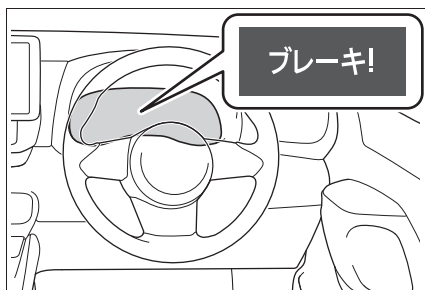
システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

■ 低速時加速抑制（オートマチック車）

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとき、システムが判断したとき、エンジン出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告灯とメッセージを表示します。



■ 緊急時操舵支援

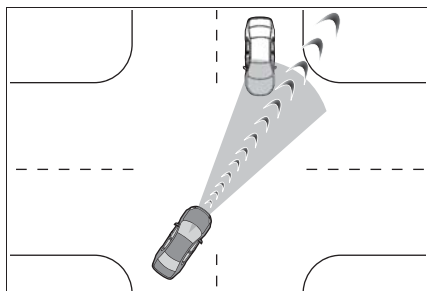
歩行者と衝突する可能性が高く自車線内に回避するための十分なスペースがあるとシステムが判断した場合、運転者の回避操舵があったとき、操舵支援を行い、車両安定性確保と車線逸脱抑制に寄与します。

■ 交差点右左折支援

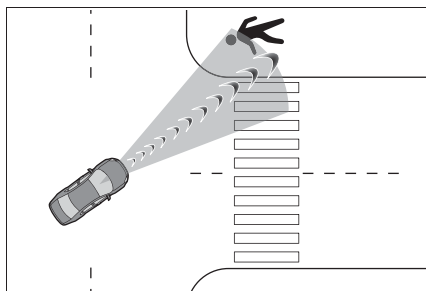
次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

- 交差点で右折して対向車の進路を横切るとき



- 右左折中に、対向方向からの横断歩行者を検出したとき（自転車運転者は対象ではありません）



⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- ・ 衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P.158
- ・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P.159

警告

- お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。

対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約2秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。
- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない場合があります。

■緊急時操舵支援について

- 緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。
- 緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。
 - ・ 運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。
 - ・ 緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除されます。
 - ・ 緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

■プリクラッシュセーフティをOFFにすると

次のときは、システムをOFFにしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。


- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、エンジンを始動しタイヤを空転させるとき

警告

- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

プリクラッシュセーフティの設定変更

■ プリクラッシュセーフティのON/OFFを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの  (→P.351) から、プリクラッシュセーフティのON（作動）／OFF（非作動）を変更することができます。


エンジンスイッチがONになるとシステムはONになります。

システムをOFFにすると、PCS警告灯が点灯し、マルチインフォ

メーションディスプレイにメッセージが表示されます。

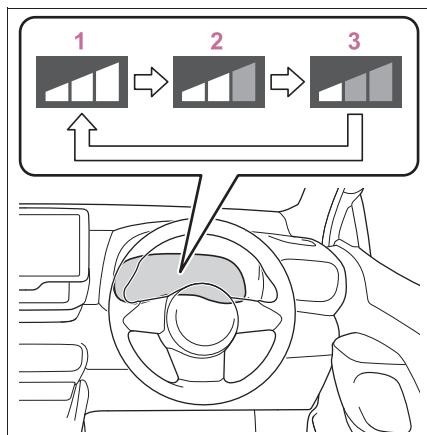


■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの  (→P.351) から、衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

変更した作動タイミングはエンジンスイッチをOFFにしても継続しますが、プリクラッシュセーフティをOFFからONの状態にすると「中間」に戻ります。衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援のタイミングも変更されます。

「遅い」を選択した場合、緊急時操舵支援はほとんどの場合作動しません。



- 2 中間
初期設定
3 遅い

1 早い

知識

■プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

- ・ バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- ・ シフトレバーが R のとき
- ・ VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ~ 180km/h	約 10 ~ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ~ 80km/h	約 10 ~ 80km/h

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 30 ~ 180km/h	約 30 ~ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 30 ~ 80km/h	約 30 ~ 80km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
車両・自転車運転者・歩行者	約 15km/h 以下	約 15km/h 以下

低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

- ・ アクセルペダルを離す
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
歩行者	約 40 ～ 80km/h	約 40 ～ 80km/h

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する
- ・ ブレーキペダルを踏む

●交差点右左折支援（衝突警報）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 25km/h	約 30 ～ 55km/h	約 40 ～ 80km/h
歩行者	約 10 ～ 25km/h	—	約 10 ～ 25km/h

● 交差点右左折支援（プリクラッシュブレーキ）

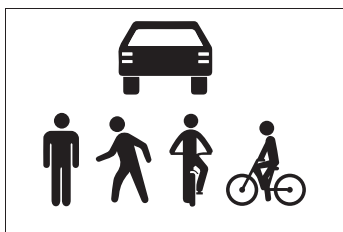
方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
車両	約 15 ～ 25km/h	約 30 ～ 45km/h	約 45 ～ 70km/h
歩行者	約 10 ～ 25km/h	—	約 10 ～ 25km/h

■ 作動対象の検出

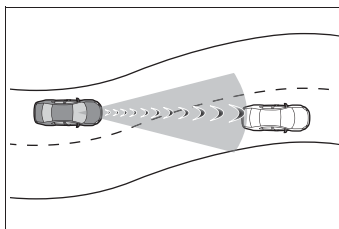
大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→P.159）

図は作動対象として検出する対象のイメージです。

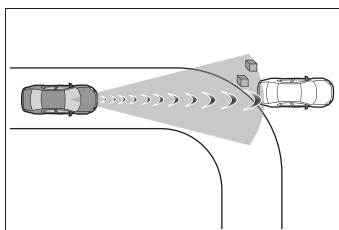


■ 衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

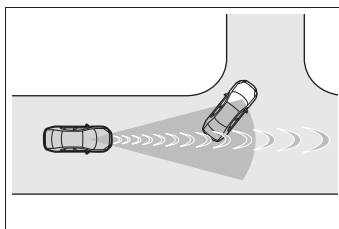
- 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。
 - ・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき
 - ・ 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
 - ・ 進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき



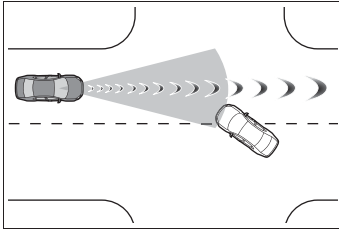
- ・ 作動対象などに急接近したとき
- ・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
- ・ カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



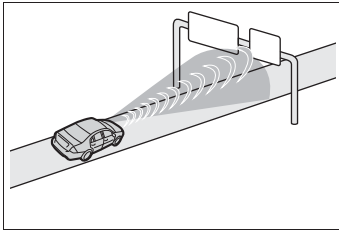
- ・ 自車の前方に作動対象との区別が付きにくい模様・ペイントがあるとき
- ・ 自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
- ・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



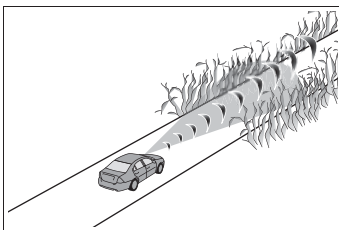
- ・ 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



- ・ 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
- ・ 路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- ・ 構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
- ・ 自車の前方に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
- ・ 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき

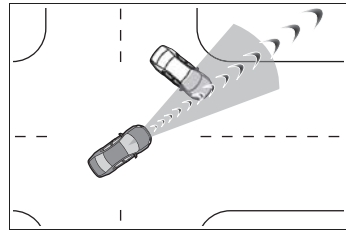


- ・ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- ・ 洗車機を使用するとき
- ・ 自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき



- ・ 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき

- ・ 電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
- ・ テレビ塔・放送局・発電所・レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき
- ・ 周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
- ・ 右折中に、対向車が自車の前方を通過したとき
- ・ 右折中に、対向車の手前を通過しようとしたとき
- ・ 右折中に、対向車が自車進路に入る手前で停止したとき
- ・ 交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき

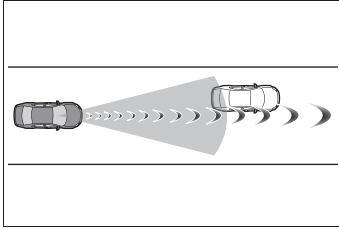


- ・ 対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
- ・ 右左折中に、横断歩行者が自車進路内に入る手前で停止したとき
- ・ 右左折中に、横断歩行者が自車の前方を通過したとき
- ・ 右左折中に、横断歩行者の手前を通過しようとしたとき

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

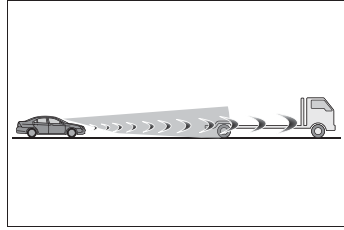
- 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
 - ・ 自車や作動対象がふらついているとき
 - ・ 作動対象が急な動きをしたとき（急ハ

- ・ シンドル・急加速・急減速など
- ・ 作動対象に急接近したとき
- ・ 作動対象が自車の中心軸からずれているとき

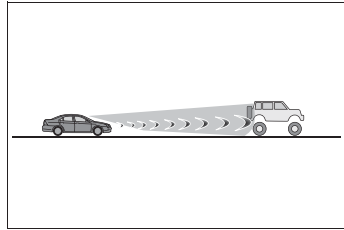


- ・ 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
- ・ 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- ・ 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- ・ 周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
- ・ 他車両に載っているレーダーにより電波の影響を受けているとき
- ・ 作動対象が複数重なっているとき
- ・ 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
- ・ 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- ・ 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- ・ 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- ・ 自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
- ・ 自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
- ・ 横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- ・ 前方車両がオートバイのとき
- ・ 前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）

- ・ 前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
- ・ 前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）

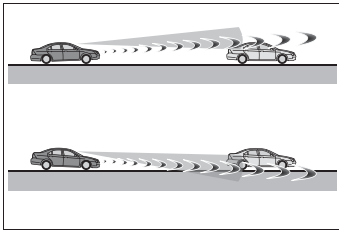


- ・ 前方車両の最低地上高が極端に高いとき

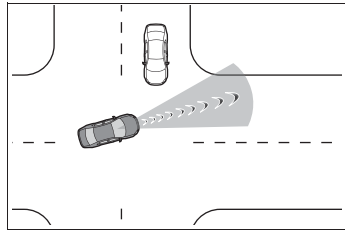


- ・ 前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- ・ 前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
- ・ 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- ・ 歩行者・自転車運転者の大きさが約1m以下、または約2m以上のとき
- ・ 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- ・ 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- ・ 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- ・ 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- ・ 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき

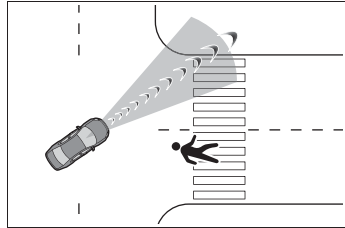
- ・ 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・ 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- ・ 周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの入り口など）
- ・ エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・ 右左折中および右左折後の数秒間
- ・ カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
- ・ 自車が横すべりしているとき
- ・ 車両姿勢が変化しているとき



- ・ ホイールアライメントがずれているとき
- ・ ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
- ・ 過度な高速走行をしているとき
- ・ 坂道を走行しているとき
- ・ 前方センサーの向きがずれているとき
- ・ 右折中に、対向車が自車の走行する車線よりも2つ以上離れた車線を走行しているとき
- ・ 右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



- ・ 右左折中に、横断歩行者が自車と同じ方向から直進して近づいてくるとき



- 上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。
 - ・ 車線を区切る白（黄）線が認識できない（かすれている、分岐・合流している、影が重なっているなど）とき
 - ・ 車線幅が狭いとき、または広いとき
 - ・ 工事の補修跡などで、道路面に濃淡の模様があるとき
 - ・ 自車の前方中央付近にいる歩行者と衝突するとき
 - ・ 対象に近づきすぎたとき
 - ・ 回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
 - ・ 対向車がいるとき
 - ・ VSC が作動しているとき
- 例えば次のような状況では、制動力や旋回力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
 - ・ ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
 - ・ 車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき

- ・ 砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき
- ・ 道路面に深いわだちがあるとき
- ・ 坂道を走行しているとき
- ・ 左右に傾きのある道路を走行しているとき

■ VSC を停止したとき

- VSC の作動を停止 (→P.220) したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。
- PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに“VSC が Off のためプリクラッシュブレーキも停止します”が表示されます。

LTA (レーントレーシングアシスト) ★

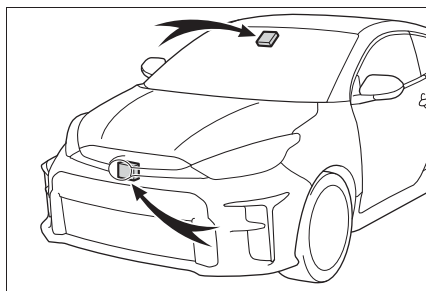
★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

機能概要

白 (黄) 線が整備された道路を走行中、車線または走路 ※ からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路 ※ からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。また、レーダークルーズコントロールの作動中は、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

白 (黄) 線または走路 ※ を前方カメラで認識します。また、先行車を前方カメラやレーダーで認識します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



警告

■ LTA をお使いになる前に

- LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ LTA を使用してはいけない状況

次の状況では、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき
- 雪道を走行しているとき
- 水たまりや雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき
- 工事区間を走行しているとき
- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- 車両けん引時

■ LTA の故障、または誤作動を防ぐために

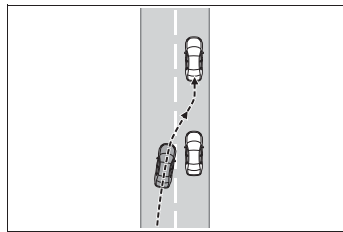
- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。

- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（プルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずハンドル操作で進路を修正してください。

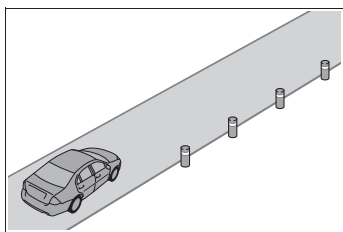
- 先行車追従表示中（→P.167）に、先行車が車線変更したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



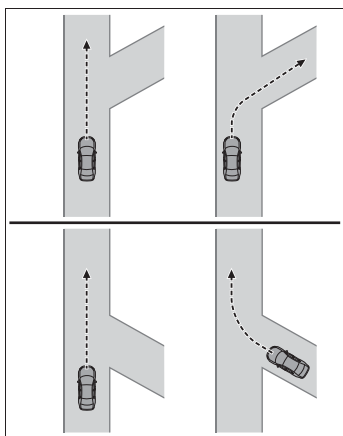
- 先行車追従表示中（→P.167）に、先行車がふらついたとき（先行車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 先行車追従表示中（→P.167）に、先行車が車線から逸脱したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）

警告

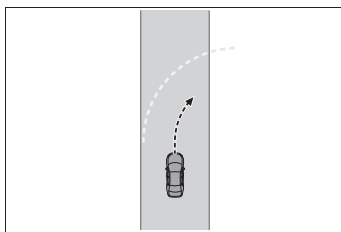
- 先行車追従表示中（→P.167）に、先行車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 急カーブを走行しているとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・反射ポールなど）



- 分岐・合流路などを走行するとき



- 道路の修復で、アスファルト修復後や白（黄）線の跡が残っているとき



- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋸）や置き石などがあるとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- アスファルトと草・土・縁石等の境界が不明瞭または直線的でないとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき
- 坂道を走行しているとき

警告

- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 冬用タイヤなどを装着しているとき
- 過度な高速走行をしているとき

LTAに含まれる機能

■ 車線逸脱警報機能

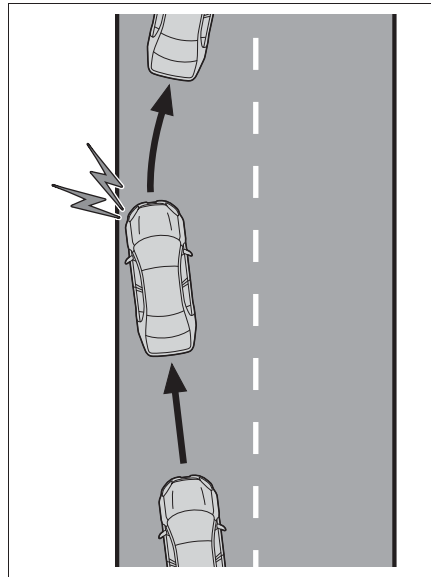
車両が車線または走路^{*}から逸脱する可能性がある場合に、マルチ

インフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線または走路^{*}内の中央付近にもどってください。

BSM装着車：車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとしてシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱警報機能が作動します。

^{*} アスファルトと草・土・縁石等の境界



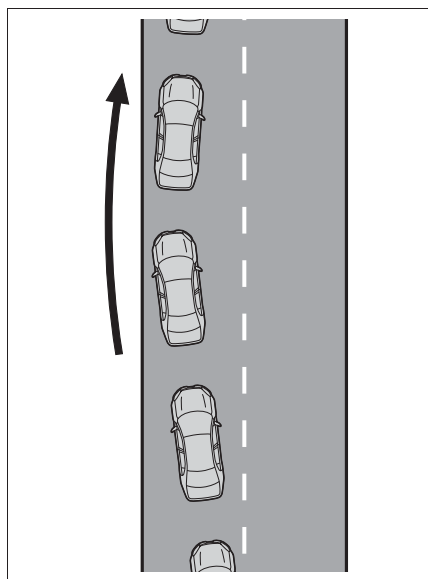
■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路^{*}から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

BSM装着車：車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性

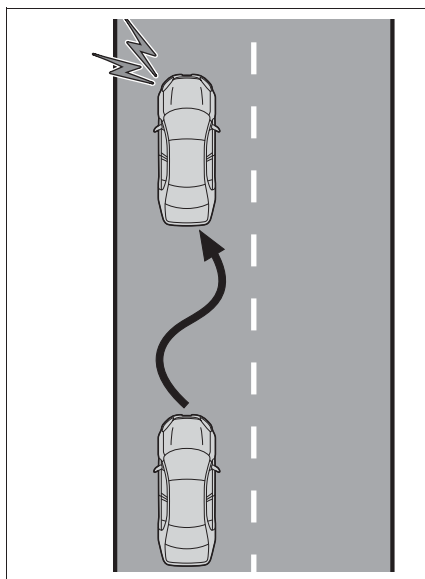
があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱抑制機能が作動します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているときに、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。

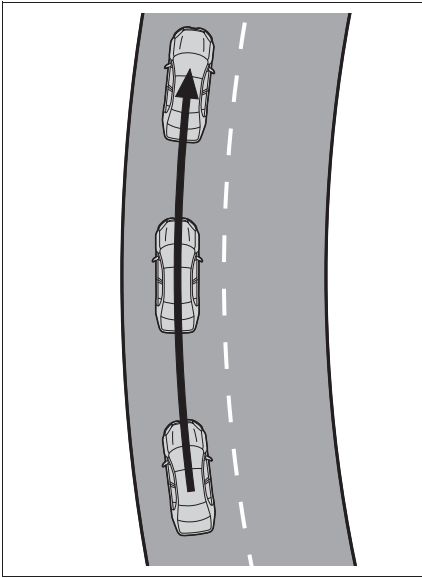


■ 車線維持支援機能

レーダークルーズコントロールと連携し、現在の車線内を走行するために必要なハンドル操作の一部を、システムが支援します。

レーダークルーズコントロールが作動していないときは、車線維持支援機能は作動しません。

渋滞のときなど白（黄）線が見えにくい、または見えない場合、先行車の軌跡を利用して先行車に追従する支援を行います。



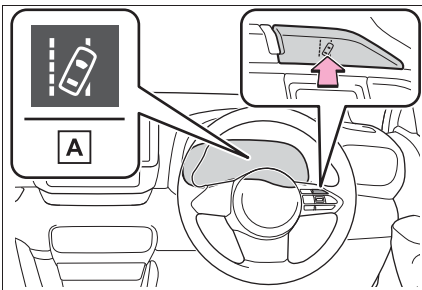
設定のしかた

■ 車線維持支援機能の ON/OFF を変更するには

LTA スイッチを押す

スイッチを押すごとに、車線維持支援機能の ON/OFF が切りかわります。

現在の設定はマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



▶ 車線維持支援機能 ON

A “LTA 操舵支援 あり センタートレース あり”

▶ 車線維持支援機能 OFF

A “LTA 操舵支援 あり”

■ LTA を OFF にする

LTA スイッチを長押しする

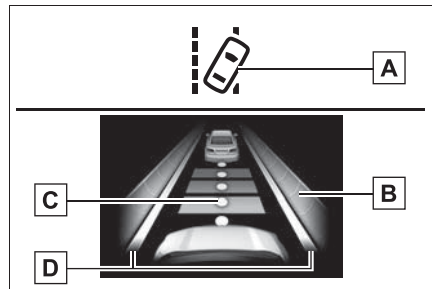
LTA が OFF されると、LTA 表示灯が消灯します。

ON には、再度スイッチを押します。

エンジンスイッチが ON になるとシステムは ON になります。

ただし、車線維持支援機能は、エンジンスイッチが OFF になる前の状態が継続します。

マルチインフォメーションディスプレイ表示



A LTA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中

B ハンドル操舵支援の作動表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

両側点灯：車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

片側点灯：車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援が作動中

両側点滅：車線維持支援機能の注意喚起が作動中

C 先行車追従表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

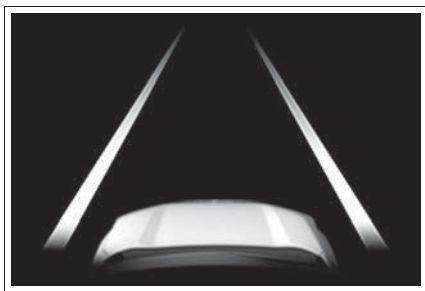
車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中（先行車に追従中）であることを示しています。

先行車の動きに合わせて自車も同じ動きをする場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

D 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

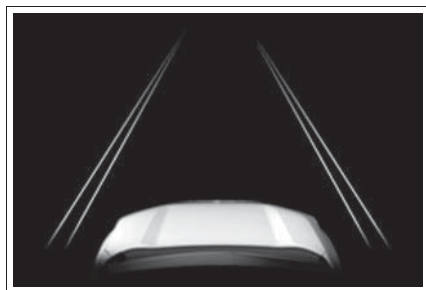
▶ 白線表示の内側が白いとき



システムが白（黄）線または走路※を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が

橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき



システムが白（黄）線または走路※を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

知識

■ 各機能の作動条件

● 車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ LTA を ON にしているとき
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき ※¹
- ・ システムが白（黄）線または走路 ※²を認識しているとき（白 [黄] 線または走路 ※² が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき（BSM 装着車：方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→P.170）

※¹ 車線維持支援機能が作動中は約 50km/h 以下でも作動します。

※² アスファルトと草・土・縁石等の境界


● 車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ 一定以上の加減速がないとき
- ・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ ABS・VSC・TRC・PCSが作動していないとき
- ・ TRCまたはVSCをOFFにしていないとき
- ・ 手放し運転に対する注意喚起(→P.170)が行われていないとき


● ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ マルチインフォメーションディスプレイので“ふらつき検知”を“ON”に設定しているとき(→P.351)
- ・ 車速が約50km/h以上のとき
- ・ 車線の幅が約3m以上のとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき(→P.170)

● 車線維持支援機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ LTAをONにしているとき
- ・ マルチインフォメーションディスプレイので“セントラートレース”を“ON”に設定しているとき(→P.351)
- ・ システムが白(黄)線を認識しているとき、または先行車の軌跡を認識しているとき(先行車が二輪車の場合を除く)
- ・ レーダークルーズコントロールが車間制御モードで作動しているとき
- ・ 車線の幅が約3～4mのとき

- ・ 方向指示レバーを操作していないとき
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき(→P.170)
- ・ 一定以上の加減速がないとき
- ・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ ABS・VSC・TRC・PCSが作動していないとき
- ・ TRCまたはVSCをOFFにしていないとき
- ・ 手放し運転に対する注意喚起(→P.170)が行われていないとき
- ・ 車線中央付近を走行しているとき
- ・ 車線逸脱抑制機能が作動していないとき

■ 機能の一時解除

- 作動条件(→P.168)が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。
- 車線維持支援機能作動中に、作動条件(→P.168)が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

■ 車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能について

- 車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能が作動しなかったりすることがあります。
- これらの各機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。
- 車線逸脱抑制機能の作動テストを行わないでください。

■ 車線逸脱警報機能について

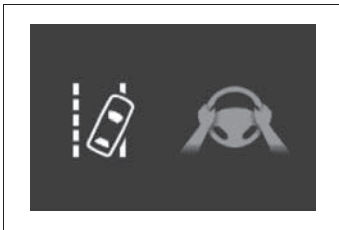
- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。
- 走路※ がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報・制御が作動しない場合があります。
- BSM 装着車：となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。

- 車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

■ 手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- システムの作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

- 車線維持支援機能作動中にカーブを曲がりきれず車線から逸脱する可能性があるるとシステムが判断したとき

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。また、システムがカーブを走行中と判断した場合は、直線走行時に比べて早いタイミングで注意喚起が行われます。

- 車線逸脱抑制機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操舵支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに、操作しない状態が続きハンドル操舵支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。

■ ふらつき警報機能について

システムの作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルで注意喚起を行います。

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。



■ 警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LTA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

- “LTA 故障 販売店で点検してください”

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。

トヨタ販売店で点検を受けてください。

- “LTA 現在利用できません”

前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止しています。いったんLTAをOFFにして、しばらくしてから再度、LTAをONにしてください。

- “LTA 現在の車速では使用できません”

車速がLTAの作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

■ カスタマイズ機能

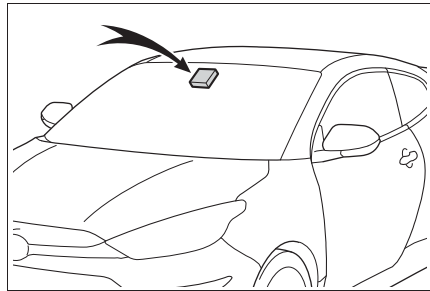
機能の設定を変更することができます。
(カスタマイズ一覧：→P.351)

RSA (ロードサインアシスト) ★

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

機能概要

前方カメラを使って特定の道路標識を認識し、ディスプレイ表示によって道路標識の情報を運転者にお知らせします。



認識した道路標識の制限速度に対し、運転者が制限速度を超過して走行、または禁止行為を行っている等とシステムが判断した場合に、告知表示およびブザー音で運転者に告知します。

⚠ 警告

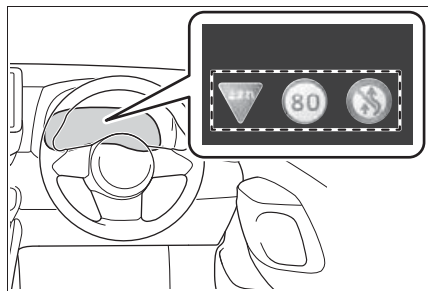
■ RSA をお使いになる前に

RSAは、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

マルチインフォメーションディスプレイ表示

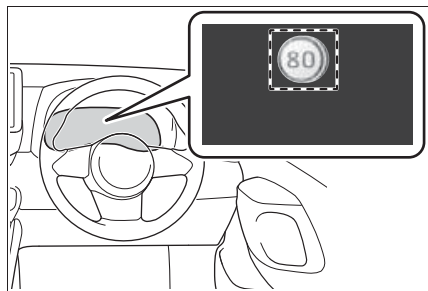
前方カメラによって標識を認識すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

- 運転支援機能情報を選択したときは、最大 3 つの標識を表示できます。(→P.61)



- 運転支援機能情報以外を選択したときは、次のいずれかの標識が表示されます。

- ・ 最高速度標識
- ・ 車両進入禁止標識 (告知時のみ)



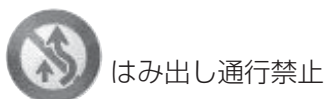
速度制限標識以外を認識した場合、速度標識の重複表示にてお知らせします。

認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入され

た標識は認識されない場合があります。



* マルチインフォメーションディスプレイに、表示されません。

告知機能

次の状況では、システムが告知表示で運転者に告知します。

- 自車の車速がマルチインフォメーションディスプレイに表示されている制限速度より、一定の速度を超過すると、最高速度標識の強調やブザーの吹鳴をします。
- システムが進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したと判定したときには、マルチインフォメーションディスプレイに表示される車両進入禁止標識の点滅やブザーの吹鳴を







します。

- はみ出し通行禁止標識がマルチインフォメーションディスプレイに表示されているときに、自車の追い越しを検出すると、はみ出し通行禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。

状況によっては、告知表示が正常に作動しない場合があります。

知識

■ 設定のしかた

- 1 メーター操作スイッチの   を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチの   を押して  を選択し、OK を押す

■ RSA 標識表示

次の状況では、最高速度・はみ出し通行禁止・車両進入禁止の標識表示が消えます。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わり標識の下に対象標識を認識したとき

次の状況では、一時停止の標識表示が消えます。

- 標識を通過したとシステムが判定したとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 前方カメラやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 汚れ・雪・ステッカー等がフロントウインドウの前方カメラの近くにあるとき
- 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラに直接あたっているとき
- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差点）を走行しているとき
- 重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- 十分な光がなかったり、明るさが急激に変化したりしたとき

- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

■ 速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、エンジンスイッチを OFF にすると、次回エンジンスイッチを ON にしたときには再度同じ標識が表示されます。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“RSA 故障 販売店で点検してください”が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ カスタマイズ機能

一部の機能は、設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧：→P.351)

レーダークルーズコントロール★

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

機能概要

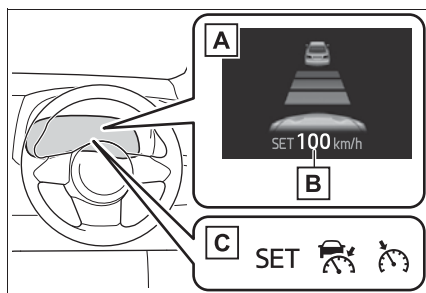
アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード (→P.177)
- 定速制御モード (→P.180)

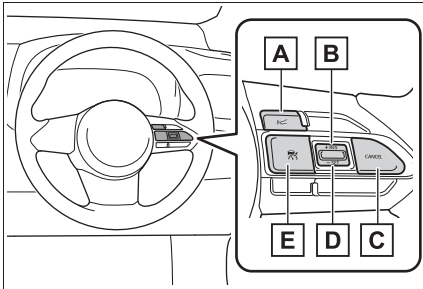
システムの構成部品

■ メーター表示



- A** マルチインフォメーションディスプレイ
- B** 設定速度
- C** 表示灯

■ 操作スイッチ



- A** 車間距離切りかえスイッチ
- B** “+RES” スイッチ
- C** キャンセルスイッチ
- D** “-SET” スイッチ
- E** クルーズコントロールメインスイッチ

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- ・ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：→P.181
- ・ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：→P.182

- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。
- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- レーダークルーズコントロールを使わないときはクルーズコントロールメインスイッチでシステムを OFF にしてください。

■ システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

 **警告**

● 運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■ **レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

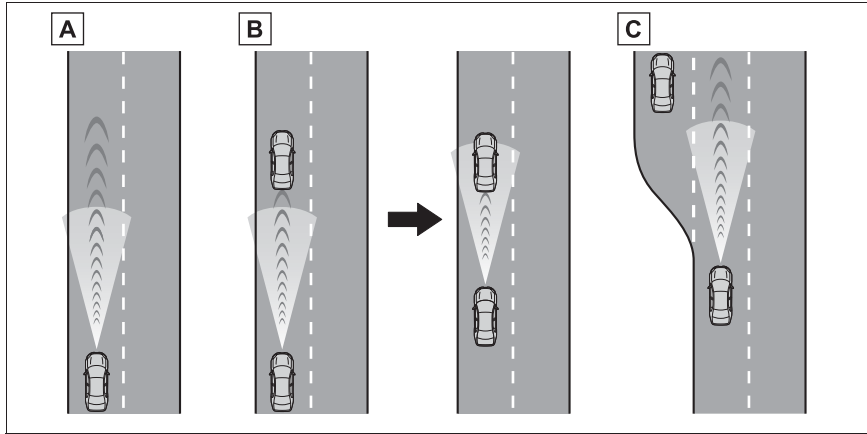
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）

- レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき
- 車両けん引時
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。



A 定速走行：

先行車がないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

B 減速走行 — 追従走行：

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

C 加速走行：

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

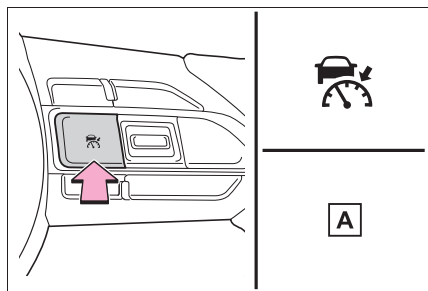
設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

速度を設定する（車間制御モード）

- 1 クルーズコントロールメインスイッチを押して、システムをONにする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。OFFにするには再度スイッチを押します。

クルーズコントロールメインスイッチを1.5秒以上押し続けると定速制御モードでシステムがONします。（→P.180）



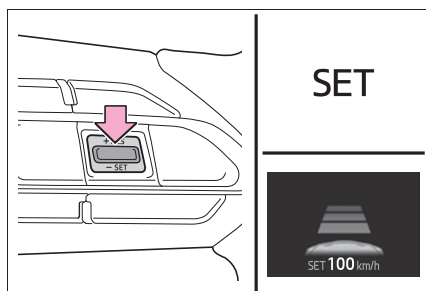
A Radar Ready

- 2 希望の車速（約30km/h以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET”スイッチを押して速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

スイッチを離れたときの車速で定速走行

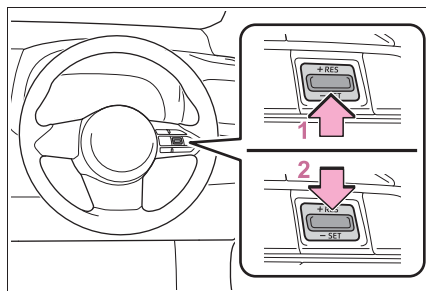
できます。



設定速度をかえる

■ スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで“+RES”スイッチまたは“-SET”スイッチを押します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

微調整：スイッチを押す

大幅調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/hずつ

定速制御モード（→P.180）では、設定速度は、次のとおりに増

減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

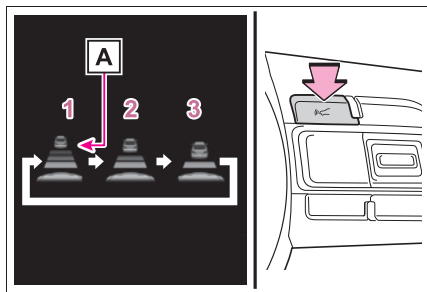
大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

■ アクセルペダルで設定速度を上げる

- 1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する
- 2 “-SET” スイッチを押す

車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。



- 1 長い
- 2 中間
- 3 短い

先行車がいる場合、先行車マーク **A** も表示されます。

車間距離選択の目安（車間制御モード）

次の目安を参考に車間距離を選択してください。

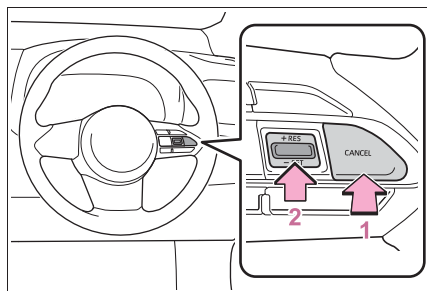
（車速 80km/h で走行している場合）

なお、車速に応じて車間距離は増

減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御を解除する・復帰させる



1 制御を解除するには、キャンセルスイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

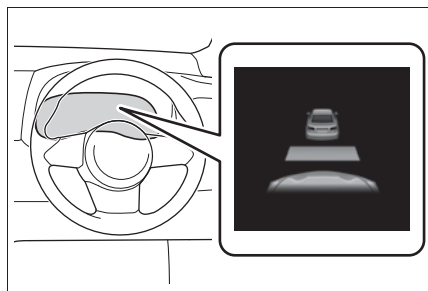
2 制御を復帰させるに

は、“+RES” スイッチを押す

ただし、車速が約 25km/h 未満のときは復帰しません。

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の车速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

定速制御モードでの走行

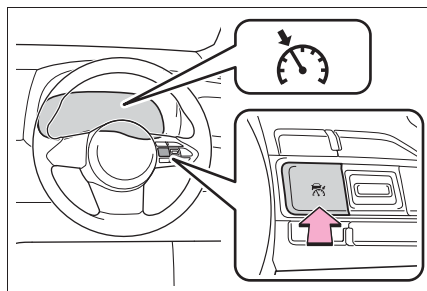
定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

- 1 クルーズコントロールが OFF の状態で、クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続ける

クルーズコントロールメインスイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが

可能です。



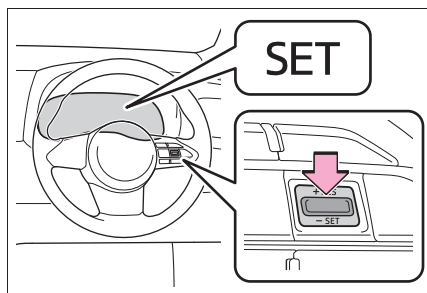
- 2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET” スイッチを押して速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

スイッチを離れたときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる（→P.178）

制御を解除する・復帰させる（→P.179）



□ 知識

■ 設定条件について

- オートマチック車：シフトレバーが D のとき設定できます。
- マニュアル車：シフトレバーが 2 速以上のとき設定できます。
- 制御モードによって、設定できる車速は次のとおりです。

- ・ 車間制御モード：約 30km/h 以上のとき
- ・ 定速制御モード：約 30km/h 以上のとき

■ 車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■ シフトポジションの選択について（マニュアル車）

車速に応じたシフトポジションを選択してください。エンジン回転数が高くなりすぎたり低くなりすぎたりすると、自動的に制御が解除されることがあります。

■ 車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- 車速が約 25km/h 未満になったとき
- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- TRC または VSC を OFF にしたとき
- センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき
- ブリクラッシュブレーキが作動したとき
- マニュアル車：シフトレバーを N に入れた状態またはクラッチペダルを踏んだ状態で一定時間経過したとき
- パーキングブレーキが作動したとき

上記以外の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■ 定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

- 設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき
- 車速が約 30km/h 未満になったとき
- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- TRC または VSC を OFF にしたとき
- ブリクラッシュブレーキが作動したとき
- マニュアル車：シフトレバーを N に入れた状態またはクラッチペダルを踏んだ状態で一定時間経過したとき
- パーキングブレーキが作動したとき

上記以外の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■ ブレーキが作動したとき

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

■ レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

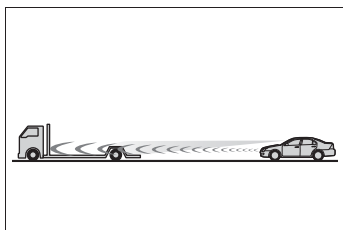
走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。（→P.150, 314）

■ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

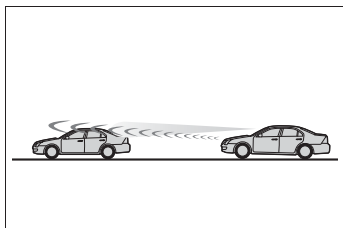
次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.179）も作動しないおそれがあります。

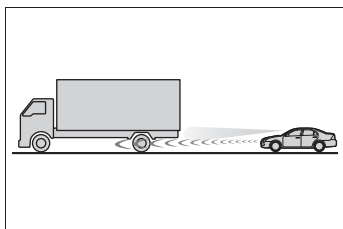
- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）



- 同じ車線を二輪車が走行中のとき
- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーの検知のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



- 先行車の車高が極端に高いとき



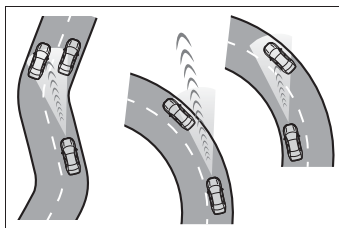
■ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってはアクセルペダルを操作）してください。

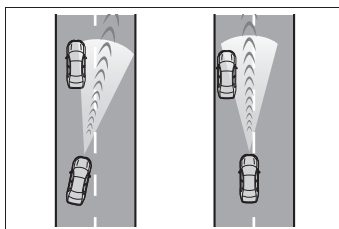
センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあり

ます。

- カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



- 先行車が急ブレーキをかけた場合
- 道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合
- アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度にもどるとき

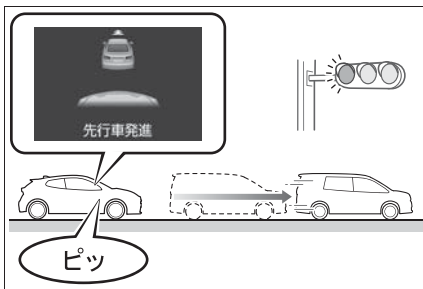
先行車発進告知機能★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。



知識

■ 作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- オートマチック車：シフトレバーがP・R以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトレバーがNで停止しているとき
- マニュアル車：シフトレバーがR以外で、ブレーキペダルを踏んで停止しているとき
- オートマチック車：ブレーキホールドが作動中のとき

■ 先行車が発進していても告知しない場合があるとき

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
 - 先行車との車間距離が極端に短くなり、先行車を正しく認識できないとき
 - 坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
 - 先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき
 - 先行車がオートバイ・自転車などのとき
 - 先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
 - 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）・煙・水蒸気などにより、先行車を認識できないとき
 - 前方カメラとレーダー前面に雨滴、雪などが付着し、先行車を正しく認識できないとき
 - 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
 - ブリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などによりPCS警告灯が点灯しているとき
 - 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき
- #### ■ 先行車が発進していなくても告知する場合があるとき










例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場

合があります。

- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- 先行車がない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき










■ 先行車発進告知機能の設定を変更するには

- 先行車発進告知機能の ON/OFF システムの ON/OFF を切りかえることができます。

- 1 メーター操作スイッチの   を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチの   を押して “車両設定” を選択し、OK を長押しする
- 3 メーター操作スイッチの   を押して “先行車発進告知” を選択し、OK を押す
- 4 メーター操作スイッチの   を押して “先行車発進告知” を選択し、OK を押す

● 先行車発進告知機能の告知距離

告知する距離を切りかえることができます。

- 1 メーター操作スイッチの   を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチの   を押して “車両設定” を選択し、OK を長押しする
- 3 メーター操作スイッチの   を押して “先行車発進告知” を選択し、OK を押す
- 4 メーター操作スイッチの   を押して “告知距離” を選択し、OK を押す

Stop & Start システム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

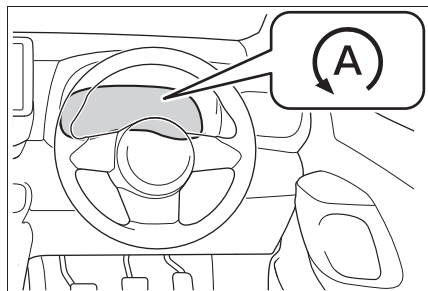
赤信号や交差点などの一時的な停車中、燃費向上やアイドリング騒音低減のため、エンジンスイッチを操作することなく、クラッチペダルなどの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

Stop & Start システムの作動

■ エンジンが停止する

- 1 クラッチペダルを奥まで踏み、ブレーキペダルを踏んで車両を停止させる。
- 2 シフトレバーを N にし、クラッチペダルを放すとエンジンが自動的に停止します。

Stop & Start システムによるエンジン停止中は表示灯が点灯します。



■ エンジンが再始動する

シフトレバーが N の状態で、クラッチペダルを踏むとエンジンが再始動します。

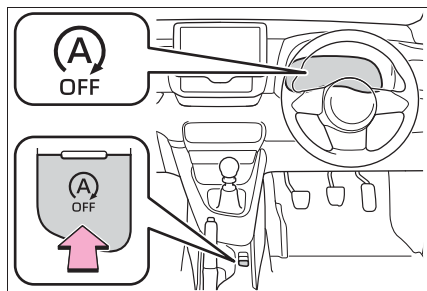
エンジンが再始動すると表示灯は消灯します。

Stop & Start システムを非作動にするには

Stop & Start システムを非作動にするには Stop & Start キャンセルスイッチを押す

Stop & Start キャンセル表示灯が点灯します。

もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、作動可能状態にもどり、Stop & Start キャンセル表示灯が消灯します。



知識

■ Stop & Start システムの自動再開

Stop & Start システムを Stop & Start キャンセルスイッチによって非作動にしても、一度エンジンスイッチを OFF にしてからエンジンを始動することによって、Stop & Start システムは自動的に作動可能状態にもどります。

■ 使用にあたり知っておいていただきたいこと

- Stop & Start システムによるエンジン停止中にエンジンスイッチを押した場合、エンジンは自動で再始動しないため、通常のエンジン始動操作（→P.114, 115）でエンジンを始動してください。
- Stop & Start システムによりエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサ

リーソケットやアクセサリコンセントなどが使用できないことがあります
が異常ではありません。

- 電装品・無線機の取り付け・取りはずしは Stop & Start システムに悪影響をおよぼす可能性があります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- 長時間停車する場合などには、エンジンスイッチを OFF にしエンジンを停止してください。
- Stop & Start システムの作動によるエンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時的にハンドルが重く感じることがあります。

■作動条件

- 次の条件がすべて満たされたとき、Stop & Start システムが作動可能状態になります。

- ・一度、走行したあと
- ・クラッチペダルが踏まれていないとき
- ・シフトレバーが N のとき
- ・運転席シートベルトを着用しているとき
- ・運転席ドアが閉まっているとき
- ・走行モードがノーマルモードおよび、トラックモードのとき
- ・フロントデフロスターが OFF のとき
- ・エンジンが十分暖まっているとき
- ・外気温が -5℃以上のとき
- ・ボンネットおよびバックドアが閉まっているとき（詳しくは「**■ボンネット**またはバックドアを開けたとき（→P.187）」をご参照ください）

- 次の状況では、Stop & Start システムによるエンジン停止が行われませんが異常ではありません

- ・エアコンを使用しているとき
- ・定期的な充電中のとき
- ・バッテリーが十分に充電されていないとき（例：長期間の駐車後などバッテリーの充電量が低下、電気負荷が大き、バッテリー液温が低い、バッテ

リーが劣化）

- ・ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
 - ・エンジン再始動後の経過時間が短いとき
 - ・渋滞などで、断続的に停車するとき
 - ・エンジン冷却水温やトランスミッション油温が低いとき、または高すぎるとき
 - ・ハンドル操作をしているとき
 - ・標高が高いとき
 - ・バッテリー液温が低いとき、または高すぎるとき
 - ・バッテリーを脱着した後、しばらくの期間
- Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動します。
(Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください)
 - ・エアコンを ON にしたとき
 - ・フロントデフロスターを ON にしたとき
 - ・運転席シートベルトをはずしたとき
 - ・運転席ドアを開けたとき
 - ・走行モードをノーマルモードおよび、トラックモード以外にしたとき
 - ・Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき
 - ・ハンドルを操作したとき
 - ・坂道などで車両が動き出したとき
- Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。
(Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください)
 - ・ブレーキペダルをさらに強く踏み込む、またはポンピングブレーキをしたとき
 - ・エアコンを使用しているとき
 - ・エアコンに関わる操作をしたとき（デフロスタースイッチなど）

- ・ バッテリーの充電量が低下しているとき

■ ボンネットを開けたとき

Stop & Start システムによるエンジン停止中にボンネットを開けたときは、Stop & Start システムによるエンジン停止状態からエンスト状態に移行され、エンジンが自動で再始動しません。その場合は通常のエンジン始動操作（→P.114, 115）でエンジンを始動してください。

■ ボンネットまたはバックドアを開けたとき

ボンネットまたはバックドアが開いている状態でエンジンを始動したときは、ボンネットまたはバックドアを閉めても Stop & Start システムは作動しません。ボンネットおよびバックドアを閉め一度エンジンスイッチを OFF にし、30 秒以上待ってからエンジンを始動してください。

■ Stop & Start システムによるエンジン停止中のエアコン作動について

オート設定でエアコンを使用しているときに、Stop & Start システムによりエンジンが停止した場合は、冷房時の温度上昇や暖房時の温度低下を抑えるため、ファンの風量を弱めたり、停止したりすることがあります。

空調の効きを優先したいときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

- フロントウインドウガラスが曇ったとき
フロントデフロスターと送風を ON にしてください（→P.232）。
断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。
- エアコン吹き出し口から臭いが発生したとき

- ・ Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムの作動を非作動にしてください。

■ エアコンが ON のときのアイドリングストップ時間の長さの切りかえについて

マルチインフォメーションディスプレイの“設定”画面（→P.61）から、エアコンが ON のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間の長さを切りかえることができます。（エアコンが OFF のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間の長さは切りかえできません）

■ アイドリングストップ時間など Stop & Start システムの作動表示

→P.66

■ マルチインフォメーションディスプレイのメッセージについて

次のとき、マルチインフォメーション

ディスプレイにと、メッセージが表示

されることがあります。

- Stop & Start システムによるエンジン停止が行われな



“専用バッテリー非装着”

- ・ Stop & Start システム専用品以外のバッテリーを装着した可能性がある
→Stop & Start システムが作動しません。トヨタ販売店で点検を受けてください。



“バッテリー充電中”

- ・ バッテリーの充電量が低下している可能性がある
→バッテリー充電を優先するため、一時的にアイドリングストップを禁止していますが、エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。

- ・ リフレッシュ充電中の可能性がある
→ 最大 1 時間のリフレッシュ充電が完了すると作動可能状態になります。
- ・ 長期間 (1 時間以上) にわたって継続的に表示される
→ バッテリ劣化の可能性がありますので販売店に相談してください



“ アイドリングストップできません ”

- ・ 一時的にアイドリングストップを禁止している
→ エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。
- ・ ボンネットが開いている状態でエンジンを始動した可能性がある
→ ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを OFF にして、30 秒以上待ってからエンジンを始動すると作動可能状態になります。



“ 作動準備中 ”

- ・ 標高が高い



“ エアコン優先 ”

- ・ 外気温が高い、または低いときにエアコンを使用している
→ エアコンの設定温度と室内温度の差が小さくなると作動可能状態になります。
- ・ Fr デフロスターを ON にしている

- Stop & Start システムによるエンジン停止中にエンジンが自動的に再始動したとき



“ エアコン優先 ”

- ・ エアコンを ON にした、またはエアコンを使用している
- ・ Fr デフロスターを ON にした



“ バッテリー充電中 ”

- ・ バッテリーの充電量が低下している可能性がある
→ エンジンをしばらく作動させることでバッテリーが充電されると作動可能状態になります。
- Stop & Start システムによるエンジン再始動ができないとき
“ ニュートラルに戻してクラッチを踏んでください ”
→ Stop & Start システム作動中、クラッチペダルを放した状態でシフトレバーが N 以外になっている

■ ブザーが鳴ったとき

Stop & Start システムによるエンジン停止中、クラッチペダルを離したままシフトレバーが N 以外になったときは警告ブザーが鳴ると同時に Stop & Start 表示灯が点滅します。ブザーを止めるにはシフトレバーを N にしてください。この状態でもクラッチペダルを踏むとエンジンが始動します。

■ Stop & Start システム保護機能

- 大音量でオーディオを使用しているとき、バッテリーの消費を抑えるためにオーディオを自動的に OFF にする場合があります。オーディオを再度使用するには、エンジンスイッチを OFF にして 3 秒以上待ってからアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにしてください。
- バッテリーの端子を外して再接続したときに、オーディオが作動しないことがあります。いったんエンジンスイッチを OFF にし、次の操作を 2 回繰り返すことでオーディオが作動します。
- ・ エンジンスイッチをイグニッション ON モードにし、再度エンジンスイッチを OFF にする

■ バッテリーを交換するとき

→P.334

■ Stop & Start キャンセル表示灯が点滅したままのとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■ Stop & Start システムが作動しているとき

換気が悪い場所では、Stop & Start システムを非作動にしてください。

エンジンが自動的に再始動する場合があるため、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- Stop & Start システムによるエンジン停止中 (Stop & Start 表示灯が点灯中) は、車から離れないでください。

エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- Stop & Start システムによるエンジン停止中 (Stop & Start 表示灯が点灯中) は、必要に応じてブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

注意

■ Stop & Start システムを正常に作動させるために

次のようなときは Stop & Start システムが正常に作動しないおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点滅するとき

- 運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯しないとき

- 運転席ドアを閉めているにもかかわらず、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告表示が表示される、またはインテリアランプがドア開閉連動 ON (→P.237) のときにインテリアランプが点灯するとき

- 運転席ドアを開けているにもかかわらず、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告表示が表示されない、またはインテリアランプがドア開閉連動 ON (→P.237) のときにインテリアランプが点灯しないとき

■ エンストした時

- Stop & Start システムが作動可能状態であれば、すみやかにクラッチペダルを踏み込むことにより、エンジンを再始動できます。

BSM (ブラインドスポットモニター) ★

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ブラインドスポットモニターは、リアバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

警告

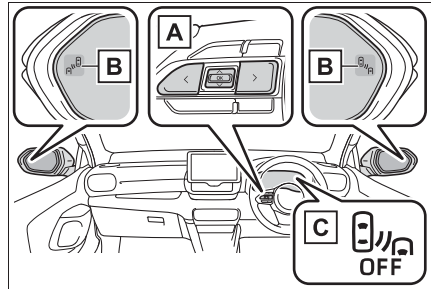
■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

システムの構成部品



A) メーター操作スイッチ

ブラインドスポットモニターの ON/OFF を切りかえます。

B) ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

C) BSM OFF 表示灯

ブラインドスポットモニターが OFF のときに点灯します。

知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいたることがあります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“BSM 現在使用できません取扱書を確認ください”が表示されたときは

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。ま

た、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

- マルチインフォメーションディスプレイに“BSM 故障 販売店で点検してください”が表示されたときは

センサーの故障や電圧異常などが考えら

- 後側方レーダーセンサーの取り扱いについて

れます。トヨタ販売店にて点検を受けてください。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.351)

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明です
で、消さないでください。
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。



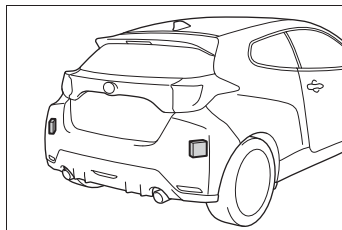
⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく

センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示(→P.190)とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落とすあと、BSM 機能の作動条件(→P.193)でしばらく走行してください(目安:約10分)。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。



- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー(透明なものを含む)やアルミテープなどを貼ったりしない

警告

- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける

センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなったりするおそれがあります。

次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。

- ・ センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
- ・ センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている
- センサーを分解しない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない
- センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

- リヤバンパーの塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください

ブラインドスポットモニターのON/OFFを切りかえるには

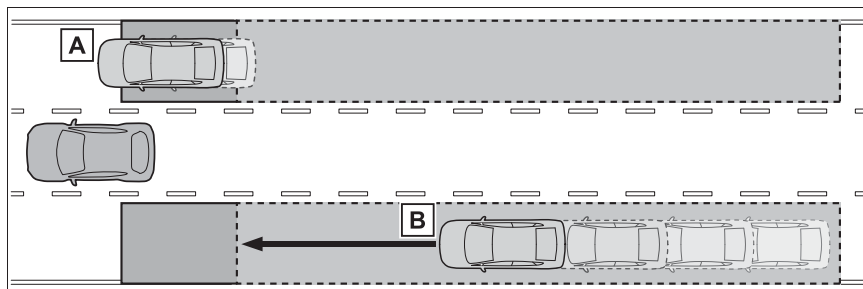
メーター操作スイッチを使ってON/OFFを切りかえます。

- 1 メーター操作スイッチの **◀ / ▶** を押して **BSM** を選択する
- 2 メーター操作スイッチの **▲ / ▼** を押して **BSM** を選択し、OKを押す

ブラインドスポットモニターの作動

■ 検知できる車両

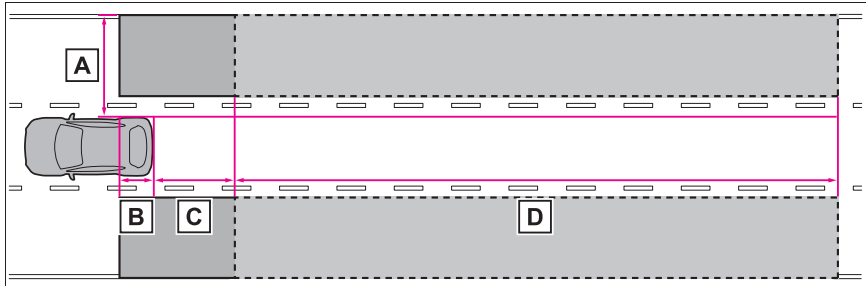
ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。



- A** ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両
- B** 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

■ 検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

- A** 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域^{※1}
- B** リヤバンパーから約 1m 前方の領域
- C** リヤバンパーから約 3m 後方の領域
- D** リヤバンパーから後方約 3m ~ 60m の領域^{※2}

※1 車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※2 自車と他車の速度差が大きいくほど、ドアミラーインジケータは他車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

□ 知識

■ 作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- ブラインドスポットモニターがONのとき
- シフトレバーが R 以外のとき
- 車速が約 16km/h 以上のとき

■ センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき
- 小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■システムが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など※
- 対向車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※
- 同じ車線を走行する後続車※
- 2つ隣の車線を走行する他車※
- 大きい速度差で自車が追いつく他車※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
 - ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
 - ・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
 - ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
 - ・ 自車と他車の速度差に変化があるとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
 - ・ 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
 - ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏

がある場所を走行するとき

- ・ 車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
- ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
- ・ 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
- ・ ブラインドスポットモニターを ON にした直後
- 特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
 - ・ 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
 - ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
 - ・ タイヤがスリップ（空転）しているとき
 - ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
 - ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

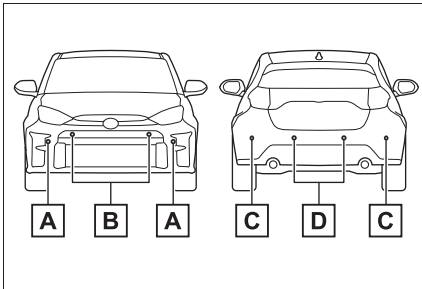
クリアランスソナー★

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイまたはマルチメディア画面★に距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

システムの構成部品

■ センサーの種類



A フロントコーナーセンサー

B フロントセンターセンサー

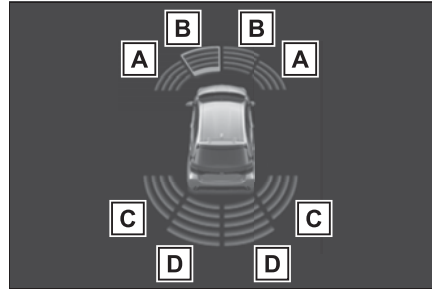
C リヤコーナーセンサー

D リヤセンターセンサー

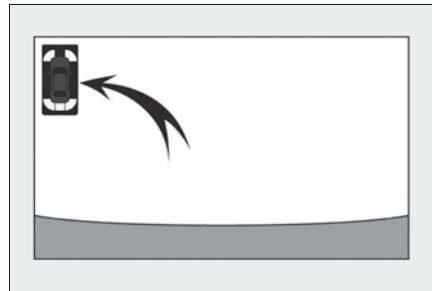
■ クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイまたはマルチメディア画面★の作動表示が点灯（一部、枠が点滅）します。

▶ マルチインフォメーションディスプレイの表示



▶ マルチメディア画面★の表示



A フロントコーナーセンサー作動表示

B フロントセンターセンサー作動表示







C リヤコーナーセンサー作動表示

D リヤセンターセンサー作動表示



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

システムを作動させるには

メーター操作スイッチを使ってON/OFFを切りかえます。
(→P.62)

- 1 メーター操作スイッチの  /  を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチの  /  を押して  を選択し、OK を押す

クリアランスソナー機能が OFF の時は、クリアランスソナー OFF 表示灯 (→P.55) が点灯します。

OFF (停止) に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの  から  を ON (作動) にし、システム作動状態にしないとクリアランスソナーは復帰しません。(エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません)

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の電装部品 (字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど) を取り付けしないでください。

- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。

- 改造・分解・塗装をしないでください。

- ライセンスプレートカバーを取り付けしないでください。

- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

■クリアランスソナーを OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 上記の内容が守られないとき

- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

■洗車時の注意

- 高压洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

■作動条件

- エンジンスイッチが ON のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき

- シフトポジションがP以外にあるとき（オートマチック車）
- パーキングブレーキを解除しているとき
- マルチインフォメーションディスプレイに“ソナーの汚れを除去してください”が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに水滴・氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。

この場合はセンサーの水滴・氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

水滴・氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。



■ センサーの検知について

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- センサーが静止物に近づきすぎると検知できないことがあります。
- 静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約30cm以内に接近するおそれが

あります。

- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- 他システムのブザー音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。

■ システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの

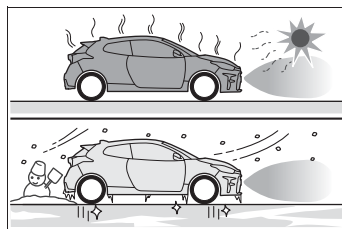
■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

- センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー一部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）

特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

- 炎天下や寒冷時

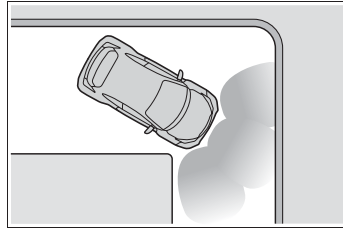


- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
 - 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなどの超音波を発生するものが近付いたとき
 - 大雨や水しぶきがかかったとき
 - センサーに静止物が近付きすぎたとき
 - 超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）
 - 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき
 - 風が強いとき
 - 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
 - 作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき
 - 車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
 - 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
 - センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
 - 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
 - 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
 - タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

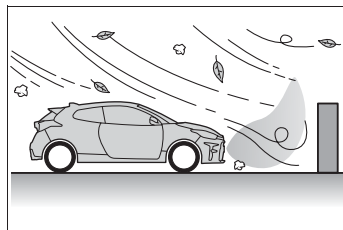
次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

す。

- 狭い道路を走行するとき

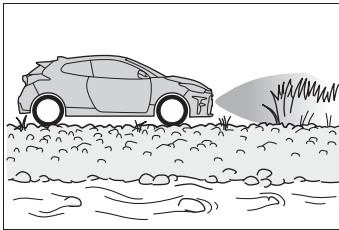


- 垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETCのバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- 地面にわだちや穴がある場合
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- 急な登坂路や降坂路を走行するとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 風が強いとき



- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

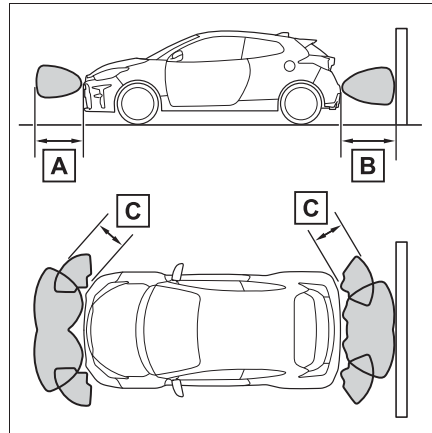
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H形鋼など）の付近を走行するとき
- 事故や故障で自転車の走行が不安定なとき
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲



A 約 100cm

B 約 150cm

C 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ 検知距離とブザー音

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンサー： 約 100 cm～ 60 cm ※ リヤセンサー： 約 150 cm～ 60 cm ※	断続音
約 60 cm～ 45 cm ※	早い断続音
約 45 cm～ 30 cm ※	非常に早い断続音
約 30 cm～ 15 cm 約 15 cm以下	連続音

※ 自動ミュート機能あり（→P.200）

音声案内とブザー音

■ ブザー動作と静止物までの距離

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。







ブザー音と同時に音声案内を行います。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。(自動ミュート機能)

■ ブザー音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。

メーター操作スイッチを使って設定を変更します。(→P.62)

- 1 メーター操作スイッチの  /  を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチの  /  を押して  を選択し、OK を押し続ける
- 3 音量を選択し、OK を押す

1,2,3の間で音量が切りかわります。

■ ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

OK を押すとクリアランスソナー、RCTA のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除される時：

- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- エンジンスイッチを OFF にしたとき

RCTA (リヤクロストラフィックアラート)★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

RCTA (リヤクロストラフィックアラート) 機能はリアバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

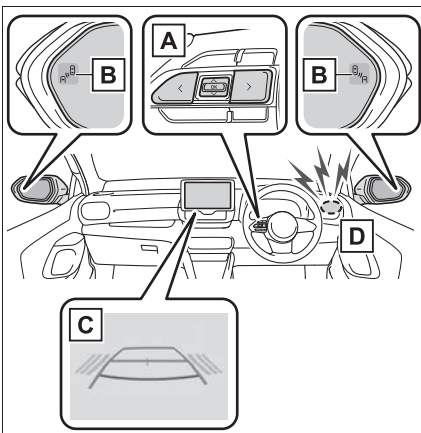
警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。(→P.190)

■システムを正しく作動させるために
→P.191

システムの構成部品



A) メーター操作スイッチ

メーター操作スイッチを操作して、マルチインフォメーションディスプレイ上で RCTA 機能の ON/OFF を切りかえます。

B) ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

C) マルチメディア画面★

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面に検知した側の RCTA アイコン (→P.202) が点灯します。

イラストは両後方から車両が接近している例です。

D) RCTA ブザー

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定のしかた

メーター操作スイッチを使って ON/OFF を切りかえます。(→P.62)

- 1 メーター操作スイッチの / を押して を選択する
- 2 メーター操作スイッチの / を押して “RCTA” を選択し、OK を押す

RCTA 機能が OFF の時は、RCTA OFF 表示灯 (→P.55) が点灯します。

エンジンスイッチが ON になるたび、

RCTA 機能は ON になります。

知識

■ ドアミラーインジケータの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケータが見えづらことがあります。

■ RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“RCTA 現在使用できません取扱書を確認ください”が表示されたときは

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“RCTA 故障 販売店で点検してください”が表示されたときは

センサーの故障や電圧異常などが考えられます。トヨタ販売店にて点検を受けてください。

■ 後側方レーダーセンサーについて

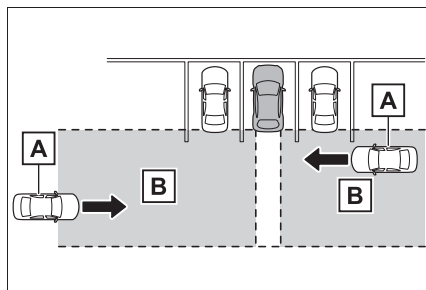
→P.191

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケータとブザーによってその車両の存在

を運転者に知らせます。



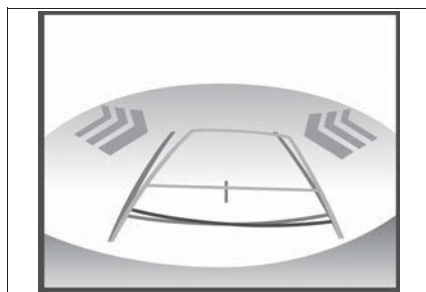
A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

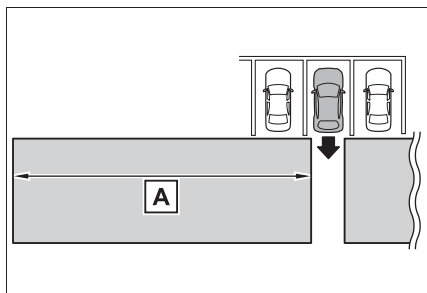
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき



■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離 (概算)
28km/h (速い)	20m
8km/h (遅い)	5.5m

知識

■ RCTA 機能の作動条件




RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。



- エンジンスイッチが ON のとき
- RCTA 機能が ON のとき
- シフトポジションが R のとき
- 自車の车速が約 8km/h 以下のとき
- 接近する他車の车速が約 8km/h ~ 28km/h のあいだのとき

■ ブザー音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。

メーター操作スイッチを使って設定を変更します。(→P.62)

- 1 メーター操作スイッチの   を押して  を選択する

- 2 メーター操作スイッチの  /  を押して“RCTA”を選択し、OK を押し続ける

- 3 音量を選択し、OK を押す

1,2,3 の間で音量が切りかわります。

■ ブザー音の一時ミュート (消音)

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイ上に一時ミュート (消音) スイッチが表示されません。

OK を押すとクリアランスゾナー、

RCTA のブザー音が一括でミュート (消音) されます。

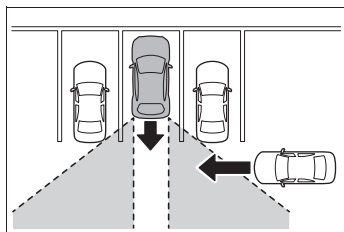
一時ミュート (消音) が解除されるとき：

- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- エンジンスイッチを OFF にしたとき

■ システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 真後ろから接近する車両
- 自車の隣の駐車スペースで後退する車両
- 障害物のためにセンサーが検知できない車両

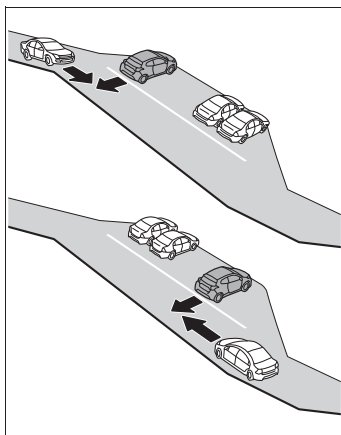


- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物
- 小型の二輪車・自転車・歩行者など
- 自車から遠ざかる車両
- 自車の隣の駐車スペースから接近する車両
- センサーと接近車両との距離が近なる場合

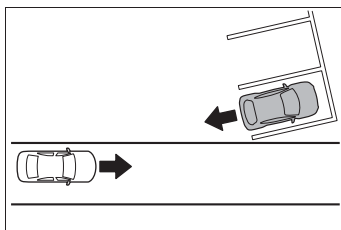
■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

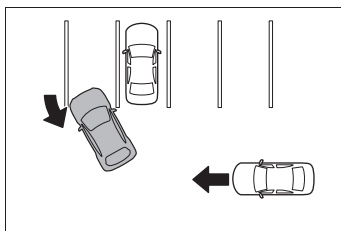
- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
- 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- 車両が高速で接近するとき
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



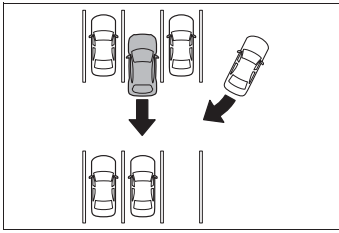
- 斜めの駐車場から出庫するとき



- 検知範囲に入る他車と自車の高さ 차이가大きすぎるとき
- 炎天下や寒冷時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- 自車が旋回しているとき



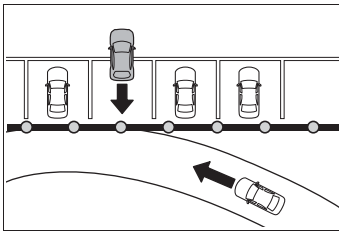
- 旋回しながら車両が近づいてきたとき



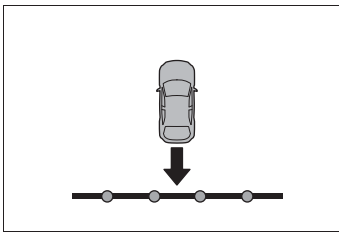
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

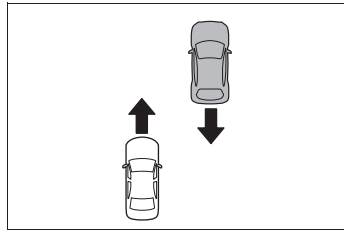
- 駐車場に面した道を車両が走行しているとき



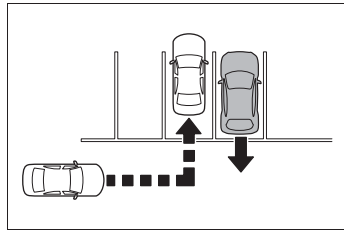
- 車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき



- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 車両が自車の横を通過するとき



- 自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



- 自車近くに室外機などの回転体があるとき
- センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき
- 動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）
- ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- グレーチングや側溝
- 炎天下や寒冷時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ制御で作動対象との衝突被害の軽減に寄与するシステムです。壁などの静止物を検知するパーキングサポートブレーキ（静止物）、後退時に後方接近車両を検知するパーキングサポートブレーキ（後方接近車両）があります。

駐車支援機能

■ パーキングサポートブレーキ（静止物）★

→P.211

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★

→P.214

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。

センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合があります。

- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■ パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

警告

- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を使用する場合
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

注意







- マルチインフォメーションディスプレイに“パーキングサポートブレーキ 現在使用できません”が表示され、PKSB OFF 表示灯が点灯したときは

エンジンスイッチを ON にした直後に、上記表示が出ることがあります。その場合は周囲を確認しながら注意して走行してください。



システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキ（静止物）、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）を一括で ON/OFF します。

メーター操作スイッチを使って ON/OFF を切りかえます。（→P.62）

- 1 メーター操作スイッチの  /  を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチの  /  を押して  を選択し、OK を押す

PKSB システムを OFF した場合、PKSB OFF 表示灯（→P.55）が点灯します。

OFF（停止）に切りかえて、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの  から  を ON（作動）にし、システム作動状態にしないと PKSB（パーキングサポートブレーキ）は復帰しません。（エンジンスイッチの操作では復帰しません）

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップディスプレイ★にメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御が出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。

● エンジン出力抑制制御作動中 (加速制限制御)

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“加速抑制中です”

ヘッドアップディスプレイ表示：表示なし

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● エンジン出力抑制制御作動中 (出力最大抑制制御)

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチインフォメーションディスプレイ・ヘッドアップディスプレイ表示：“ブレーキ！”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポーン（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチインフォメーションディスプレイ・ヘッドアップディスプレイ表示：“ブレーキ！”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポーン（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“アクセルが踏まれています ブレーキを踏み直してください”

アクセルが踏まれていない場合は “ブレーキを踏んでください” が表示されます。

ヘッドアップディスプレイ表示：“ブ

レーキを踏み直してください”

アクセルが踏まれていない場合は “ブレーキを踏んでください” が表示されません。

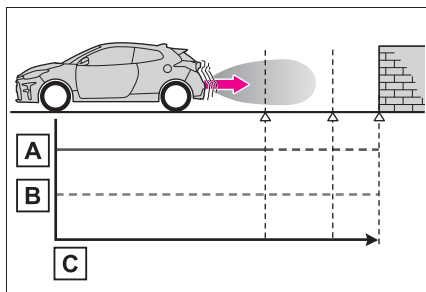
PKSB OFF 表示灯：点灯

ブザー：ポーン（単発音）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物や後方接近車両）を検知したとき、エンジンの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（エンジン出力抑制制御：図 2）また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：図 3）

● 図 1（PKSB（パーキングサポートブレーキ）非作動時）

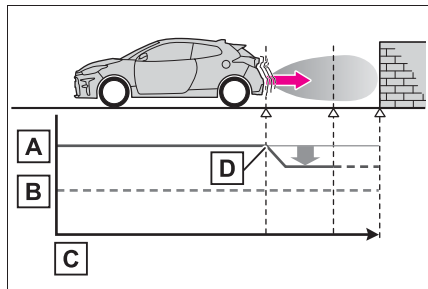


A エンジン出力

B 制動力

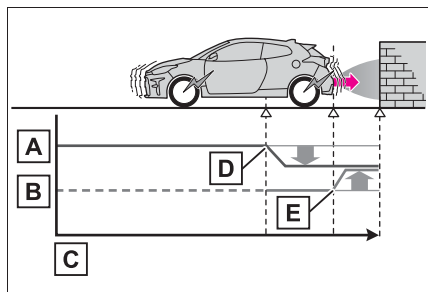
C 時間

● 図2 (エンジン出力抑制制御時)



- A** エンジン出力
- B** 制動力
- C** 時間
- D** エンジン出力抑制制御開始 (作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき)

● 図3 (エンジン出力抑制制御かつブレーキ制御時)



- A** エンジン出力
- B** 制動力
- C** 時間
- D** エンジン出力抑制制御開始 (作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき)

- E** ブレーキ制御開始 (作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき)

知識

■ PKSB (パーキングサポートブレーキ) が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB (パーキングサポートブレーキ) が停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。また、PKSB (パーキングサポートブレーキ) が作動した場合でもブレーキ制御は 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■ PKSB (パーキングサポートブレーキ) の復帰について

システム作動により PKSB (パーキングサポートブレーキ) が停止した場合に、PKSB (パーキングサポートブレーキ) を復帰させたい場合は、再度、PKSB (パーキングサポートブレーキ) を ON に (→P.207) するか、エンジンスイッチをいったん OFF にしてから再度、ON にしてください。また、進行方向の作動対象がなくなった状態で車両を走行させたとき、または車両の進行方向が入れかわった (前進から後退、または後退から前進に切りかえた) ときはシステムが自動的に復帰します。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “パーキングサポートブレーキ 現在使用できません” が表示され、PKSB OFF 表示灯が点灯したときは

- センサー部に水滴・氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの水滴・氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、低温時にはセンサーの凍結など

により異常表示が出たり、作動対象を検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

- センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、センサーが汚れていなくても表示がでるときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

パーキングサポートブレーキ（静止物）★

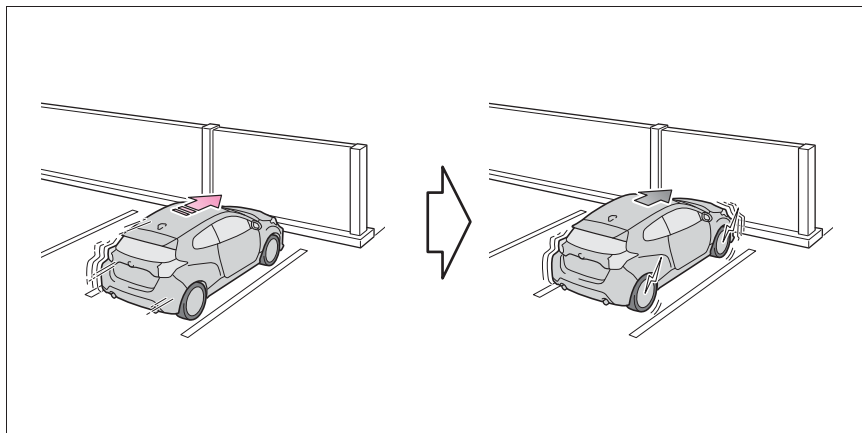
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトレバーの入れ間違いによる発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

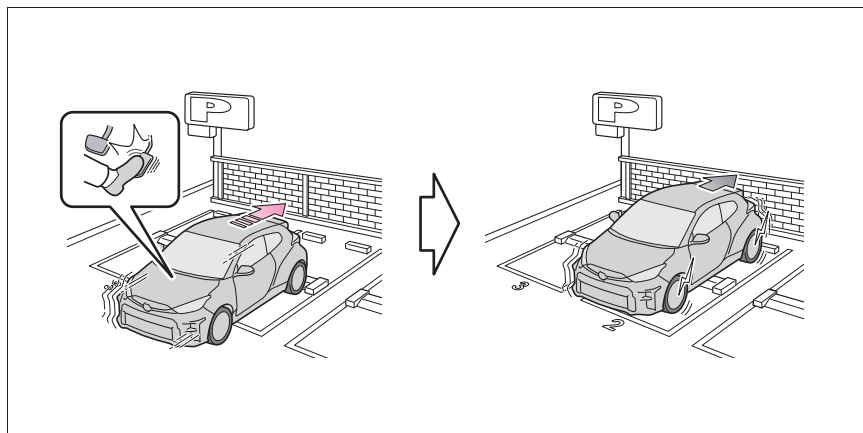
システム作動例

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

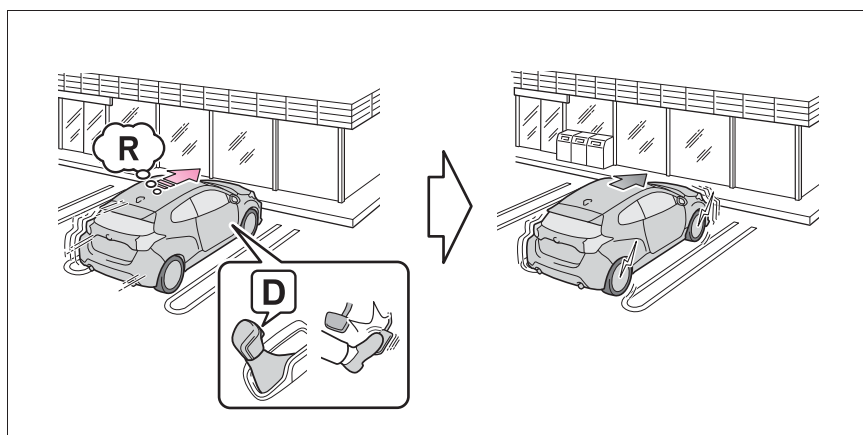
- 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



■ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



■ 誤ってシフトレバーをDに入れ前進してしまったとき



センサーの種類

→P.195

⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために

→P.196

■ 万一、踏切内などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動したときは

→P.209

■ 洗車時の注意

→P.196

📖 知識

■ パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→P.55, 311）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●エンジン出力抑制制御

- ・PKSB（パーキングサポートブレーキ）をON（作動）にしているとき
- ・車速が約15km/h以下
- ・車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約2～4m先まで）
- ・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御

- ・エンジン出力抑制制御作動中
- ・衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●エンジン出力抑制制御

- ・PKSB（パーキングサポートブレーキ）をOFF（非作動）にしたとき
- ・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
- ・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約2～4m先まで）

●ブレーキ制御

- ・PKSB（パーキングサポートブレーキ）をOFF（非作動）にしたとき
- ・ブレーキ制御により車両が停止して約2秒が経過したとき
- ・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
- ・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約2～4m先まで）

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の復帰について

→P.209

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.199）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（静止物）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正しく検知できないことがある静止物

→P.197

■クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーのON/OFFに関係なく（→P.195）、パーキングサポートブレーキ（静止物）を停止させていなければ（→P.207）、前側センサーまたは後側センサーが作動対象を検知してブレーキ制御とエンジン出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象とのおよその距離をお知らせします。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.197

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.198

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★

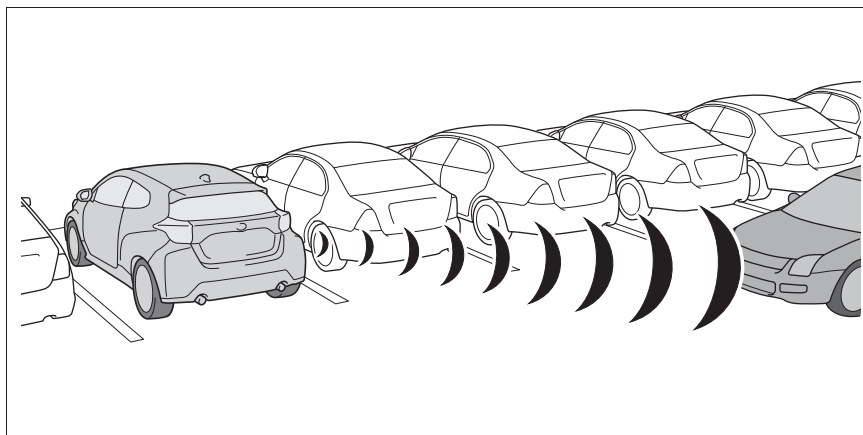
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

- 後退時、近接車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



センサーの種類

→P.191



警告

■ システムを正しく作動させるために

→P.201



知識

- パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅

(→P.55, 311) しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- エンジン出力抑制制御
- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
- ・ 車速が約 15km/h 以下
- ・ 後側方から接近する車両の車速が約 8km/h 以上
- ・ シフトポジションが R のとき
- ・ 後側方からの接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御

- ・ エンジン出力抑制制御作動中
- ・ 接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●エンジン出力抑制制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（作動）にしたとき
- ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
- ・ 自転車側方への接近車両がなくなったとき

●ブレーキ制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（作動）にしたとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
- ・ 自転車側方への接近車両がなくなったとき

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の復帰について

→P.209

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲は、RCTA の検知範囲（→P.202）とは異なります。そのため、RCTA が障害物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）は作動を開始していない場合があります。

■システムが検知しない車両について

→P.203

■RCTA のブザーについて

RCTA 機能の ON/OFF に関係なく（→P.201）、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させていなければ（→P.207）、ブレーキ制御が作動すると、ブザーが鳴り注意喚起をおこないます。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.204

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

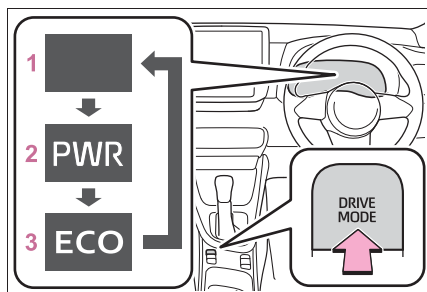
→P.205

ドライブモードセレクトスイッチ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。

走行モードを選択するには



ドライブモードセレクトスイッチを押すたびに、ノーマルモード、パワーモード、エコドライブモードの順で切りかわります。

1 ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスがよく、通常の走行に適しています。

2 パワーモード

トランスミッションとエンジンの制御により、アクセル操作に対する反応を早め、力強い加速が可能です。

パワーモード表示灯が点灯します。

3 エコドライブモード

アクセル操作に対する駆動力を穏やかにすると同時に、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑えます。燃費の向上を意識した走行に適しています。

エコドライブモード表示灯が点灯します。

知識

■エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

●エコ空調モードをOFFにする
(→P.232)

●風量を調整する (→P.231)

●エコドライブモードを解除する

■パワーモードの自動解除

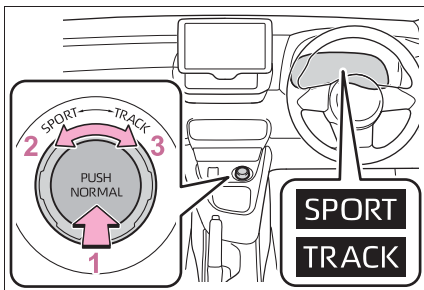
パワーモードを選択して走行後、エンジンスイッチをOFFにすると、自動でノーマルモードにもどります。

AWD モードセレクトスイッチ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

前後の駆動力を制御することで、走行・路面状況に合わせて次のモードを選択できます。

走行モードを選択するには



- 1 ノーマルモード
運動性能のバランスがよく、市街地を走行する場合に適しています。
- ノーマルモード以外のときにスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。
- 2 スポーツモード
駆動力を後輪寄りに制御することで、ハンドル操作によりきびきびした車両挙動となるように制御します。
 - 3 トラックモード
駆動力を4輪で均等に配分することで、アクティブトルクスプリット AWD の性能を最大限に発揮します。サーキットなどでの走行に適しています。

知識

■ スポーツ／トラックモードの自動解除

スポーツ／トラックモードを選択して走行後、エンジンスイッチを OFF にし、再度エンジンスイッチを ON にした場合は、自動でノーマルモードにもどります。

■ エキスパートモードについて

→P.220

★ インタークーラースプレー

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

外気温度の上昇によりインタークーラーの冷却効果が低下したとき、インタークーラーに水を噴射することにより、冷却性能を維持することができます。

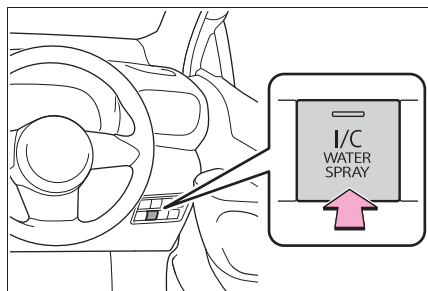
⚠ 注意

■ インタークーラースプレーを使用するときは

タンクの水が凍結した状態で使用すると故障の原因となるおそれがあります。

操作のしかた

スイッチを押すと 5 秒間噴射と 5 秒間停止のサイクルの作動をくり返し 150 秒後に OFF になります。



作動に合わせて作動表示灯が点滅します。

もう一度スイッチを押すと OFF になります。

📖 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ インタークーラースプレータンクの補充

使用前にタンクの水を補充してください。
(→P.269)

⚠ 注意

■ スプレーが噴霧しないときは

スイッチを操作しないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ S-VSC（ステアリングアシストッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPSを協調して制御します。

すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加

速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ アクティブコーナリングアシスト（ACA）★

旋回中に加速しようとするとき、内輪にブレーキ制御を行うことで、車両が外側に膨らむことを抑制します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ アクティブトルクスプリットAWD★

通常走行からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などですべりやすい路面など様々な走行状態に応じて、FF（前輪駆動）走行状態からAWD（4輪駆動）走行状態まで自動的に制御し、安定した操縦性・走行安定性の確保に貢献します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

■ セカンダリーコリジョンブレーキ★

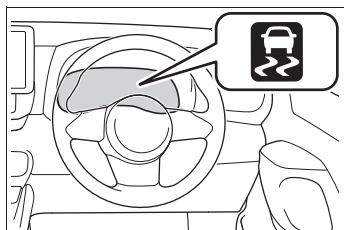
SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ、二次衝突による被害の軽減に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識


■ TRC・VSC が作動しているとき


TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。




■ TRC を停止するには

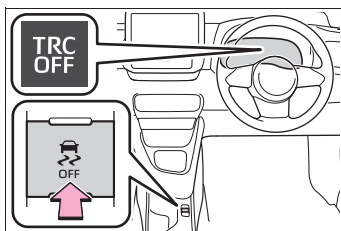
ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには  を押します。

TRC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。




■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に

 を押し 3 秒以上保持する

TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ PCS 装着車は、PCS（プリクラッシュセーフティ）の各機能の作動も停止します。（衝突警報のみ作動可能状態になります。）PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
(→P.162)


■ エキスパートモード（マニュアル車）

エキスパートモードを選択すると、他のドライブモードに比べてよりスポーティな走行が可能となります。TRC と VSC は停止しますが、車両の挙動によってはエンジンおよびブレーキの制御が介入する場合があります。

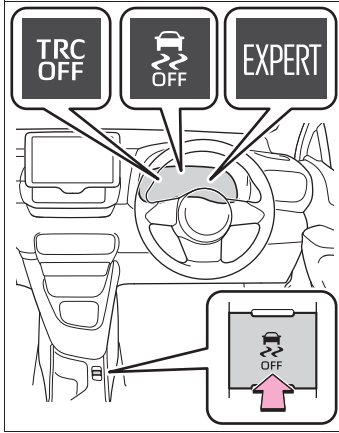
スポーツモードまたはトラックモードの


とき、 を押す




EXPERT 表示灯が点灯し、同時に TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯も点灯します。

もう一度  を押す、またはドライブモードをノーマルモードに切りかえるこ

とでエキスパートモードは解除されます。



- 各走行モード中に  を押した時の TRC・VSC・エキスパートモードの状態

	走行モード	
	ノーマルモード	スポーツモード及びトラックモード
TRC	OFF	OFF
VSC	作動可能状態	OFF
エキスパートモード	OFF	ON
表示灯	—	  

-  を押さなくても TRC OFF 表示灯が

点灯したとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示灯が消灯しない場合はトヨタ販売店にご相談ください。

- ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときにシステムが作動します。

- オートマチック車：シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- マニュアル車：前進での上り坂発進時にシフトレバーの位置が R 以外のとき、または後退での上り坂発進時にシフトレバーの位置が R のとき
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない
- エンジンスイッチが ON のとき

- ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- オートマチック車：シフトレバーを P または N の位置にした
- マニュアル車：前進での上り坂発進時にシフトレバーの位置を R にしたとき、または後退での上り坂発進時にシフトレバーの位置を R 以外にしたとき
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大2秒経過した
- エンジンスイッチを OFF にした

■ ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがあります。異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ ABSの作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ ABSの作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ アクティブコーナリングアシスト★の作動音と振動

アクティブコーナリングアシストが作動したときに、ブレーキシステムから作動音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

- エンジンスイッチを OFF にしたとき
- (TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき

ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■ アクティブコーナリングアシスト★の作動条件

次のときシステムが作動します。

- TRC・VSC が作動可能状態
- 旋回中に加速しようとするとき
- 車両が外側に膨らんでいるとシステムにより判断された
- ブレーキを踏んでいない

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■ 緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだとシステムにより判断された

■ 緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■ セカンダリーコリジョンブレーキ★の作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。

ただし次のいずれかのとき、システムは

作動しません。

- 車速が約 10km/h 未満のとき
- 構成部品が破損したとき
- ★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ セカンダリーコリジョンブレーキ★の自動解除

次のいずれかのとき自動的にシステムが

■ マルチインフォメーションディスプレイに AWD システムに関するメッセージが表示されたとき (AWD 車)

それぞれ、次のように対処してください。

解除されます。

- 車両が約 10km/h 未満になったとき
- 作動して一定時間経過したとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

メッセージ	状況
AWD システム高温 高負荷走行を控えてください	AWD システムが過熱している → 次のように対処してください。 ・ エンジンをかけたまま安全な場所に停車する ※ しばらくして表示が消えれば問題ありません。 表示が消えないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。
AWD システム高温 2WD 走行に切替わりました	過熱のため AWD システムが一時解除され、前輪駆動走行に切りかわった → 次のように対処してください。 ・ エンジンをかけたまま安全な場所に停車する ※ しばらくして表示が消えたら、AWD システムが自動的に復帰します。 表示が消えないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。
AWD システム故障 2WD 走行になります 販売店で点検	AWD システムに異常が発生した → すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※ 停車後は表示が消えるまでエンジンを停止しないでください。



警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき (雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)

- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

警告

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRCやVSCの効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ アクティブコーナリングアシスト★の効果を発揮できないとき

- アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中やすべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。
- アクティブコーナリングアシストが頻繁に作動したときは、ブレーキ・TRC・VSC を正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐車車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ エキスパートモードを選択するとき（マニュアル車）

- 公道では使用しないでください。
- 路面状況や周囲の状況から、十分に安全が確保できるときのみ選択してください。

警告

● エキスパートモード選択時の運転には、高度な運転技能を必要とします。路面状況や車両の安全を常に確認し、通常以上の慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。

（→P.350）

異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■ セカンダリーコリジョンブレーキ★について

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ アクティブトルクスプリットAWDについて（AWD 車）

● ラリー走行などが目的ではなく、一般道での走行安定性の確保を目的とした AWD です。無理な走行はしないでください。

● すべりやすい路面での走行は慎重に行ってください。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備について

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは4輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。

（タイヤについて：→P.270）

知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約0.5～1.0km 走行したら締め直しを行う

警告

■ 冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず4輪とも装着する

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは30km/hのどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LTA（レーントレーシングアシスト）★を使用しない
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 注意

■ タイヤチェーンの使用について

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かししたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

 知識

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードを

お求めください。

- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

 注意

■ ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。

ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するときは

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するときは

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをオートマチック車はP、マニュアル車は下り坂ではR上り坂では1速に入れて駐車し、必ず輪止め^{※1}をしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- オートマチック車：パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと^{※2}を確認してください。
- パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーをPに入れたあとにパーキング

ブレーキを解除してください。
(→P.129)

- ※¹ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。
- ※² ブレーキペダルを踏まないで P からシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

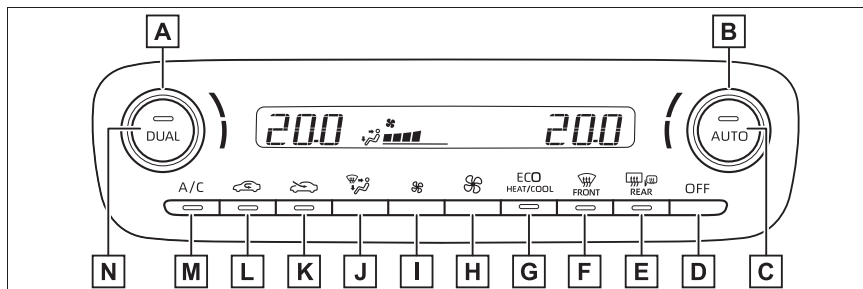
- 5-1. エアコンとデフォグガーの使い方**
- オートエアコン **230**
 - ステアリングヒーター／シートヒーター **235**
- 5-2. 室内灯のつけ方**
- 室内灯一覧 **237**
- 5-3. 収納装備**
- 収納装備一覧 **239**
 - ラゲージルーム内装備 **241**
- 5-4. その他の室内装備の使い方**
- その他の室内装備 **244**

オートエアコン

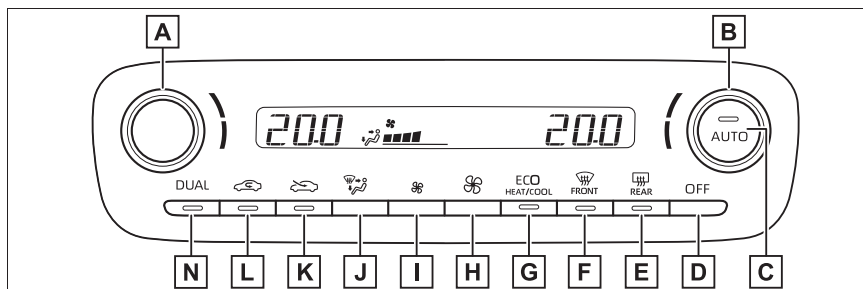
設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて

冷房・除湿スイッチ装着車：



冷房・除湿スイッチ非装着車：



- A** 助手席側温度調節ダイヤル
- B** 運転席側温度調節ダイヤル
- C** AUTO スイッチ
- D** OFF スイッチ
- E** リヤウインドウデフォグラー&ミラーヒータースイッチ★
- F** フロントデフロスタースイッチ
- G** エコ空調スイッチ
- H** 風量増スイッチ

- I** 風量減スイッチ
- J** 吹き出し口切りかえスイッチ
- K** 外気導入スイッチ
- L** 内気循環スイッチ
- M** 冷房・除湿スイッチ★
- N** DUAL スイッチ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 温度を調整する

冷房・除湿スイッチ装着車：設定温度を上げるときは温度調整ダイヤルを右へまわし、下げるときは左へまわす

冷房・除湿スイッチが押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

冷房・除湿スイッチ非装着車：設定温度を上げるときは温度調節ダイヤルを右にまわし、下げるときは左にまわす

送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

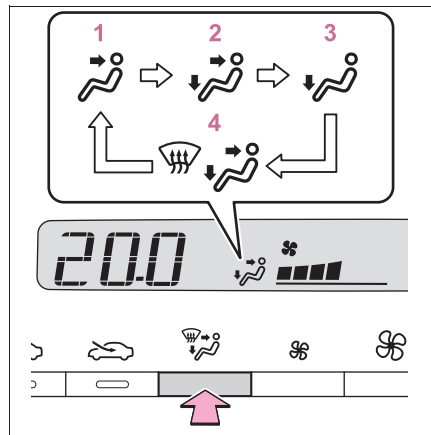
風量を増やすときは風量増スイッチを押し、減らすときは風量減スイッチを押し

OFF スイッチを押すと、ファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを押し

押すたびに次のように吹き出し口が切りかわります。



- 1 上半身に送風
- 2 上半身と足元に送風
- 3 足元に送風
- 4 足元に送風・フロントウィンドウガラスの曇りを取る

■ 内気循環／外気導入を切りかえる

- 内気循環に切りかえるときは、内気循環スイッチを押し

内気循環スイッチの作動表示灯が点灯します。

- 外気導入に切りかえるときは、外気導入スイッチを押し

外気導入スイッチの作動表示灯が点灯し

ます。

■ 冷房・除湿機能★

冷房・除湿スイッチを押す

ON のときは、作動表示灯が点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取る

フロントデフロスタースイッチを押す

冷房・除湿機能★が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。(自動的に外気導入に切りかわることがあります。)

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

フロントデフロスタースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター★

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒータースイッチを押す

リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒータースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エコ空調モード

燃費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます。

エコ空調スイッチを押す

エコ空調モードが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

□ 知識

■ ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、冷房・除湿機能★を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

●冷房・除湿機能★を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度により、自動的に切りかわる場合があります。

■ エコ空調モード

ドライブモードセレクトスイッチのエコドライブモードを選択すると、エコ空調モードが ON になります。(→P.216)

エコドライブモード以外を選択したときは、エコ空調モードが OFF になる場合があります。

■ エコドライブモードのエアコン作動について

●エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のよう

に制御されます。

- ・ エンジン回転数やコンプレッサー★の作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
- ・ オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。
- 空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。
- ・ エコ空調モードを OFF にする (→P.232)
- ・ 風量を調整する
- ・ エコドライブモードを解除する (→P.216)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 外気温度が 0℃ 近くまで下がったとき

冷房・除湿機能を ON にしても冷房・除湿機能が動かない場合があります。

■ 換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。
- 駐車時に自動的に外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生するにおいを緩和します。

■ エアコンフィルターについて

→P.285

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.351)

⚠ 警告

■ フロントウィンドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■ リヤウィンドウデフォッガー&ミラーヒーター★作動中の警告

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

オート設定で使用する

- 1 AUTO スイッチを押す
- 2 温度を設定する
- 3 冷房・除湿スイッチ★を押す
押すたびに冷房・除湿機能の ON/OFF が切りかわります。
- 4 ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

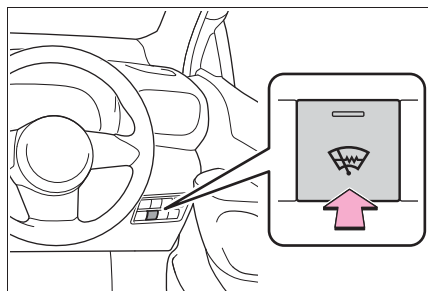
■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

冷房・除湿スイッチ非装着車の場合、オート設定での使用時に FACE 吹き出し口から暖風がでることがあります。

フロントワイパーデアイザー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

フロントワイパーデアイザーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

フロントワイパーデアイザーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

警告

■ ウインドシールドデアイザー作動中の警告

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

- ・ DUAL スイッチを押す
- ・ 助手席の設定温度を変更する

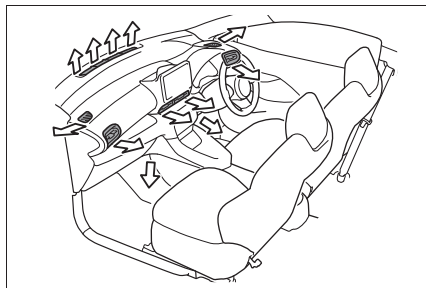
左右独立モードになり作動表示灯が点灯します。

作動表示灯が点灯しているときに DUAL スイッチを押すと、左右独立モードが OFF になり、助手席の設定温度が運転席と同じ設定温度になります。

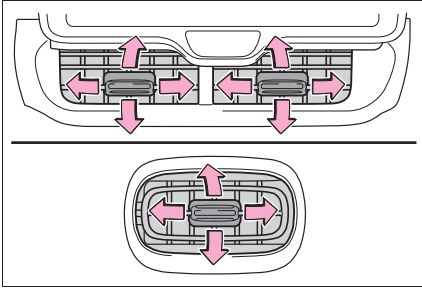
吹き出し口の配置・操作

■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉



ノブを上下左右に動かしてください。

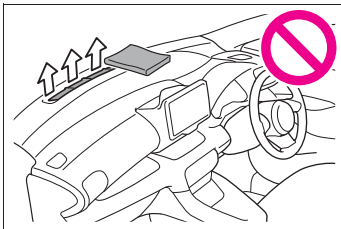
センター吹き出し口：ノブを左側いっぱいまで動かすと吹き出し口を閉じることができます。

サイド吹き出し口：ノブを外側いっぱいまで動かすと吹き出し口を閉じることができます。

⚠ 警告

■ フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために

フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。



ステアリングヒーター★／シートヒーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● ステアリングヒーター

ハンドルの左右のグリップ部を暖めることができます。

● シートヒーター

シートの表面を暖めることができます。

⚠ 警告

■ 低温やけどについて

次の方がステアリングヒーター／シートヒーターにふれないようにご注意ください。

- 乳幼児、お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

⚠ 注意

■ ステアリングヒーター／シートヒーターの損傷を防ぐために

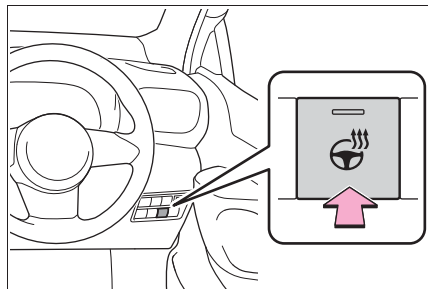
凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で使用しないでください。

ステアリングヒーター

システムの ON/OFF を切り替える
作動中はインジケーターが点灯し
ます。



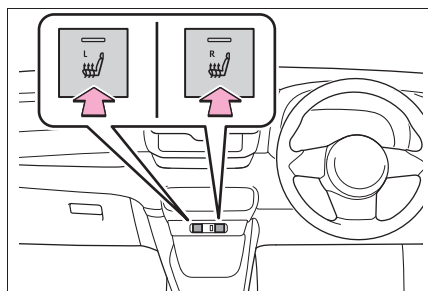
 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

シートヒーター

スイッチを押してシートヒーター
を作動させる



作動中は作動表示灯が点灯します。

作動を停止するときは、スイッチを軽く
押してください。作動表示灯が消灯し
ます。

 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

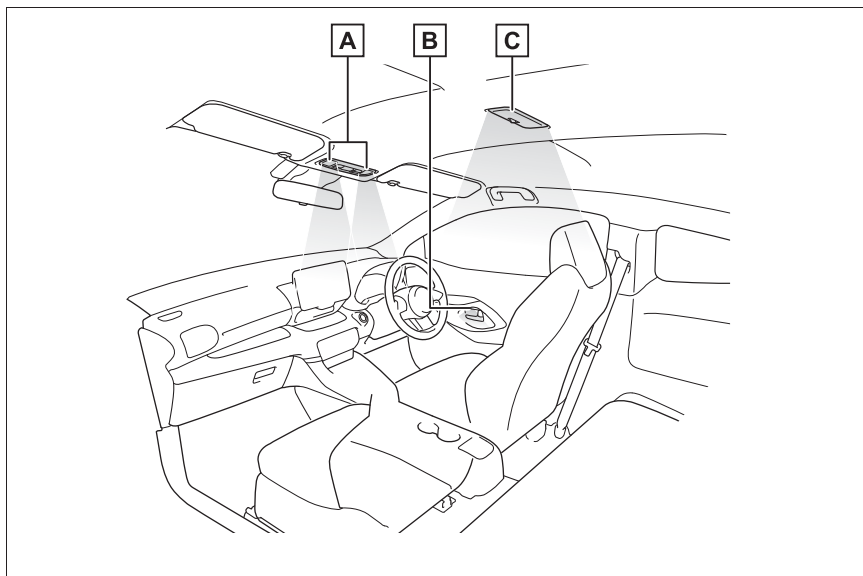
警告

■ 異常加熱や低温やけどを防ぐために
シートヒーターを使用するときは次の
ことをお守りください。

- 長時間連続使用しないでください。
- 毛布・クッションなどを使用しないでください。

室内灯一覧

室内灯の位置



A フロントインテリア／パーソナルランプ (→P.237, 238)

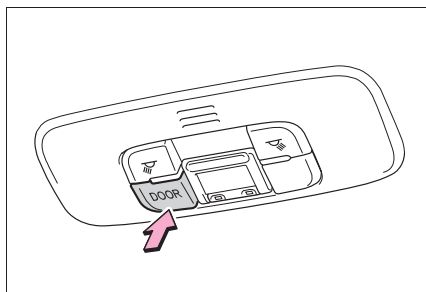
B ドアトリム照明★

C リヤインテリアランプ (→P.238)

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

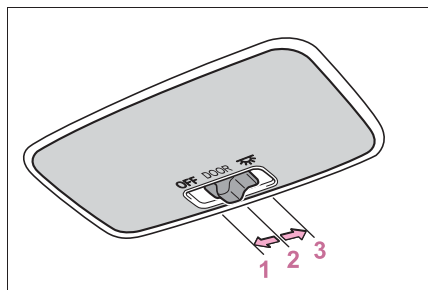
インテリアランプを操作するには

■ フロント



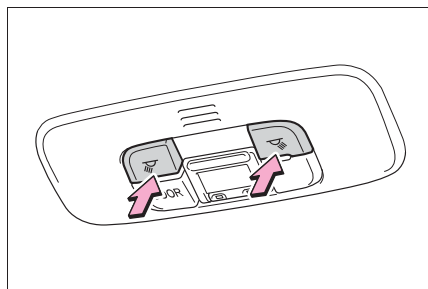
ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる

■ リヤ



- 1 ランプを消灯する
- 2 ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる
- 3 ランプを点灯する

パーソナルランプを操作するには



ランプを点灯・消灯する

□ 知識

■ イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知（スマートエントリー&スタートシステム装着車）・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）により、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンスイッチを OFF にしたときに、室内灯が点灯したままの場合、約 20 分

後に自動消灯します。

■ 室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、2 次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。

（衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります。）

■ カスタマイズ機能

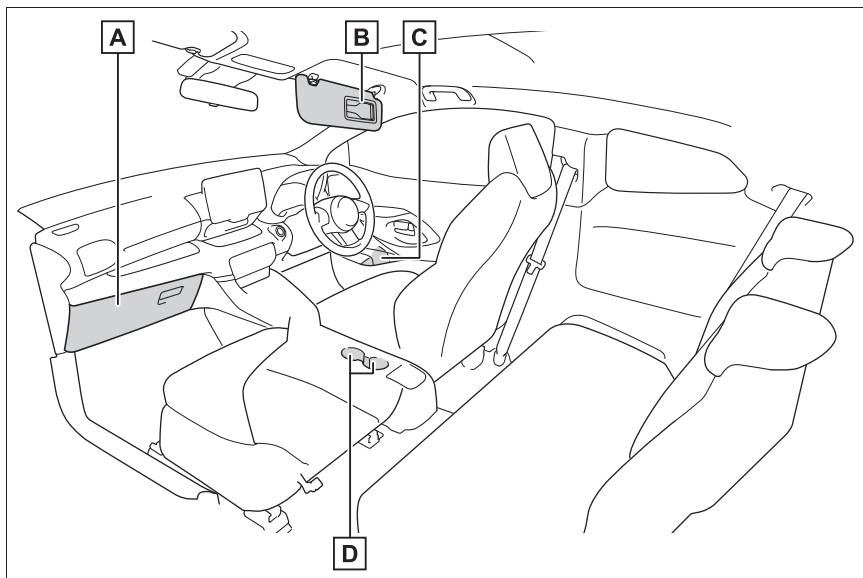
機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.351）

⚠ 注意

- バッテリーあがりを防止するために
エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧

収納装備の位置



- A** グローブボックス (→P.240)
- B** カードホルダー (→P.241)
- C** ボトルホルダー (→P.240)
- D** カップホルダー (→P.240)

警告

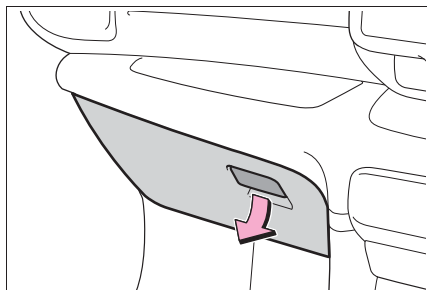
■ 収納装備に放置してはいけないもの
メガネ、ライターやスプレー缶を収納
装備内に放置したままにしないでくだ
さい。

放置したまましていると、次のようなこ
とが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の
収納物との接触などにより、メガネ
が変形やひび割れを起こす

- 室温が高くなったときにライターや
スプレー缶が爆発したり、他の収納
物との接触でライターが着火したり
スプレー缶のガスがもれるなどして
火災につながる

グローブボックス



レバーを引いて開ける

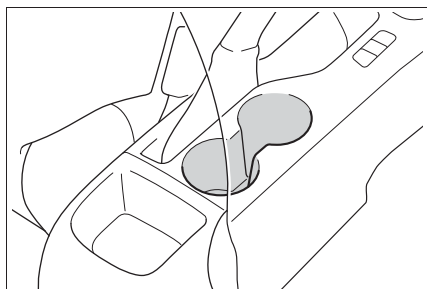
警告

■ 走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダー



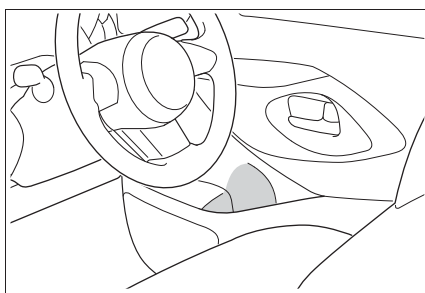
警告

■ 収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。

急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

ボトルホルダー



知識

■ ボトルホルダーについて

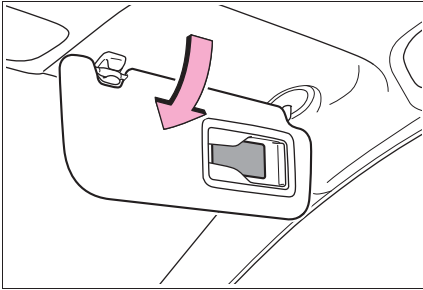
- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

警告

■ 収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

カードホルダー



バイザーを下ろす。

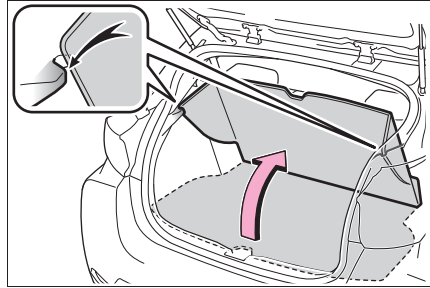
ラゲージルーム内装備

デッキボード★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

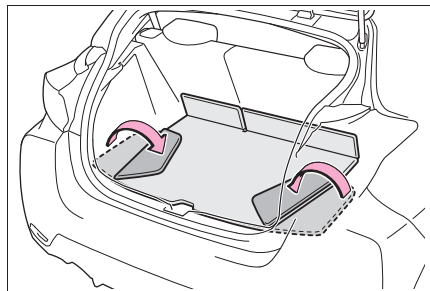
■ デッキボードの開け方

デッキボードを持ち上げる

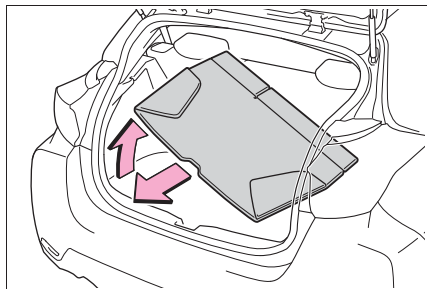


■ デッキボードを取りはずすには

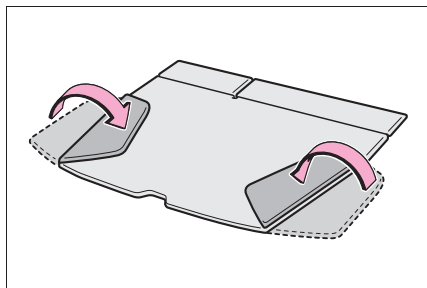
- 1 デッキボードの両端を折りたたむ



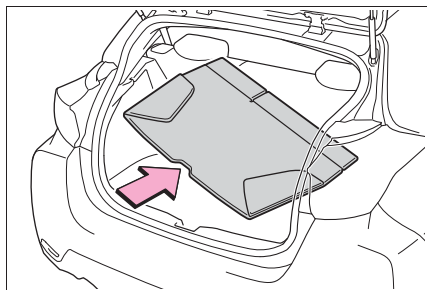
- 2 デッキボードを斜めにして取り外す



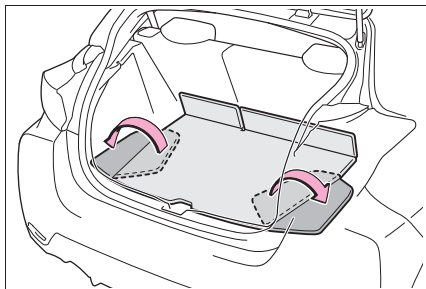
- デッキボードを取り付けるには
1 デッキボードの両端を折りたたむ



- 2 デッキボードを斜めにした状態で車内に入れる

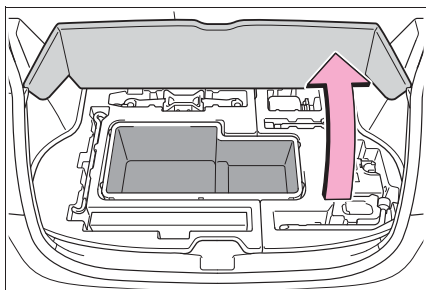


- 3 デッキボードをもとの状態にもどす



デッキアンダートレイを使うには (FF車のみ)

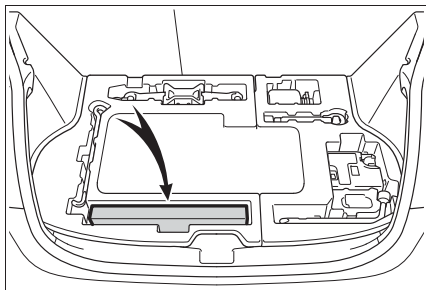
デッキボードを持ち上げる



停止表示板収納スペース

ラゲージルームに停止表示板を収納することができます。

停止表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

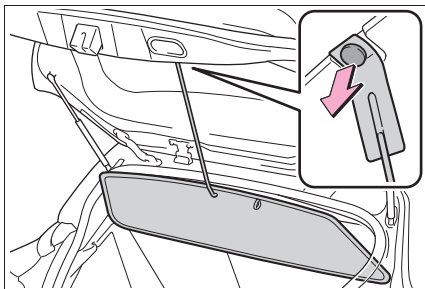


ラゲージカバー★

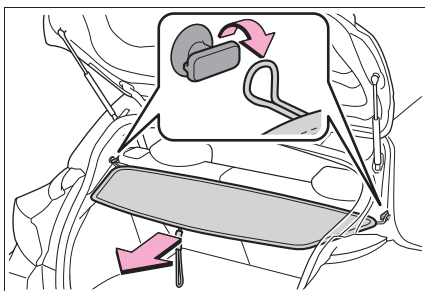
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ラゲージカバーを取りはずすには

1 手前側の止めヒモをはずす



2 奥側の止めヒモをはずす



▲ 警告

■ ラゲージカバーを使用するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- カバーの上に荷物を置いたり、お子さまが乗ったりしないようにしてください。カバーが破損し、荷物が損傷するおそれがあります。

- カバーを操作するときは、カバーとまわりの部品のあいだに指や腕などを入れないように注意してください。指や腕を挟むおそれがあります。
- 正しく止めヒモを付けてください。カバーがはずれて飛んでくるおそれがあります。

▲ 注意

■ ラゲージカバーの損傷を防ぐために

カバーを折りたたんだり過度な力を加えないでください。カバーが損傷する可能性があります。

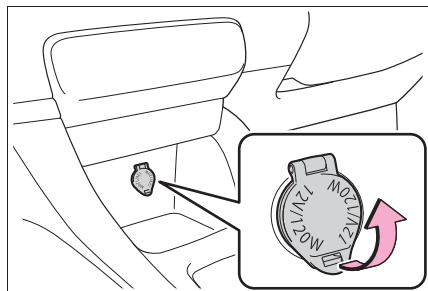
その他の室内装備

アクセサリソケットを使うには

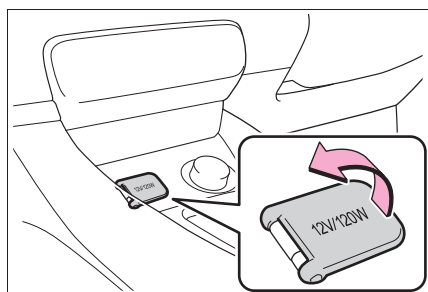
DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する

▶ タイプ A



▶ タイプ B



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

■ エンジンスイッチを OFF にするとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。

接続したままにしておくと、エンジンスイッチを正常に OFF することができなく

なる場合があります。

⚠ 注意

■ ヒューズが切れるのを防ぐために

DC12V/10A（消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

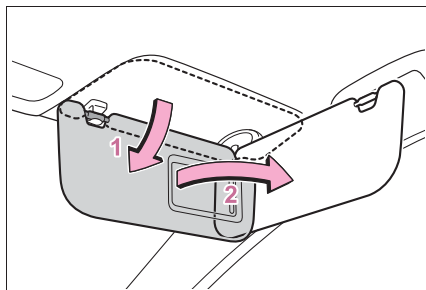
■ ショートや故障を防ぐために

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態でアクセサリソケットを長時間使用しないでください。

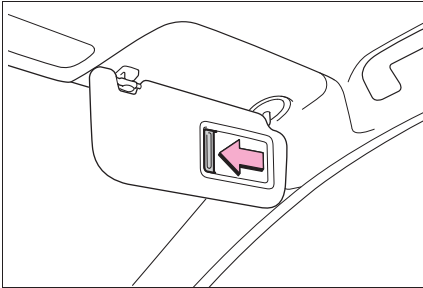
サンバイザーを使うには



- 1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- 2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラーを使うには

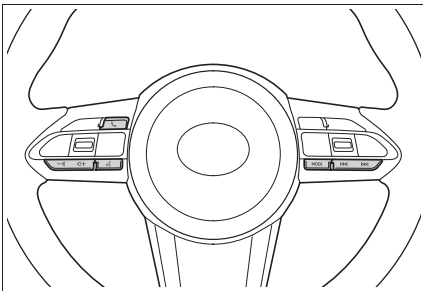
カバーをスライドして開ける



ステアリングスイッチ

ハンドルにあるスイッチで、オーディオや、ナビゲーションシステムを操作することができます。

装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の取り扱い説明書をご覧ください。



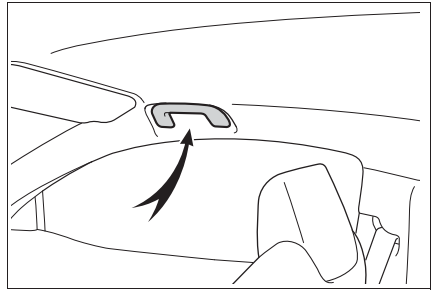
警告

■ 運転中の操作について

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



警告

■ アシストグリップについて

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がる時などに使用しないでください。

注意

■ 破損を防ぐために

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ..... 248

内装の手入れ..... 252

6-2. マットクリア塗装のお手入れのしかた

マットクリア塗装とは（カーボン
ルーフ [マーブル柄] 装着車）..... 255

洗車のしかた（カーボンルーフ [
マーブル柄] 装着車）..... 259

よくあるご質問（カーボンルーフ [
マーブル柄] 装着車）..... 262

6-3. 簡単な点検・部品交換

ボンネット..... 266

ガレージジャッキ..... 268

ウォッシュ液の補充..... 269

インタークーラー Spre タンクの
補充..... 269

タイヤについて..... 270

タイヤの交換..... 280

タイヤ空気圧について..... 284

エアコンフィルターの交換..... 285

キーの電池交換..... 287

ヒューズの点検・交換..... 290

電球（バルブ）の交換..... 292

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスをかけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。

詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■ 自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。

- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり破損したりするおそれがあります。

■ 高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■ 洗車などで車に水をかけたとき（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- 電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P.85）
- **ホイール・ホイールキャップについて**
- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・ 硬いブラシを使用しない
 - ・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ ドアガラスの撥水コーティング★について

- 撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。
 - ・ ドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
 - ・ 汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
 - ・ コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
 - ・ 金属製の道具で霜取りをしない
- 水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。

詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ メッキ部品のお手入れについて★

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- 中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る
- 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ルーフフィルムの取り扱いについて★

- カーボン調フィルム貼付け部にルーフキャリアを取り付けしないでください。フィルムが破損する恐れがあります。
- 自動洗車機や高圧洗車機（50℃以下）を使用することができます。ただし、フィルム端部への高圧洗車機の使用はしないでください。フィルムが剥がれるおそれがあります。
- 90℃以上の熱水を直接かけたりしない

てください。フィルムが剥がれやすくなるおそれがあります。

- カーシャンプーなどの洗剤を使用する場合は、研磨剤を含んでいない中性洗剤を使用してください。
 - 固形ワックスなどを使用した場合、フィルム表面の凹凸にワックスの固形物が残留し、外観を損なうことがあります。フィルム表面の凹凸に固形ワックスなどが残留した場合、柔らかいブラシを使用して取り除いてください。
 - 鳥のふん、オイルなどが付着した場合、速やかに中性洗剤などを使用してふき取ることを推奨します。
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ブレーキキャリパーの塗装について（AWD車）

- 洗剤を使用する場合は中性洗剤を使用してください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- ブレーキキャリパーが熱いときは洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■ ブレーキパッドやディスクローターについて（AWD車）

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。

洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

▲ 警告

■ 洗車をするとき

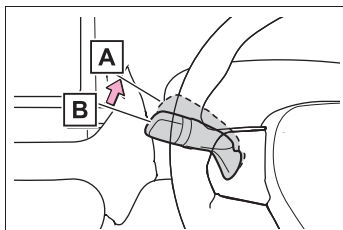
エンジンルーム内に水をかけないでください。

電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあります。

警告

■ フロントウインドウガラスを清掃するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



A OFF

B AUTO

● 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき

● 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき

● フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき

● 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ ブラインドスポットモニター★について

リヤバンパーの塗装に傷がつくと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

● 次のような場合は、ただちに洗車してください。

・ 海岸地帯を走行したあと

・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと

・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき

・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降が多い場所を走行したあと

・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき

・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

● 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

● ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

 注意**■ 自動洗車機を使用するとき（雨滴感知式ワイパー装着車）**

ワイパースイッチを OFF にしてください。

AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■ ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。

ランプを損傷させるおそれがあります。

- ランプにワックスがけを行わないでください。

レンズを損傷するおそれがあります。

■ 高圧洗浄機を使用するときは

- 洗浄時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。

高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

- エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。
- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近づけすぎないでください。

高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

- ・ 駆動系部品
- ・ ステアリング部品
- ・ サスペンション部品
- ・ ブレーキ部品

- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

室内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る



知識

■ カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■ スーパー UV カットガラスについて★

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■ 車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。

電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。
(→P.28)

電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストールメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストールメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまざまに妨げるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

- ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
- ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤

 注意

- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。

インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ フロントウィンドウガラスの内側を掃除するときは (Toyota Safety Sense 装着車)

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。(→P.147)

■ リヤウィンドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

サテン仕上げ金属コーティング部分の手入れをするには

- 水で湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

 知識

■ サテン仕上げ金属コーティング部分のお手入れについて

表面に本物の金属層を使用していますので、普段のお手入れが大切です。汚れたまま長い間放置すると、汚れが落ちにくくなります。

■ 本革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を水で約 5%に薄めて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

 知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

 注意

■ 革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする

特に夏場は日陰で車を保管する

 注意

- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

合成皮革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

マットクリア塗装とは (カーボンルーフ [マーブ ル柄] 装着車)

自動車の塗装は、耐久性や仕上がりを目的として数層の重ね塗りが施されています。そのうち最も表面にあたるのがクリア塗装です。

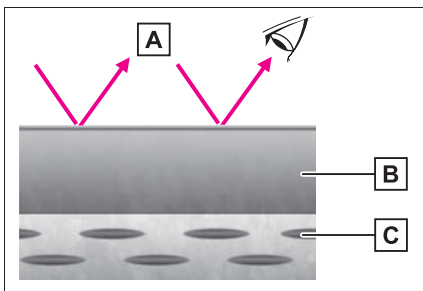
一般的なクリア塗装は塗装面に艶を出して見栄えを良くする役割がありますが、マットクリア塗装はその艶を出さないようにすることで、独特の質感を表現しています。

この質感を少しでも長く保つためには、日常のお手入れや保管のしかたに気を配る必要があります。

一般的なクリア塗装とマットクリア塗装の構造の違い

▶ 一般的なクリア塗装

● 断面

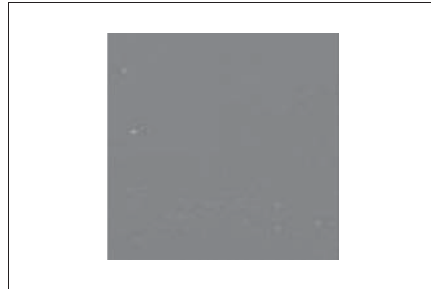


A 光

B クリア

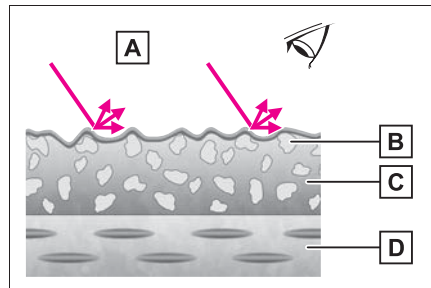
C ベース

● 表面の拡大画像



▶ マットクリア塗装

● 断面



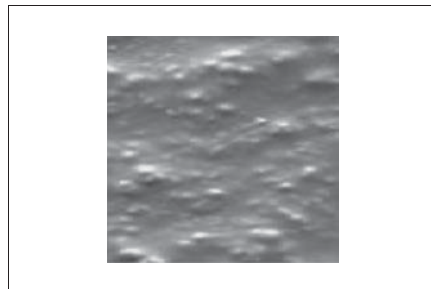
A 光

B 艶消し剤

C クリア

D ベース

● 表面の拡大画像



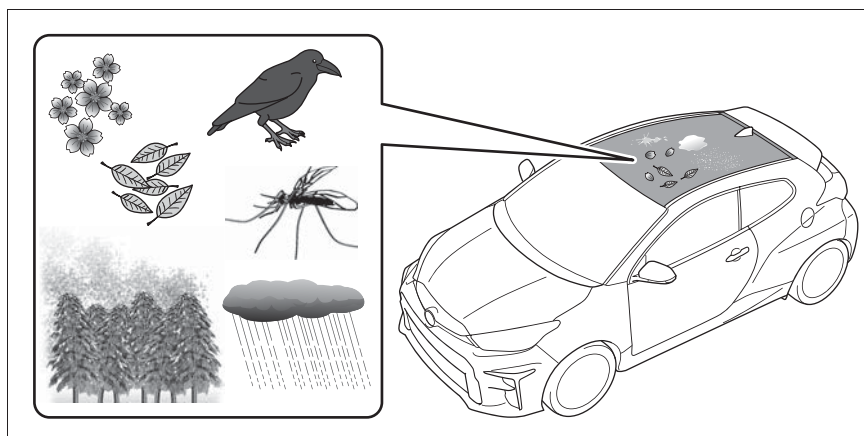
イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

私たちが艶のあり／なしを感じるのは、物の表面に反射して私たちの目に入る光の量が関係しています。

一般的なクリア塗装は表面が平らで滑らかになっています。平らな面に当たった光は、鏡に当たった光のように一方向に正反射する量が多いため、目に入る光の量は多くなります。そのため、私たちの目には車のボデーに艶があるように映ります。

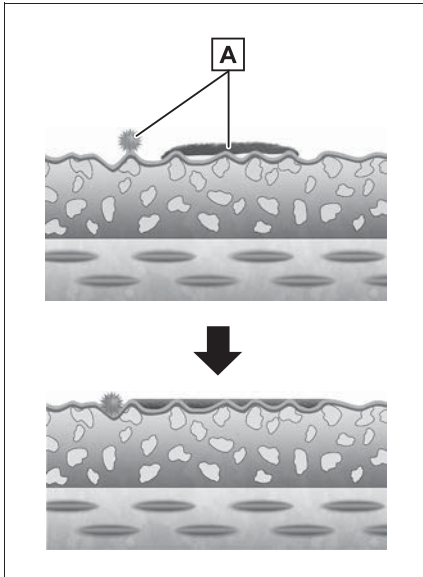
マットクリア塗装は、クリア塗料に艶消し剤を添加して表面に細かな凹凸をつけています。凹凸な面に当たった光はいろいろな方向に拡散して反射するため、目に入る光の量は少なくなります。この効果によって、マットクリア塗装が施されたボデーは艶が消えたように見える独特の質感を表現しています。

マットクリア塗装のお手入れについて



お車の塗装表面に汚れが付着した場合は速やかに洗車してください。

(洗車のしかた →P.259)



A 汚れ

表面に細かな凹凸があるため、一般的なクリア塗装よりもマットクリア塗装は汚れが付着しやすくなります。

そのまま放置すると、付着した汚れは塗装表面の隙間に入り込んでしまい落としにくくなります。また、凹凸のある塗装表面が平らに近づくことで艶が出てしまい、マットな質感が損なわれます。

そのため、こまめに洗車して、汚れたままにしておかないようにする必要があります。

通常の洗車で落ちない汚れを、マットな質感を損なわずに落とすためには、汚れを塗装表面ごと削り落とした後、部品全体を再塗装する必要があります。

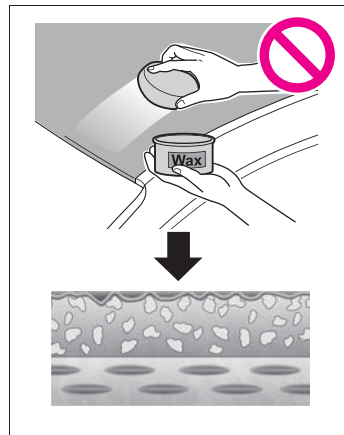
詳細はトヨタ販売店へご相談ください。

知識

■ 落としにくい汚れ

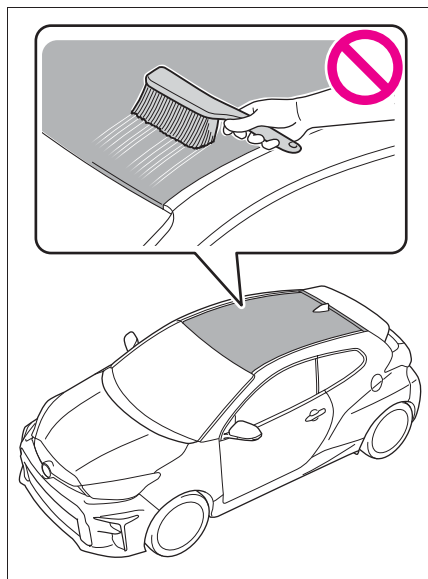
次のような汚れは落としにくくなるおそれがあるため、付着した場合は速やかに洗車することをおすすめします。

- 雨水、海水
 - 砂ぼこり、花粉、火山灰
 - 虫の死骸、鳥のふん
 - 樹液、落ち葉、花びら
 - 泥、雪、凍結防止剤
 - ガソリン、オイル、アスファルト
- ワックスやコーティング剤の使用はしないでください



ワックスやコーティング剤は塗装を保護する被膜を形成します。マットクリア塗装では、この被膜が塗装表面の凹凸を埋めてしまいます。その結果、凹凸のある塗装表面が平らに近づくことで表面に艶が出てしまい、マットな質感が損なわれるおそれがあります。

キズの補修について



普段から塗装面に傷をつけないよう十分にご注意ください。

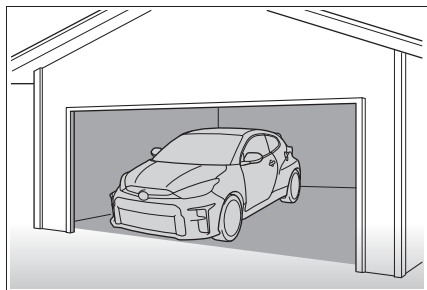
一般的なクリア塗装では、細かな傷を補修するために塗装表面を研磨したり、タッチアップペイントで塗装したりします。

マットクリア塗装では、そういった方法で傷を補修すると塗装表面の凹凸が削られたり埋められたりして塗装表面に艶が出てしまい、マットな質感が損なわれるおそれがあります。

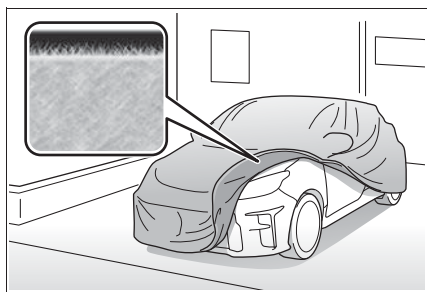
マットな質感を損なわずに傷を補修するには、部品全体を再塗装する必要があります。

日頃の駐車場所について

- 車の塗装は紫外線や雨などの影響で自然に劣化します。少しでも長く塗装面を良好な状態に保つために、直射日光や雨風、地面からの湿気を遮ることができる舗装された車庫に駐車されることをおすすめします。



- カーカバーを使用する場合は、内側の素材が塗装面を傷付けにくいもの（起毛、不織布など）をお選びください。カーカバーをお使いになる場合でも、地面からの湿気を遮ることができる舗装された場所に駐車されることをおすすめします。



知識

■ カーカバーの使用について

- お車のサイズに適合するカーカバーを使用してください。詳しくは購入された商品のメーカーにお問い合わせください。
- 駐車場所に応じて適切なカーカバーを使用してください。詳しくは購入された商品のメーカーにお問い合わせください。
- 天候やお車の状態によって、カーカバーの使用方法は異なります。使用方法を誤ると、かえって塗装に悪影響を与えたり、塗装面に傷が付いたりするおそれがあります。購入された商品に付属の取扱説明書をよくお読みになって正しく使用してください。

洗車のしかた（カーボンルーフ [マーブル柄] 装着車）

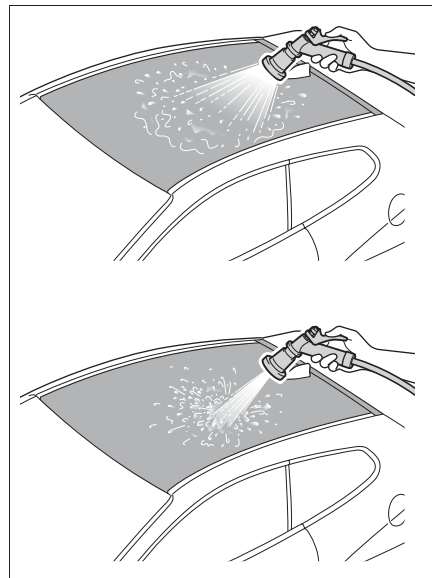
塗装面を損なわないようにするため、手洗いによる水のみでの洗車をおすすめします。

洗車のしかた

- 1 車体表面の砂やほこりを、十分に水をかけて車体の上から下へ洗い流す

洗い流した部分に汚れが飛び散るのを防ぐため、タイヤなど足回り部品がひどく汚れている場合は、先に足回りの汚れを洗い流します。

目立った汚れが落ちずに残っている場合は、ホースやシャワーノズルを近づけて、やや強めの水圧で押し流します。



- 2 十分に水をかけながら、柔らかいセーム皮で車体を軽くふく

手順 1 同様に車体の上から順に汚れを落とすとしていきます。

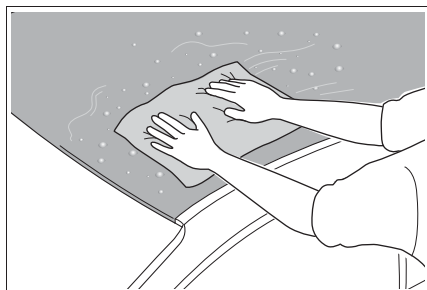
落ちない汚れがある場合 (→P.260)



3 車体を強くこすらないように気をつけながら、別の柔らかいセーム皮で車体表面の水滴をふき取る

水滴が乾く前に速やかにふき取ってください。

水洗いを使用したセーム皮をふき取りに使用しないでください。



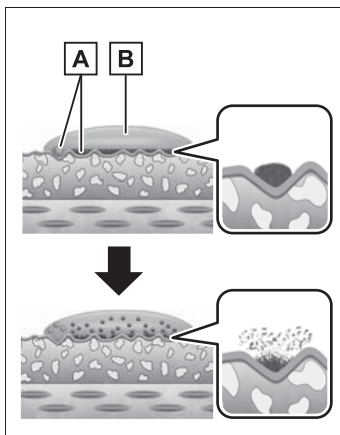
□ 知識

■ 通常の水洗いで落ちない汚れがある場合

● 水垢

塗装面に付着した雨水や水道水が自然乾燥すると、雨水に溶け込んでいた汚れや水道水に含まれるミネラル分が塗装面に固着します。そのまま放置するとそれら含有物が塗装表面の凸凹の隙間に入り込んでしまうため、通常の水洗いで落ち

なくなってしまいます。



A 含有物

B クエン酸

この場合は精製水に混ぜたクエン酸を使います。

クエン酸と精製水の割合

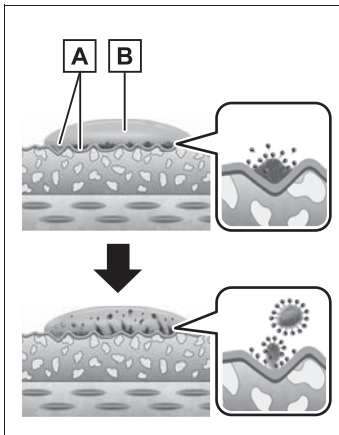
クエン酸 (粉末) : 5 ~ 10g (小さじ 1 ~ 2 杯)

精製水 : 200ml

クエン酸を柔らかいセーム皮に十分染み込ませ、含有物につけます。クエン酸の働きによって含有物が溶け出すのを待ち、車体を強くこすらないように気をつけながら、セーム皮で軽く数回をふきます。その後、十分な水で速やかに含有物とクエン酸を洗い流します。

● 虫の死骸、鳥のふん、油汚れ

これらの汚れを放置すると、タンパク質や油分などの含有物が塗装表面の凸凹の隙間に入り込んでしまうため、通常の水洗いで落ちなくなってしまいます。



A 含有物

B 中性洗剤

この場合は希釈した中性洗剤を使います。

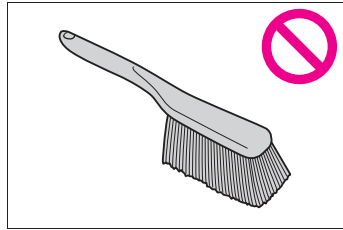
中性洗剤を水に入れてよく混ぜます。柔らかいセーム皮にその洗剤液を十分染み込ませ、含有物につけます。中性洗剤の働きによって汚れが浮き出すのを待ち、車体を強くこすらないように気をつけながら、セーム皮で軽く数回汚れをふきます。その後、十分な水で速やかに含有物と洗剤液を洗い流します。

 注意

■ 塗装面の傷付きやマットな質感の低下を防ぐために

次の注意をお守りください。
お守りいただかないと、塗装面に傷が付いたり艶が出てマットな質感を損なったりするおそれがあります。

● 洗車ブラシを使用しない



● 塗装面を強くこすらない

● 電動ポリッシャーを使用しない

● コンパウンド（研磨剤）を使用しない

● アルカリ性（弱アルカリ性を含む）洗剤を使用しない

● 塗装面にステッカーやラッピングフィルムなどを貼り付けない

● マグネット式の標識などを塗装面に貼り付ける前に、貼り付け箇所の砂やほこりを十分に洗い流し、完全に水滴をふき取る

よくあるご質問（カーボンルーフ [マーブル柄] 装着車）

マットクリア塗装に関する疑問や質問について、Q&A形式でまとめてあります。

洗車について

■ 洗車全般（→P.259）

Q	A
洗車してもいいですか？	汚れが付着したらただちに洗車してください。
こまめに洗車したほうがいいですか？	
どうやって洗車したらいいですか？	水とセーム皮を使用して手洗いしてください。
洗車時に気をつけることはありますか？	まずは水で車両全体を上から順にしっかりと洗い流してください。
自動洗車機を使用してもいいですか？	使用しないでください。
高圧洗浄機を使用してもいいですか？	

■ 汚れが付着したら（→P.256）

Q：次のような物質が付着した場合、どのように対処すればいいですか？

物質	A
落ち葉、花びら、小枝	ただちに取り除いてください。車体に傷が付くおそれがあります。また、汚れや樹液が固着して取れなくなり、マットな質感を損なうだけでなく、塗装そのものを傷めるおそれがあります。
鳥のふん、虫の死骸	ただちに水で洗い流してください。水洗いで落ちない場合は、中性洗剤を使用してください。汚れを放置すると固着して取れなくなり、マットな質感を損なうだけでなく、塗装そのものを傷めるおそれがあります。
花粉、砂ぼこり	
油汚れ	
水垢	精製水に混ぜたクエン酸を使用してください。
アスファルト汚れ（ピッチタール）	通常の洗車では取り除くことができません。 コンパウンド（研磨剤）等を使用しないでください。 マットな質感を損なうおそれがあります。

物質	A
ガラス用撥水コーティング剤	ただちにふき取ってください。 成分によっては、ふき取ってもマットな質感を損なうおそれがあります。
ガラス用油膜取り	
タイヤクリーナー	
ガンリン	
オイル	
ウォッシャー液	

■ 洗車用品について (→P.259)

Q	A
カーシャンプーを使用して もいいですか？	中性のカーシャンプーを使用してください。 使用後はしっかりと水で洗い流してください。 アルカリ性のカーシャンプーは使用しないでください。 マットな質感を損なうおそれがあります。
家庭用中性洗剤を使用して もいいですか？	カーシャンプーのように水で薄めて使用してください。 使用後はしっかりと水で洗い流してください。
何を使って汚れをふき取れ ばいいですか？	柔らかいセーム皮を使用してください。
何を使って水滴をふき取れ ばいいですか？	
水アカ取りを使用して もいいですか？	おすすめできません。 特にアルカリ性の製品や研磨剤が含まれている製品を使用しないでください。マットな質感を損なうおそれがあります。
ワックスやコーティング剤 を使用してもいいですか？	使用しないでください。
鉄粉除去剤を使用して もいいですか？	マットな質感を損なうおそれがあります。
ピッチクリーナーを使用し てもいいですか？	使用しないでください。 塗装そのものを損なうおそれがあります。
マットクリア塗装専用ク リーナー/ワックスを使用 してもいいですか？	おすすめできません。 マットクリア塗装本来の質感に影響が出るおそれがあります。

Q	A
トヨタ純正の洗車用品はありますか？	ありません。 量販店で柔らかいセーム皮と、必要に応じて中性洗剤、クエン酸、精製水をお買い求めください。
市販品でおすすめの洗車用品ブランドはありますか？	特に指定はありません。 量販店で柔らかいセーム皮と、必要に応じて中性洗剤、クエン酸、精製水をお買い求めください。

■ ボディーコーティングについて

Q	A
トヨタ販売店でコーティングは施工可能ですか？	施工できません。 マットな質感を損なうおそれがあります。
市販業者によるコーティングは施工可能ですか？	おすすめできません。 マットな質感を損なうおそれがあります。
市販業者によるマット塗装専用コーティングは施工可能ですか？	おすすめできません。 マットクリア塗装本来の質感に影響が出るおそれがあります。

■ 補修について (→P.258)

Q	A
塗装面に付いた傷は補修できますか？	マットな質感を損なわずに補修するには、部品全体を再塗装する必要があります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
コンパウンド（研磨剤）を使用してもいいですか？	使用しないで下さい。 マットな質感を損なうおそれがあります。
タッチアップペイントを使用してもいいですか？	マットな質感を損なわずに補修するには、部品全体を再塗装する必要があります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

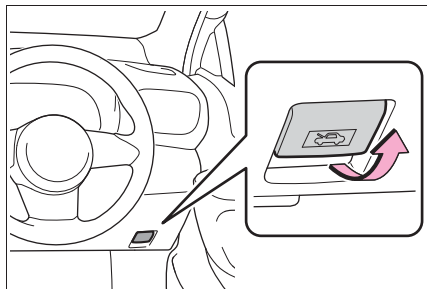
■ アクセサリー他

Q	A
車体にステッカーやラッピングフィルムなどを貼り付けてもいいですか？	貼り付けないでください。 傷が付くだけでなく、はがした際にマットな質感を損なうおそれがあります。
車体にマグネット式の標識などを付けてもいいですか？	貼り付け箇所の砂やほこりを水で十分に洗い流し、水滴をふき取ってから付けてください。

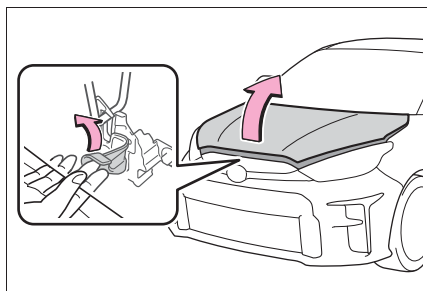
ボンネット

ボンネットを開けるには

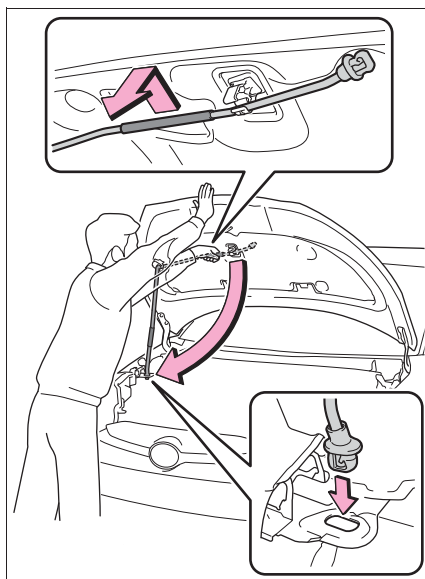
- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを左方向に押し、ボンネットを開ける



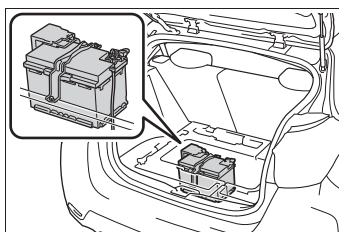
- 3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む



知識

■バッテリーについて (AWD車)

この車両のバッテリーは、ラゲージルーム（中央）のデッキボード下であり、エンジンルームには搭載されていません。バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→P.331）



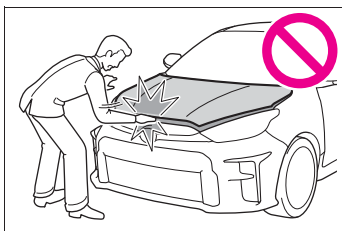
警告**■ 走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。

ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ けがを防ぐために

走行後のボンネットステーは高温になっています。熱くなったボンネットステーにさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。

重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットステーをステー穴に挿し込んだあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく挿し込まれているか確認してください。

注意**■ ボンネットへの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。ボンネットステーが挿し込まれた状態で閉めると、ボンネットが損傷するおそれがあります。

ガレージジャッキ

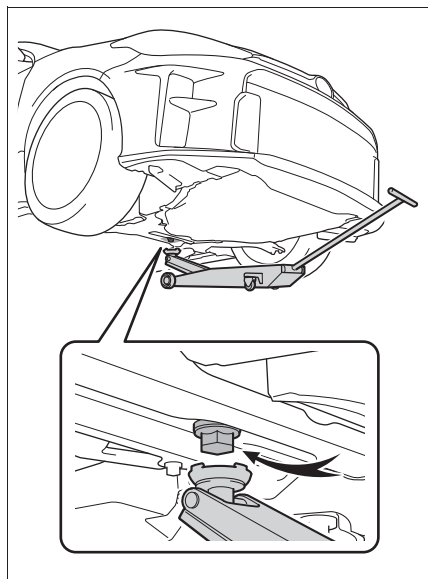
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをすることがあります。

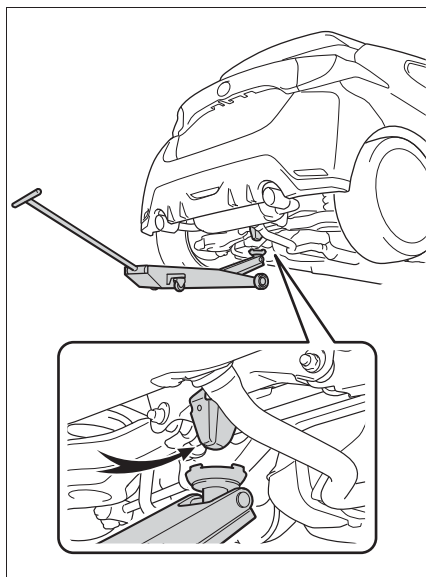
ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側

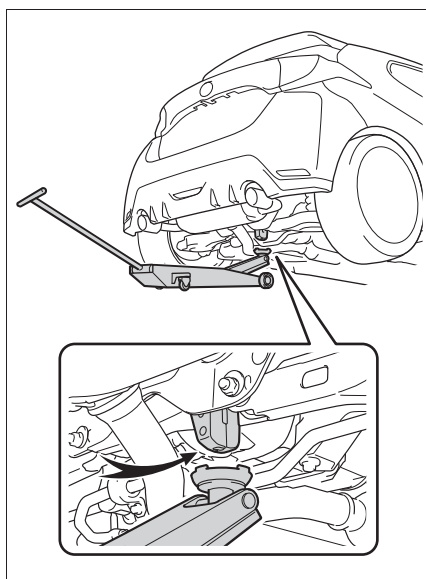


■ リヤ側

▶ FF 車



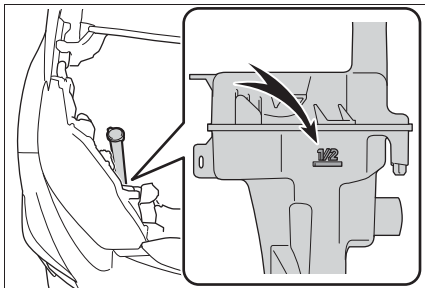
▶ AWD 車



ウォッシャー液の補充

補充するには

液面が 1/2 の位置に近づいたらウォッシャー液を補給してください。



警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあります。

注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

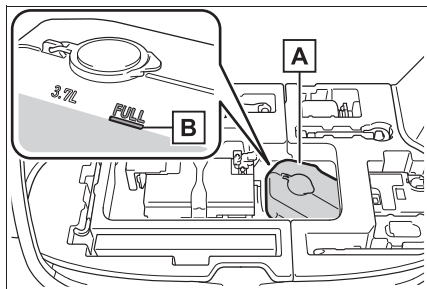
インタークーラースプレータンク★の補充

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

インタークーラースプレー使用前にインタークーラースプレータンクの水を補充してください。

補充するには

- 1 デッキボードを持ち上げる (→P.241)
- 2 タンクの蓋をあけて水道水をFULLの位置まで補給してください。



A インタークーラースプレータンク

B FULL

警告

■ 補充する水について

エンジン不凍液、ウォッシャー液またはアルコールなどの可燃性の液体を入れないでください。

 注意

■ インタークーラーズプレー水について

FULL 位置以上に補充しないでください。

補充時にこぼした水は拭き取ってください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000kmごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

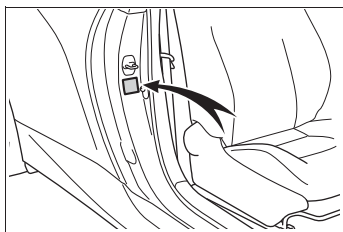
● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

 知識

■ タイヤ空気圧について

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 低扁平タイヤについて

雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

■ 低扁平タイヤの空気圧点検

低扁平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2週間に1回（最低でも1ヶ月に1回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

■ タイヤのバルブについて

タイヤを交換するときは、バルブに変形・亀裂・損傷がないか点検してください。

⚠ 警告

■ 点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない

- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない

- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない

以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

■ 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■ タイヤ交換時の注意

- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。

ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。

またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。

オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

警告**異常があるホイールの使用禁止**

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。

走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意**低扁平タイヤについて**

低扁平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことに注意してください。

適切なタイヤ空気圧で使用する

空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。

段差や凹凸のある路面、路上に空いた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける

タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

走行中に空気もれが起ったら

走行を続けしないでください。

タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

悪路走行に対する注意

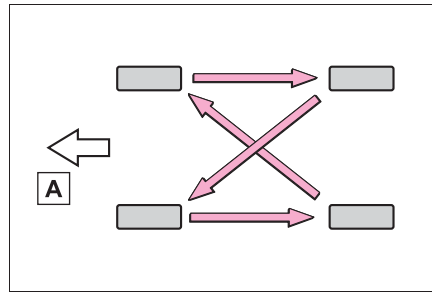
段差や凹凸のある路上を走行するときには注意してください。

タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

**A 前側****タイヤ空気圧警報システム★**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

このシステムは状況に応じてマルチインフォメーションディスプレイで2種類の警報とブザーでお知らせをします。

● “空気圧を調整してください”が表示されたとき

通常の使用によって、タイヤの空気圧が低下した場合に表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。

- “すみやかに安全な場所でタイヤ点検”が表示されたとき

急激にタイヤの空気圧が低下した場合には表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。

ただし、このシステムはパンク等を検出することができない場合があります。

- タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

表示される単位を変更することができます。




■ 単位の切りかえかた

- 1 車を安全な場所に駐車し、エンジンを停止する。

車両が動いているときは、単位の切りかえができません。

- 2 エンジンスイッチを ON にする

- 3 メーター操作スイッチの </> を押して  を選択する

- 4 メーター操作スイッチの ^/ v を押して “車両設定” を選択し、OK スイッチを押す

- 5 メーター操作スイッチの ^/ v を押して “TPWS 設定” を選択し、OK スイッチを押す

- 6 メーター操作スイッチの ^/ v を押して “単位設定” を選択し、OK スイッチを押す

- 7 メーター操作スイッチの ^/ v を押して好みの単位を選択し、OK スイッチを押す

知識

■ タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。

日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■ タイヤ空気圧表示について

- エンジンスイッチを ON にしたあと、空気圧が表示されるまで 2、3 分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで 2、3 分かかります。

- タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■ タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

- 次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。
 - ・ 純正ホイール以外を使用したとき
 - ・ 純正装着タイヤ以外に交換したとき

- ・ 指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
 - ・ タイヤチェーンなどを装着しているとき
 - ・ 電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
 - ・ 車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
 - ・ タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
 - ・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
 - ・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機のIDがタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき
- 次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。
- ・ 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
 - ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。

- 停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。
- タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、検出できません。

■ タイヤ空気圧警報システムの警報精度について

タイヤ空気圧警報システムの警報精度は、システムを初期化したときの状況によって異なります。このため、空気圧がわずかに低下している場合や、初期化したときより高い空気圧の場合でも警報するこ

とがあります。

空気圧バルブ／送信機の装着について（タイヤ空気圧警報システム装着車）

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

バルブ／送信機を装着する場合は、専用のIDコードをコンピューターに登録する必要があります。（→P.277）

□ 知識

■ ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機のIDコードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約10分走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅、その後点灯します。

▲ 注意

■ タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

- タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、トヨタ販売店へご相談ください。
- トヨタ指定の純正ホイールを使用してください。
トヨタ指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。

 注意

- ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。
- バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが腐食し、固着やエア漏れの原因となります。
- バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■ タイヤパンク応急修理キットを使用したときは

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

タイヤ空気圧警報システムを初期化するには（タイヤ空気圧警報システム装着車）
■ 初期化が必要なとき

- タイヤローテーションを実施したとき
 - タイヤサイズの変更をしたとき
 - 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき
 - ID コードの登録を実施したとき
- システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。


■ 初期化のしかた

- 1 車を安全な場所に駐車し、15分以上エンジンを停止する。
- 2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する

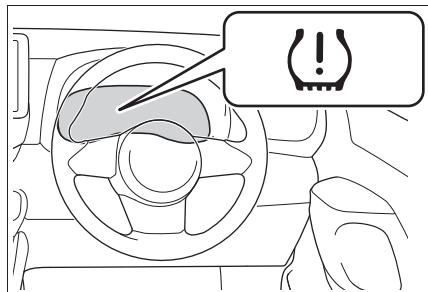
タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

- 3 エンジンを始動する。
(→P.114, 115)

車両が動いているときは、初期化できません。

- 4 メーター操作スイッチの </> を押して  を選択する
- 5 メーター操作スイッチの ^/ v を押して “車両設定” を選択し、OK スイッチを押す
- 6 メーター操作スイッチの ^/ v を押して “TPWS 設定” を選択し、OK スイッチを押す
- 7 “空気圧設定” を選択し、タイヤ空気圧警告灯が3回点滅するまで OK スイッチを押し続ける

タイヤ空気圧警報システム設定中のメッセージが表示され、初期化を開始します。初期化中はマルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が“---”になります。



8 約 40km/h 以上で適度に右左折や直進をしながら約 10～30 分走行する

約 40km/h 以上を維持できない場合でも長時間運転すると初期化は完了しますが、1 時間以上走行しても初期化ができない場合は、エンジンスイッチは ON のまま、安全な場所に約 15 分以上停車したあと、再度走行し直して下さい。

(→P.278)

知識

■初期化するときは

- 通常は約 30 分以内の走行で初期化が完了します。
- 車速が約 40km/h 以上のときに行われます。
- 必ず指定空気圧に調整した上で初期化してください。
なお、空気圧の調整および初期化操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。
- タイヤ空気圧警報システムはお客様自身で初期化することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで初期化されますが、走行条件や走行環境によっては、初期化が完了す

るまでに時間がかかる場合があります。

■初期化操作について

- 初期化中にエンジンスイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON にしたとき、自動的に初期化処理が再開されるため、あらためて初期化し直す必要はありません。
- 初期化の必要がない状態で誤って初期化操作を行ってしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度初期化操作を行ってください。
- タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

■タイヤ空気圧警報システムの初期化がうまくいかないとき

- 次の場合は、初期化に時間がかかる場合や、初期化できない場合があります。
 - ・ 約 40km/h 以上で走行していない
 - ・ 未舗装の場所を走行した

1 時間以上走行しても初期化できない場合は、安全な場所に約 15 分以上停車したあと、再度走行し直してください。

- 初期化中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。
- 初期化操作時に警告灯が3回点滅しない場合、初期化されていないおそれがありますので、初期化手順を最初からやり直してください。
- 上記の方法でも初期化できない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■ タイヤ空気圧警報システムを初期化するとき

必ず指定空気圧に調整してから初期化操作をしてください。お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

ID コードを登録するには (タイヤ空気圧警報システム装着車)

■ ID コード登録が必要なとき


● 新しいバルブ／送信機を装着したとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有のID コードが設定されているため、車両のコンピューターにID コードを登録する必要があります。

■ ID コード登録のしかた

- 1 車を安全な場所に駐車し、15分以上エンジンを停止する
- 2 エンジンを始動する (→P.114, 115)

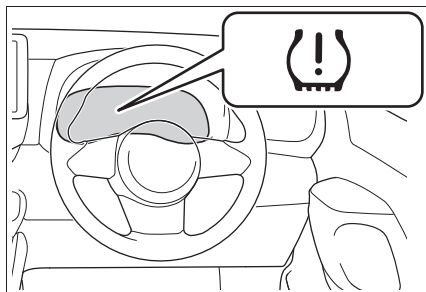
車両が動いているときは、ID コード登録操作ができません。

- 3 メーター操作スイッチの **◀** または **▶** を押して  を選択する
- 4 **▲** または **▼** を押して “車両設定” を選択し、OK を押す
- 5 **▲** または **▼** を押して “TPWS設定” を選択し、OK を押す

- 6 **▲** または **▼** を押して “センサID/位置登録” を選択し、タイヤ空気圧警告灯がゆっくり3回点滅を開始するまでOK を押し続ける

ID コード登録中のメッセージが表示され、登録を開始します。

ID コードの登録が開始すると、タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅したあと点灯します。また、登録中はマルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が “---” になります。



- 7 約40km/h以上で適度に右左折や直進をしながら約10～30分走行する。

登録が完了すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにタイヤ空気圧が表示されます。

信号待ちで停車時間が長くなる場合など、走行条件によっては、登録に約1時間以上かかる場合があります。(→P.278)

- 8 タイヤ空気圧警報システムを初期化する (→P.275)

知識

■ ID コードの登録をするときは

- 通常は約 30 分以内の走行で登録が完了します。すでに ID コードの登録がされているタイヤセットを使用する場合は、ID 切りかえ (→P.278) を行うと短い時間で切りかえることができます。
- ID コードの登録は、車速が約 40km/h 以上のときに行われます。
- 登録操作を行う前に、車両の近くにタイヤ空気圧バルブ/送信機を装着したホイールがないことを確認してください。
- ID コードの登録をしたあとに初期化を行ってください。ID コードの登録前に初期化すると、初期化が無効になります。
- ID コードの登録が完了したあとは、走行によりタイヤが熱くなっているためタイヤが十分に冷えたあとで初期化操作を行ってください。
- ID コードはお客様自身で登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■ ID コード登録の中止について

- ID コードの登録を中止するには、マルチインフォメーションディスプレイで“センサ ID / 位置登録”を再度選択してください。(→P.277)
- ID コードの登録を中止した場合、次回エンジンスイッチを ON にしたとき、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅した後点灯します。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動できるようになると、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

- しばらく待ってもタイヤ空気圧警告灯が消灯しないときは、ID コードの登録が正常に中止できていないおそれがあります。正しく中止するためには、再度 ID コードの登録操作を初めから行い、走行する前にエンジンスイッチを OFF にしてください。

■ ID コードの登録がうまくいかないとき

- 次の場合は、ID コードの登録に時間がかかる場合や、登録できない場合があります。
 - ・ 走行前に約 15 分以上駐車していない
 - ・ 約 40km/h 以上で走行していない
 - ・ 未舗装の場所を走行した
 - ・ 他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
 - ・ タイヤ空気圧バルブ/送信機を装着したホイールが車内や車両の近くにある
- 1 時間以上走行しても登録できない場合は、ID コードの登録手順を最初からやり直してください。
- 登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。
- 登録操作時に警告灯がゆっくり3回点滅しない場合、ID コードが登録されていないおそれがありますので、登録手順を最初からやり直してください。
- 上記の方法でも ID コードを登録できない場合はトヨタ販売店にご依頼ください。

タイヤ空気圧警報システムの ID コードを切りかえるには (タイヤ空気圧警報システム装着車)

この車両は 2 セット分の ID コードを登録することができるタイヤ空気圧警報システムが備わっています。

通常使用するタイヤと冬用タイヤ


の2セットを登録しておくとは便利です。

IDコードの登録は、トヨタ販売店で行ってください。

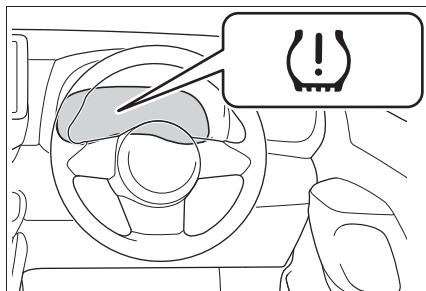
■ 作動条件

- この機能は2セット目のタイヤを登録してある場合のみ、切りかえをすることができます。2セット目のタイヤが登録されていない場合、マルチインフォメーションディスプレイで“センサ ID / 位置登録”を選択し2分待機してもID切りかえはできません。
- IDコードを登録したときのセットでタイヤの交換をしたときのみ切りかえをすることができます。他のセットのIDコードを混在させた場合は作動しません。

■ IDコードの切りかえかた

- 切りかえをしたいタイヤセットに交換をする。
- メーター操作スイッチの **</>** を押して  を選択する
- メーター操作スイッチの **^/** **v** を押して “車両設定” を選択し、OKスイッチを押す
- メーター操作スイッチの **^/** **v** を押して “TPWS 設定” を選択し、OKスイッチを押す
- メーター操作スイッチの **^/** **v** を押して “センサ ID/ 位置

登録”を選択し、タイヤ空気圧警告灯がゆっくり3回点滅を開始するまでOKスイッチを押し続ける。
その後、1分間点滅した後に点灯します。



約2分後に2セット目のIDコードの登録が完了しタイヤ空気圧警告灯が消灯します。

6 タイヤ空気圧警報システムを初期化する (→P.275)

取り付けたタイヤの空気圧が異なる場合、初期化が必要になりますが、同じ空気圧に設定されている場合は、初期化の必要はありません。

- 約40km/h以上で適度に右左折や直進をしながら約10～30分走行する。

2セット目の登録が完了すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにタイヤ空気圧が表示されます。

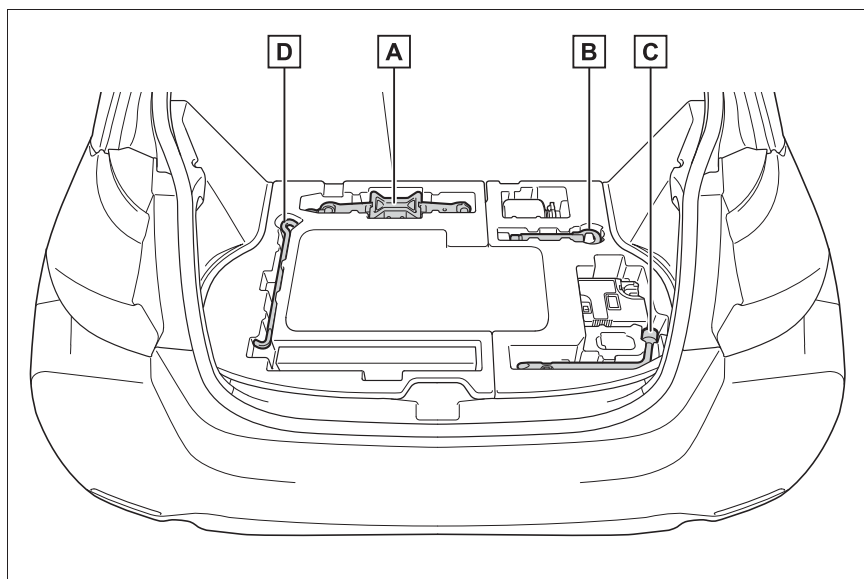
タイヤの交換

搭載されているジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキをセットしてください。正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをR（マニュアル車）またはP（オートマチック車）に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→P.297）

工具とジャッキ位置



- A** ジャッキ ※
- B** けん引フック
- C** ホイールナットレンチ ※
- D** ジャッキハンドル ※

※ ジャッキ・ジャッキハンドル・ホイールナットレンチは搭載されていません。トヨタ販売店で購入することができます。

警告

■ ジャッキの使用について

次のことをお守りください。

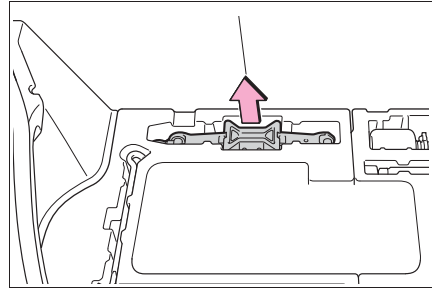
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- ジャッキはタイヤ交換以外の目的で使用しない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキの取り出し方

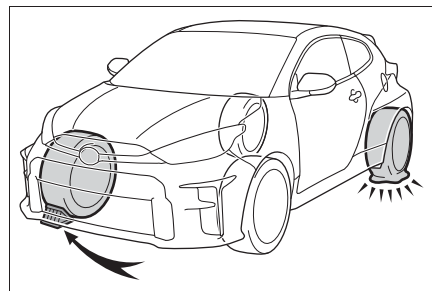
- 1 デッキボードを持ち上げる
(→P.241)

2 ジャッキを取り出す



タイヤの取りはずし

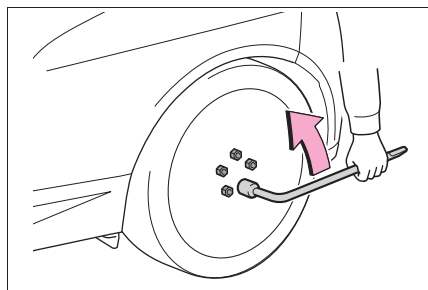
1 輪止め※をする



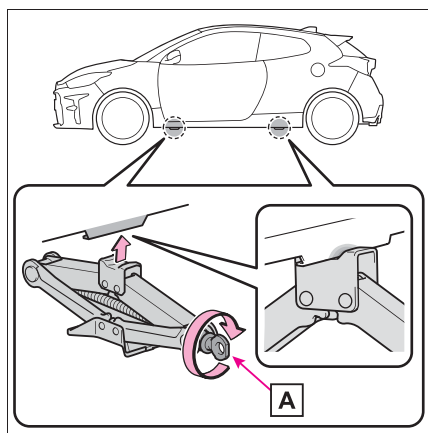
交換するタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪後ろ
	右側	左側後輪後ろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます

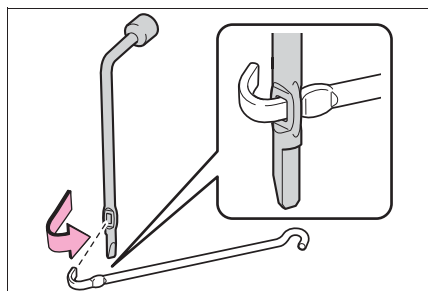
- 2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



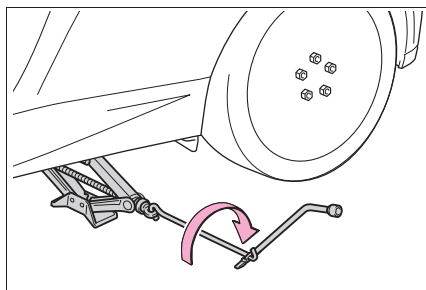
- 3 ジャッキの[A]部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける



- 4 ホイールナットレンチをジャッキハンドルに組み付ける

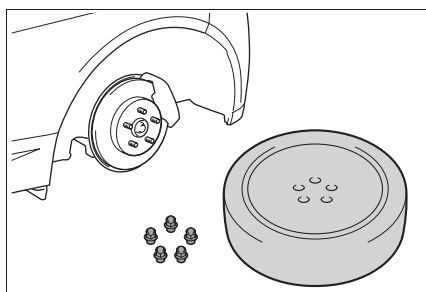


- 5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体をあげる



- 6 ナットをすべて取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



警告

■ タイヤ交換について

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。

走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

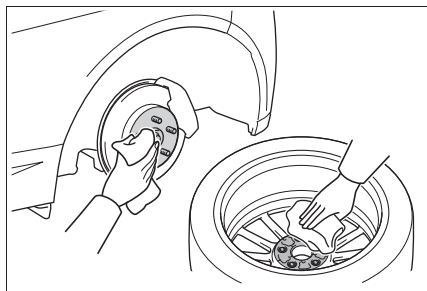
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

- ・ ホイールの交換後は、すぐに $103\text{N} \cdot \text{m}$ ($1050\text{kgf} \cdot \text{cm}$) の力でナットを締める
- ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
- ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける

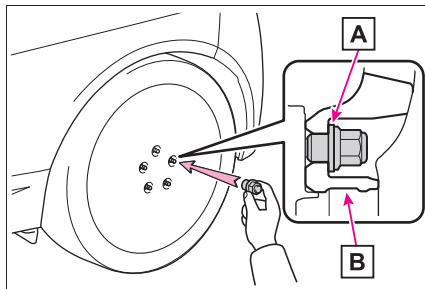
タイヤの取り付け

- 1** ホイール接地面、ボルトやナットのねじ部、ナットのテーパ部などの汚れや異物を取り除く
ホイール接地面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。



- 2** タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする
ナットの座面がホイールにあたるまでま

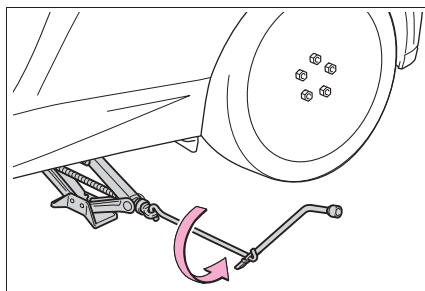
わす



A 座金

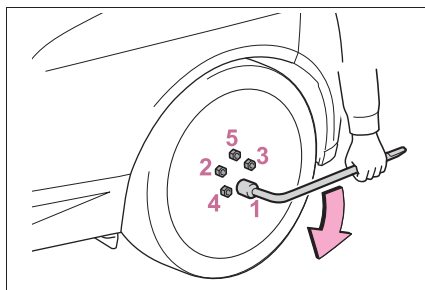
B ホイール

- 3** 車体を下げる



- 4** 図の番号順ナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
 $103\text{N} \cdot \text{m}$ ($1050\text{kg} \cdot \text{cm}$)



- 5** すべての工具・ジャッキを収納する

 知識■ **タイヤ交換をしたあとは**

タイヤ空気圧警報システムの初期化が必要です。(→P.275)

 **警告**■ **ジャッキや工具を使用したあとは**

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に1回以上実施してください。低扁平タイヤの場合、2週間に1回、または長距離ドライブの前には必ず空気圧を点検してください。(→P.350)

 知識■ **タイヤ空気圧が適正でない場合**

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 安全性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ **タイヤ空気圧の点検のしかた**

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
 - タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
- タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
 - 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■ タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大（路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

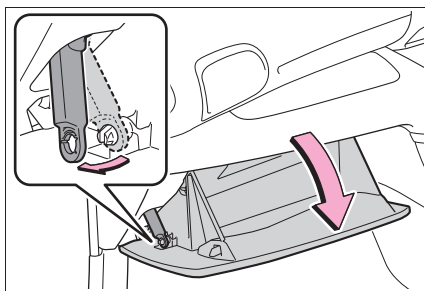
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

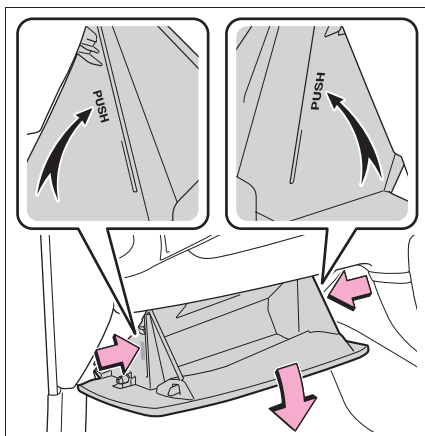
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換するには

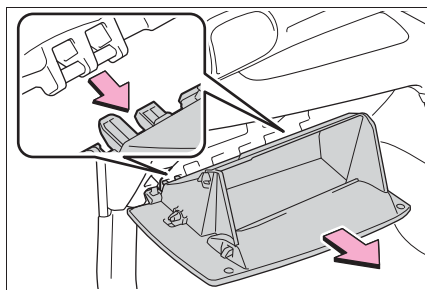
- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンを外す



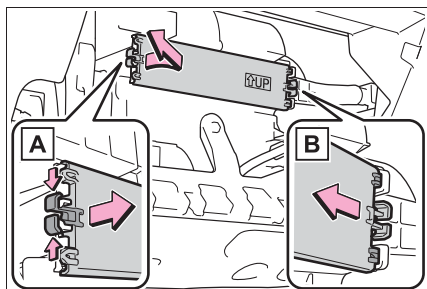
- 3 グローブボックス側面を内側に押し、上部のツメを片側ずつはずす



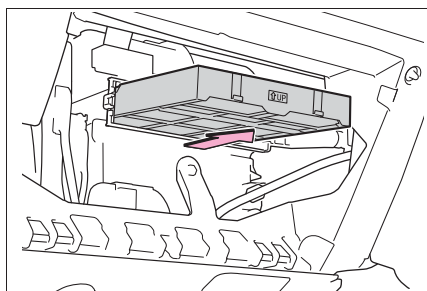
- 4 下部のツメをはずして取りはずす



- 5 フィルターカバーのロックをはずし (A)、ツメからフィルターカバーを抜き (B)、フィルターカバーを取りはずす



- 6 フィルター (タイプ A) またはフィルターケース (タイプ B) を取りはずす



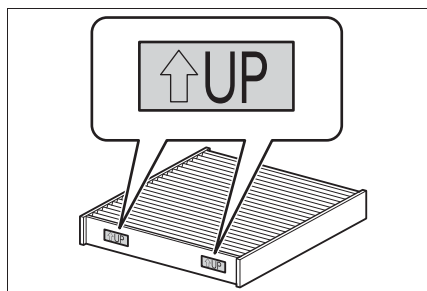
- 7 新しいフィルターと交換する

“↑ UP” マークの矢印が上を向くよう

に取り付けます。

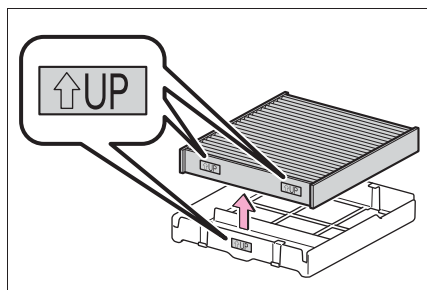
- ▶ タイプ A

フィルターを交換する



- ▶ タイプ B

フィルターをフィルターケースから取りはずして交換する



知識

■ エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

15000km [7500km^{*1}] ごと、ただし 12ヶ月をこえないこと^{*2}

^{*1} 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

^{*2} 芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりましたらフィルターを交換してください。

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

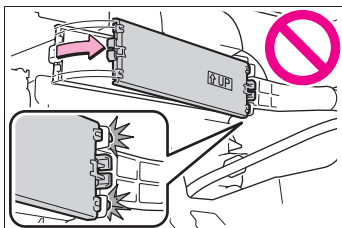
⚠ 注意

■ エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■ フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーのロックをはずすときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力がかからないように注意してください。ツメが破損するおそれがあります。



キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

電池はご自身で交換できますが、部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

□ 知識

■ キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

事前に準備するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池
 - ・ CR2032 (スマートエントリー&スタートシステム非装着車)
 - ・ CR2450 (スマートエントリー&スタートシステム装着車)

□ 知識

■ リチウム電池 CR2032、CR2450 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

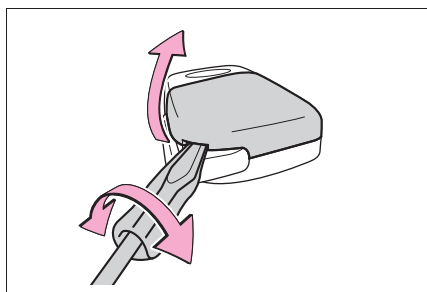
電池を交換するには

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

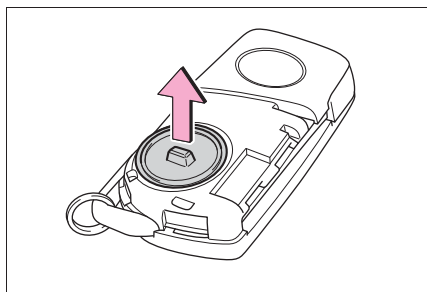
1 キーカバーをははずす

適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。無理にこじった場合、カバーが変形するおそれがあります。

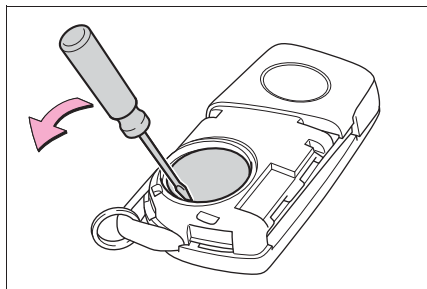
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



2 バッテリーカバーをははずす



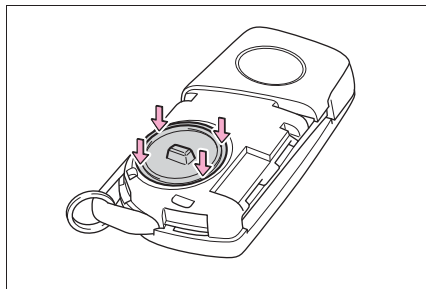
3 消耗した電池を取り出す



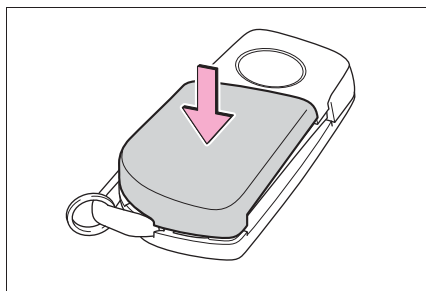
新しい電池は、+極を上にして取り付けます。



電池をははず際は、適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。

4 バッテリーカバーを取り付ける



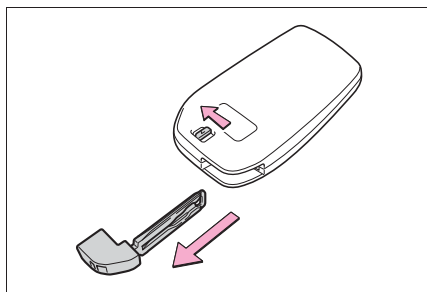
5 キーカバーを取り付ける



- 6 ボタン ( または ) を操作して、ドアが施錠または解錠されることを確認する

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

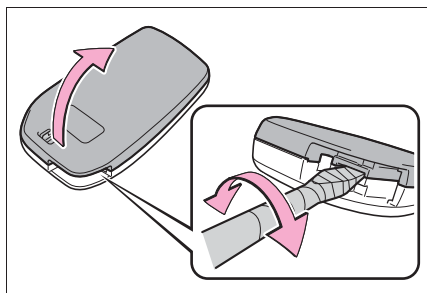
1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす

適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。無理にこじった場合、カバーが変形するおそれがあります。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



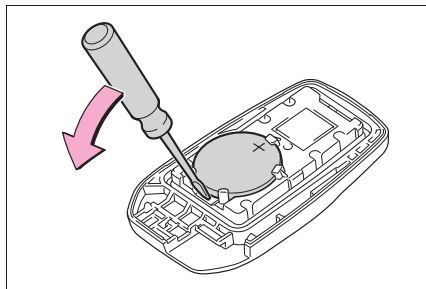
3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

電池をはずす際は、適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。

新しい電池は、+極を上にして取り付け

ます。



4 カバーを取り付け、メカニカルキーを挿し込む

5 ボタン (🔒 または 🚪) を操作して、ドアが施錠または開錠されることを確認する

⚠️ 警告

■ 取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠️ 注意

■ 電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- めれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かし
たりしない
- 電極を曲げない

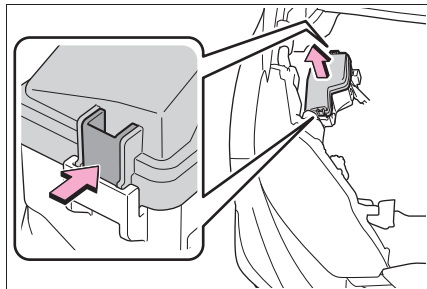
ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

ヒューズの点検・交換をするには

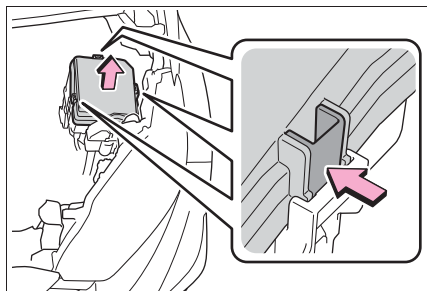
- 1 エンジンスイッチを OFF にする
 - 2 ヒューズボックスを開ける
- ▶ エンジンルーム（運転席側 [FF車]）

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



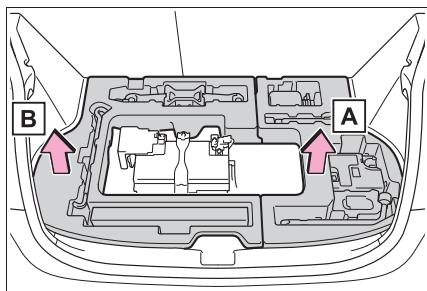
- ▶ エンジンルーム（助手席側）

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

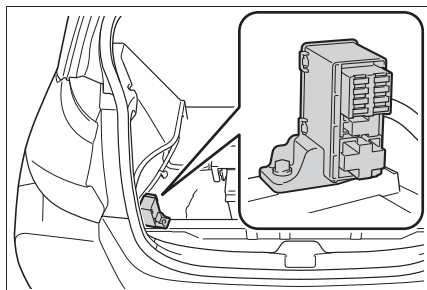


- ▶ ラゲッジルーム（AWD 車）

デッキボードをとりはずす（→P.241）



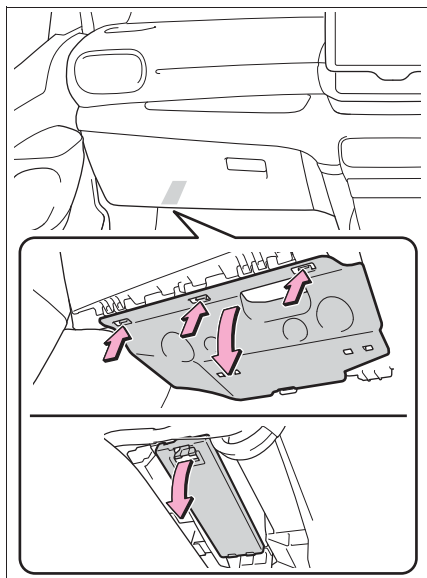
デッキアンダートレイ **A** をはずしてから **B** をはずす



- ▶ 助手席足元

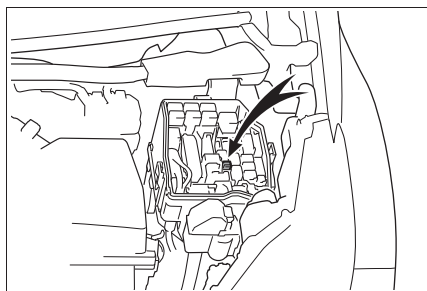
足元のカバーをとりはずし、ヒューズボックスのカバーをとりはずす

ヒューズボックスのカバーを取りはずすときや、取り付けるときはツメを押ししてください。

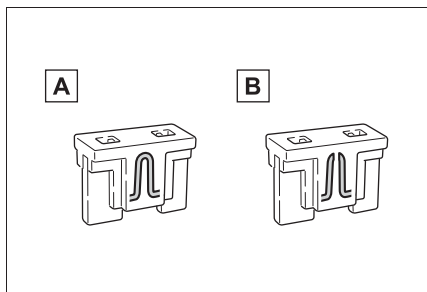


3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する



A 正常

B ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

知識

■ヒューズを交換したあとは

- カバーを取り付けるときは、ツメをしっかり取り付けてください。
- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するときは

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

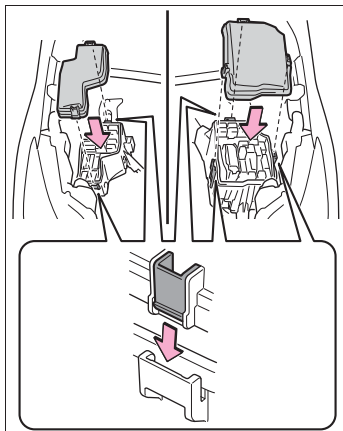
⚠ 注意

■ ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ヒューズボックスのカバーをとりつけるときは（エンジンルームヒューズボックス）

すべてのツメの位置を合わせてから、ヒューズボックスカバーを上から押しつけてください。お守りいただかないと、ツメが破損するおそれがあります。



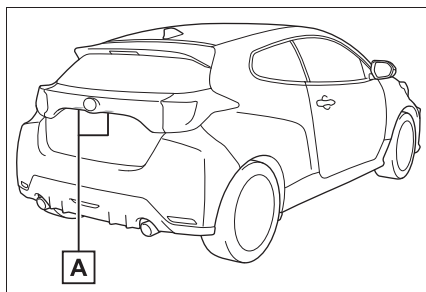
電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→P.350）

バルブ位置



A 番号灯

■ トヨタ販売店で交換が必要な電球

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ
- 車幅灯
- LED デイライト
- 方向指示灯／非常点滅灯
- フロントフォグランプ
- 尾灯
- 制動灯

- 後退灯
- ハイマウントストップランプ

知識

LED ランプについて

番号灯以外は、数個のLEDで構成されています。もしLEDがひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

電球（バルブ）を交換するとき

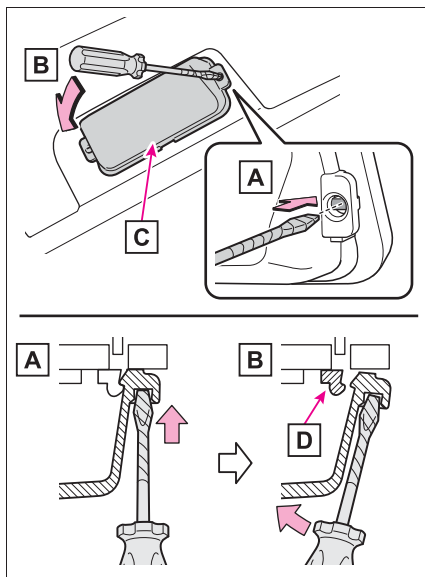
→P.291

電球交換のしかた

番号灯

- 1 番号灯が見えるまでバックドアを開ける（→P.81）

2 レンズを取りはずす



A 小さいマイナスドライバーなどを左右どちらかのレンズの穴に挿し込む

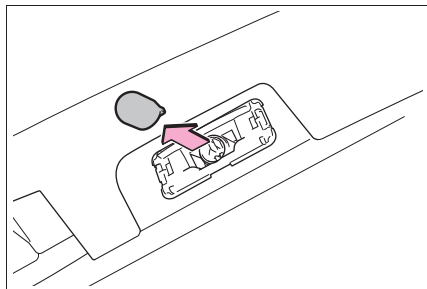
B 小さいマイナスドライバーなどを図の矢印の方向に傾け、レンズのかん合をはずしてレンズを取りはずす

傷が付くのを防ぐために、小さいマイナスドライバーなどの先端に、テープなどを巻いて保護してください。

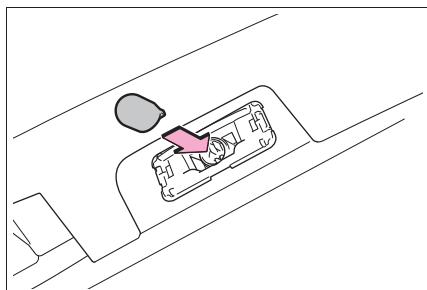
C レンズ

D かん合部

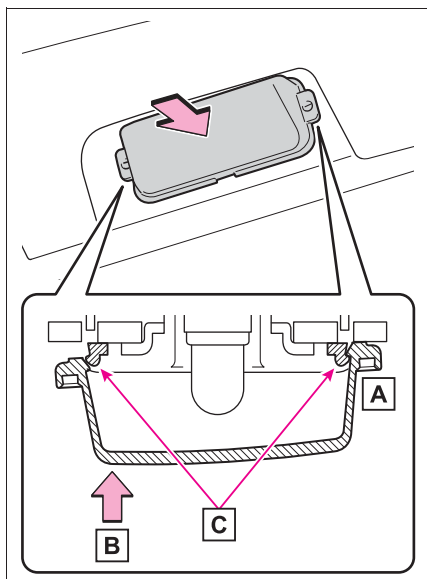
3 電球を取りはずす



4 新しい電球を取り付ける



5 レンズを取り付ける



A レンズを左右どちらかのかん合

部に引っかける

B レンズを押し込む

レンズを取り付けたあとは、レンズを軽く引っ張って、正しく取り付けられていることを確認してください。

C かん合部

警告

■ 電球を交換するとき

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、または内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■ お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

7-1. まず初めに

故障したときは	296
非常点滅灯（ハザードランプ）	297
発炎筒	297
車両を緊急停止するには	298
水没したときは	299

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	300
フューエルポンプシャットオフシ テム	305
警告灯がついたときは	306
警告メッセージが表示されたときは	314
パンクしたときは	316
エンジンがかからないときは ..	327
キーをなくしたときは	329
電子キーが正常に働かないときは （スマートエントリー&スタートシ ステム装着車）	329
バッテリーがあがったときは ..	331
オーバーヒートしたときは	338
スタックしたときは	341

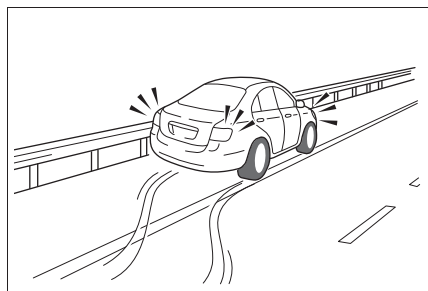
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

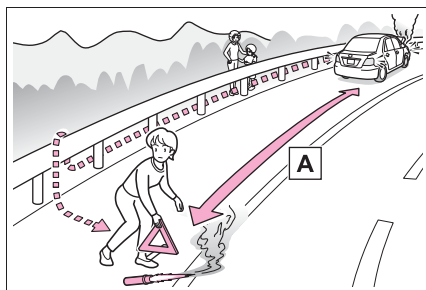
- 非常点滅灯（→P.297）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



- 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う
- 1 同乗者を避難させる
 - 2 車両の50m以上後方（A）に発炎筒（→P.297）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
- 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

い。

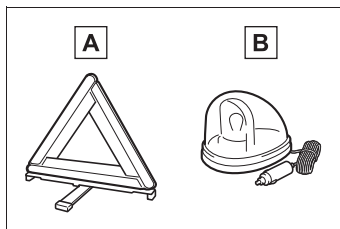


- 3 その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。



A 停止表示板

B 停止表示灯

非常点滅灯（ハザードランプ）

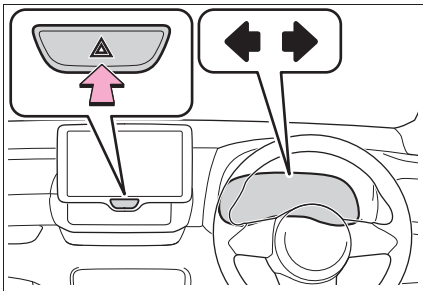
事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。

もう一度押すと消灯します。



知識

■ 非常点滅灯について

- エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。
- SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。非常点滅灯スイッチを2回押すか、約20分経過すると消灯します。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。）

発炎筒

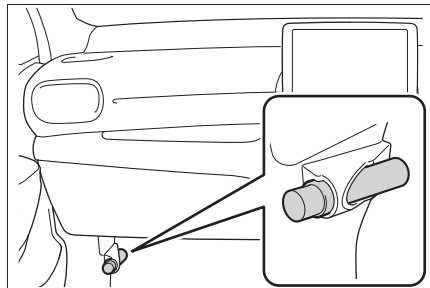
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。

（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）

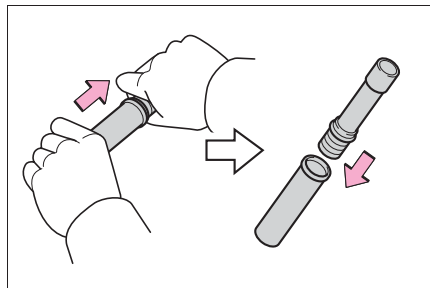
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す



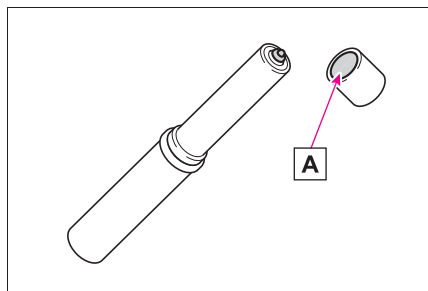
- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3 先端のフタを取り、すり薬 **A** で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。

着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■ 発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車両を停止させてください。

車を停止するには

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

- 2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

- 4 エンジンを停止する

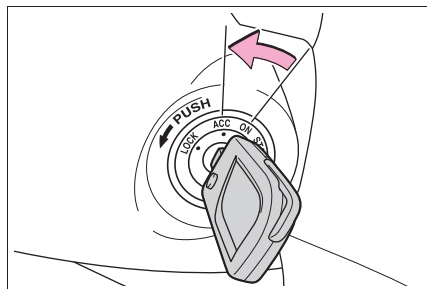
▶ シフトレバーが N に入らない場合

- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

- 4 以下の方法でエンジンを停止してください

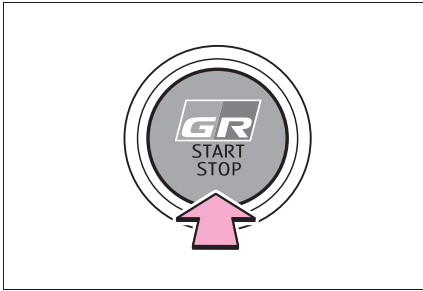
▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチを“ACC”にする



▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押す



5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

- ブレーキの効が悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。
- スマートエントリー&スタートシステム非装着車：キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

水没したときは

万一、車両が水没したときは、落ち着いて次のように対処してください。

- まずシートベルトをはずしてください。
- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて窓から車外に出てください。
- パワーウィンドウスイッチでドアガラスが開けられない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

⚠ 警告

■ 緊急脱出用ハンマー[※]の使用について

この車両のフロントドアガラス・リヤウィンドウガラスは緊急脱出用ハンマー[※]で割ることはできますが、フロントウィンドウガラスは合わせガラスのため、緊急脱出用ハンマー[※]で割ることができません。

[※] 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■ 窓から車外に出るときは

着座位置、乗員の体格等によっては、窓から車外に脱出できない場合があります。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

警告

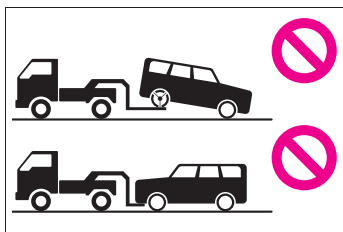
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

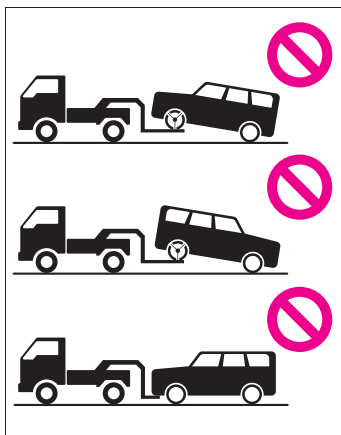
▶ FF 車

必ず前輪を持ち上げるか、4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。



▶ AWD 車

4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



■他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。

けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

- エンジンスイッチを OFF にしないでください。

ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。

指定の位置にしっかりと取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤロープは使用しない
 - ・ 速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 長い下り坂でけん引するときは

▶ FF 車

レッカー車で前輪を持ち上げるか、4輪とも持ち上げた状態でけん引してください。

レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

▶ AWD 車

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。

レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ 緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

■ Stop & Startシステム装着車をけん引するときは

4 輪すべてを接地した状態でけん引が必要な場合は、システム保護のため、けん引される前にいったんエンジンスイッチを OFF にしてから、エンジン始動またはエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

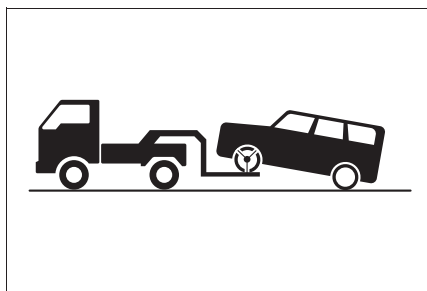
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンがかかるとは動かない
- 異常な音がする

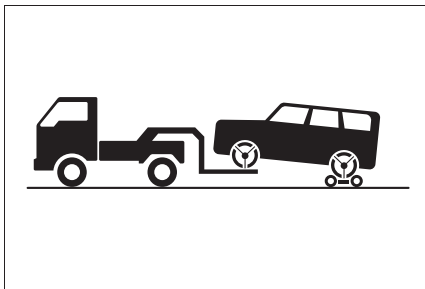
レッカー車でけん引するとき

- ▶ 前向きにけん引するときは（FF 車）



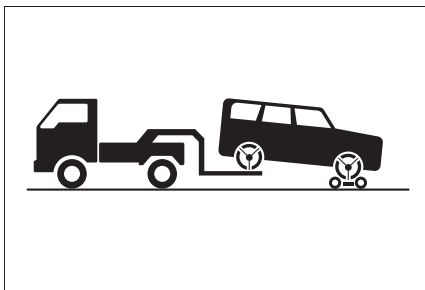
パーキングブレーキを解除する
オートモードを OFF にしてください。（→P.130）

- ▶ 前向きにけん引するときは
(AWD 車)



台車を使用して後輪を持ち上げる

- ▶ うしろ向きにけん引するときは



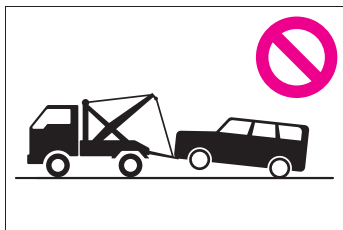
台車を使用して前輪を持ち上げる

注意

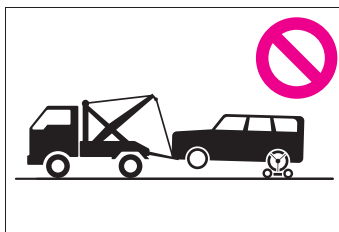
■ レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

- ▶ FF 車



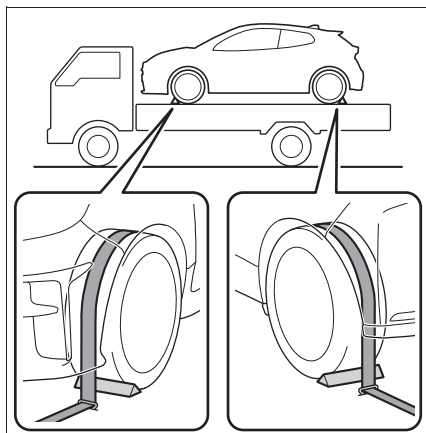
- ▶ AWD 車



車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、タイヤストラップベルトを使用してください。タイヤストラップの方法については、車両運搬車の取り扱い説明書を参照してください。

輸送中の車が動かないように、パーキングブレーキをかけシフトレバーをP（オートマチック車）もしくはN（マニュアル車）にして、エンジンを停止する。



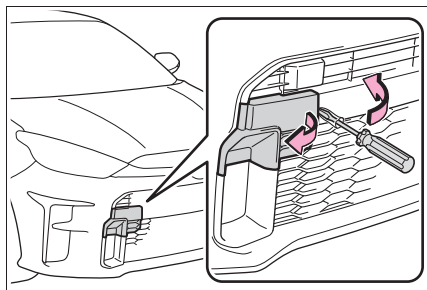
他車にけん引してもらうとき

他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付け

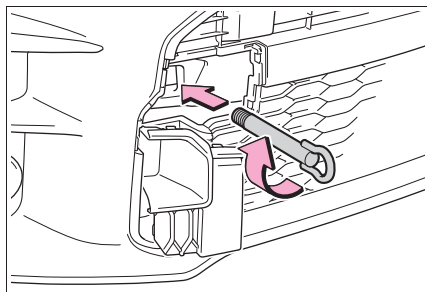
てください。

- 1 ラゲージルーム内のけん引フックを取り出す (→P.318, 280)
- 2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



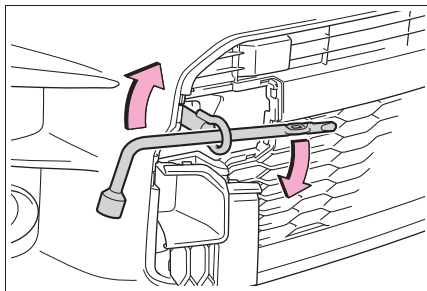
- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



- 4 ホイールナットレンチ^{*}や金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

^{*} トヨタ販売店で購入することができます

す。

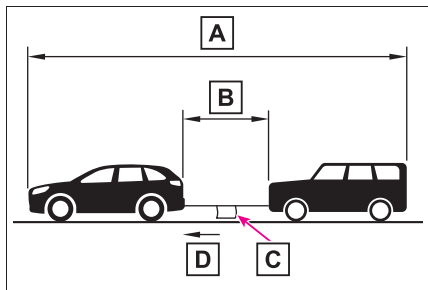


- 5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

- 6 ロープの中央に白い布を付ける
布の大きさ：

0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上



A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

- 7 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンを始動する

エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチを ON にしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーをNにしてから、パーキングブレーキを解除する

FF車：オートモードをOFFにしてください。(→P.130)

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

オートマチック車：シフトレバーがシフトできないときは：→P.122

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

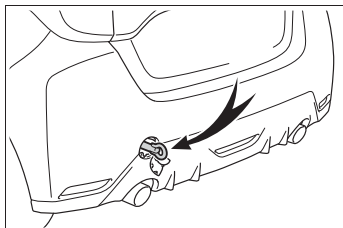
■ホイールナットレンチについて

この車両にはホイールナットレンチは搭載されていません。(→P.318, 280)

トヨタ販売店で購入することができます。

■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。

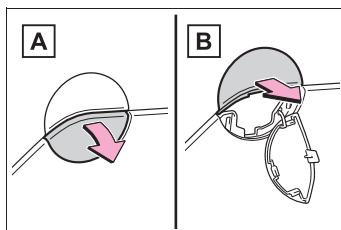


■緊急用フックを取り付けるには

緊急用フックを取り付けるときは、手順に従って取り付けてください。

- 1 ラゲージルーム内のけん引フックを取り出す
- 2 図に示す部分を手で押しして隙間を作り、マイナスドライバーを使って
AのフタをはずしてからBのフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める
- 4 マイナスドライバーや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

フューエルポンプシャット オフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

エンジンを始動するには

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

- 1 エンジンスイッチを ACC または OFF にする
- 2 エンジンを再始動する

注意

■エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。


地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは


警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）


警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	<ul style="list-style-type: none"> ●ブレーキ液の不足 ●ブレーキシステムの異常 <p>→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。</p>

■ ブレーキ警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	<p>パーキングブレーキシステムの異常</p> <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>


※ 電動パーキングブレーキ装着車

■ 高水温警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>エンジン冷却水の高温異常</p> <p>→ ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.338）に従ってください。</p>


※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 充電警告灯※

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>充電システムの異常</p> <p>→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。</p>


※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 油圧警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイル圧力の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。


※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ エンジン警告灯（警告ブザー）


警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> ● エンジンの異常 ● エンジン電子制御システムの異常 ● 電子制御スロットルの異常 ● トランスミッション電子制御システム★の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。


■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> ● SRS エアバッグシステムの異常 ● プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ABS & ブレーキアシスト警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> ● ABS の異常 ● ブレーキアシストの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。



■ ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>ブザーが鳴った場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ブレーキオーバーライドシステムの異常 ●ドライブスタートコントロール★の異常 <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p> <p>アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことにより、ドライブスタートコントロール★が作動</p> <p>→ ただちにアクセルペダルを離してください。</p> <p>ブザーが鳴らなかった場合：</p> <p>アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことにより、ブレーキオーバーライドシステムが作動</p> <p>→ アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。</p>


※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。


■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	<p>EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常</p> <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
 (黄色)	

■ 燃料残量警告灯


警告灯	警告内容・対処方法
	<p>燃料の残量が約 7.5 L 以下になった</p> <p>→ 燃料を補給する</p>

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>運転席・助手席シートベルトの非着用</p> <p>→ シートベルトを着用する</p> <p>助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。</p>

- ※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
 運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。


■ リヤ席シートベルト非着用警告灯^{※1}（警告ブザー^{※2}）

警告灯	警告内容・対処方法
	リヤ席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する

※¹マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

- ※²リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：
 リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。


■ LTA 表示灯[※]★（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (橙色)	LTA（レーントレーシングアシスト）の異常 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.170）

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ Stop & Start キャンセル表示灯[★]（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	Stop & Start システムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ タイヤ空気圧警告灯★

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>警告灯が約 1 分間点滅したあとに点灯し、ブザーが鳴らなかった場合：</p> <p>タイヤ空気圧警報システムの異常</p> <p>→ トヨタ販売店で点検を受けてください。</p> <p>警告灯が点灯し、ブザーが鳴った場合：</p> <p>自然要因</p> <p>→ タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整してください。(→P.350)</p> <p>タイヤのパンク</p> <p>→ ただちに安全な場所に停車し、対処方法(→P.316)に従ってください。</p>


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー OFF 表示灯★ (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>クリアランスソナーの異常</p> <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p> <p>センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない</p> <p>→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→P.197)</p>


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ RCTA OFF 表示灯★ (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>RCTA (リヤクロストラフィックアラート) の異常</p> <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p> <p>レーダーセンサー周辺のリヤバンパー(→P.191)に汚れや付着物がある</p> <p>→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→P.202)</p>


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PKSB OFF 表示灯★

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>ブザーが鳴った場合： PKSB（パーキングサポートブレーキ）の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p> <p>ブザーが鳴らなかった場合： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.209, 314）</p>


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PCS 警告灯★


警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅または点灯)	<p>警告ブザーが鳴った場合： プリクラッシュセーフティの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p> <p>警告ブザーが鳴らない場合： プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.150, 314）</p> <p>プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 → P.220</p>

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スリップ表示灯


警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> ●VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 ●TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

■ パーキングブレーキ表示灯 ※

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性がある</p> <p>→ パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。</p> <p>パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。</p>

※ 電動パーキングブレーキ装着車

■ ブレーキホールド作動表示灯★（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>ブレーキホールドシステムの異常</p> <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

□ 知識

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯の作動について

- ドアを開閉すると約 60 秒間点灯します。
- いずれかのリヤシートベルトを脱着すると点灯し続けます。点灯し続けているときに、ドアを開閉すると約 60 秒

後に消灯します。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合★

タイヤがパンクしていないか確認してください。

パンクしているときは：→P.316

パンクしていないときは：

エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON モードにして、タイヤ空気圧警告灯が点灯しているか点滅しているかを確認してください。

▶ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

- 1 タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整してください。
- 2 数分たっても警告灯が消灯しない場合は、指定空気圧であることを確認し、タイヤ空気圧警報システムの初期化を

行ってください。
(→P.275)

初期化を行ってから数分たっても警告灯が消灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

▶ タイヤ空気圧警告灯が1分間点滅したあとに点灯した場合

タイヤ空気圧警報システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 自然要因によるタイヤ空気圧警報について★

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ タイヤ空気圧警報システムが正常に働かない恐れがある状況★

→P.273

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▲ 警告

■ ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。

ABS または ブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合★

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。

● 急ハンドル・急ブレーキを避けてください。
タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合★

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 注意

■ タイヤ空気圧警報システムについての注意★

- 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。
- タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化操作（→P.275）では解除できません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

また、メッセージと同時に専用警告灯が点灯・点滅する場合があります。その際は、各警告灯が点灯・点滅したときの対処方法（→P.306）に従ってください。

 知識

■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 警告ブザーについて

メッセージの内容によってブザーが鳴る場合があります。

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ “エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください” が表示されたときは

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してくだ

さい。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■ “エンジン停止のためハンドルが重くなります” が表示されたときは

走行中にエンジンが停止したときにメッセージが表示されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ “温度条件により高負荷走行を控えてください” が表示されたときは（マニュアル車）

次のような状況の時にメッセージが表示される場合があります。

- エンジン暖機中
- 高負荷走行を長時間継続し、トランスミッションフルードが高温になった場合

負荷の高い走行を控えてしばらく走行してください。

■ “バッテリー保護のため自動で電源をOffしました” が表示されたときは

自動電源 OFF 機能が作動したときにメッセージが表示されます。次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにして約 5 分間その回転数を保持し、バッテリーを充電してください。

■ “ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください” が表示されたときは

次のシステムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- LED ヘッドランプ
- オートマチックハイビーム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 前方カメラの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、次のシステムは作動しない可能性があります。（→P.150, 306）

- PCS（プリクラッシュセーフティ）★
- LTA（レーントレーシングアシスト）★
- オートマチックハイビーム★
- RSA（ロードサインアシスト）★
- レーダークルーズコントロール★
- 先行車発進告知機能★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ レーダーの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、次のシステムは作動しない可能性があります。（→P.150, 306）

- PCS（プリクラッシュセーフティ）★
- LTA（レーントレーシングアシスト）★
- レーダークルーズコントロール★
- 先行車発進告知機能★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “クルーズコントロール一時使用不可 取扱書を確認ください” が表示されたときは★

レーダークルーズコントロールのシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。（要因および対処方法：→P.150）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- “クルーズコントロール現在使用できません” が表示されたときは★

レーダークルーズコントロールのシステムが一時的に使用不可と判断されています。しばらく走行してからレーダークルーズコントロールを再度設定してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- 販売店での点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 取扱書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

- “エンジン冷却水高温” が表示されたときは、対処方法（→P.338）に従ってください。

- 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- ・ “スマートエントリー&スタートシステム故障”

- 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

- ・ “故障のためブレーキ力が低下します”

- ・ “補機バッテリー充電システム異常”

- ・ “エンジン油圧不足”

パンクしたときは

タイヤパンク応急修理キット装着車には、応急用タイヤ、ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールナットレンチが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→P.316）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■ パンクしたままの走行について

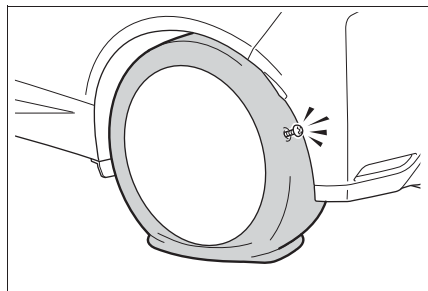
タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P（オートマチック車）もしくは R（マニュアル車）にする

- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
(→P.297)
- タイヤの損傷程度を確認する
釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



知識

■ 応急修理キットで修理できないパンク

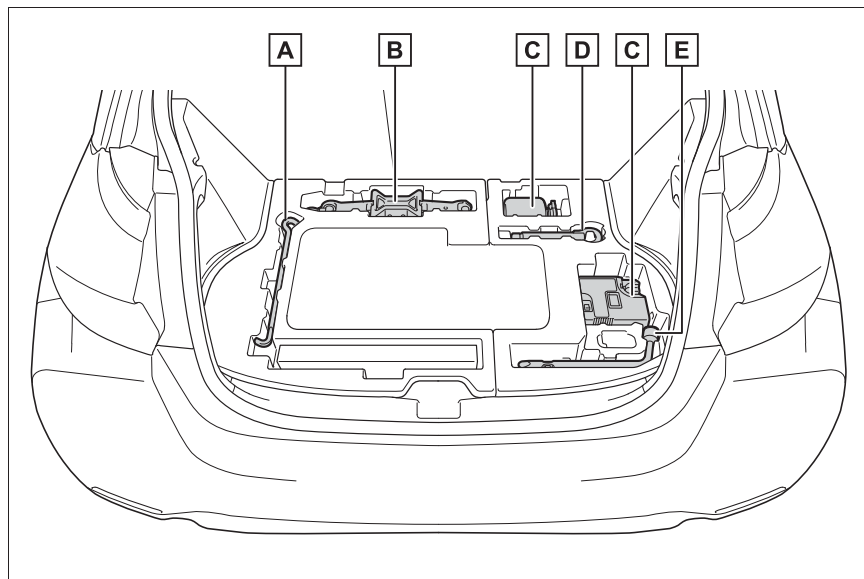
次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに4mm以上の切り傷や刺し傷があるとき

あるとき

- ホイールが破損しているとき
- 2本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1本のタイヤに2箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置



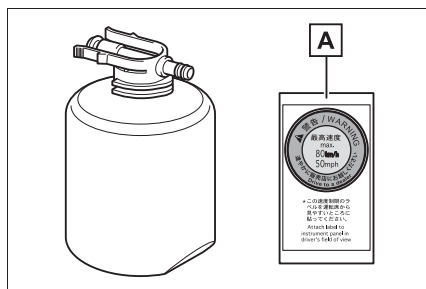
- A** ジャッキハンドル ※¹
- B** ジャッキ ※^{1, 2}
- C** タイヤパンク応急修理キット
- D** けん引フック
- E** ホイールナットレンチ ※¹

※¹ ジャッキハンドル、ジャッキ、ホイールナットレンチは搭載されていません。トヨタ販売店で購入することができます。詳しくは販売店におたずねください。

※² ジャッキの使い方 (→P.280)

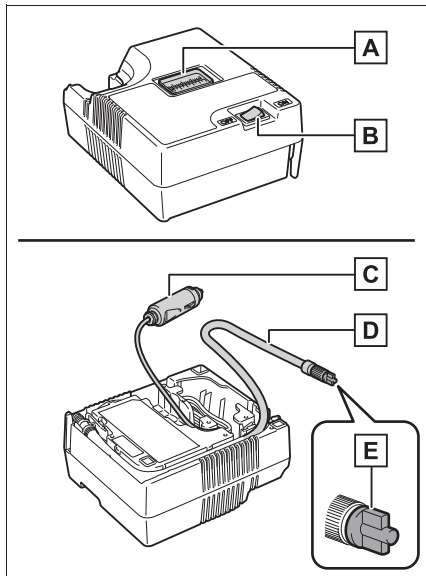
タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

- ▶ ボトル



A 速度制限ラベル

▶ コンプレッサー

**A** 空気圧計**B** 電源スイッチ**C** 電源プラグ**D** ホース**E** 空気逃がしキャップ

☐ 知識

■ 応急修理キットについて

- パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- 外気温度が-30℃～60℃のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタ

イヤや、他の用途には使用しないでください。

- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- 応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■ 応急修理キットの点検について

- パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。
- 有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。
- 有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはおお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

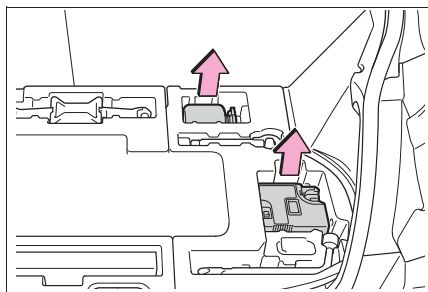
警告

■パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

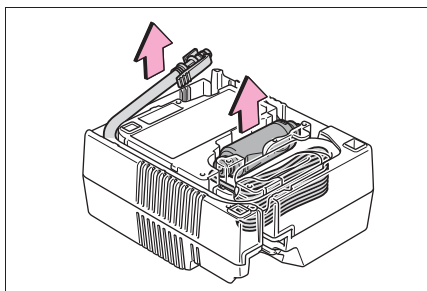
タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

- 1 デッキボードを持ち上げる
(→P.241)
- 2 応急修理キットを取り出す
(→P.318)



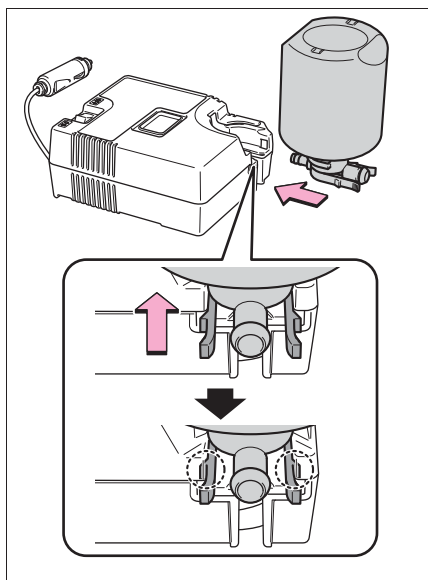
応急修理するときには

- 1 コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出す



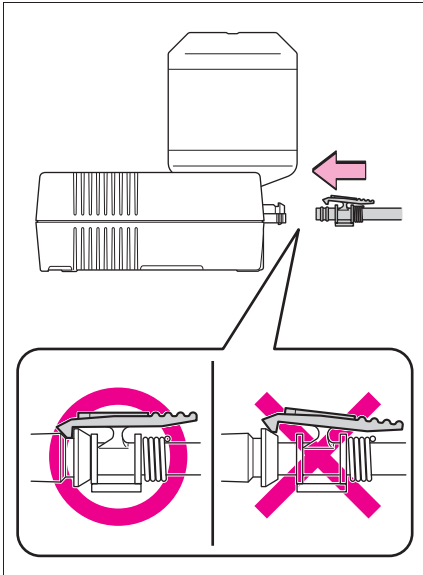
- 2 ボトルをコンプレッサーに接続する

図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してください。

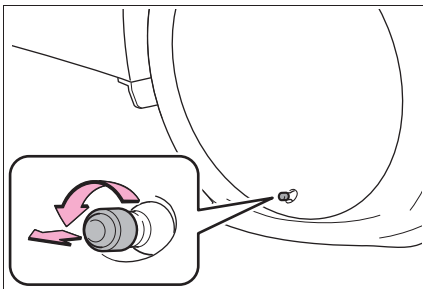


- 3 ホースをボトルに取り付ける
図のように、ボトルにホースがしっかり

接続しているか確認してください。



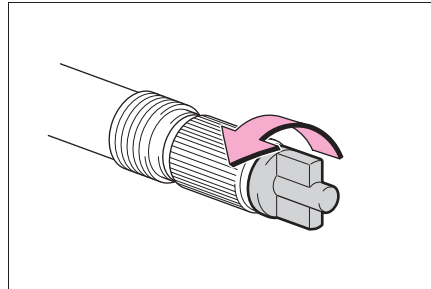
- 4**パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



- 5**ホースをのばし空気逃がしキャップを取りはずす

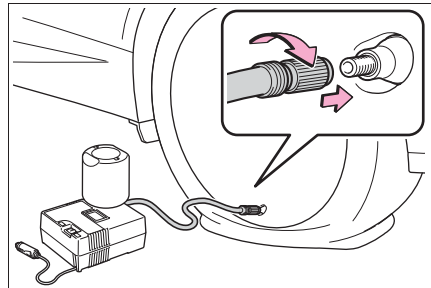
空気逃がしキャップは再度使用するため、

なくさないように保管してください。

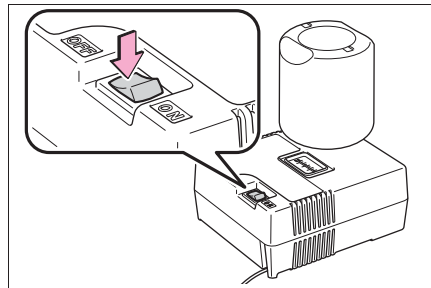


- 6**ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。

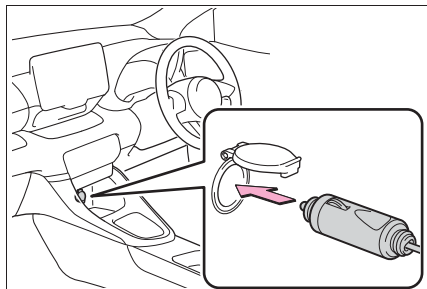


- 7**コンプレッサーのスイッチがOFFであることを確認する

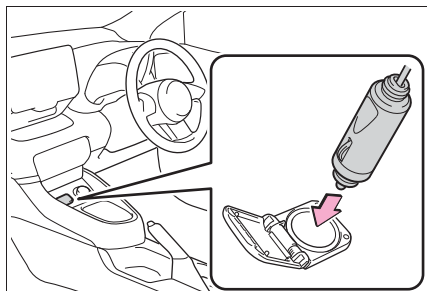


- 8**コンプレッサーの電源プラグをアクセサリースOCKETに挿し込む (→P.244)

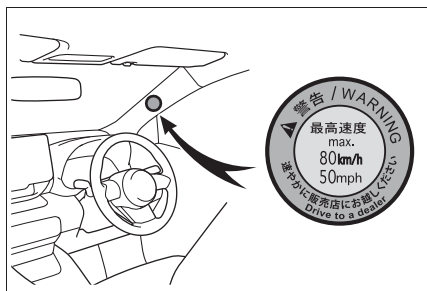
▶ FF 車



▶ AWD 車

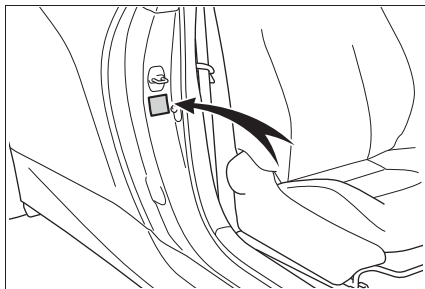


9 運転席から見やすい位置に、付属の速度制限ラベルを貼り付ける



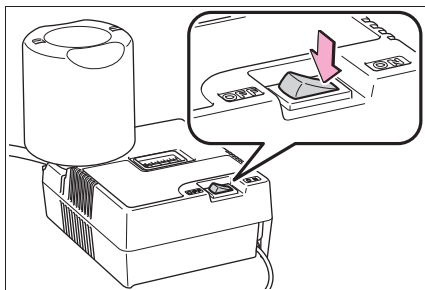
10 タイヤの指定空気圧を確認する
運転席側の空気圧ラベルで確認すること

ができます。(→P.270)

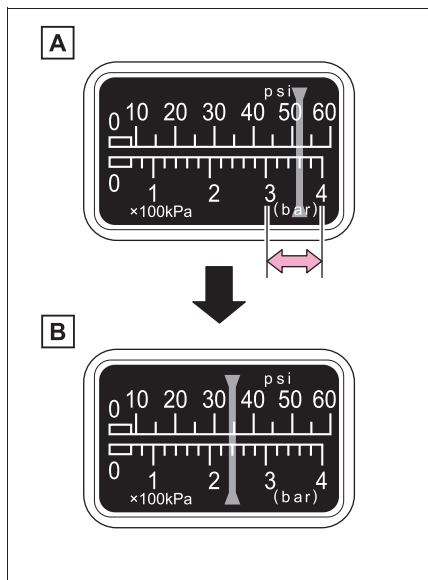


11 エンジンを始動する
(→P.114, 115)

12 コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する



13 空気圧が指定空気圧になるまで 空気を充填する



- A** 一時的に空気圧計が 300 ~ 400kPa (3.0 ~ 4.0kg/cm²) まで上昇し、徐々に減少します。
- B** スイッチを ON にしてから約 1 ~ 5 分程度で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約 5 ~ 20 分です (外気温により異なります)。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、トヨタ販売店にご連絡ください。

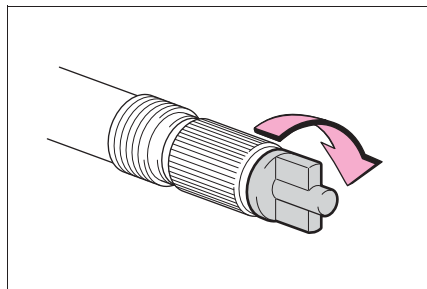
空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。
(→P.325, 350)

- 14** コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリースocketから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

- 15** バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける
- 16** ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

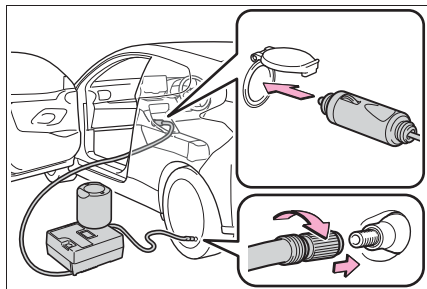
空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



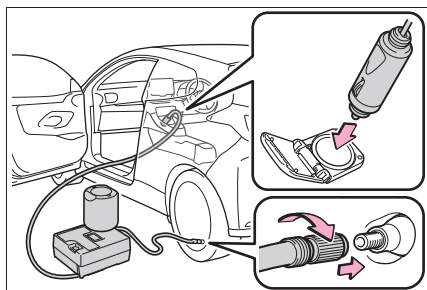
- 17** いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する
- 18** タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する
- 19** 走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がしキャップを取りはずしてください

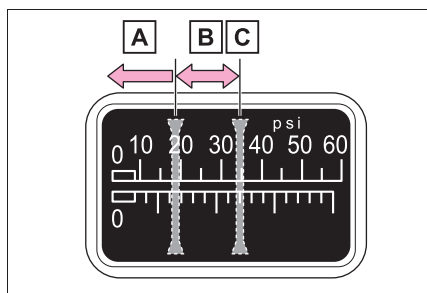
▶ FF 車



▶ AWD 車



20コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する



A 空気圧が 130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

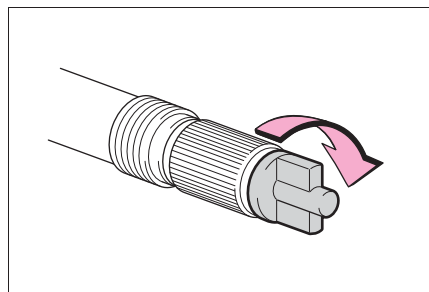
B 空気圧が 130kPa (1.3kg/cm²) 以上、指定空気圧未満の場合：手順 **21** へ

C 空気圧が指定空気圧 (→P.350) の場合：手順 **22** へ

21コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5km 走行後にあらためて手順 **19** から実施する

22ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



23ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

ラゲージルームに収納するときは、パンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。応急修理キットはビニール袋などに入れて収納してください。

24急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、走行距離が約 100km 以内、80km/h 以下の速度で、トヨタ販売店まで慎重に運転する

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談く

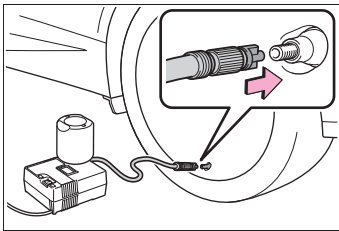
ださい。

トヨタ販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

知識

■ 空気を入れすぎてしまったとき

- 1 タイヤからホースを取りはずす
- 2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



- 3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する
- 4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する (→P.350)

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■ 応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■ 応急（パンク）修理キットを使用したとき（タイヤ空気圧警報システム装着車）

- 空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。
- タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性

があります。

■ 補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

■ ジャッキ※の取り出し方

- 1 デッキボードを持ち上げる (→P.241)
- 2 ジャッキを取り出す (→P.280)

※ トヨタ販売店で購入することができません。

警告

■ タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。

短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■ パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

警告

- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気もれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。

手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください
- 応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■ 補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。
 - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・ 空気圧を確認してください。130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

■ 応急修理をするとき

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

 注意

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットはDC12V専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。
- 応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P.114, 115）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。再度、正しい手順（→P.114, 115）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P.49）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P.331）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合 (スマートエントリー&スタート システム装着車)

電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性が
あります。異常の種類によっては、
エンジンを一時的な処置でかける
ことができます。(→P.328)

スターターがまわらない／室内 灯・ヘッドランプが点灯しない ／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性が
あります。(→P.331)
- バッテリーのターミナルがはず
れている可能性があります。
- スマートエントリー&スタート
システム装着車：ステアリング
ロックシステムに異常がある可
能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは
対処をしてもエンジンがかからないとき
は、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について (スマー トエントリー&スタートシステ ム装着車)

通常のエンジン始動操作でエンジ
ンが始動しないときは、次の手順
でエンジンが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動さ
せないでください。

▶ マニュアル車

- 1 パーキングブレーキがかかって
いることを確認する
(→P.128)

メーター内のパーキングブレーキ表示灯
が点灯します。

- 2 シフトレバーが N の位置にある
ことを確認する
- 3 エンジンスイッチを ACC にす
る
- 4 クラッチペダルとブレーキペダ
ルをしっかり踏んでエンジンス
イッチを約 15 秒以上押し続け
る

上記の方法でエンジンが始動しても、シ
ステムの故障が考えられます。ただちに
トヨタ販売店で点検を受けてください。

▶ オートマチック車

- 1 パーキングブレーキがかかって
いることを確認するため、パー
キングブレーキスイッチを引く
(→P.129)

メーター内のパーキングブレーキ表示灯
が点灯します。

- 2 シフトレバーが P の位置にある
ことを確認する
- 3 エンジンスイッチを ACC にす
る
- 4 ブレーキペダルをしっかり踏ん
でエンジンスイッチを約 15 秒
以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、シ
ステムの故障が考えられます。ただちに
トヨタ販売店で点検を受けてください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキー（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）またはメカニカルキー（スマートエントリー&スタートシステム装着車）から、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

注意

■ 電子キーを紛失したとき（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.86）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

知識

■ 電子キーが正常に働かないときは

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→P.351）
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。

設定されている場合は解除してください。（→P.85）

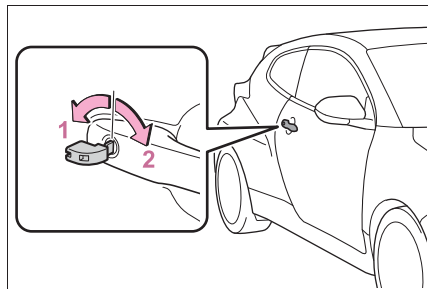
注意

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

ドアの施錠・解錠

メカニカルキー（→P.77）を使って次の操作ができます。（運転席ドアのみ）

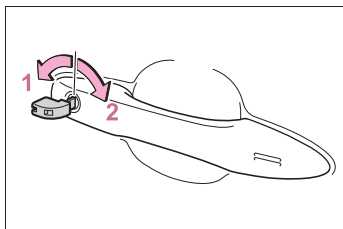


- 1 全ドア解錠
- 2 全ドア施錠



知識

■キー連動機能



- 1 ドアガラスが開く（まわし続ける）※
- 2 ドアガラスが閉まる（まわし続ける）※

※ トヨタ販売店での設定が必要です。

⚠ 警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するとき

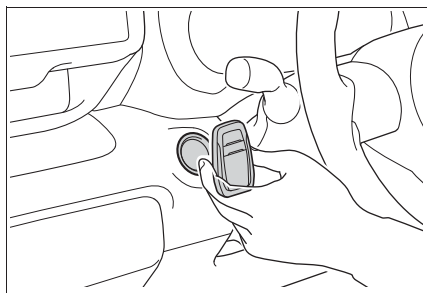
ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

エンジン始動の方法

- 1 オートマチック車：シフトレバーがPの状態でブレーキペダルを踏む
マニュアル車：シフトレバーがNの状態でクラッチペダルを踏む
- 2 電子キーのスイッチ面の背面で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ONへ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっているときは、ACCへ切りかわります。



- 3 オートマチック車はブレーキペダル、マニュアル車はクラッチペダルをしっかりと踏み込ん

で、マルチインフォメーションディスプレイにが表示されていることを確認する

- 4 エンジンスイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■ エンジンの停止方法

通常のエンジンの停止方法と同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをオートマチック車はP、マニュアル車はNにしてエンジンスイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P.287)

■ オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。(→P.50)

■ モードの切りかえ

エンジン始動方法の手順3で、オートマチック車はブレーキペダル、マニュアル車はクラッチペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P.118)

バッテリーがあがったときは

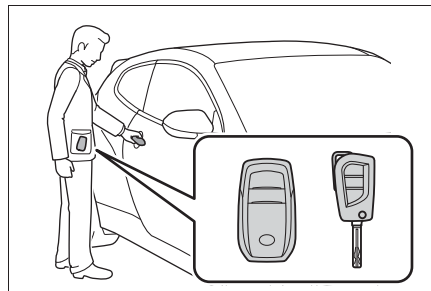
バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

エンジンを再始動するには

ブースターケーブルと12Vのバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

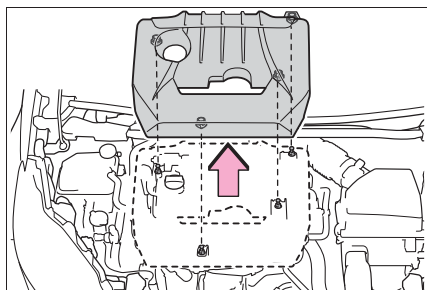
- 1 オートアラーム装着車：電子キーを携帯していることを確認する

ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P.51)



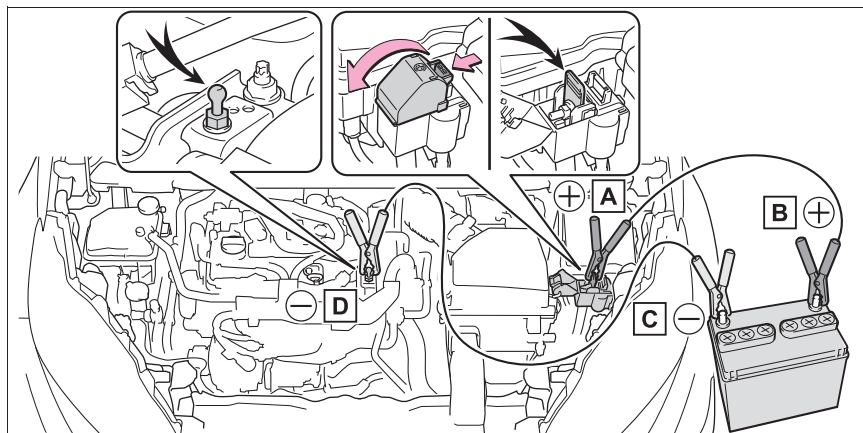
- 2 ボンネットを開ける (→P.266)

3 G16E-GTS エンジン搭載車：
エンジンカバーを取りはずす

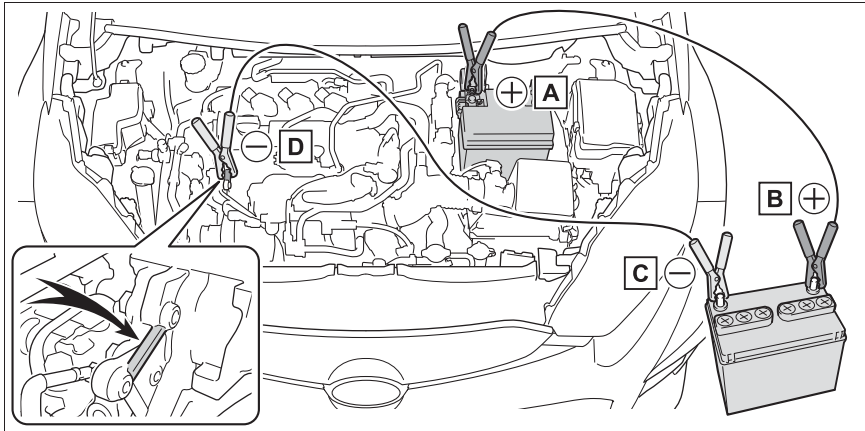


- 4** 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子**A**につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの+端子**B**につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子**C**につなぎ、もう一方の端を未塗装の金属部**D**につなぐ

▶ G16E-GTS エンジン搭載車



▶ M15A-FKS エンジン搭載車



- A** バッテリーの+端子（自車）
B バッテリーの+端子（救援車）
C バッテリーの-端子（救援車）
D 未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）

- 5 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約5分間自車のバッテリーを充電する
- 6 スマートエントリー&スタートシステム装着車：エンジンスイッチがOFFの状態ですずれかのドアを開閉する
- 7 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんONにしてからエンジンを始動する
- 8 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーがあがってしまったときは

- コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 初期設定が必要な機能があります。（→P.359）

■ バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。(バッテリーは走行中に自動で充電されます)

■ バッテリーあがり時や取りはずし時など

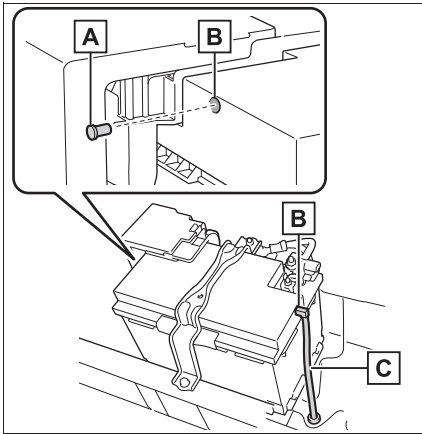
- バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- バッテリー脱着後、最初の始動操作ではエンジンが始動できないことがあります。再度始動操作を行ってください。
- 車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

■ バッテリーを交換するときは

Stop & Start システム装着車：装着されているバッテリーは、Stop & Start システム専用用品です。LN3-eco またはそれ以上の性能を持つバッテリーと交換してください。適切なバッテリーをご使用した

だかない場合、バッテリー保護のために Stop & Start システムの作動が制限されます。さらに、バッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- 欧州規格バッテリーを使用してください。
- 交換前と同一のケースサイズ (LN2)、20 時間率容量 (20HR) が同等 (60Ah) 以上、かつ性能基準値 (CCA) が同等 (360A) 以上のバッテリーを使用してください。(タイプ A)
- 交換前と同一のケースサイズ (LN1)、20 時間率容量 (20HR) が同等 (45Ah) 以上、かつ性能基準値 (CCA) が同等 (295A) 以上のバッテリーを使用してください。(タイプ B)
- ・ 大きさが異なると、バッテリーが正しく固定されません。
- ・ 20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない時期が短い期間であってもバッテリーがあがって、エンジンの始動ができなくなるおそれがあります。
- G16E-GTS エンジン搭載車：一括排気タイプのカルシウムバッテリーを使用してください。
- G16E-GTS エンジン搭載車：交換後は、バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください。
 - ・ 排気ホースは、交換前のバッテリーに取り付けられているものを使用し、車両穴部と確実に接続されていることを確認してください。
 - ・ 排気穴栓は、交換したバッテリーに付属のもの、または交換前のバッテリーに取り付けられているものを使用してください。(交換するバッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります)



A 排気穴栓

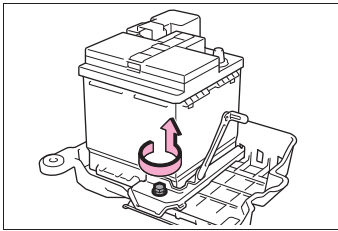
B 排気穴

C 排気ホース

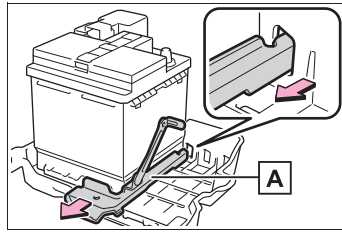
●詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

■バッテリーステーの取りはずし方 (M15A-FKS エンジン搭載車)

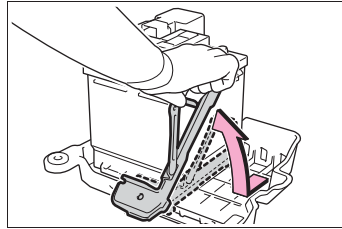
1 ボルトを取りはずす



2 バッテリーステー **A** を手前に引きながら、バッテリートレイのかん合穴からはずす

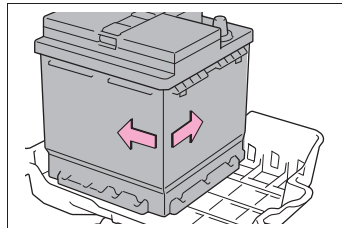


3 バッテリーステーを手前に引き、先端を上に向けて取り出す

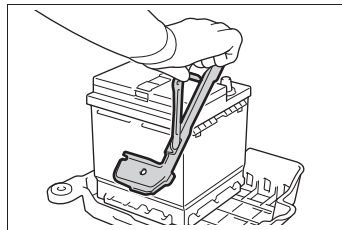


■バッテリーステーの取り付け方 (M15A-FKS エンジン搭載車)

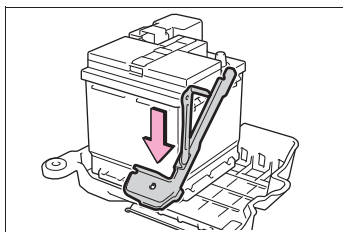
1 バッテリーをバッテリートレイに置いて、車両後方、かつ内側へ押し付ける



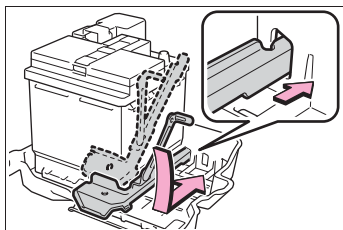
2 バッテリーステーの先端を上に向けて



3 バッテリーステーをバッテリートレイに接触するまで下へおろす

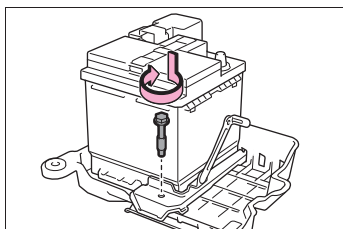


- 4 バッテリーステーを手前に引き、バッテリートレイのかん合穴に挿し込む



- 5 バッテリーステーをボルト穴に合わせ、ボルトを締め付ける

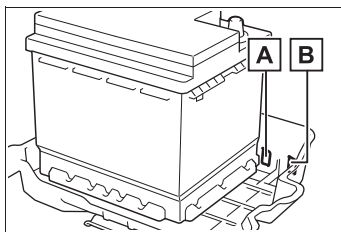
締め付けトルク：15.4N・m
(157kgf・cm)



■ バッテリーサイズについて (M15A-FKS エンジン搭載車)

バッテリーのサイズにより、バッテリーステーを挿し込む穴は異なります。

バッテリーのサイズが LN1 の場合は A の穴、LN2※ の場合は B の穴にバッテリーステーを挿し込んでください。



A) バッテリーサイズ LN1

B) バッテリーサイズ LN2※

※ LN2 のご購入についてはトヨタ販売店にご相談ください

▲ 警告

■ バッテリー端子をはずすときは

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

警告

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける

また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

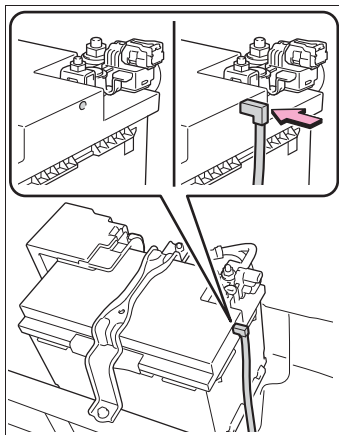
■ バッテリーあがりの処置をしたあと（G16E-GTS エンジン搭載車）

早めにトヨタ販売店でバッテリーの点検を受けてください。バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けるとバッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあります。

■ バッテリーを交換するときは（G16E-GTS エンジン搭載車）

- バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

- 交換後は、交換したバッテリーの排気穴に排気ホースと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、可燃性ガスが車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあります。



■ バッテリーのマイナス端子について

ボデーに接続されたバッテリーのマイナス端子をはずさないでください。誤ってはわずとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

 注意**■ 救援用端子について (G16E-GTS エンジン搭載車)**

この車の救援用端子は、他の車から応急的にバッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

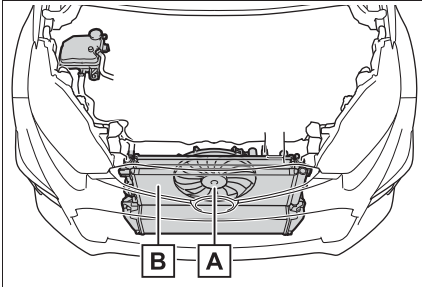
次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計 (→P.57) の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する (スピードが出ないなど)
- マルチインフォメーションディスプレイに “エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください” が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

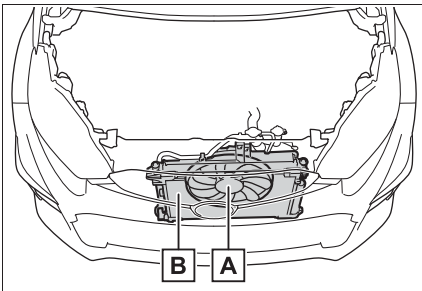
対処方法

- 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける
- 3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部 (放熱部) やホースなどからの冷却水もれを点検する

▶ G16E-GTS エンジン搭載車



▶ M15A-FKS エンジン搭載車



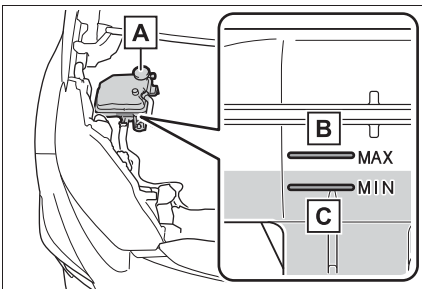
A ファン

B ラジエーター

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの“MAX”または“F”（上限）と“MIN”または“L”（下限）のあいだにあるかを点検する

▶ G16E-GTS エンジン搭載車

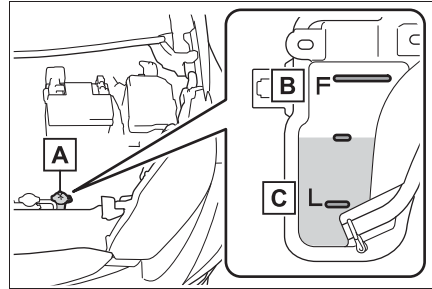


A リザーバータンク

B “MAX”（上限）

C “MIN”（下限）

▶ M15A-FKS エンジン搭載車



A リザーバータンク

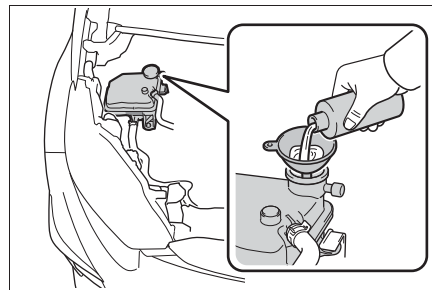
B “F”（上限）

C “L”（下限）

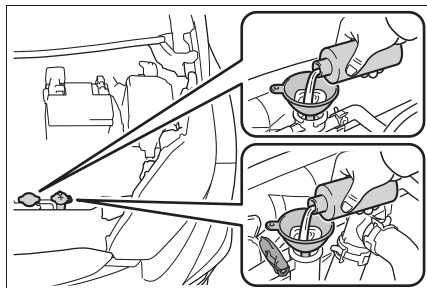
5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

▶ G16E-GTS エンジン搭載車



▶ M15A-FKS エンジン搭載車



- 6 エンジンを始動し、エアコンを動作させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

- 7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する
ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

⚠ 警告

■ エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。

- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合はリザーバータンクキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ 冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

脱出するには

- 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーをP（オートマチック車）もしくはN（マニュアル車）にして、エンジンを停止する
- 2 前輪周辺の土や雪などを取り除く
- 3 前輪の下に木や石などをあてがう
- 4 エンジンを再始動する
- 5 シフトレバーを確実にDまたはR（オートマチック車）もしくは1速またはR（マニュアル車）にし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

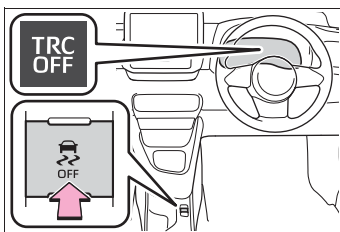
知識

■脱出しにくいとき



スイッチを押してTRCをOFFにし

てください。



警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき（オートマチック車）

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。

車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- 前輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... **344**

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧 **351**

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目..... **359**

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。

お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
▶ M15A-FKS ・ 無鉛レギュラーガソリン ・ バイオ混合ガソリン（レギュラー）※ ▶ G16E-GTS ・ 無鉛プレミアムガソリン ・ バイオ混合ガソリン（プレミアム）※	50

※ エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

エンジンオイル

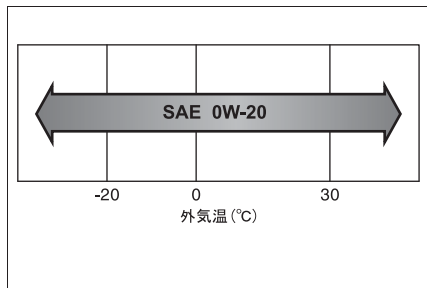
▶ G16E-GTS エンジン搭載車

指定銘柄	容量 [L]（参考値※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20	4.0	4.3

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、8分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。

▶ M15A-FKS エンジン搭載車

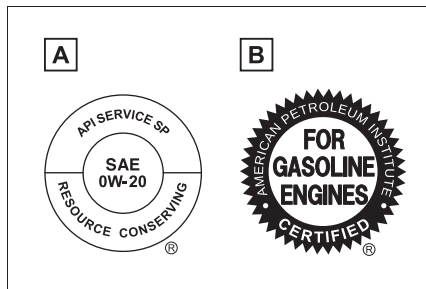
指定銘柄	容量 [L] (参考値 ※)	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-16 — API SP/RC, ILSAC GF-6B, SAE 0W-16 適合： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル SN 5W-30 — API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30	3.2	3.4

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後に停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC か、ILSAC 規格 GF-6A に合致したオイルをご使用ください。

なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION (イルサックサーティフィケーション) マークが付いています。

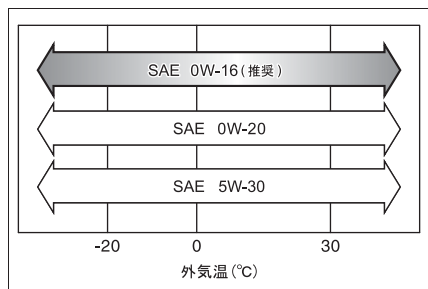


A API マーク

B ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-16 で説明します）：

- ・ 0W-16 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-16 の 16 は、高温時の粘度特性を示しています。

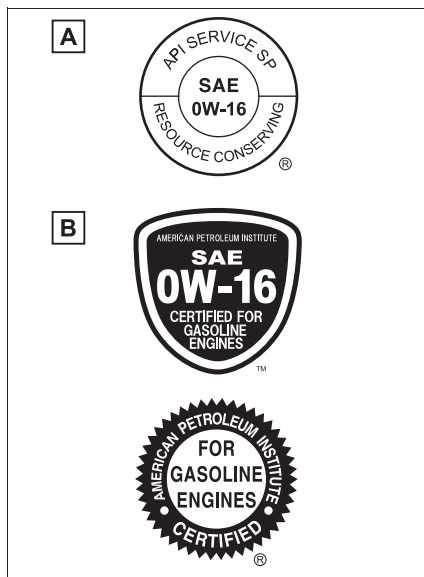
■ 指定エンジンオイル

API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。

0W-16 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。

0W-16 が入手困難な場合は、0W-20、5W-30 もご使用いただけます。

なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。



A API マーク

B ILSAC CERTIFICATION マーク

V リブドベルト（G16E-GTS エンジン搭載車）

指定銘柄

V リブドベルト（弊社純正高強度アラミドベルト）

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)	
	G16E-GTS エンジン搭載車	M15A-FKS エンジン搭載車
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント		
凍結保証温度	5.2	5.1
濃度 30% - 12℃		
濃度 50% - 35℃		

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値※)
	M15A-FKS エンジン搭載車
トヨタ純正 CVT フルード FE	8.42

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください

 注意

■ CVT フルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

マニュアルトランスミッション

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L] (参考値)
次のいずれかをご使用ください。	
・ “トヨタ純正マニュアルトランスミッションギヤオイル LV 75W”	▶ LSD 装着車 2.0
・ API GL-4 SAE 75W の規格に適合する他のオイル	▶ LSD 非装着車 2.1

 注意

■ マニュアルトランスミッションギヤオイル

使用されるギヤオイルの特性や使用環境により、アイドリング音、シフトレバーの操作感や燃費が影響を受けることがあります。最適な性能を実現するため、“トヨタ純正マニュアルトランスミッションギヤオイル LV” のご使用をおすすめします。

トランスファー (AWD車)

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイルLT (API GL-5 SAE 75W-85)	0.45

リヤディファレンシャル (AWD車)

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイルLX (API GL-5, SAE 75W-85)	0.5

クラッチ (マニュアル車)**■ クラッチフルード**

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード DOT4 CLASS6*

* トヨタ純正ブレーキフルード DOT4 CLASS6 が入手できない場合は、トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A を使用することもできます。

■ クラッチペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	3 ~ 15
クラッチ切れ残り代*	25 以上

* クラッチが切れた位置からクラッチペダルを床いっぱいまで踏み込んだ位置までの動き量

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード DOT4 CLASS6 [※]

[※] トヨタ純正ブレーキフルード DOT4 CLASS6 が入手できない場合は、トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A を使用することもできます。

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 [※]	98 以上

[※] エンジン回転時に 300N (30.6kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ 電動パーキングブレーキ (M15A-FKS エンジン搭載車)

項目 (エンジン始動時)	パーキングブレーキ表示灯の状態
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 2 秒以内で引いたとき	点灯
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 2 秒以内で押したとき	消灯

このとき、ブレーキ警告灯 (黄色) が点灯しないことを確認してください。

(警告灯が点灯した場合の対処については、P.54, 306 を参照してください)

■ パーキングブレーキ (G16E-GTS エンジン搭載車)

項目	基準値 (回数)
引きしろ 操作力 200N (20.4kgf) のときのノッチ [※] 数	5 ~ 8

[※] ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度 (“カチッ” という音) のことです。

ウォッシャータンク

	容量 [L] (参考値)	
	寒冷地仕様車を除く	寒冷地仕様車
G16E-GTS エンジン装着車 ※ ¹	2.3	2.3
G16E-GTS エンジン装着車 ※ ²	1.8	1.8
M15A-FKS エンジン搭載車	1.8	2.3

※¹RC グレード以外

※²RC グレード

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの 空気圧 kPa (kg/cm ²)	
			前輪	後輪
標準タイヤ	205/45R 17 84W	17×7J	220 (2.2)	200 (2.0)
	225/40R 18 88W	18×8J	220 (2.2)	200 (2.0)
	225/40ZR 18 (92Y)	18×8J	220 (2.2)	200 (2.0)

電球 (バルブ) ※

電球		W (ワット) 数
車外	番号灯	5
車内	リヤインテリアランプ	8

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様






型式	エンジン	駆動方式
MXPA12	M15A-FKS (1.5L ガソリン)	FF (前輪駆動)
GXPA16	G16E-GTS (1.6L ガソリン)	AWD (4輪駆動)

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチインフォメーションディスプレイ・マルチメディアシステムの操作により設定を変更することができる機能もあります。

設定を変更するには

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

- 1 メーター操作スイッチの  /  を押して  を選択する
- 2  /  を押して設定変更したい項目にカーソルを合わせる
- 3 OK スイッチを短押しまたは長押しする

OK スイッチの短押し・長押しで設定できる内容が異なります。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

- A** マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能
- B** マルチメディアシステムで設定可能
- C** トヨタ販売店で設定変更可能

画面に表示されている内容に従って操作してください。

■ マルチメディアシステムで設定するには★

- 1 “MENU” スイッチを押す
- 2 “設定・編集” を選択する
- 3 “設定・編集” 画面の “車両” を選択する
- 4 “車両カスタマイズ” を選択する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■ カスタマイズ設定を行うとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気しないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ カスタマイズを行うときは

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

■ オートアラーム★ (→P.50)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	なし	あり	—	—	○

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ (→P.57, 61)

機能の内容*	初期設定	変更後	A	B	C
言語	日本語	英語	○	—	—
単位	km/L	L/100km	○	—	—
エコドライブインジケータ★	あり (自動点灯)	なし	○	—	—
燃費グラフ	リセット間平均燃費	始動後平均燃費	○	—	—
		給油後平均燃費			
オーディオシステム連携表示★	あり	なし	○	—	—
AWD (トルク配分表示) ★	表示	非表示	○	—	—
ドライブインフォタイプ	始動後	リセット間	○	—	—
ドライブインフォ項目 (1行目)	走行距離	平均車速	○	—	—
		走行時間			
ドライブインフォ項目 (2行目)	走行時間	平均車速	○	—	—
		走行距離			
割り込み表示	あり	なし	○	—	—

* 機能についての詳しい説明は P.65 を参照してください

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ヘッドアップディスプレイ★ (→P.67)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ヘッドアップディスプレイ表示	あり	なし	○	—	—
タコメーター切りかえ	タコメーター	エコドライブインジケータ★	○	—	—
		表示なし			

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
オーディオシステム表示★	あり	なし	○	—	—
運転支援システム表示★	あり	なし	○	—	—
ナビゲーション表示★	あり	なし	○	—	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スマートエントリー&スタートシステム★、ワイヤレスドアロック共通 (→P.78, 84)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
作動の合図（ブザー音量調整）★	レベル5	OFF	—	○	○
		レベル1～7	—	○	○
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	—	○	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30秒	60秒	—	—	○
		120秒	—	—	○
半ドア警告ブザー★	あり	なし	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スマートエントリー&スタートシステム★ (→P.78, 83, 84)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし	—	○	○
連続ロック操作の有効回数	2回	無制限	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ワイヤレスドアロック (→P.76, 78)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ワイヤレス機能	あり	なし	—	—	○

■ ドアミラー (→P.97)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	OFF	—	—	○
		エンジンスイッチと連動	—	—	○

■ パワーウィンドウ (→P.99)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
キー（メカニカルキー★も含む）連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図（ブザー）	あり	なし	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→P.134)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ライトセンサーの感度調整	標準	-2 ~ 2	—	○	○
ランプ消し忘れ防止機能	エンジンスイッチと連動	運転席ドアと連動	—	—	○
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能	なし	あり	—	—	○

■ ランプ (→P.135, 136)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
LED デイライト	あり	なし	—	—	○
おむかえ照明機能の制御	あり	なし	—	—	○

■ ヘッドランプ点灯延長 (→P.137)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ヘッドライトが自動的にオフになるまでの経過時間	30 秒	60 秒	—	—	○
		90 秒			
		120 秒			

■ PCS (プリクラッシュセーフティ) ★ (→P.152)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
プリクラッシュセーフティ	あり	なし	○	—	—
警報タイミング	中間	早い	○	—	—
		遅い			

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ LTA (レーントレーシングアシスト) ★ (→P.162)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
車線維持支援機能 (セントアートレース)	あり	なし	○	—	—
警報感度	高	普通	○	—	—
ふらつき警報機能	あり	なし	○	—	—
ふらつき警報機能の感度	普通	高	○	—	—
		低			

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ RSA (ロードサインアシスト) ★ (→P.171)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
RSA (ロードサインアシスト) 機能	あり	なし	○	—	—
制限速度超過告知	なし	告知表示のみ	○	—	—
		告知表示とブザー			
制限速度超過の告知車速	2km/h	10km/h	○	—	—
		5km/h			
追い越し禁止告知	告知表示のみ	なし	○	—	—
		告知表示とブザー			
その他の告知 (進入禁止告知)	告知表示のみ	なし	○	—	—
		告知表示とブザー			

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 先行車発進告知機能★ (→P.183)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
先行車発進告知機能	あり	なし	○	—	—
告知距離	中間	近い	○	—	—
		遠い			

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドライブスタートコントロール★ (→P.105)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
後退速度の抑制制御	あり	なし*	○	—	—

*「なし」に変更しても、エンジンスイッチを ON にするたびに「あり」にもどります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ Stop & Start システム★ (→P.185)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
エアコンの A/C スイッチを ON にしているときの、Stop & Start システムによるアイドリングストップ時間	Normal (通常)	Long (長め)	○	—	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ BSM (ブラインドスポットモニター)★ (→P.190)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ブラインドスポットモニター機能	あり	なし	○	—	—
ドアミラーインジケータの明るさ	明るい	暗い	○	—	—
接近車両を知らせるタイミング (感度)	普通	早い	○	—	—
		遅い			
		死角領域の車両のみ検知			

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー★ (→P.195)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
クリアランスソナー機能	あり	なし	○	—	—
ブザー音量	レベル 2	レベル 1	○	—	—
		レベル 3			

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
フロントセンターセンサーの検知可能距離	遠い	近い	—	—	○
リヤセンターセンサーの検知可能距離	遠い	近い	—	—	○
コーナーセンサーの検知可能距離	遠い	近い	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ RCTA (リヤクロストラフィックアラート) ★ (→P.201)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
RCTA (リヤクロストラフィックアラート) 機能	あり	なし	○	—	—
ブザー音量	レベル 2	レベル 1	○	—	—
		レベル 3			

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PKSB (パーキングサポートブレーキ) ★ (→P.206)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
PKSB (パーキングサポートブレーキ) 機能	あり	なし	○	—	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エアコン (→P.230)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	—	○	○

■ イルミネーション (→P.237)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
室内灯の消灯までの時間	15 秒	OFF	—	○	○
		7.5 秒			
		30 秒			

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
エンジンスイッチ OFF 後の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
接近時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
ドアトリム照明★の点灯	あり	なし	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ 車両カスタマイズについて

解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、“作動の合図（非常点滅灯）”・“作動の合図音量（ブザー音量調整）”の設定に依存します。

■ 車両カスタマイズ画面について

次の状態になるとマルチインフォメーションディスプレイの車両カスタマイズ画面は自動的に終了します。

- 車両カスタマイズ画面表示後に警告メッセージが表示された
- エンジンスイッチが OFF になった
- 車両カスタマイズ画面表示中に走行し始めた

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

初期設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
タイヤ空気圧警報システム★	<ul style="list-style-type: none">・ タイヤローテーションを実施したとき・ タイヤのサイズを変更したとき・ ID コードの登録を実施したとき	P.275

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

- こんなときは（症状別さくいん）
..... **362**
- 車から音が鳴ったときは（音さくいん）
..... **365**
- アルファベット順さくいん..... **367**
- 五十音順さくいん **368**

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- キーまたはメカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいキーまたはメカニカルキーを作ることができます。（→P.329）
- スマートエントリー&スタートシステム装着車：電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→P.329）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.287）
- スマートエントリー&スタートシステム装着車：エンジンスイッチがONになっていませんか？

施錠するときは、エンジンスイッチをOFFにしてください。

（→P.118）

- スマートエントリー&スタートシステム装着車：電子キーを車内に置き忘れていませんか？

施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。

- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→P.76, 86）

故障かな？と思ったら



エンジンがかからない（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

- クラッチペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチをまわしていますか？（→P.114）
- ステアリングロックされていませんか？（→P.114）
- バッテリーがあがっていませんか？（→P.331）



エンジンがかからない（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

- オートマチック車：ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→P.115）
- マニュアル車：クラッチペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→P.115）
- オートマチック車：シフトレバーはPになっていますか？（→P.115）

- キーが車内の検知される場所に
ありますか？（→P.85）
- ステアリングロックされていま
せんか？（→P.116）
- キーの電池が消耗、または電池
が切れていませんか？

このときは、一時的な方法でエン
ジンをかけることができます。
（→P.330）

- バッテリーがあがっていません
か？（→P.331）



ブレーキペダルを踏んでいても
シフトレバーがPから動かない
（オートマチック車）

- エンジンスイッチは ON になっ
ていますか？

エンジンスイッチが ON でブレ
ーキを踏んでも解除できないときは
（→P.122）を参照してください。



エンジンを停止したあとにハン
ドルがまわせなくなった

- スマートエントリー&スタート
システム非装着車：盗難防止の
ため、キーをエンジンスイッチ
から抜くとロックされます。
（→P.114）
- スマートエントリー&スタート
システム装着車：盗難防止のた
め、自動的にロックされます。
（→P.116）



パワーウィンドウスイッチを操
作してもドアガラスが開閉しな
い

- ウィンドウロックスイッチが押
されていませんか？

ウィンドウロックスイッチが押さ
れていると、運転席以外のパワ
ーウィンドウは操作できなくな
ります。（→P.101）



エンジンスイッチが自動的に
OFF になった（スマートエント
リー&スタートシステム装着車）

- 一定時間 ACC または ON（エン
ジがかかっている状態）に
しておくと、自動電源 OFF 機能
が作動します。（→P.119）



警告音が鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車
から音が鳴ったときは（音さく
いん）」（→P.365）をご確認く
ださい。



警告灯や警告メッセージが表示
されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示
されたときは、P.306、314
をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- 車を安全な場所に止め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P.316）



立ち往生した

- むかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.341）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.50
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている★	P.314
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.50
エンジンを停止したとき	電子キー★の電池残量が少なくなっている	P.287
	エンジンスイッチにキーが挿してある★	P.115
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.85
	電子キー★を車内に置き忘れている	P.314

※ スマートエントリー&スタートシステム★・ワイヤレスリモコンでドアを解錠する、またはエンジンを始動すると、警報を解除することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドアが確実に閉まっていない	P.81
	パーキングブレーキが解除されていない	P.128, 131
	シートベルトを着用していない※	P.309
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した★	P.124
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.109
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロール★を使用している	P.179
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）★が作動した	P.152
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーンテレーシングアシスト）★を使用している	P.162

状況	原因	詳細
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）★が作動した	P.171
はみ出し通行禁止の道路で追い越しをかけたとき		
前の車が発進しても停車し続けたとき	先行車発進告知機能★が作動した	P.183
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナー★が作動した	P.195
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★が作動した	P.201

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C

(エアコン) 230

ABS

(アンチロックブレーキシステム)
..... 219

ACA

(アクティブコーナリングアシスト)
..... 219

AWD

(オールホイールドライブ) 350

BSM

(ブラインドスポットモニター)
..... 190

EDR

(イベントデータレコーダー) 7

EPS

(電気リックパワーステアリン
グ) 219

FF

(フロントエンジンフロントドライ
ブ) 350

HUD

(ヘッドアップディスプレイ) 67

ILSAC CERTIFICATION

(イルサックサーティフィケーショ
ン) 344

iMT

(インテリジェントマニュアルトラ
ンスミッション) 125

ISOFIX

(アイソフィックス/イソフィッ
ク) 36

LED

(ライトエミッティングダイオード)
..... 134

LTA

(レーントレーシングアシスト)
..... 162

PCS

(プリクラッシュセーフティ) .. 152

PKSB

(パーキングサポートブレーキ)
..... 206

RCTA

(リヤクロストラフィックアラート)
..... 201

RSA

(ロードサインアシスト) 171

S-VSC

(ステアリングアシステッドビー
クルスタビリティコントロール) 219

SRS

(サブリメンタルレストレイントシ
ステム) 28

Toyota Safety Sense 147

LTA (レーントレーシングアシ
スト) 162

PCS (プリクラッシュセーフティ)
..... 152

RSA (ロードサインアシスト) 171

オートマチックハイビーム 138

先行車発進告知機能 183

レーダークルーズコントロール
..... 174

TRC

(トラクションコントロール) 219,
341

VSC

(ビークルスタビリティコントロ
ール) 219

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処 置）.....	331
アイドリングストップ.....	185
Stop & Start システム.....	185
Stop & Start 表示灯.....	185
アウトミラー（ドアミラー）	
格納のしかた.....	98
操作.....	97
ブラインドスポットモニター（BSM）	190
ミラーヒーター.....	232
リヤクロスストラフィックアラート（RCTA）	201
アクセサリースOCKET.....	244
アクセサリモード.....	114, 118
アクティブコーナリングアシスト （ACA）.....	219
アクティブトルクスプリットAWD	219
アシストグリップ.....	245
アラーム	
オートアラーム.....	50
音さくいん.....	365
警告ブザー.....	306
アンチロックブレーキシステム（ABS）	219
警告灯.....	307
アンテナ（スマートエントリー&スター トシステム）.....	84

い

イグニッションスイッチ（エンジンス イッチ）	
エンジンのかけ方.....	114, 115
自動電源 OFF 機能.....	119
車両を緊急停止するには.....	298
モードの切りかえ.....	114, 118
位置交換（タイヤローテーション）	272
イベントデータレコーダー（EDR）.....	7
イモビライザーシステム.....	49
イルミネーテッドエントリーシステム	238
インジケーター（表示灯）.....	55
インタークーラースプレー.....	218
インタークーラースプレータンクの補充	269
インテリアランプ.....	237
ワット数.....	350
インナーミラー.....	96

う

ウインカー（方向指示灯）	
電球（バルブ）の交換.....	293
方向指示レバー.....	127
ウインドウ	
ウォッシャー.....	141
パワーウインドウ.....	99
リヤウインドウデフォグガー.....	232
ウインドウロックスイッチ.....	101

ウォッシャー	
液の補給	269
スイッチ	141
タンク容量	350
冬の前の準備・点検	226
動けなくなったときは (スタック)	341
運転	
雨の日の運転	106
運転を補助する装置	219
寒冷時の運転	226
正しい運転姿勢	23
手順	104
運転支援機能情報表示	64
運転席シートベルト非着用警告灯 ...	308

え

エアコン	
オートエアコン	230
曇り取り (フロントガラス)	232
フィルターの清掃	285
エアコン・デフォグガー	230
エアバッグ	28
SRS エアバッグ警告灯	307
改造・廃棄	33
警告ブザー	307
作動条件	29
正しい姿勢	23
配置	28
AWD (オールホイールドライブ) ...	350
エキスパートモード	220
エコドライブインジケーター	63, 70

LED デイライト	135
エレクトリックパワーステアリング (EPS)	219
警告灯	308
エンジン	
エンジンイモビライザーシステム	49
エンジンがかからない (エンジンが始動で きない)	327
エンジンスイッチ	114, 115
エンジンの始動方法	114, 115
オーバーヒート	338
緊急時の停止方法	298
タコメーター	57, 70
フューエルポンプシャットオフシステム	305
ボンネット	266
エンジンイモビライザーシステム	49
エンジンオイル	344
警告灯	307
冬の前の準備・点検	226
メンテナンスデータ	344
容量	344
エンジン回転計 (タコメーター)	57
エンジンスイッチ	
エンジンのかけ方	114, 115
自動電源 OFF 機能	119
車両を緊急停止するには	298
モードの切りかえ	114, 118
エンジンフード (ボンネット)	266
開け方	266
エンジンルーム	266
エンジンルームから蒸気が出ている ...	338

お

オイル（エンジンオイル）.....	344
オートアラーム.....	50
オートエアコン.....	230
オートマチックトランスミッション.....	120
オートマチックハイビーム.....	138
オーバーヒート.....	338
オープナー	
給油扉.....	145
バックドア.....	83
ボンネット.....	266
お子さまを乗せるとき.....	35
ウインドロックスイッチ.....	101
お子さまの安全のために.....	35
キーの電池.....	289
シートベルトの着用.....	25, 26
ステアリングヒーター／シートヒーターに 関する警告.....	235
チャイルドシート.....	36
チャイルドシートの取り付け.....	36
発炎筒の取り扱いに関する警告.....	298
バッテリーに関する警告.....	337
パワーウインドウに関する警告.....	100
オドメーター／トリップメーターディス プレイ.....	59
表示切りかえボタン.....	59
表示項目.....	59

か

カーテンシールドエアバッグ.....	28
カードホルダー.....	241
カーベット	
洗浄.....	252
フロアマットの取り付け方.....	22
外気温度表示.....	57, 71
外装の電球（バルブ）.....	292
交換要領.....	292
ワット数.....	350
カスタマイズ機能.....	351
型式.....	350
カップホルダー.....	240
カメラ	
前方カメラ（PCS）.....	147
白線認識用カメラ（LTA）.....	162
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデ フォグガー）.....	232
ガレージジャッキ.....	268
冠水路走行.....	111
寒冷時の運転.....	226

き

キー.....	74
エンジンが始動できない.....	327
キーナンバープレート.....	74
キーの構成.....	74
キーレスエントリー.....	76, 84
キーをなくした.....	329
正常に働かない.....	329
施錠・解錠ができない.....	330
電子キー.....	74
電池が切れた.....	287
メカニカルキー.....	77
ワイヤレスリモコン.....	76

キーレスエントリー

スマートエントリー&スタートシステム	84
ワイヤレスドアロック	76

給油

給油のしかた	144
メンテナンスデータ	344

緊急時シートベルト固定機構

緊急始動機能

緊急時の対処

エンジンが始動できない	327
オーバーヒートした	338
キーの電池が切れた	287, 329
キーをなくした	329
警告灯がついた	306
警告メッセージが表示された	314
けん引	300
故障したときは	296
車両を緊急停止する	298
水没したときは	299
スタックした	341
電子キーが正常に働かない	329
発炎筒	297
バッテリーがあがった	331
パンクした	316

緊急ブレーキシグナル



空気圧 (タイヤ)	350
メンテナンスデータ	350
区間距離計 (トリップメーター)	59
曇り取り	
フロントガラス	232
ミラーヒーター	232
リヤウインドウデフォグガー	232
クラクション (ホーン)	95
クラッチ	
メンテナンスデータ	348
クラッチフルード	348
クリアランスソナー	195
警告灯	310
警告メッセージ	197
操作	195
クリアランスランプ (車幅灯)	134
スイッチ	134
電球 (バルブ) の交換	293
クリップ	
フロアマット	22
クルーズコントロール	174
レーダークルーズコントロール	174
グローブボックス	240

け

警音器 (ホーン)	95
計器類 (メーター)	57
警告灯	306
RCTA OFF 表示灯	310
ABS & ブレーキアシスト	307
SRS エアバッグ	307
LTA 表示灯	309
エンジン	307
クリアランスソナー OFF 表示灯	310
高水温	306
シートベルト非着用	308, 309
充電	306
Stop & Start キャンセル表示灯	309
スリップ表示灯	311
タイヤ空気圧	310
ドライブスタートコントロール	308
燃料残量	308
パーキングブレーキ表示灯	312
パワーステアリング	308
PKSB OFF 表示灯	311
PCS	311
ブレーキ	306
ブレーキオーバーライドシステム	308
ブレーキホールド作動表示灯	312
油圧	307

警告ブザー

RCTA (リヤクロストラフィックアラート)	310
SRS エアバッグ	307
LTA (レーントレーシングアシスト)	165, 309
エンジン	307
クリアランスソナー	310
高水温	306
シートベルト非着用	308, 309
シフトダウン制限	124
衝突警報	152
Stop & Start キャンセル表示灯	309
接近警報 (レーダークルーズコントロール)	179
タイヤ空気圧	310
手放し運転警告 (LTA)	170
ドライブスタートコントロール	308
パワーステアリング	308
半ドア	79
半ドア走行時	81
PKSB (パーキングサポートブレーキ)	311
ふらつき警報機能 (LTA)	170
ブリクラッシュセーフティ	311
ブリクラッシュブレーキ	152
ブレーキ	306
ブレーキオーバーライドシステム	308
ブレーキホールド	312
油圧	307
リバース	120

警告メッセージ

化粧ミラー (バニティミラー)

245

こ

交換	
キーの電池	287
タイヤ	280
電球（バルブ）.....	292
ヒューズ	290
工具（ツール）.....	280, 318
航続可能距離	62, 63
後退速度の抑制制御（ドライブスタート コントロール）.....	105
子供専用シート	
取り付け方	37
コンライト（自動点灯・消灯装置）.....	134

さ

サイドエアバッグ	28
サイド方向指示灯	127
電球（バルブ）の交換	293
方向指示レバー	127
サイドミラー（ドアミラー）	
格納のしかた	98
操作	97
ブラインドスポットモニター（BSM）.....	190
ミラーヒーター	232
リヤクロストラフィックアラート（RCTA）	201
サンバイザー	244

し

シート	89, 91
正しい運転姿勢	23
チャイルドシート	36
調整	89
手入れ	252
ヘッドレスト	92
シートヒーター	235
シートベルト	25
お子さまの着用	25, 26
緊急時シートベルト固定機構	26
正しく着用するには	26
着け方・はずし方	26
手入れ	252
妊娠中の方の着用	25
非着用警告灯	308, 309
シートベルト非着用警告灯	308, 309
シートベルトプリテンショナー	
機能	27
プリテンショナー警告灯	307
室内灯（インテリアランプ）.....	237
始動のしかた	114, 115
シフトポジション	120
シフトレバー	120, 124
シフトポジションの切りかえ	121
操作	120, 124
リバース警告ブザー	120

ジャッキ	
ガレージジャッキ	268
車載ジャッキ	280, 318
ジャッキハンドル	280, 318
車幅灯	
電球 (バルブ) の交換	293
ランプスイッチ	134
車両型式	350
車両仕様 (スペック)	344
車両情報表示	64
車両を緊急停止するには	298
瞬間燃費	62
仕様 (車両仕様)	344
初期化	359
パワーウィンドウ	99
初期設定	359
助手席シートベルト非着用警告灯	308

す

水温計	57
スイッチ	
イグニッション	114, 115
インタークーラーブレーススイッチ	218
ウィンドウロック	101
AWD (エーダブリューディー) モードセ	
レクトスイッチ	217
LTA (レーントレーシングアシスト)	167
エンジンスイッチ	114, 115
オートマチックハイビーム	138
シートヒーター	236
車間距離切りかえ (レーダークルーズコン	
トロール)	174

ステアリングヒーター	236
Stop & Start キャンセル	185
TRC OFF	220
ドアミラー	97
ドアロック	80
ドライブモードセレクト	216
パーキングブレーキ	129
パドルシフト	122, 123
パワーウィンドウ	99
表示切りかえ	59
VSC OFF	220
フォグランプ	141
ブレーキホールド	132
フロントウォッシャー	141
フロントフォグランプ	141
フロントワイパー	141
フロントワイパーデアイサー	230
方向指示レバー	127
ホーン (警音器)	95
メーター操作	62
ランプ	134
リヤウィンドウデフォグガー	230
レーダークルーズコントロール	174
スーパー UV カット	252
スタック	341
ステアリングスイッチ	245
ステアリングヒーター	235
ステアリングホイール (ハンドル)	
位置調整	95
ステアリングヒーター	235
メーター操作スイッチ	62

ステアリングロック	114, 116
解除できないとき	114, 116
警告メッセージ	116
Stop & Start キャンセル表示灯	
警告灯	309
Stop & Start システム	
システム情報画面	66
Stop & Start システム情報	66
スノータイヤ (冬用タイヤ)	226
スピードメーター	57
スペック (車両仕様)	344
スマートエントリー&スタートシステム	
.....	84
アンテナの位置	84
エンジンの始動	115
緊急始動機能	328
作動範囲	85
正常に働かないとき	329
節電機能	85
電波がおよぼす影響について	88
ドアの解錠・施錠	78
バックドアの解錠・施錠	83
スモールランプ (車幅灯)	
電球 (バルブ) の交換	293
ランプスイッチ	134
スリップ表示灯	220

せ

清掃	248, 252
アルミホイール	248
外装	248
シートベルト	252
内装	252
マットクリア塗装	259
レーダー	147
セカンダリーコリジョンブレーキ ..	220
積算距離計 (オドメーター)	59
セキュリティインジケーター	49, 50
接近警報 (レーダークルーズコントロ	
ール)	179
先行車発進告知機能	183
センサー	
インナーミラー	96
雨滴感知センサー	143
LTA (レーントレーシングアシスト) ..	162
後側方レーダーセンサー	191
ライトセンサー	135
レーダー	147
洗車	248, 259
前照灯 (ヘッドランプ)	134, 293
電球 (バルブ) の交換	293
ヘッドランプ点灯延長	137
マニュアルレベリングシステム	137
ライトセンサー	135
ランプ消し忘れ防止機能	136
ランプスイッチ	134

そ

走行距離.....	64
走行時間.....	64
走行情報表示.....	62
走行モード（ドライブモード）.....	216
送信機.....	272
速度計（スピードメーター）.....	57

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）	127
電球（バルブ）の交換.....	293
方向指示レバー.....	127
タイヤ.....	270
空気圧.....	284, 350
警告灯.....	310
警告ブザー.....	310
交換.....	280
チェーン.....	226
点検.....	270
パンク応急修理キット.....	316
パンクしたときは.....	316
冬用タイヤ.....	226
ホイールサイズ.....	350
ローテーション（位置交換）.....	272
タイヤが空まわりする（スタックした）	341
タイヤ空気圧	
警告灯.....	310
警告ブザー.....	310

タイヤ空気圧警報システム

ID コードの切りかえ.....	278
ID コードの登録・選択.....	277
機能について.....	272
空気圧バルブ/送信機について.....	274
空気圧表示画面.....	272
警告灯.....	310
警告ブザー.....	310
初期化.....	275
タイヤチェーン.....	226
タコメーター.....	57

ち

チェーン（タイヤチェーン）.....	226
チャイルドシート.....	36
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け.....	46
シートベルトでの固定.....	44
選択方法.....	36
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）	128, 129
警告メッセージ.....	130
操作.....	128, 129
冬季の注意.....	226
ブレーキ警告灯.....	306
未解除走行時警告ブザー.....	128, 131
メンテナンスデータ.....	349

つ

ツール（工具）.....	318
--------------	-----

て

停止表示板.....	242
ディスプレイ	
ヘッドアップディスプレイ.....	67
マルチインフォメーションディスプレイ.....	61
ディファレンシャル	
リヤディファレンシャル.....	348
手入れ.....	248, 252
アルミホイール.....	248
外装.....	248
シートベルト.....	252
内装.....	252
マットクリア塗装.....	255, 259, 262
レーダー.....	147
テールランプ（尾灯）.....	134
電球（バルブ）の交換.....	293
ランプスイッチ.....	134
デッキボード.....	241
デフォッガー（リヤウインドウデフォッガー）.....	232
電球（バルブ）	
交換要領（外装バルブ）.....	292, 293
ワット数.....	350
点検基準値（メンテナンスデータ）.....	344
電子キー.....	74
作動範囲.....	85
正常に働かないとき.....	329
節電機能.....	85
電池が切れた.....	329
電池交換.....	287

電池交換（キー）.....	287
電動パーキングブレーキ.....	129
操作.....	129
ブレーキ警告灯.....	306
メンテナンスデータ.....	349

と

ドア.....	78
スマートエントリー&スタートシステム.....	84
ドアガラス.....	99
ドアロックスイッチ.....	80
バックドア.....	81
ロックレバー.....	81
ワイヤレスリモコン.....	78
ドアミラー	
格納のしかた.....	98
操作.....	97
ブラインドスポットモニター（BSM）.....	190
ミラーヒーター.....	232
リヤクロス Traffick アラート（RCTA）.....	201
盗難防止装置	
エンジンイモビライザーシステム.....	49
オートアラーム.....	50
時計.....	57, 59
トップテザーアンカレッジ.....	47
ドライブスタートコントロール.....	105
急発進の抑制制御.....	105
後退速度の抑制制御.....	105

ドライブモードセレクトスイッチ ...	216
トラクションコントロール (TRC).....	219
トランスファー	
メンテナンスデータ	348
トランスミッション	
オートマチックトランスミッション... ..	120
シフトダウン制限警告ブザー	124
操作	121, 124
パドルシフトスイッチ	122, 123
マニュアルトランスミッション	124
メンテナンスデータ	347
トリップメーター	59
トルク配分	65

な

内装

収納装備	239
手入れ	252

に

荷物

積むときの注意	112
バックドア	81
ラゲージルーム内装備	241

ぬ

ぬかるみにはまった (スタック)	341
------------------------	-----

ね

燃費

瞬間燃費	62
平均燃費	62

燃費画面	71
------------	----

燃料

給油	144
種類	344
燃料計	57
燃料残量警告灯	308
フューエルポンプシャットオフシステム	305
容量	344
燃料計	57

は

パーキングサポートブレーキ

警告灯	311
警告メッセージ	209
操作	207

パーキングサポートブレーキ (後方接近車両).....

パーキングサポートブレーキ (静止物)

パーキングブレーキ

警告メッセージ	130
操作	128, 129
冬季の注意	226
パーキングブレーキ表示灯	312
ブレーキ警告灯	306
未解除走行時警告ブザー	128, 131
メンテナンスデータ	349

パーソナルランプ	237, 238
排気ガス	34
ハイビーム (ヘッドランプ)	134
オートマチックハイビーム	138
電球 (バルブ) の交換	293
ランプスイッチ	134
ハイマウントストップランプ	
電球 (バルブ) の交換	293
ハザードランプ (非常点滅灯)	297
電球 (バルブ) の交換	293
挟み込み防止機能	
パワーウィンドウ	99
発炎筒	297
バックアップランプ (後退灯)	
電球 (バルブ) の交換	293
バックドアオープナー	83
バッテリー	
警告灯	306
交換	335
サイズ	334, 336
搭載位置	266
バッテリーがあがった	331
パドルシフトスイッチ	122, 123
パニティ (化粧用) ミラー	245
バルブ (電球)	
交換要領 (外装のバルブ)	293
ワット数	350
パワーウィンドウ	
ウィンドウロックスイッチ	101
閉めることができないときは	99
初期化	99
操作	99
ドアロック連動ドアガラス開閉機能	100
挟み込み防止機能	99
巻き込み防止	99

パワーステアリング	219
警告灯	308
パンクした	316
番号灯 (ライセンスプレートランプ)	
	134
ランプスイッチ	134
ワット数	350
ハンドル (ステアリングホイール)	
位置調整	95
ステアリングヒーター	235
メーター操作スイッチ	62

ひ

ビークルスタビリティコントロール (VSC)	219
ヒーター	
エアコン・デフォグガー	230
シートヒーター	235
ステアリングヒーター	235
ミラーヒーター	232
非常点滅灯	
緊急ブレーキ信号	219
非常点滅灯 (ハザードランプ)	297
電球 (バルブ) の交換	293
尾灯 (テールランプ)	134
電球 (バルブ) の交換	293
ランプスイッチ	134
ヒューズ	290
表示切りかえボタン	59
表示灯	55
日よけ (サンバイザー)	244
ヒルスタートアシストコントロール	219

ふ

- ブースターケーブルのつなぎ方 331
 フォグランプ 141
 ランプスイッチ 141
 ブザー
 シフトダウン制限警告 124
 接近警報（レーダークルーズコントロー
 ル） 179
 手放し運転警告（LTA） 170
 パーキングブレーキ未解除走行時警告
 128, 131
 半ドア走行時警告 81
 ぶらつき警報機能（LTA） 170
 リバース警告 120
 フック
 けん引フック 302
 フロアマット固定フック 22
 フューエルポンプシャットオフシステム
 305
 フューエルメーター 57
 フューエルリッド（給油口） 144
 給油のしかた 144
 冬の前の準備（寒冷時の運転） 226
 冬用タイヤ 226
 ブラインドスポットモニター（BSM）
 190
 操作 192
 プリクラッシュセーフティ（PCS）
 機能 152
 操作 155
 PCS 警告灯 311
- ブレーキ
 緊急ブレーキシグナル 219
 警告灯 306
 パーキングブレーキ 128, 129
 ブレーキ警告灯 306
 ブレーキホールド 132
 メンテナンスデータ 349
 ブレーキアシスト 219
 ブレーキフルード 349
 ブレーキホールド 132
 フロアマット 22
 フロントシート 89
 シートヒーター 235
 正しい運転姿勢 23
 調整 89
 手入れ 252
 ヘッドレスト 92
 フロントフォグランプ 141
 フロント方向指示灯 127
 電球（バルブ）の交換 293
 方向指示レバー 127
 フロントワイパーデアイサー 234

へ

平均車速.....	64
平均燃費.....	62
ヘッドアップディスプレイ.....	67
運転支援システム表示.....	69
エコドライブインジケータ.....	70
外気温度表示.....	71
設定.....	68
割り込み表示.....	70
ヘッドランプ.....	134
電球（バルブ）の交換.....	293
ヘッドランプ点灯延長.....	137
マニュアルレベリングシステム.....	137
ライトセンサー.....	135
ランプ消し忘れ防止機能.....	136
ランプスイッチ.....	134
ヘッドレスト.....	92

ほ

ホイール	
メンテナンスデータ.....	350
ホイールナットレンチ.....	280, 318
方向指示灯.....	127
電球（バルブ）の交換.....	293
方向指示レバー.....	127
ホーン（警音器）.....	95
保証.....	8
ボトルホルダー.....	240
ボンネット.....	266
開け方.....	266

ま

マットクリア塗装のお手入れ255, 259, 262	
マニュアルトランスミッション	
マニュアルトランスミッション.....	124
マルチインフォメーションディスプレイ.....	61
運転支援機能情報表示.....	64
エコドライブインジケータ.....	63
警告メッセージ.....	314
航続可能距離.....	63
車両情報表示.....	64
Stop & Start システム情報.....	66
設定.....	65
走行情報表示.....	62
タイヤ空気圧.....	65
時計.....	59
ドライブインフォメーション.....	64
トルク配分表示.....	65
燃費グラフ.....	62
ブーストメーター.....	65
メーター操作スイッチ.....	62
メニューアイコン.....	61
油圧計.....	65
油温計.....	65

み

ミラー	
アウターミラー.....	97
インナーミラー.....	96
ドアミラー.....	97
バニティミラー.....	245
ミラーヒーター.....	232

め

メーター

計器類	57
警告灯	306
警告メッセージ	314
照度調整	60
設定	65
時計	57
表示灯	55
マルチインフォメーションディスプレイ	61
メーター操作スイッチ	62
メーター照度調整	60
メカニカルキー	77
メニューアイコン	61
メンテナンスデータ	344

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能	351
雪道ですべて動けない (スタックした)	341
油脂類	344

ら

ライセンスプレートランプ (番号灯)	134
電球 (バルブ) の交換	293
ランプスイッチ	134
ワット数	350
ラゲージルーム	81, 241
デッキアンダートレイ	242
ラゲージカバー	243
ラゲージルーム内の装備	241

ラジエーター

オーバーヒート	338
メンテナンスデータ	347

ランプ

室内灯	237
電球 (バルブ) の交換	292
非常点滅灯 (ハザードランプ)	297
ヘッドランプ (前照灯)	134
方向指示灯 (ターンシグナルランプ/ウィンカー)	127
ライトセンサー	135
ランプ消し忘れ防止機能	136
ランプ消し忘れ防止機能	136

り

リヤウィンドウデフォグガー	232
リヤクロストラフィックアラート (RCTA)	201
警告灯	310
警告メッセージ	202
操作	201
リヤシート	91
ヘッドレスト	92
リヤ席シートベルト非着用警告灯	309
リヤ方向指示灯	127
電球 (バルブ) の交換	293
方向指示レバー	127

る

ルームミラー (インナーミラー)	96
------------------	----

れ

冷却水.....	347
冬の前の準備.....	226
メンテナンスデータ.....	347
冷却装置（ラジエーター）.....	347
オーバーヒート.....	338
メンテナンスデータ.....	347
レーダークルーズコントロール.....	174
警告メッセージ.....	181
接近警報.....	179
レーダー.....	147
レーントレーシングアシスト（LTA）.....	162
警告灯.....	309
警告メッセージ.....	170
操作.....	167
レバー	
シフト.....	120, 124
方向指示.....	127
ボンネット解除.....	266

ろ

ロードサインアシスト（RSA）.....	171
ロック	
ウインドウロック.....	101
スマートエントリー&スタートシステム.....	84
ドア.....	78
ワイヤレスリモコン.....	76

わ

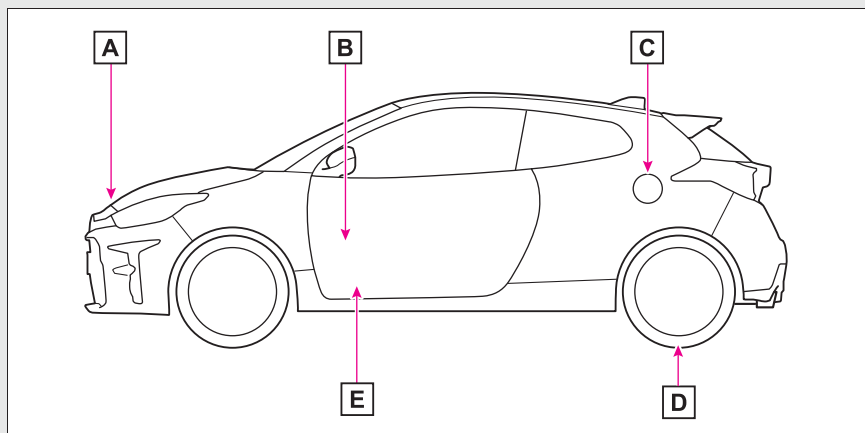
ワイパー&ウォッシャー	
ウォッシャー液の補充.....	269
フロント.....	141
ワイパーブレード（寒冷地用）.....	227
ワイヤレスリモコン	
作動の合図.....	79
操作.....	76
電池の交換.....	287
半ドア警告ブザー.....	79
ワックス.....	248
ワット数.....	350

次の装備は、別冊「マルチメディア取扱書」をお読みください。

- ・オーディオ
- ・パノラミックビューモニター
- ・バックガイドモニター
- ・ハンズフリー
- ・T-Connect

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要な項目をまとめてあります。



- A** ボンネットフック (→P.266)
- B** ボンネット解除レバー (→P.266)
- C** 給油口 (→P.145)
- D** タイヤ空気圧 (→P.350)
- E** 給油扉オープナー (→P.145)

燃料の容量 (参考値)	50L
燃料の種類	P.344
タイヤが冷えているときの空気圧	P.350
エンジンオイル容量 (参考値)	P.344
エンジンオイルの種類	トヨタ純正モーターオイル P.344

お問い合わせ、ご相談は下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

☎ 0800 700-7700

受付時間についてはホームページにてご確認ください。
https://faq.toyota.jp/?site_domain=default#contact

所在地 〒450 - 8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証(車検証)を
ご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
https://toyota.jp/privacy_statement/にて
掲載しております。

「リコール等情報」については、
<https://toyota.jp/recall/index.html>にて
掲載しております。

QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。



トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>

